

平成 25 年度 老人保健事業推進費等補助金
老人保健健康増進等事業

認知症高齢者等の利用に資するグッズ、
日用品等に関する調査研究事業
報告書

平成 26 (2014) 年 3 月



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

■ 目次 ■

第1章 事業概要.....	1
1. 事業実施目的	1
2. 事業内容	1
第2章 調査結果.....	6
第1節 認知症高齢者やその家族のヒアリング調査結果.....	6
1. すずの会：グループインタビュー	6
2. 世田谷区：認知症のご家族へのインタビュー	12
3. ヒアリング調査のまとめ	18
第2節 アンケート調査結果	20
1. 調査概要	20
2. 集計結果	21
(1) 手助けや介護が必要な家族／同居している認知症の家族について.....	21
(2) 回答者について	27
(3) 生活を向上させるために活用している機器や商品について	31
(4) その他、使って良かったと思った機器や商品について	74
(5) 困りごとやあったらよいと思う機器・商品について	83
3. アンケート調査のまとめ	107
第3節 諸外国における販売ルート調査（英米のネット販売サイトについて）	108
1. Alzheimer's Store.....	108
2. Alzheimer's Association.....	113
3. AT Dementia.....	117
4. Alzheimer's Society	121
5. 諸外国における販売ルート調査のまとめ	125
第3章 シンポジウム実施結果.....	126
1. 開催概要	126
2. プログラム.....	127
3. 機器展示	134
4. 参加者アンケートの結果	135
第4章 まとめ.....	141

資料編：

シンポジウムパンフレット

シンポジウム資料

第1章 事業概要

1. 事業実施目的

適切なグッズや日用品を活用すれば、認知症やMCI等の高齢者、そしてその家族の生活の質を高めることができると考えられる。

本事業では、認知症高齢者等やその家族における日常の困りごとやニーズ、地域での暮らしにおいて困っていること等を把握し、認知症者や家族が望むグッズ等を提案するものとした。

また、一方で、既存のグッズ等が、家族等に知られていないために、活用されていない場合もあるものと考えられる。そこで、既存の商品・グッズ等の普及策を提案することを目的とした調査研究を行うものとする。

2. 事業内容

(1) アドバイザーの設置（調査検討委員会の設置）

有識者、作業療法士等の専門職、認知症高齢者の家族等からなる検討会を設置し、事業・調査の進め方を検討するとともに、調査結果について、検討した。また、本事業にて開催した認知症高齢者等の利用に資するグッズ、日用品に関するシンポジウムの企画案についての検討を行った。

<調査検討会等開催概要>

回数	開催時期	議題
1回	平成25年10月9日	事業全体の進め方 ・ 認知症高齢者やその家族のニーズ等調査について ・ 販売ルート調査について ・ シンポジウムについて /等
2回	平成26年1月15日	調査結果の中間報告 (アンケート結果の速報・販売ルート調査結果) シンポジウム準備の進捗報告
3回	平成26年2月12日	調査結果の最終報告 シンポジウムのプログラム等の詳細の相談
	平成26年3月2日	シンポジウムの開催
4回	平成26年3月24日	事業成果のとりまとめ、報告書について

<委員等名簿>

【座長】

井上 剛伸 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長

【検討委員】

伊藤 光世 世田谷区若林地域包括支援センター 看護師

北原 理良子 特定非営利活動法人杉並介護者応援団 理事長

栗林 孝得 社会福祉法人雄勝福社会 特別養護老人ホーム平成園 施設長

佐藤 良枝 公益財団法人積善会 曾我病院 作業療法士

玉城 栄之功 社会福祉法人新生会 サンビレッジ瑞穂 施設長

(五十音順、敬称略)

【オブザーバー】

厚生労働省 老健局

片岡 佳和 野村ヘルスケア・サポート&アドバイザー株式会社 エグゼクティブマネージャー

【事務局：三菱UFJリサーチ&コンサルティング】

星芝 由美子 経済・社会政策部 主任研究員

鈴木 陽子 経済・社会政策部 主任研究員

五味 崇 経済・社会政策部 主任研究員

谷川 香織 経済・社会政策部 研究員

宇佐見 尚武 革新支援室 シニアコンサルタント

(2) 認知症高齢者やその家族のニーズ等調査

①目的

認知症高齢者等や家族に対するアンケートおよびヒアリングにより、生活において困っていること、不便であること、またあったらよいと思われる商品等、ニーズ調査を行った。地域での暮らしの中で困っていることもあわせて把握した。

また、既存のグッズ等の認知度や商品をどのように知って、購入しているか、購入ルートなどについても調査を行った。

②調査実施方法

1) 認知症高齢者、家族へのグループインタビュー

○協力団体

すずの会

※高齢者や障害者、その家族をお互いに支え合い、触れ合いながら誰にでも優しい街づくりネットワークを目指し、地域の特性に合ったボランティア活動の実践を目的として活動している団体。神奈川県川崎市で活動。

○調査対象

- ・グループ1 認知症高齢者 4名
- ・グループ2 認知症高齢者を介護している家族 4名

○調査日

平成25年11月13日

○調査実施方法

高齢者等の利用に資するグッズ、日用品例として、以下の8つのグッズ、日用品の写真・価格・解説を提示しながら、それぞれへの利用意向等をうかがうとともに、日常生活で困っていること、欲しいと思う用具、普及にあたって必要なことについて、ヒアリングを行った。

- ・服薬を支援するための商品
- ・曜日や時間を把握しやすいように配慮した時計
- ・操作しやすい電話
- ・操作しやすいテレビリモコン
- ・止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓
- ・自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロ
- ・探し物発見器、置き忘れ防止アラーム
- ・コミュニケーションのできる人形

2) 認知症高齢者を介護している家族へのインタビュー

○協力

世田谷区若林地域包括支援センター（伊藤委員）

○調査方法、調査対象数

訪問によるインタビュー 2名

○調査日

平成25年12月3日

3) 認知症高齢者を介護している家族への紙面アンケート調査

○調査対象、回収状況

調査対象	家族に要介護者がいる人、過去に家族に要介護者がいた人
配布数	200 件
回収数	175 件
回収率	87.5%

○調査実施方法

直接配付、直接回収（一部、郵送回収）

配付・回収は、NPO法人杉並介護者応援団に依頼。団体による会合の出席者他に配付。

○調査期間

平成25年12月16日～平成26年1月29日

4) 認知症高齢者を介護している家族へのインターネットアンケート調査

○調査対象、回収状況

調査対象	・インターネット調査会社の登録モニター（1,147,370人、2013年8月1日現在）から、一次調査で、家族に認知症者がいる人をスクリーニングし、二次調査（本調査）の対象とした。 ・軽度の認知症者が家族にいる人を優先し、性別（男女別）および、年齢（20歳以上55歳未満、55歳以上の別）に約50人ずつ割付けた。
回収件数	212 件

○調査実施方法

モニターによるインターネットアンケート。

○調査実施期間

平成25年12月18日～平成25年12月20日（二次調査期間）

(3) 認知症高齢者等の生活を向上させるためのグッズ、日用品等の販売ルートに関する調査・検討

アメリカ等では認知症高齢者用グッズ等のネット販売のサイトがあり、インターネットでの商品の購入が可能である。このようなサイトの概要を整理した。

また、日本における既存の販売・情報提供ルートに関しても調査した。

(4) シンポジウムの開催

①目的

認知症高齢者等にとって有用なグッズ等の開発、普及に貢献するために、今回の事業の成果等に関するシンポジウムを開催した。

②日時

平成 26 年 3 月 2 日（日） 13:30～17:00

③場所

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 24 階 セミナー室・大会議室

④対象者

- ・福祉用具の製造事業者、販売事業者等
- ・作業療法士等の専門職、地域包括支援センター職員、ケアマネジャー等
- ・利用者／等

⑤参加人数

87 名

（ただし、展示メーカー等の参加者を一部除く）

第2章 調査結果

第1節 認知症高齢者やその家族のヒアリング調査結果

1. すずの会：グループインタビュー

(1) グループ1：認知症高齢者：4名

【性別】 男性1名、女性3名

【年齢】 80代3名、90代1名

【認知症の程度】 軽度～中等度

□ ポイント □

- ・敢えて新しいものを導入するよりも、使い慣れているものの方がよいと感じている人が多い。
- ・工夫しながら節約生活をしてきた世代であり、価格の高いものを購入しようという意欲も低い。
- ・テレビの操作が分からなくなる、大切な書類やカードを仕舞い忘れてしまう、日用品が多機能化して使いこなせない等、日常生活を送るうえで困ることが多々ある中、便利なグッズ・日用品によって解決できる部分が示唆された。

①グッズ・日用品全般について

- ・全体的に値段が高く、これでは誰も買わないのではないか。
- ・自己管理ができなくなれば、このようなグッズが必要になるかもしれないが、現在は必要性を感じない。
- ・家族などから、こうした便利なグッズを紹介されたり、勧められたりすることはない。
- ・一人暮らしだと、使い方が分からなくても聞ける人がいない。ボタンなどに横文字が使われていたり、文字が小さかったりすると操作できない。
- ・トースター一つとっても、新しく買い替えるとなると使いこなせるか不安であり、購入に二の足を踏んでしまう。

②各グッズ・日用品について

1) 服薬を支援するための商品について

- ・年金生活者にとって、価格が高い。
- ・服薬後、空の包装を捨てずにテーブルの上に置くようにしている。それで薬を飲んだか自分で確認することができている。家族が来た時に、捨てないようにお願いしている。
- ・薬局で1回分毎に薬を個袋に包んでもらっており、それで服薬できている。

2) 曜日や時間を把握しやすいように配慮した時計について

- ・日付は新聞を確認することで忘れないようにしている。自分たちの年代は、わざわざこうした時計を購入しなくても、あるもので対応しようと思う。
- ・日付を聞かれても、すぐには分からないが、気にしていない（デイサービスの日などは妻

が教えてくれる)。妻がいなくなると、カレンダーは欲しいと思うが、日付は気にしても時間は気にしない。

3) 操作しやすい電話について

- ・こうした便利な電話があったとしても、馴染みの古い電話のほうが使い方を知っているのが良い。
- ・携帯電話にはようやく慣れたが、使いこなせているわけではない。シンプルな携帯があるので便利だと言われても、慣れたものがあると今さら機種を変更する気持ちにならない。

4) 操作しやすいテレビリモコンについて

- ・テレビリモコンは、ボタンが多くて操作方法が分からない。
- ・遊びに来た孫がテレビを操作して帰ってしまうと、その後、自分でテレビを見るときに見たいチャンネルに回せないなど困ることがある。
- ・関連して、CD プレイヤーやラジオなどの横文字の表記が分からない。押すだけで流れるものがあれば便利だと思う。

5) 探し物発見器、置き忘れ防止アラームについて

- ・探し物は多く、1日中探していることもある。
- ・コンサートのパンフレットがどこにいったか分からず、いらいらしたことがある。
- ・市のカードをどこにしまったか分からなくなったことがある。
- ・大切な書類やカードを発見できるものがあると良い。

6) コミュニケーションできる人形について

- ・あると良いかもしれないが、この値段では誰も買わないのではないか。
- ・高齢者にとって欲しいのは人同士の交流であり、「優しさ」、「言葉」、「和」である。モノではないのではないか。

③日常生活で困っていること、欲しいと思うグッズ・日用品等について

- ・不便に感じていて、何か欲しいものがあるかと聞かれても、思い浮かばない。紹介されて初めて使いたいかなど、考えることができる。
- ・多機能になっているが、使いこなすことができないため、買い換えたいと思わない。説明書を読んで使うおうと思えない。シンプルなものがよい。
- ・家族と同居していても、家族から「分からないなら使わないで」と言われる場合もある。
- ・銀行のATMも、新しく変わると、操作が分からず困ることがある。子どもに現金の引き出しなどを頼みたくない場合などは困る。

④グッズ・日用品の普及にあたって

- ・インターネットを導入したが、すぐに聞ける人がいないため、使わないままになっている。家族と同居していても、教えてくれるかどうか。
- ・現在の高齢者は、便利なものがあったとしても買い控え、工夫（やりくり）しながら生活してき

た世代である。不自由だと感じていない。節約志向が強い。今後、年金は下がる一方、介護費用も増えるばかりだと、出費すること自体に抵抗を感じる。しかし、若い世代が高齢者となった際には、このようなグッズを便利と感じて購入するかもしれない。

(2) グループ2：認知症高齢者を介護している家族：4名

【性別】男性1名、女性3名

【年齢】50代1名、60代2名、70代1名

【インタビュー対応者からみた認知症の方の続柄】母親1名、夫3名

【認知症の程度】重度

【介護の期間】9年～18年

□ ポイント □

- ・紹介されたグッズ・日用品は、認知症の初期の人に伝わると良い。認知症が進行してからでは本人には役立たない可能性が高い。
- ・認知症の高齢者を介護する家族の視点に立ったグッズ・日用品も求められている。例えばベッドから起きたり、トイレに行ったことが分かるセンサーなど。
- ・老々介護の場合、介護者が倒れた際の不安は大きく、緊急時の対応に役立つものに対するニーズは高い。
- ・便利グッズを集約し、掲載されているホームページへのニーズも高い。

①グッズ・日用品全般について

- ・全般的に、健康な高齢者のためのグッズのように見えた。認知症が進行してしまうと、本人には役に立たないものが多いと感じる。
- ・使い方を説明しても理解できないのに、使うよう何度も言われるとパニックになってしまう可能性がある。その方が怖い。使い方を教えることが大変であり、覚えてもらうことは難しい。
- ・利用対象は要介護者ではなく、もっと介護者としたほうがよいのではないか。認知症の人には、そのグッズが何であるかも理解できないだろう。また、介護者を支援することで、気持ちの余裕が生まれ、要介護者への意識・優しさが働くようになる。介護者にとって分かりやすいものにしていくべきと感じる。

②各グッズ・日用品について

1) 服薬を支援するための商品について

- ・認知症の人は、アラームが鳴っている理由を理解できない。テレビの音と勘違いしてしまうかもしれない。
- ・説明を受けても理解できないため、介護者がいればよいが、認知症の方のみでは利用は難しいと感じる。
- ・認知症の方には、薬のセットは難しい。薬局でセットしてくれるとよい。
- ・錠剤や顆粒など薬の様々な形状や、多種類の薬の服用に対応できるのか。
- ・お薬カレンダーを利用しているが、それで十分と感じる。セットするのが面倒そうである。
- ・病気にもよるだろうが、一回くらい服用を忘れても大きな影響はないので気にならない。厳密に管理される方が不便になりそうである。

2) 曜日や時間を把握しやすいように配慮した時計について

- ・認知症が進行してしまうと、本人は、そもそも時間・日付に無関心となってしまうため、あまり効果がないと感じる。
- ・春夏秋冬、昼夜の区別がつけば良いと感じている。
- ・以前、日付管理を目的に、日記を書くようにしていたことがあるが、毎日同じことしか書けず、介護者のほうがいらいらして、止めさせたことがある。

3) 操作しやすい電話について

- ・使い方を覚えるのが難しそうである。新しいものを使う場合、説明を1回聞いただけでは分からないので、気軽に聞けるところがあるとよい。説明書は読まない。
- ・こうした便利なものを利用することで、電話番号等を覚えなくなった。

4) 操作しやすいテレビリモコンについて

- ・主電源の位置をはっきりと認識できておらず、そもそもテレビをつけられないこともある。見たいチャンネルにすることもできない。
- ・テレビを見ていると、他に何もできなくなる。食事や着替えの際には、テレビを消すようにしている。

5) 止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓について

- ・認知症ではなくても、自分たちにも便利と感じるが、認知症の場合、遊び感覚で手をかざすなど、おもちゃになってしまうのではないかと懸念がある。
- ・個人によってこだわりは異なるが、例えば1日に何回も歯を磨くなどを防止するものがあれば良いと思う。

6) 自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロについて

- ・火をつけるスイッチが、(押すタイプではなく)ひねるタイプのものだと、回すことができない。逆に押すタイプも怖いので、ガスの元栓を閉めてから出かけるという人がいた。
- ・ガス漏れを起こし、爆発寸前までいった経験がある。

7) 探し物発見器、置き忘れ防止アラームについて

- ・携帯電話をどこに置いたか忘れてしまうことがある。そもそも自分の電話番号を覚えていないので、すぐに携帯を鳴らして確認するということができず、困った。

8) コミュニケーションできる人形について

- ・女性なら人形で癒されることもあるだろうが、男性は使わないのではないかと。大切そうに人形をかかえるおばあさんをたまにみることがある。
- ・以前、本物そっくりの大型犬(1.5万円程度)の置き物を置いている人を見たことがある。
- ・認知症が進行してしまうと、人形から声をかけられても、理解できないのではないかと。
- ・ぬいぐるみなどは、長く使っていると、飽きてしまわないか。
- ・毎日、声をかけられ続けると、邪魔に感じてしまうこともあるだろう。たまに利用するな

どであれば楽しめるかもしれない。

③日常生活で困っていること、欲しいと思うグッズ・日用品等について

- ・介護者の代わりに見張っていてくれるものがあるとよい。欲しいものとして「センサー」がある。認知症の親が1時間に30回もトイレへ行き、おむつをトイレに流そうとして詰まらせる、トイレを汚物だらけにしてしまう等でとても困った。認知症となっても恥じらいを持っていて、おむつを隠すために、トイレに流そうとしていた。水道の元栓を止めておいたら、便器の水で顔を洗っていたこともある。ベッドから起きた、トイレに行った等の行動をセンサーで感知して、そのようなことになる前に、介護者が見守ることができるよい。
- ・介護している自分自身に何かあった時にどうしたらよいかは、いつも心配に感じている。老々介護で、介護者が倒れたなど、緊急の時に役立つものがあるとよい。
- ・近所の人の命に係わるガスや水回りに関することが一番怖い。火事や水漏れによって、本人・家族よりも、周りに迷惑をかけてしまうのではということの方が怖い。
- ・テレビを流しておいて、例えば、薬の時間になると、テレビより「お薬の時間ですよ」と知らせてくれるものがあると便利である。
- ・車いすへの移乗を楽に行うため、「おんぶ紐」を自作したことがある。後に2か所持ち手を付け、一人が抱えて（おんぶ）、後ろの2人が持ち手でひっぱると、車いすから抱き上げて移乗することが容易になるものである。
- ・手のひらで握らせる健康グッズがあるが、60ガーゼを縫ったものを握らせておくと衛生的で便利である。毎日洗濯して取り換えられる、軽くて暖かいなど、使いやすい。寝たきりになると、タオルケットだけでも重く感じるため、ガーゼでタオルケットを作るのも良い。肌触りが良い。

④グッズ・日用品の普及にあたって

- ・全般的に価格が高く、安価なものでなければ普及しないと感じる。
- ・介護保険が適用されれば普及が進むかもしれない。
- ・認知症初期の人に、こうしたグッズ・日用品を知ってもらう必要がある。
- ・便利グッズを集約し、掲載されているホームページがあるよい。そこに手作り品なども紹介されていれば、自分でも作ってみようと思う。実用的で便利な手作りグッズ等を探す術がない。

2. 世田谷区：認知症のご家族へのインタビュー

(1) インタビュー 1

【認知症高齢者】

- ・性別：女性
- ・年齢：85歳
- ・認知症の程度：認知症日常生活自立度Ⅱb（介護保険認定情報）
- ・同居家族：本人、長男、長男の嫁、孫（2人）の三世帯世帯

【インタビュー対応者】長男の嫁

□ ポイント □

- ・自分が認知症であることへの本人の抵抗が強いため、デジタルカレンダーは、家族のためのものとして利用を開始。
- ・家族、専門職を含め、本人の前で認知症、介護などの言葉を使わないように配慮。
- ・デジタルカレンダーに、家族の予定も含め細かく入力することで、家族が不在なことを確認。不安に陥らずに済む。
- ・記録が残っていることで、スケジュール確認に関するコミュニケーションがスムーズ。
- ・以前から利用しているもののそばに置くなど、日常生活の導線上に配置することで、習慣として確認しやすい。
- ・機器の普及にあたり、サポート付きのお試し期間があるとよい。使える期間は人によって様々なので、レンタルもできるとよい。家族と専門職が話し合っ、導入方法を検討していくことも大切。

① デジタルカレンダーについて

1) 利用のきっかけ

- ・利用のきっかけは、地域包括支援センターより紹介を受けて、国立障害者リハビリテーションセンター研究所のモニター事業の紹介を受けたことである。モニター期間は半年程度だった。モニター期間終了後も本人が希望したので継続して機器を借りている。
- ・忘れていたのに、忘れていないと言われることが増える中、体操教室へ迷っていくことができなかつたのに、迷ったことを全く覚えていなかった出来事をきっかけに、夫に認知症のことを相談した。友達に認知症の家族を介護している人がおり、その友達にも相談した。
- ・認知症は本人が受け入れることができるまで時間がかかる。家族以外の第三者、特に専門職から言ってもらうことは効果がある。
- ・なお、国立障害者リハビリテーションセンター研究所のモニター事業と同時進行で、地域で活動している看護師が、元看護師であるご本人の話を聞かせてもらうという設定で、地域包括支援センターの看護師と、区の事業である訪問看護師（利用期間6か月）が、地域包括支援センターで面談をしたり、訪問看護師がデイサービスの見学に同行したりして、デイサービスの利用にるながらよう支援を行った。

2) 利用にあたっての工夫点

- ・認知症となった本人のために機器を導入するということに対して、本人の抵抗感が非常に強かったため、家族全員の予定を入れる家族のためのカレンダーということで、利用を始めた。特に孫をメインにしていった。とにかく「おばあちゃんのためではない」ということを全面に出していった。孫（小学生）も習い事など、自分のスケジュールを自分で入力している。
- ・当初、「自分は認知症ではない」との抵抗感が強くあり、周囲は、介護、認知症などの言葉を使わないなど、その気持ちに配慮していった。通所介護の利用にあたって、事業所の職員の協力も得て、介護保険のサービスであることを伏せて、脳梗塞のリハビリ体操であると伝えて、利用を始めた。
- ・本人のいないところで、こそこそと話していることも嫌がったため、モニター事業を行っている国立障害者リハビリテーションセンター研究所の方との打ち合わせは、「ちょっとコンビニに行ってきます」と言って、外で会うようにしていた。
- ・現在は、認知症が進み、3分前のことも覚えていられないため、そのようなことはなくなった。

3) 活用状況、活用の効果

- ・非常に役に立っており、今や、このカレンダーなしには生活できないほどである。
- ・カレンダーへの入力、本人以外の家族が行っている。本人が行うことはない。日にち、曜日、時間に合わせてスケジュールを細かく入力している。スケジュールは5分単位で入力することができる。
- ・アラーム機能も活用している。
- ・例えば介護体操の予定を入れる場合、14時に「介護体操」と入力するだけでなく、13時40分に「家を出る」と外出する時間も入力している。
- ・スケジュールは、他の家族の予定も入力しているため、自分（長男の嫁）に外出する用事があって不在にしても、いつ帰ってくるか分かるため、不安にならずに済んでいる。なぜ家族が家にいないのかを本人がカレンダーを見て確認することができている。
- ・伝えた予定を本人が忘れていたので、「さっき伝えたのに」と言うと、「そんなこと聞いていない」となるが、カレンダーに記入された予定を見ながら、「カレンダーに書いてあるよね」というと、納得してもらえる。記録が残っていることで、スケジュールの確認に関するコミュニケーションがスムーズとなる。
- ・デジタルカレンダーは、本人が以前から利用しているカレンダーの下に置き、いつも見る場所に配置するよう配慮した。導入時、本人に「デジタルカレンダーも見てね」と伝えると、見てもらえそうだった。薬もそばに置くなど、確認しなければならぬものを1か所にまとめるようにしている。

4) 機器の改善点等

- ・家族全員の予定を入力しているため、表示できる予定が5件のみでは足りない。
- ・ペンで記入するのだが、書きにくい点が課題に感じる。

②機器の普及にあたって

- ・いきなり購入するのではなく、サポート付きのお試し期間があるとよい。今回、モニターで利用を始めたので、使い方が分からない時、途中で機器の不具合で止まってしまった時などに、すぐに聞くことができたのも良かった。機器が本人に合うかどうか分からないため、お試し期間は重要である。
また、いろいろな種類があると、いざ購入しようと思うと迷ってしまうのではと感じる。
- ・購入では価格が高いため、レンタルできるとよい。使える期間は人によって様々であり、長い期間使える人もいるかもしれないが、短い期間しか使えないと思うと購入しないのではないか。レンタルの方が、気楽に使ってみようと思うことができる。
- ・使ってもらいたい人は、自分から使いたいという人ではないため、家族と専門職が話し合っ、て、導入方法を検討していくことも大切である。相談する前、あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）には、いつか行こうと思っていた。
- ・機器の導入は認知症の初期がよい。本人が不安に感じている時期に、機器のサポートにより、自分でできるという気持ちを持つことができると生活の自立につながる。そういう気持ちを持てるようにすることが重要である。また、初期のころから活用して習慣としておくことで、認知症が進行しても使い続けることができる。
- ・認知症の進行によって、機器の使い方も変わってくる。たとえば、最初はアラームがなくても大丈夫だったのが、そろそろ必要かなど。1つの機器を、ずっと同じようには使うことができない。また、必ず、使えなくなる時がくる。進行に合わせた使い方に対するアドバイスもあるとよい。
- ・薬については、お薬カレンダーを活用している。以前、本人から自分でできると言われたが、入れ間違いや飲み忘れがみられた。そこで、自分（長男の嫁）が、袋に日付を書いて、1週間分ずつ管理している（1か月分だと多すぎて管理できない）。
自分（長男の嫁）が外出する際には、お昼ごはんと一緒に、「薬を飲んでください」とメモを書いて残すようにしている。メモは飛ばないように、セロテープで貼っておくなど、工夫している。メモを残しておけば、忘れずに飲むことができている。

(2) インタビュー 2

【認知症高齢者】

- ・性別：女性
- ・年齢：80歳
- ・認知症の程度：HDS（長谷川式簡易知能評価スケール）20/30
- ・同居家族：夫と二人暮らし

【インタビュー対応者】夫、妻（認知症）

□ポイント□

<アラーム薬入れ>

- ・何日分残っているか分かるように、アレンジして活用。残りの数より、医者にかかる時期もチェック可能。
- ・機器の薬を入れる箇所の高さと薬の高さについて、製薬会社との調整が必要。
- ・薬局のサービスとして活用することも考えられる。主治医の勧めも普及において重要。医師と薬剤師が連携した新しい服薬システムも有効ではないか。

<デジタルカレンダー>

- ・以前から使っている時計の下に置くことで、時計を見た時に一緒に日にちと曜日を確認できる。

①アラーム薬入れについて

1) 利用のきっかけ

- ・地域包括支援センターより勧められたのが利用のきっかけである。機器の設定、使い方など、地域包括支援センターの職員が家に来て教えてくれた。

2) 利用にあたっての工夫点

- ・機器の薬を取り出す窓口のところに、あと何日分残っているか、数が表示されるように、シートを手作りした。薬を飲む回数は1日1回だが、1日3回用の設定になっており、調整が必要だった。また、薬を入れる部分が29個に分かれており、偶数ではないため、シートを作る際、等間隔に作りにくかった。

3) 活用状況、活用の効果

- ・1日1回、午前9時にアラームを鳴らして、薬を飲んでいる。28日分をセットして管理している。
- ・痛みがないため、薬を飲むことを忘れがちであったが、時間になるとアラームで知らせてくれるので、大変役立っている。有効に活用している。また、飲み忘れだけでなく、飲みすぎを防ぐこともできる。薬は飲みすぎも大変怖いことだと認識している。
- ・あと何日分の薬が残っているかを管理できるため、医者にかかる時期もチェックできる。
- ・電池が無くなった際には、アラームが鳴りっぱなしになる点が安心である。

4) 機器の改善点等

- ・あと何日分かが表示されるシートについて、白紙のシートがついていれば、飲み方に合わせて数字を記入することができる。
- ・機器の薬を入れる箇所の高さと薬の高さについて、製薬会社との調整が必要だと感じる。薬の高さや形態によっては、使えない場合もある。
- ・蓋を開けにくいので、その点も改善点と感じる。
- ・改善をする際には機器の安全性の確保についても念頭に置いてほしい。

②デジタルカレンダーについて

1) 利用のきっかけ

- ・アラーム薬入れと同様に、地域包括支援センターの職員に勧められたことがきっかけである。国立リハビリテーションセンターの職員も説明に来てくれた。
- ・現在使用しているものは、以前使用していたもののバージョンアップ版である。

2) 利用にあたっての工夫点

- ・日にちと曜日を確認するのに便利である。以前から使っている時計の下に置くことで、時計を見た時に、一緒に日にちと曜日も確認できて良いかもしれない。
- ・機器とは別に今日の新聞を決まった場所に置くといった工夫もしている。

3) 活用状況、活用の効果

- ・カレンダーには、週に2回の外出予定を入力している（地域包括支援センターの職員が記入・設定）。
- ・人間の思考パターンとして、記憶したものの確認がある。その確認ができないと行動することができない。その点に役立つ機器であると感じる。

4) 機器の改善点等

- ・バージョンアップ前のはペン入力だったが、現在のものは指で入力するようになっている。反応が悪く、上手く入力できないことがある。圧力のかけ方が難しい。スケジュールを記入する欄があっても、幅が狭く、書きにくい。タッチキーの方が記入しやすいかもしれない。
- ・カレンダーは立てかけて利用しているが、立てかけた状態では記入しにくい。
- ・この機器を使いこなす人がどのような人なのかをイメージして開発してほしい（例えば、パソコンを使えない人でも使えるかどうかなど）。
- ・単純な仕組みの方が便利に使うことができると思う。使い勝手が重要である。

③機器の普及にあたって

- ・アラーム薬入れについて、薬局で薬の小分けをしてくれるが、この機器をサービスの一環として活用することも考えられるのではないかと感じる。薬局で薬のセットまでしてくれるとよい。薬代に上乗せされても利用すると思う。身につまされている人は活用すると感じる。

- ・購入よりもレンタルの方がよいと感じる。高齢者には、購入となると、もったいないと感じてしまう人が多いのではないかと。あと何年使えるかなど、考えてしまうものである。
- ・何でも便利になることがプラスという訳ではないので、リハビリの観点なども踏まえた上で、こうした機器が普及していくとよい。
- ・医療行為の一環で、主治医からこうした機器を勧められると利用する人も増えるのではないかと感じる。医師にも、こうした機器はまだ普及していない。医師と薬剤師が連携して新しい服薬システムの提案してみてもどうか。

3. ヒアリング調査のまとめ

(1) 新しいものを導入することへの抵抗感

認知症の高齢者本人にとって、新しい便利な機器や用具があったとしても、使い慣れたものを使い続けている方が負担感の少ない状況がうかがえた。特に一人暮らしの場合、使い方が分からなくなった際に、すぐに誰かに聞くことができないことへの不安感は強く、導入の大きな障壁となることがうかがえた。さらに、年金生活を送る中、価格が高いものを購入することへの抵抗感も強かった。

また、本人が認知症であることを認めたくないという気持ちが強い場合、機器や用具の導入に対する抵抗感も強いことが、世田谷区のインタビューより把握できた。世田谷区のインタビュー1では、家族、専門職が協力して、家族全員で利用するものとして導入することで、本人が抵抗なく利用できるよう配慮していた。その結果、本人が家族の予定も含め、把握することができるようになり、家族がいなくても不安に陥らずにすんだり、何度も日時を確認するなどスケジュールに関するコミュニケーションのストレスを軽減することができたりするなど、大きな効果をあげていた。

(2) 認知症の進行状況に合わせた利用

グループインタビューの際、例として示した8つの機器・用具について、家族介護者のグループでは、認知症が進行すると、服薬を支援するための商品では、なぜアラームが鳴っているのかわからない、曜日や時間を把握しやすいように配慮した時計では、そもそも時間・日付に無関心になってしまうなど、認知症が進んだ高齢者本人には役に立たないのではないかとの意見があった。

機器や用具の意味を理解したり、説明等を配慮すれば使い方を覚えたりすることのできる軽度の認知症の時期でなければ利用できないものも多いが、実際にデジタルカレンダーや服薬支援の用具を導入している世田谷区の2つのインタビューからは、軽度のうちから導入し生活習慣としていくことで、認知症が進行しても、一定期間、上手く活用できることが示唆された。

(3) 家族介護者を支援する機器・用具

グループインタビューの際に、機器・用具の例として提示したものが認知症の高齢者本人向けのものであったため、家族介護者のグループでは、介護者を支援する機器・用具への要望が強くあった。トイレに行った等の行動をセンサーで感知し、トイレを汚してしまう前に対応できるよう知らせてくれるもの、介護者が倒れたなど緊急時に役立つものなど、介護を行う中で苦勞してきた切実なニーズに対する機器や用具への期待をうかがうことができた。

(4) 機器・用具の普及に向けて

機器・用具の普及に向けて、特に認知症の初期の人に機器・用具を知ってもらう必要があり、例えば、便利グッズを集約したホームページを開設する、介護保険制度の対象とするなどの意見があげられた。

国立障害者リハビリテーションセンター研究所の機器貸し出しを利用した家族からは、サポート付きの試用期間が重要であったこと、認知症の進行により利用できる期間が限られているため購入よりもレンタルの方が気軽に利用できること等の意見があった。また、地域包括支援センターの専門職が機器・用具の導入に深くかかわっており、そのことが適切な利用へとつながっていることから、機器・用具の普及における専門職の関わりの重要性についても示唆された。

第2節 アンケート調査結果

1. 調査概要

(1) 目的

手助けや介護が必要な高齢者や介護している家族が、在宅で困っていることを把握するとともに、在宅での生活に役立つグッズや日用品等の情報を届けるための取組みを検討する際に、参考となる情報を得ることを目的としている。

(2) インターネット調査

①調査対象

調査対象	<ul style="list-style-type: none">・インターネット調査会社（マクロミル）の登録モニター（1,147,370人、2013年8月1日現在）から、一次調査で、家族に認知症者がいる人をスクリーニングし、二次調査の対象とした。・軽度の認知症者が家族にいる人を優先し、男女および、20歳以上55歳未満、55歳以上の別に約50人ずつ割付した。
回収件数	212件

②調査実施方法

モニターによるインターネットアンケート。

③調査実施期間

平成25年12月18日～平成25年12月20日（二次調査期間）

(3) 紙面調査

①調査対象

調査対象	家族に要介護者がいる人、過去に家族に要介護者がいた人
配布数	200件
回収数	175件
回収率	87.5%

②調査実施方法

直接配付、直接回収（一部、郵送回収）。

配付・回収は、NPO法人杉並介護者応援団に依頼。団体による会合の出席者等に配付。

③調査実施期間

平成25年12月16日～平成26年1月29日

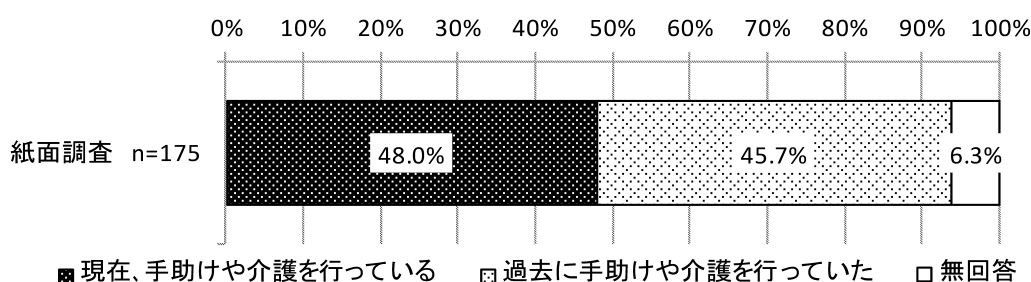
2. 集計結果

(1) 手助けや介護が必要な家族／同居している認知症の家族について

①手助けや介護が必要な家族の状況（紙面調査）

紙面調査について、手助けや介護が必要な家族の状況を見ると、「現在、手助けや介護を行っている」人が48.0%、「過去に手助けや介護を行っていた」人が45.7%と、ほぼ半数ずつを占めている。

図表1 手助けや介護が必要な家族の状況（紙面調査Q1）単数回答

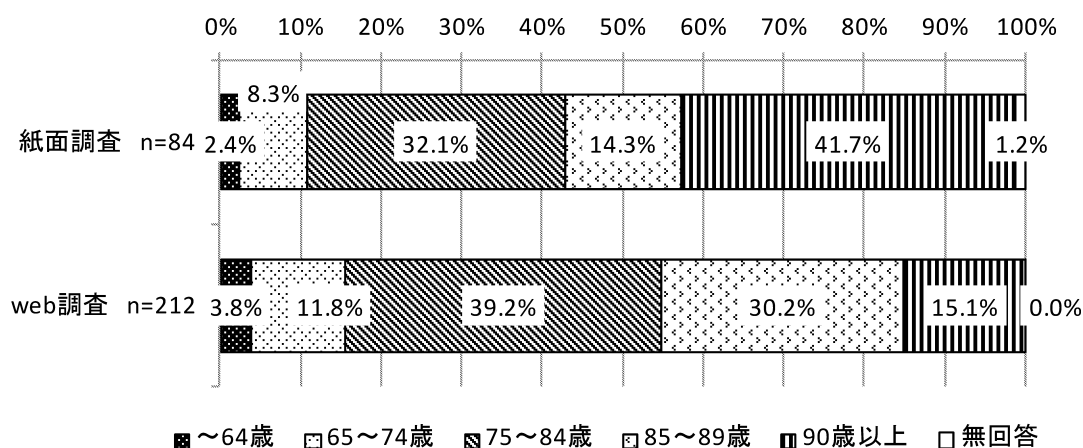


②現在、手助けや介護が必要な家族の年齢／同居している認知症の家族の年齢

紙面調査について、「現在、手助けや介護が必要な家族」の年齢を見ると、「90歳以上」が41.7%、「75～84歳」が32.1%を占めている。

Web調査について、「同居している認知症の家族」の年齢を見ると、「75～84歳」が39.2%、「85～89歳」が30.2%を占めている（認知症の家族が複数いる場合は症状が軽い人について回答）。

図表2 現在、手助けや介護が必要な家族の年齢（紙面調査Q3）／同居している認知症の家族の年齢（Web調査Q1）単数回答

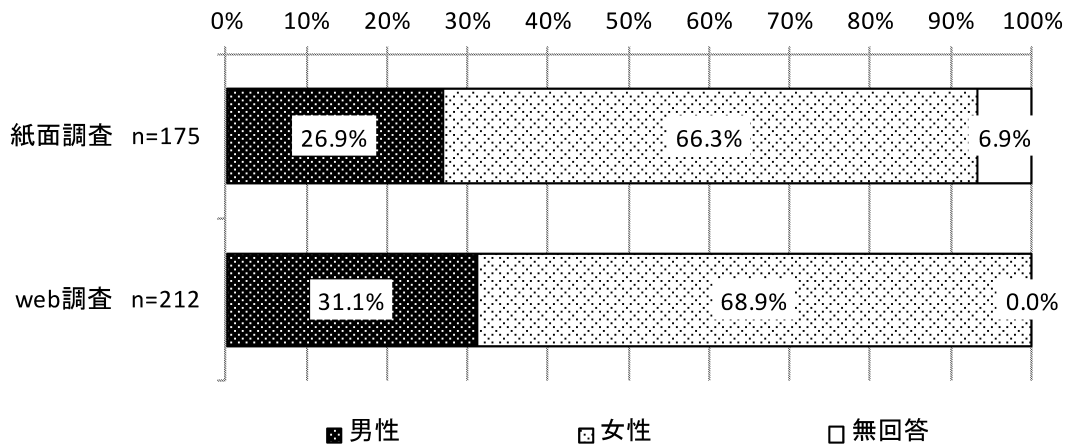


③手助けや介護が必要な家族の性別／同居している認知症の家族の性別

紙面調査について、「手助けや介護が必要な家族」の年齢をみると、「女性」が66.3%を占めている。

Web調査について、「同居している認知症の家族」の性別をみると、「女性」が68.9%を占めている（認知症の家族が複数いる場合は症状が軽い人について回答）。

図表3 手助けや介護が必要な家族の性別（紙面調査Q3）／同居している認知症の家族の性別（Web調査Q2）単数回答

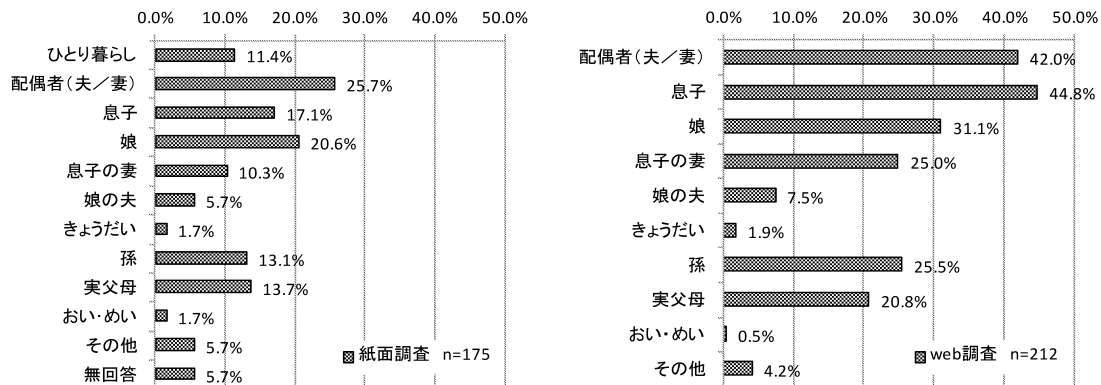


④手助けや介護が必要な家族と同居している人／同居している認知症の家族と同居している人

紙面調査について、「手助けや介護が必要な家族」が同居している人をみると、「配偶者（夫／妻）」が25.7%で最も割合が高く、次いで「娘」が20.6%で続いている。

Web調査について、「同居している認知症の家族」が同居している人をみると、「息子」が44.8%で最も割合が高く、次いで「配偶者（夫／妻）」が42.0%で続いている（認知症の家族が複数いる場合は症状が軽い人について回答）。

図表4 手助けや介護が必要な家族と同居している人（紙面調査Q4）／同居している認知症の家族と同居している人（Web調査Q3）複数回答



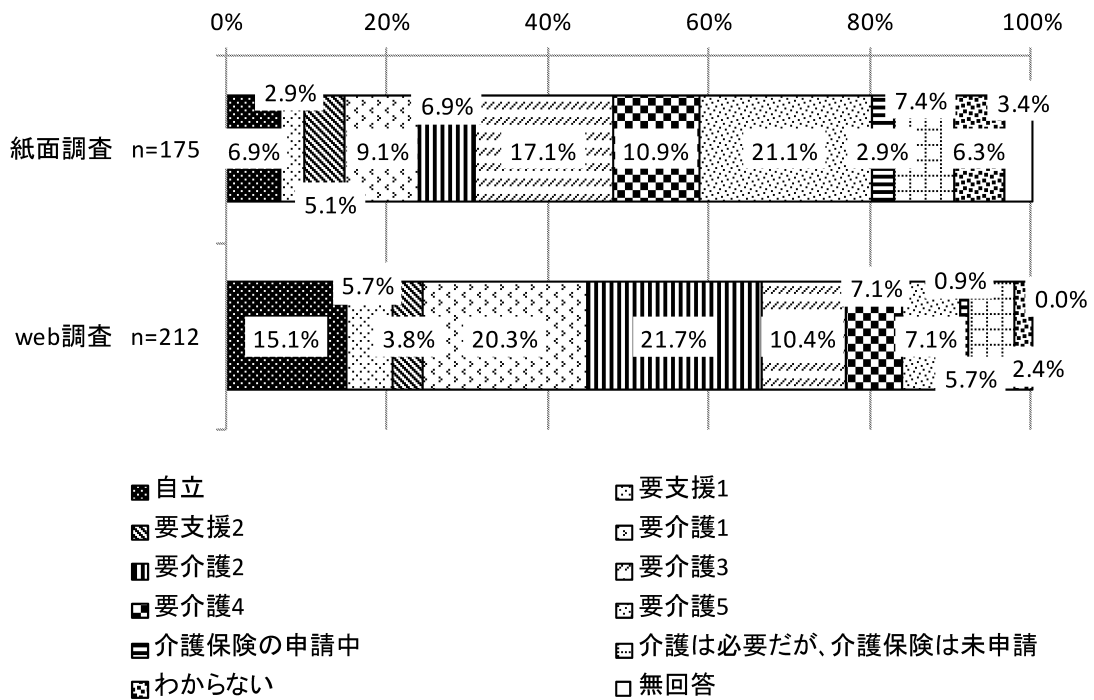
S

⑤手助けや介護が必要な家族の要介護度／同居している認知症の家族の要介護度

紙面調査について、「手助けや介護が必要な家族」の要介護度をみると、「要介護5」が21.1%で最も割合が高く、次いで「要介護3」が17.1%で続いている。

Web調査について、「同居している認知症の家族」の要介護度をみると、「要介護2」が21.7%、「要介護1」が20.3%を占めている（認知症の家族が複数いる場合は症状が軽い人について回答）。

図表5 手助けや介護が必要な家族の要介護度（紙面調査Q5）／同居している認知症の家族の要介護度（Web調査Q4）単数回答

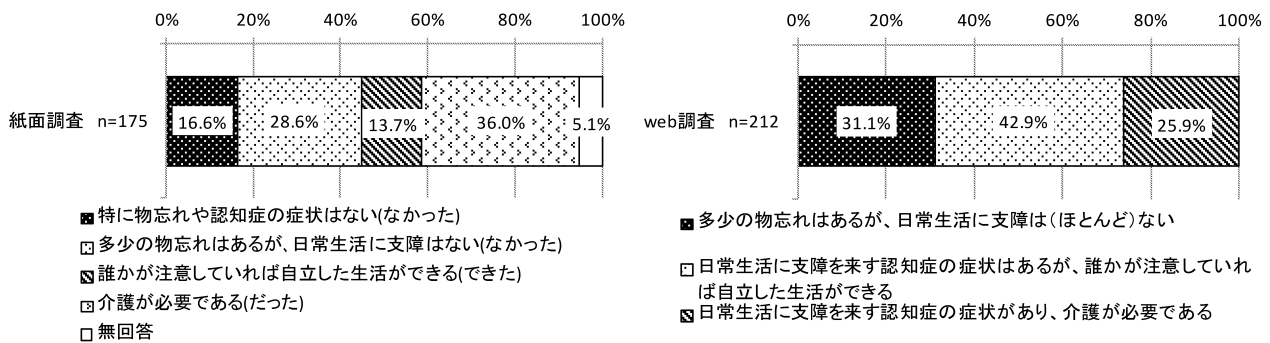


⑥手助けや介護が必要な家族の認知症の状況／同居している認知症の家族の認知症の状況

紙面調査について、「手助けや介護が必要な家族」の認知症の状況を見ると、「介護が必要である(だった)」が36.0%、「多少の物忘れはあるが、日常生活に支障はない(なかった)」が28.6%を占めている。

Web調査について、「同居している認知症の家族」の認知症の状況を見ると、「日常生活に支障を来す認知症の症状はあるが、誰かが注意していれば自立した生活ができる」が42.9%を占めている(認知症の家族が複数いる場合は症状が軽い人について回答)。

図表6 手助けや介護が必要な家族の認知症の状況(紙面調査Q6)／同居している認知症の家族の認知症の状況(Web調査Q5)単数回答

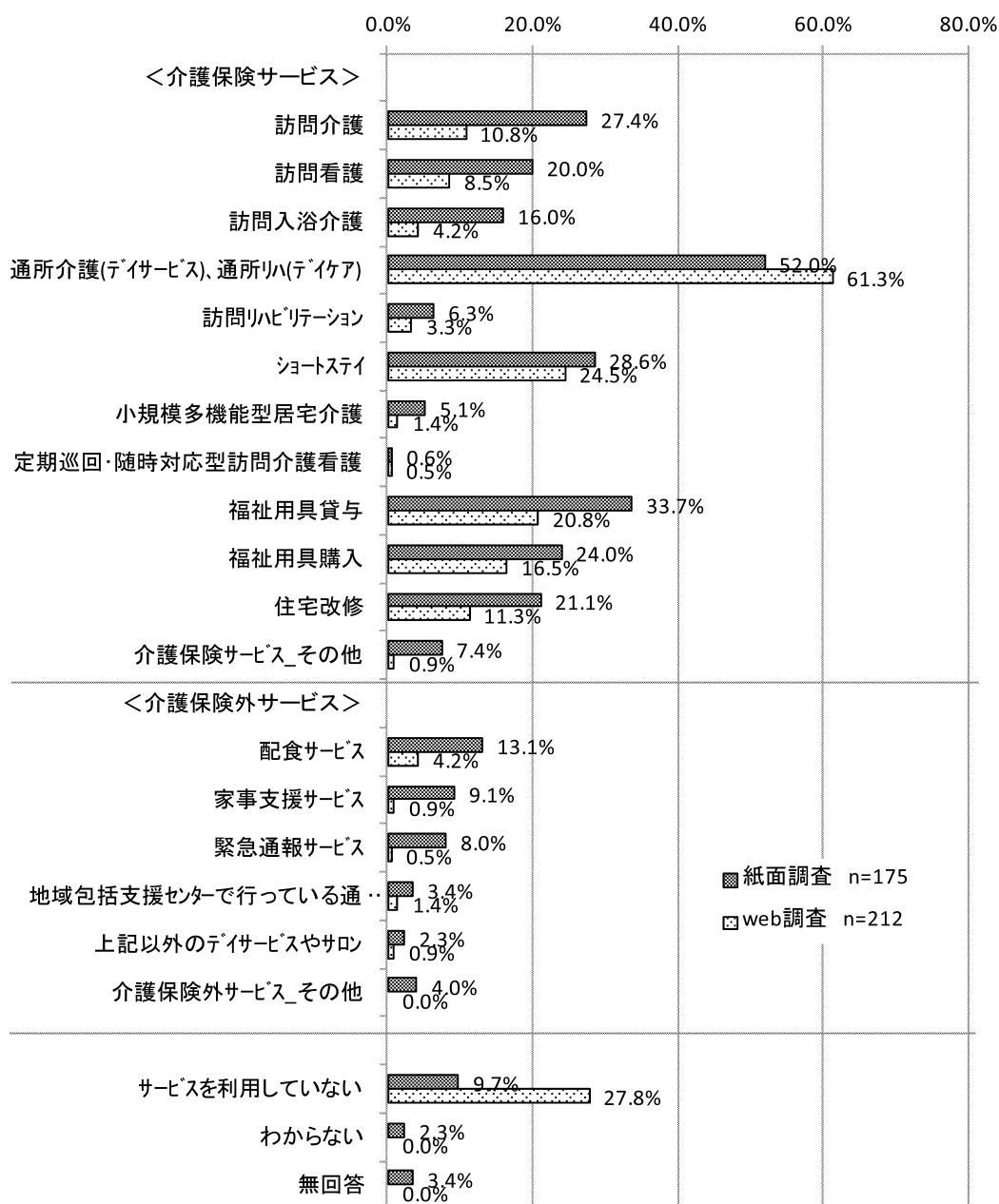


⑦同居している認知症の家族のために利用しているサービス

紙面調査について、「手助けや介護が必要な家族」のために利用しているサービスをみると、「通所介護、通所リハ」が52.0%で最も割合が高く、次いで「福祉用具貸与」が33.7%で続いている。

Web 調査について、「同居している認知症の家族」のために利用しているサービスをみると、「通所介護、通所リハ」が61.3%で最も割合が高く、次いで「ショートステイ」が24.5%で続いている。一方で「サービスを利用していない」の回答も約3割あった（認知症の家族が複数いる場合は症状が軽い人について回答）。

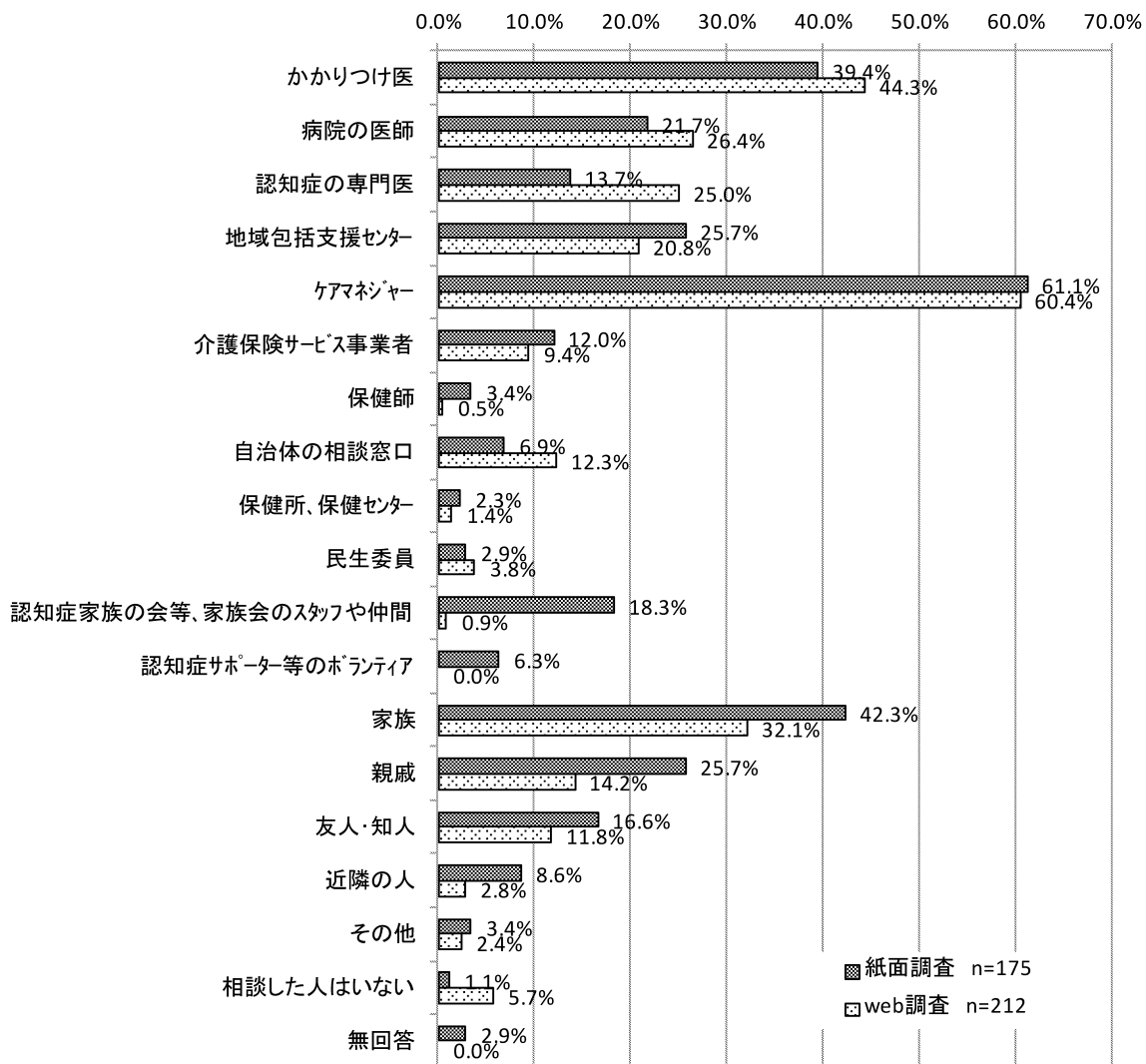
図表7 手助けや介護が必要な家族のために利用しているサービス（紙面調査Q7）／同居している認知症の家族のために利用しているサービス（Web調査Q6）複数回答



⑧同居している認知症の家族を支援・介護するにあたり相談した人

「手助けや介護が必要な家族」「同居している認知症の家族」を支援・介護するにあたり相談した人をみると、紙面調査、Web 調査のいずれも、「ケアマネジャー」の割合が最も高い（紙面調査：61.1%、Web 調査：60.4%）。次いで「かかりつけ医」（紙面調査：39.4%、Web 調査：44.3%）、「家族」（紙面調査：42.3%、Web 調査：32.1%）が4割前後で割合が高くなっている。（Web 調査：認知症の家族が複数いる場合は症状が軽い人について回答）。

図表8 手助けや介護が必要な家族を支援・介護するにあたり相談した人（紙面調査Q8）／同居している認知症の家族を支援・介護するにあたり相談した人（Web調査Q7）複数回答

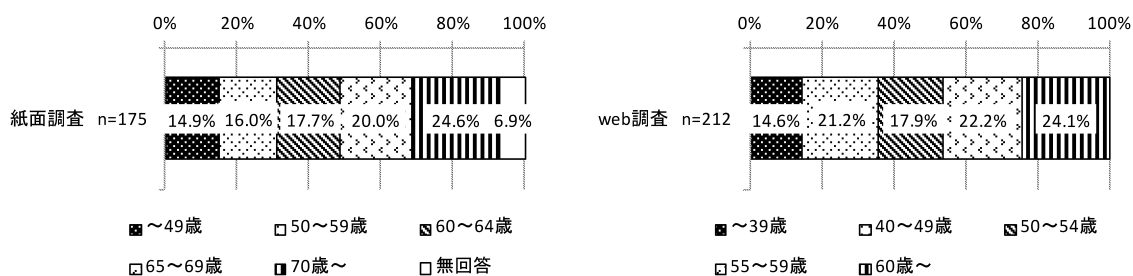


(2) 回答者について

①回答者の年齢

回答者の年齢をみると、紙面調査は「65～69歳」が20.0%、「70歳～」が24.6%で、65歳以上が約半数を占めている。Web調査は、「50～54歳」が17.9%、「55～59歳」が22.2%で、50代が約4割を占めている。

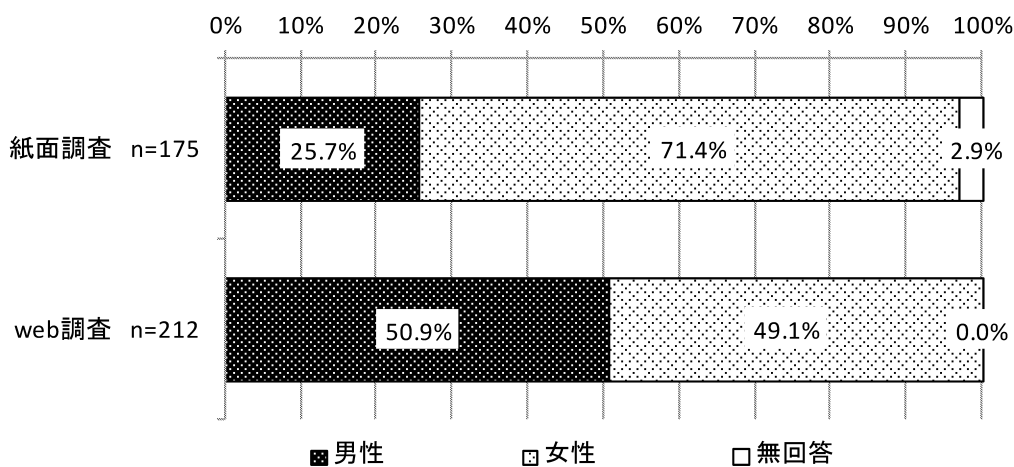
図表9 回答者の年齢（紙面調査Q16/Web調査 モニター情報）数値回答



②回答者の性別

回答者の性別をみると、紙面調査は「女性」が約7割、Web調査は「男性」「女性」がほぼ半数ずつを占めている。

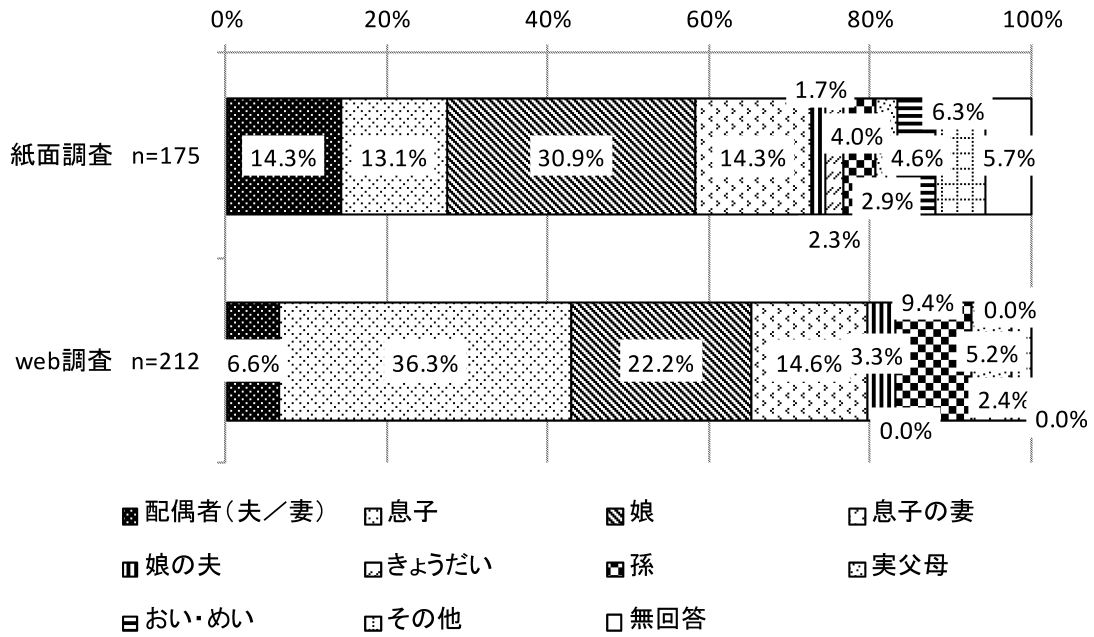
図表10 回答者の年齢（紙面調査Q16/Web調査 モニター情報）単数回答



③同居している認知症の家族からみた続柄

紙面調査では「手助けや介護が必要な家族」からみた続柄、Web 調査では「同居している認知症の家族」からみた続柄をみると、紙面調査は「娘」が 30.9%で最も割合が高い。Web 調査は「息子」が 36.3%で最も割合が高い。

図表11 手助けや介護が必要な家族からみた続柄（紙面調査Q18）／同居している認知症の家族からみた続柄（Web調査Q46）単数回答

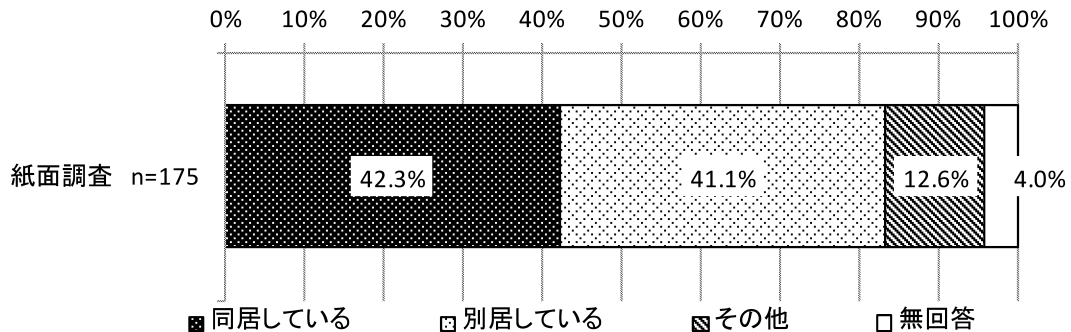


④手助けや介護が必要な家族との同居等の状況（紙面調査）

1) 同居・別居の状況

紙面調査について、手助けや介護が必要な家族との同居の状況をみると、「同居している」人、「別居している」人、それぞれ4割程度ずつを占めている。

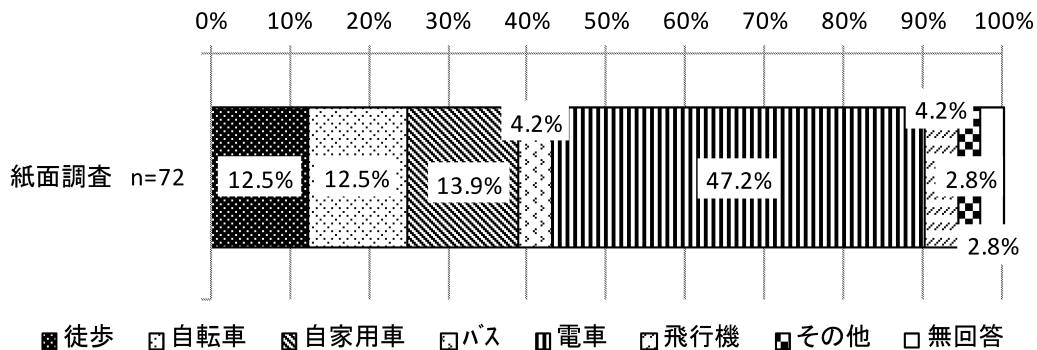
図表12 手助けや介護が必要な家族の状況（紙面調査Q19）単数回答



2) 別居している場合：自宅からの日常的な交通手段

紙面調査について、手助けや介護が必要な家族と別居している人の自宅からの日常的な交通手段をみると、「電車」が47.2%と約半数を占めている。

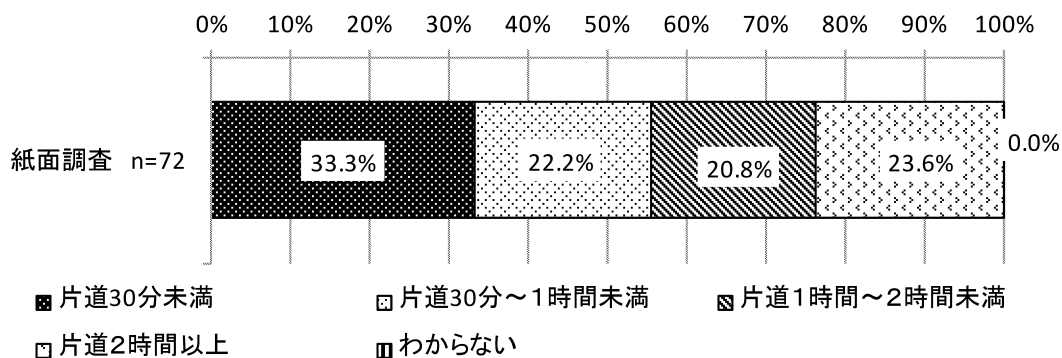
図表13 別居している場合：自宅からの日常的な交通手段（紙面調査Q19-1）単数回答



3) 別居している場合：自宅からかかる時間（片道）

紙面調査について、手助けや介護が必要な家族と別居している人の自宅からかかる時間（片道）をみると、「片道30分未満」があ33.3%である一方、「片道2時間以上」も23.6%を占めている。

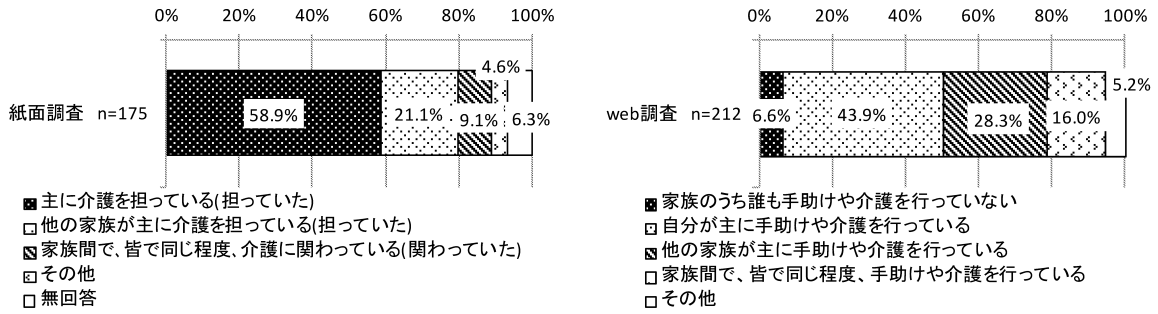
図表14 別居している場合：自宅からかかる時間（片道）（紙面調査Q19-2）単数回答



⑤主たる介護者

主たる介護者みると、紙面調査は「(回答者が)主に介護を担っている(担っていた)」が58.9%と約6割を占めている。Web調査も「自分が主に手助けや介護を行っている」が43.9%で最も割合が高い一方、「他の家族が主に手助けや介護を行っている」も28.3%と約3割を占めている。

図表15 主たる介護者（紙面調査Q20/Web調査Q47）単数回答



(3) 生活を向上させるために活用している機器や商品について

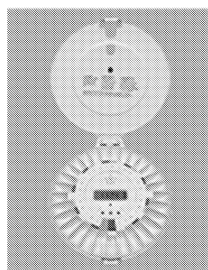
①服薬を支援するための商品

【商品の目的や機能】

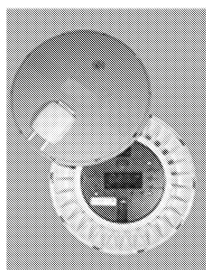
- ・「薬を飲む時間を**光や音**で知らせてくれる」「1回に飲む量だけを取り出すことができる」などの機能により、薬の飲み忘れを防ぐための商品。
- ・特定の時間に薬を飲み忘れる、飲む薬の量と種類を覚えておくことが難しい、薬を飲んだことを忘れてしまうなどの方が、薬を飲んで体調を管理することを支援します。

【商品例】

<アラーム薬入れ（一回分取り出し機能つき）> <アラーム薬入れ（携帯型）>



参考価格：約 25,000 円



参考価格：約 18,000 円

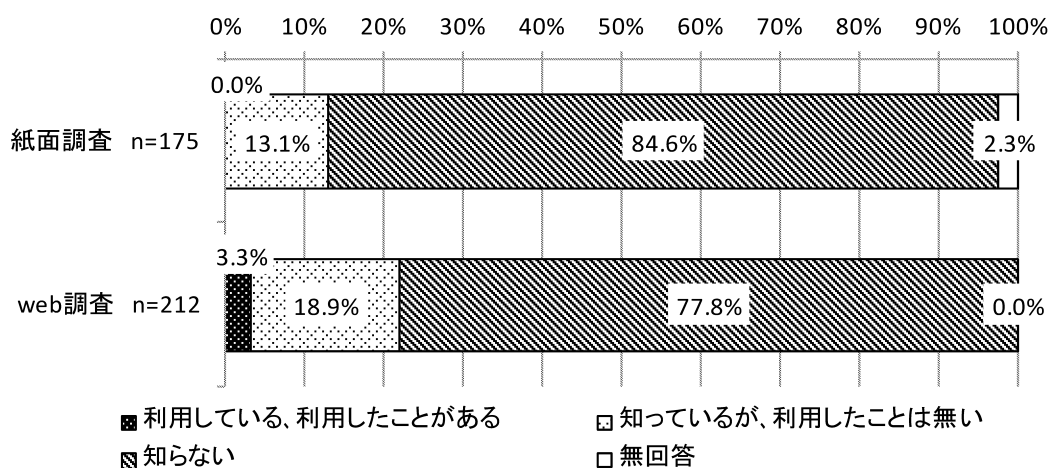


価格：約 2,000 円

1) 商品の認知・利用状況

服薬を支援するための商品について、「利用している、利用したことがある」「知っているが、利用したことは無い」を合わせた認知している人の割合は1～2割程度となっている。

図表16 服薬を支援するための商品：認知・利用状況
(紙面調査Q9 (1) ①/Web調査Q8) 単数回答



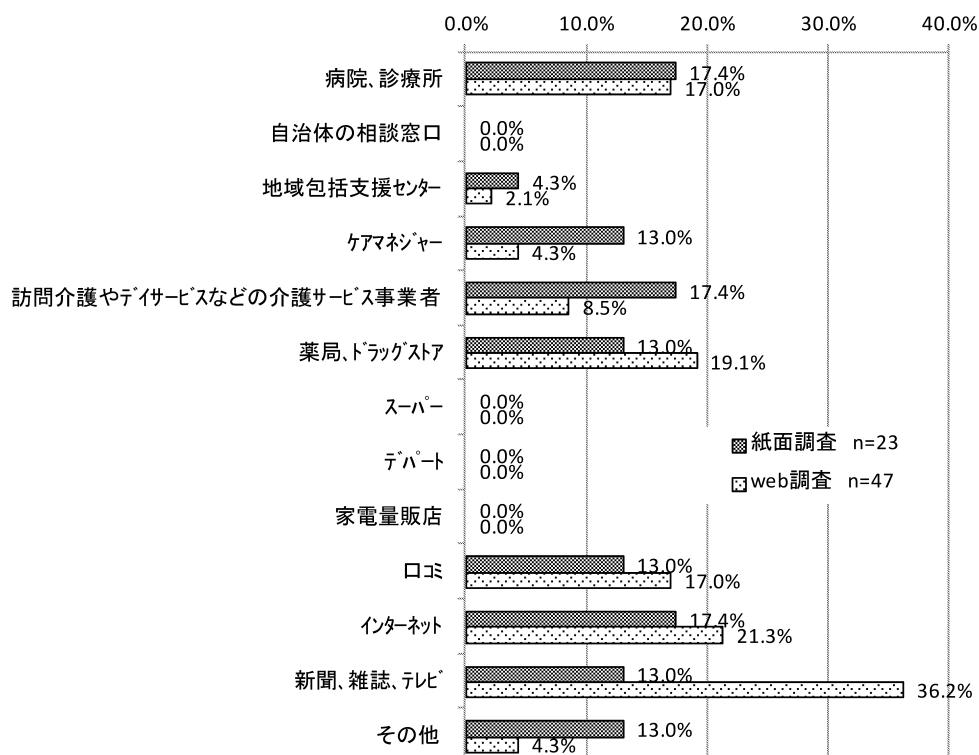
2) 商品の認知経路

服薬を支援するための商品を「利用している、利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」人について、商品の認知経路をみると、紙面調査は「病院、診療所」「訪問介護やデイサービスなどの介護サービス事業者」「インターネット」が17.4% (23人中4人) で多くなっている。

Web調査は、「新聞、雑誌、テレビ」が36.2%で、最も割合が高くなっている。

図表17 服薬を支援するための商品：認知・利用状況

(紙面調査Q9 (1) ②/Web調査Q8) 複数回答



3) 【利用経験者】商品を購入したきっかけ、利用に至る経緯

服薬を支援するための商品を「利用している、利用したことがある」人について、この商品を購入したきっかけ、購入にいたるまでの経緯は下表のとおりである。

図表18 服薬を支援するための商品：

【利用経験者】商品を購入したきっかけ、利用に至る経緯 (Web調査Q10) 文字記入

<Web調査>

インターネットで商品を知り、比較検討して購入した。
・朝昼晩の薬の種類が異なり、祖母が管理できない。
・同居していない家族にも理解しやすい。
・飲ませるのを忘れることを防止する。
・家族のコミュニケーション不足で同じ薬をまた飲ませてしまうことを防止するという目的。
服薬を忘れてしまうが多かったので、薬局で購入した。
日付別の入れ物を次女が買ってくれた。
ほとんど飲み忘れるから。
飲み間違いがあったので。
すでに使っている人から聞いて、同じものを買った。

4) 【利用経験者】利用した感想（役立った点、改善点等）

服薬を支援するための商品を「利用している、利用したことがある」人について、この商品を利用して見た感想は下表のとおりである。

図表19 服薬を支援するための商品：

【利用経験者】利用した感想（役立った点、改善点等）（Web調査Q18）文字記入

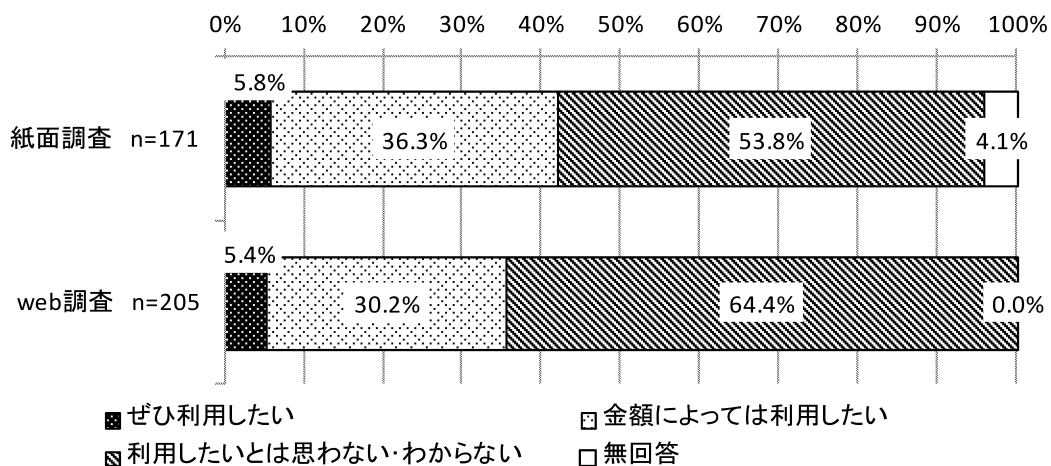
<Web 調査>

基本的に家族が与えているので余り必要としていない。
認知症の祖母には、この商品を使いこなせない。
1回分だけしか取り出せない物ならば良いと思う。
物忘れ程度方には良いと思う。ある程度認知症が進んでいる場合、薬の時間を知らせてもちゃんと服薬できたのか？と家族としては不安。
薬を出してポケット等に入れたりしたら気づかない。
この商品を持たせておけば安心とはいかない。
大変役に立っている。
役に立たない、機械ではなく家族で対応すべき。
使用する期間はなく一番は家族が決められた処方箋に従い飲んで貰うのが得策。
飲み忘れが減った。
この物自体を覚えられないことがある。
飲み忘れが無くなった。

5) 【利用未経験者】商品の利用意向

服薬を支援するための商品を「知っているが、利用したことは無い」「知らない」人について、「ぜひ利用したい」「金額によっては利用したい」を合わせた利用意向のある人の割合は4割前後となっている。

図表20 服薬を支援するための商品：【利用未経験者】商品の利用意向
（紙面調査Q9（1）⑤/Web調査Q26）単数回答



服薬を支援するための商品を「知っているが、利用したことは無い」「知らない」人のうち、「ぜひ利用したい」「金額によっては利用したい」を選択した人の、商品の希望金額は下表のとおりである。

図表21 服薬を支援するための商品：【利用未経験者】商品の希望金額

(紙面調査Q9 (1) ⑤/Web調査Q27) 数値回答

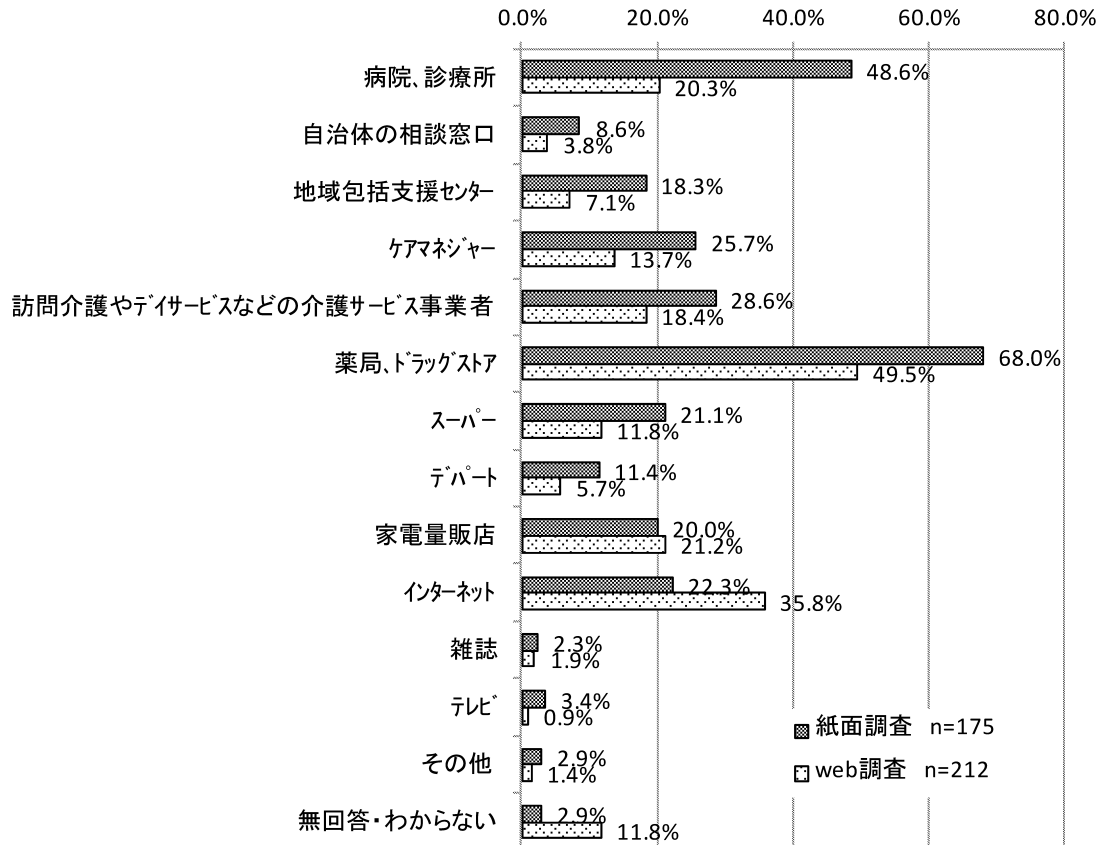
<「1. ぜひ利用したい」「2. 金額によっては利用したい」を選択した人の希望金額>

【紙面調査】			【Web調査】		
金額	N	%	金額	N	%
500	2	3.2	100	1	1.4
1,000	8	12.7	500	4	5.5
1,500	2	3.2	1,000	16	21.9
2,000	15	23.8	1,200	2	2.7
2,500	3	4.8	1,500	2	2.7
3,000	5	7.9	2,000	22	30.1
3,500	1	1.6	3,000	13	17.8
5,000	16	25.4	4,000	2	2.7
10,000	9	14.3	5,000	7	9.6
15,000	2	3.2	6,000	1	1.4
全体	63	100.0	10,000	3	4.1
			全体	73	100.0

6) 購入する場合の希望入手先

服薬を支援するための商品を購入する場合の希望入手先をみると、紙面調査、Web 調査とも「薬局、ドラッグストア」の割合が高く、紙面調査は 68.0%、Web 調査は 49.5%となっている。また、紙面調査は「病院、診療所」の割合も高く、48.6%と約半数から挙げられている。

図表22 服薬を支援するための商品：購入する場合の希望入手先
(紙面調査Q9 (1) ⑥/Web調査Q35) 複数回答



②曜日や時間を把握しやすいよう配慮した時計

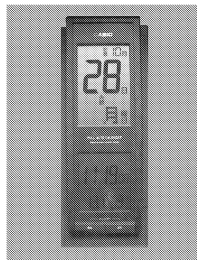
【商品の目的や機能】

- ・「デジタルやアナログで時間を表示する」「曜日や日にちを表示する」ことで、日にちや時間を把握したり、昼なのか夜なのかを判断できる商品。指定した時間に録音しておいた**音声メモを再生**する機能のある時計もあります。
- ・日付や曜日、時間、昼夜を把握することが難しい方が、昼夜を踏まえて生活を送ることを支援します。

【商品例】

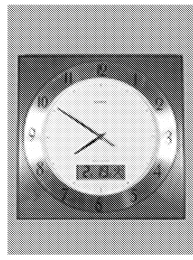
＜日時計

（壁掛け、デジタル型）＞



参考価格：約 9,000 円

＜壁掛けアナログ型の時計。
日付と曜日をデジタル形式で表示＞



価格：約 8,000 円

＜スケジュール記憶装置付きの時計。指定時間に音声メモを再生＞



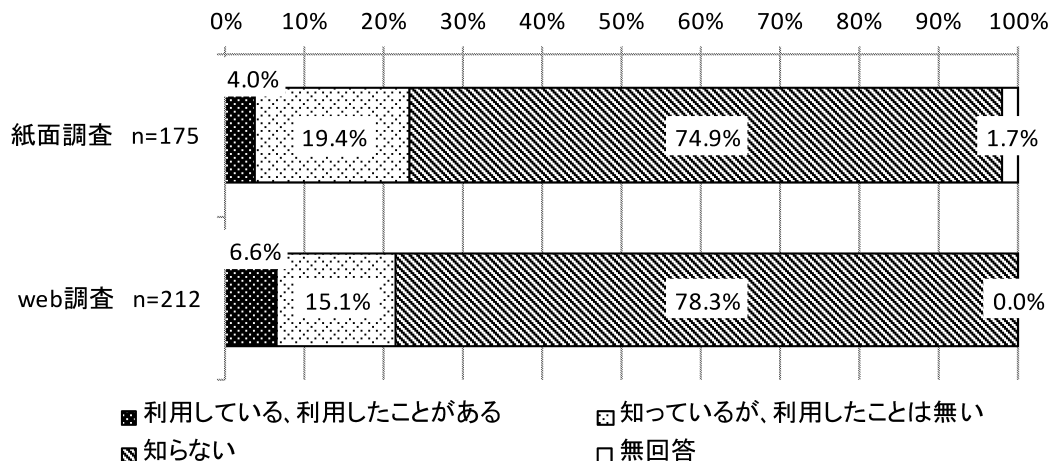
価格：約 6,000 円

1) 商品の認知・利用状況

曜日や時間を把握しやすいよう配慮した時計について、「利用している、利用したことがある」「知っているが、利用したことは無い」を合わせた認知している人の割合は2割強となっている。

図表23 曜日や時間を把握しやすいよう配慮した時計：認知・利用状況

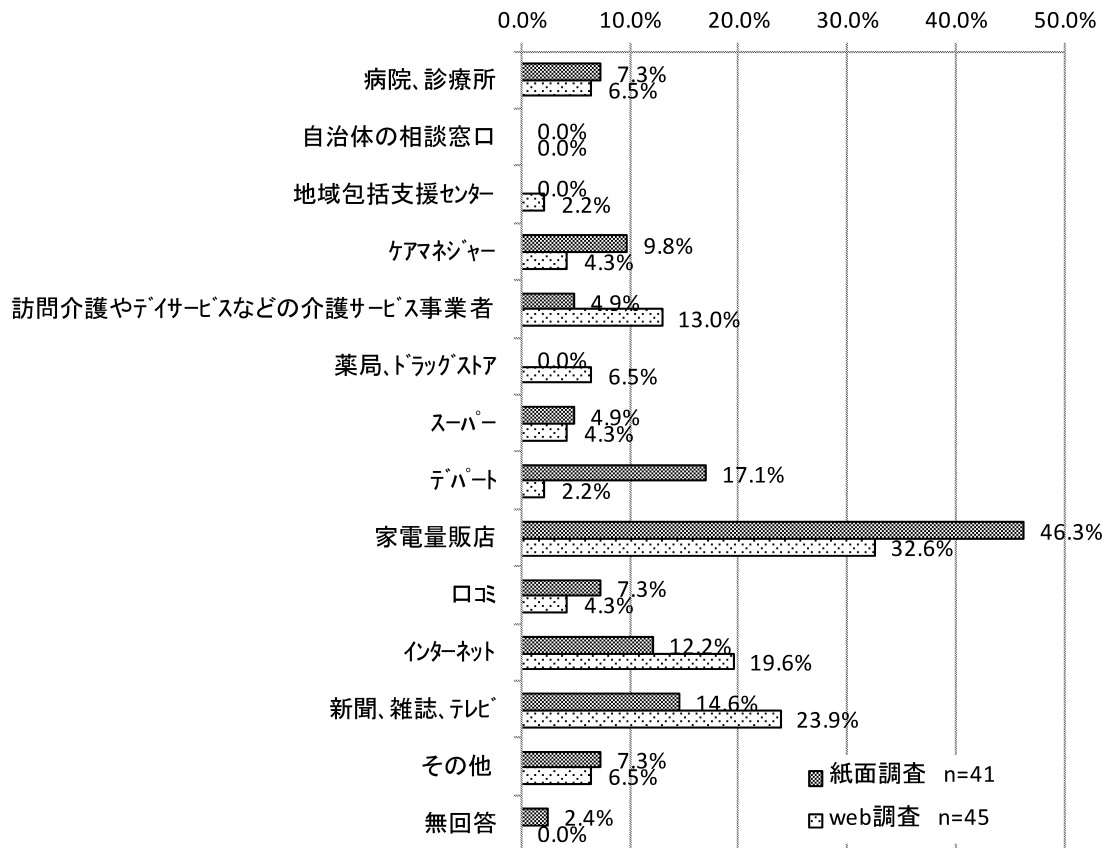
（紙面調査Q9（2）①/Web調査Q8）単数回答



2) 商品の認知経路

曜日や時間を把握しやすいよう配慮した時計を「利用している、利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」人について、商品の認知経路をみると、紙面調査、Web調査とも「家電量販店」の割合が高く、紙面調査は46.3%、Web調査は32.6%となっている。

図表24 曜日や時間を把握しやすいよう配慮した時計：認知・利用状況
(紙面調査Q9(2)②/Web調査Q9) 複数回答



3) 【利用経験者】商品を購入したきっかけ、利用に至る経緯

曜日や時間を把握しやすいよう配慮した時計を「利用している、利用したことがある」人について、この商品を購入したきっかけ、購入にいたるまでの経緯は下表のとおりである。

図表25 曜日や時間を把握しやすいよう配慮した時計：
【利用経験者】商品を購入したきっかけ、利用に至る経緯
(紙面調査Q9(2)③/Web調査Q11) 文字記入

<紙面調査>

自然に。
広告をみて注文・購入。
スーパーのチラシで見えて購入。
広告で見えて実家の母にプレゼント。
便利そうだと思って購入した。
便利そうなので、家電量販店で購入。
表示の大きいものを探して家電量販店で購入。

<Web 調査>

日付けと曜日、時間が判る時計を探し購入した。
たまたま姉が自分の娘に時計を覚えさせるのに作った時計が役に立っている。
曜日、時間の認識が悪くなってきたため、表示の大きなデジタル型をテレビの一番目に付く場所に置いた。
曜日と日にちの感覚があやふやになってきたところ、「電子日めくりカレンダー」のような商品を見つけ、同様の安価な商品を購入した。
置時計が故障したときに買い換えようとした店で勧められて購入。
日付と時間を何回も聞いてくるから。
通信販売のカタログで見つけた。
時計の針が見づらいというので妹が買ってきた。
日時計を忘れ防止として子供が買った。
時計がわからないから。
孫が買ってきた。
孫が結婚祝いのお返しにくれた。
購入。
便利なので買ってあげた。

4) 【利用経験者】利用した感想（役立った点、改善点等）

曜日や時間を把握しやすいよう配慮した時計を「利用している、利用したことがある」人について、この商品を利用して見た感想は下表のとおりである。

図表26 曜日や時間を把握しやすいよう配慮した時計：

【利用経験者】利用した感想（役立った点、改善点等）

（紙面調査Q9（2）④/Web調査Q19）文字記入

<紙面調査>

本人は見慣れた時計等を利用しているので、意識しては使用していない。
最初はどうかと思ったが喜んでくれた。
認知症の症状があると使えなかった。
日時が確認出来、良い。
時刻と日付が大きく、見やすい点が非常に良い。
その時は、時間が主な表示で曜日は大きく表示されないものだった。

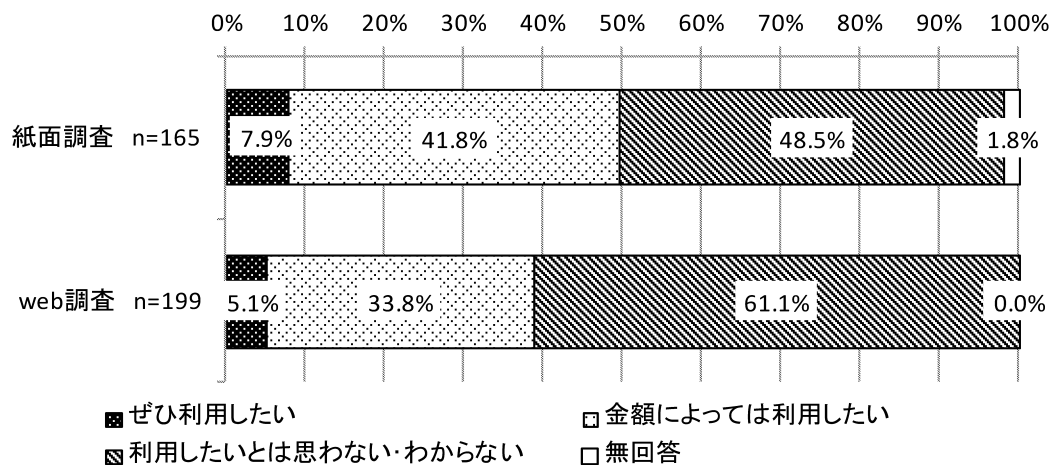
<Web 調査>

視力が弱いと判りづらい、デジタル文字が小さい。
当初は、何曜日なのかわからないと聞いていたが、あまり聞いてこなくなった。
説明書が難しく、本人には扱えない。ただの置時計と化している。
見るのを忘れるから駄目だった。
ぜんまいを巻く掛け時計の音に郷愁があったようだ。
日が当たると見づらくなるので、いつでも見やすいようにしてほしい。
文字の大きさの配慮。
時間を気にするようになった。
なかなか見てくれない。
夜ライトが点かないので不便。
何度も電池が抜けたりで、こちらが訂正する。
何もしていないので、特に必要ない。
なし(3件)。

5) 【利用未経験者】商品の利用意向

曜日や時間を把握しやすいよう配慮した時計を「知っているが、利用したことは無い」「知らない」人について、「ぜひ利用したい」「金額によっては利用したい」を合わせた利用意向のある人の割合は4～5割程度となっている。

図表27 曜日や時間を把握しやすいよう配慮した時計：【利用未経験者】商品の利用意向
(紙面調査Q9 (2) ⑤/Web調査Q26) 単数回答



曜日や時間を把握しやすいよう配慮した時計を「知っているが、利用したことは無い」「知らない」人のうち、「ぜひ利用したい」「金額によっては利用したい」を選択した人の、商品の希望金額は下表のとおりである。

図表28 曜日や時間を把握しやすいよう配慮した時計：【利用未経験者】商品の希望金額
(紙面調査Q9 (2) ⑤/Web調査Q28) 数値回答

<「1.ぜひ利用したい」「2.金額によっては利用したい」を選択した人の希望金額>

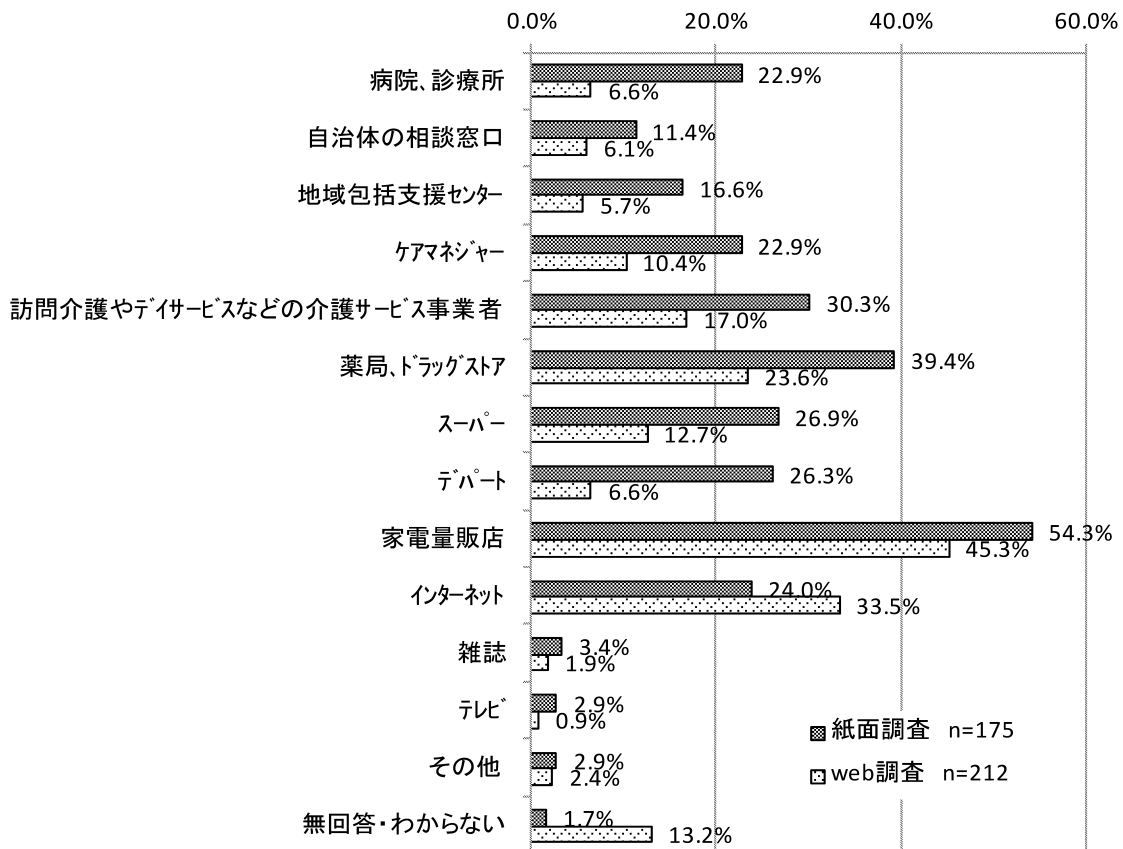
【紙面調査】			【Web調査】		
金額	N	%	金額	N	%
500	1	1.3	500	4	5.2
1,000	3	4.0	1,000	11	14.3
1,500	1	1.3	1,500	4	5.2
2,000	5	6.7	2,000	9	11.7
2,500	1	1.3	2,500	2	2.6
3,000	13	17.3	3,000	23	29.9
4,000	2	2.7	4,000	4	5.2
5,000	34	45.3	5,000	16	20.8
5,500	3	4.0	6,000	3	3.9
6,000	3	4.0	8000	1	1.3
7,000	1	1.3	全体	77	100.0
8,000	1	1.3			
9,000	1	1.3			
10,000	6	8.0			
全体	75	100.0			

6) 購入する場合の希望入手先

曜日や時間を把握しやすいよう配慮した時計を購入する場合の希望入手先をみると、紙面調査、Web 調査とも「家電量販店」の割合が高く、紙面調査は 54.3%、Web 調査は 45.3% となっている。

次いで割合が高いものは、紙面調査は「薬局、ドラッグストア」(39.4%)、Web 調査は「インターネット」(33.5%) となっている。

図表29 曜日や時間を把握しやすいよう配慮した時計：購入する場合の希望入手先
(紙面調査Q9 (2) ⑥/Web調査Q35) 複数回答



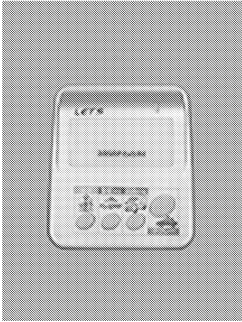
③操作しやすい電話

【商品の目的や機能】

- ・かけたい相手先の**顔写真や絵のボタン**を押すだけで電話をかけられるなどの機能により、簡単に電話をかけることができる商品。
- ・「電話番号を覚える」「操作方法を覚える」「短縮番号のボタンを判別する」等を行うことが難しい方が、電話でコミュニケーションをとることを支援します。

【商品例】

<ダイヤル装置>

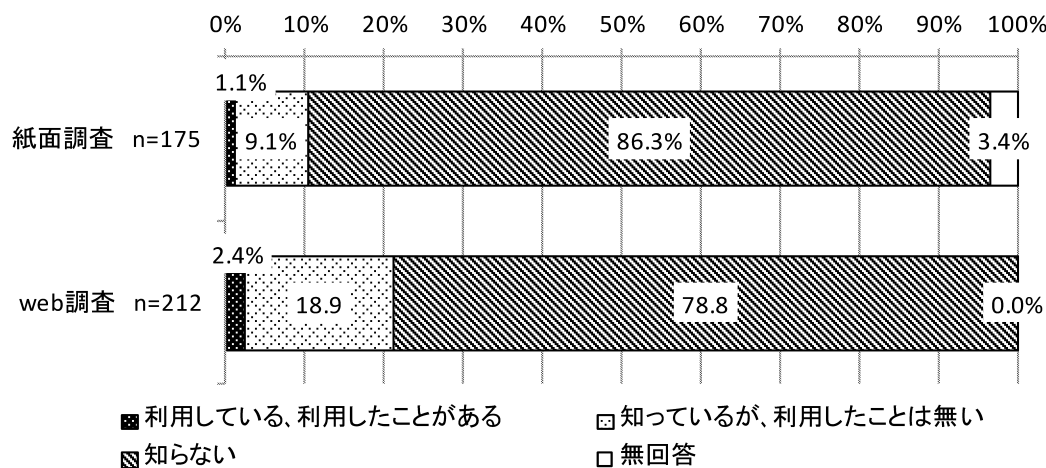


価格：約 10,000 円

1) 商品の認知・利用状況

操作しやすい電話について、「利用している、利用したことがある」「知っているが、利用したことは無い」を合せた認知している人の割合は1～2割程度となっている。

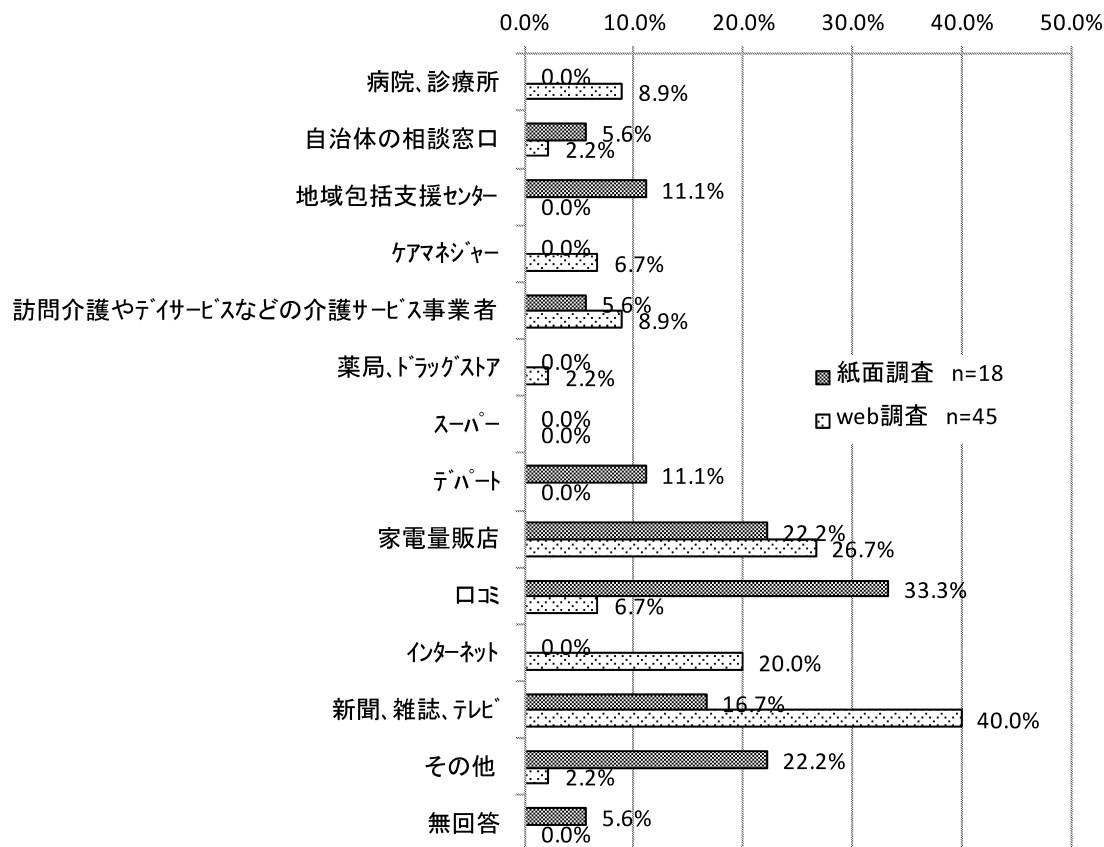
図表30 操作しやすい電話：認知・利用状況（紙面調査Q9（3）①/Web調査Q8）単数回答



2) 商品の認知経路

操作しやすい電話を「利用している、利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」人について、商品の認知経路をみると、紙面調査は「口コミ」が多く 33.3% (6人) となっている。Web 調査は「新聞、雑誌、テレビ」が多く 40.0% となっている。次いで多いものは、紙面調査、Web 調査とも「家電量販店」となっている。

図表31 操作しやすい電話：認知・利用状況（紙面調査Q9（3）②/Web調査Q9）複数回答



3) 【利用経験者】商品を購入したきっかけ、利用に至る経緯

操作しやすい電話を「利用している、利用したことがある」人について、この商品を購入したきっかけ、購入にいたるまでの経緯は下表のとおりである。

図表32 操作しやすい電話：【利用経験者】商品を購入したきっかけ、利用に至る経緯
(紙面調査Q9（3）③/Web調査Q12) 文字記入

<紙面調査>

Shopで勧められて。
必要と思い購入した。

<Web 調査>

不要になった友達にもらった。
指が不自由だから。
たまたま電話機が古かったので、なるべく簡単にボタンの大きい商品にした。
電話機が故障して家電店に購入しに行ったら店頭でPVを見て。
本人が選んだ従来型の携帯電話が使いこなせないまま規定の期間が過ぎたので、以前から興味があった簡単ケータイに変えた。

4) 【利用経験者】利用した感想（役立った点、改善点等）

操作しやすい電話を「利用している、利用したことがある」人について、この商品を利用して見た感想は下表のとおりである。

図表33 操作しやすい電話：【利用経験者】利用した感想（役立った点、改善点等）
（紙面調査Q9（3）④/Web調査Q20）文字記入

<紙面調査>

3か所しかかけられないので便利。
認知症がひどく、よけい混乱した。

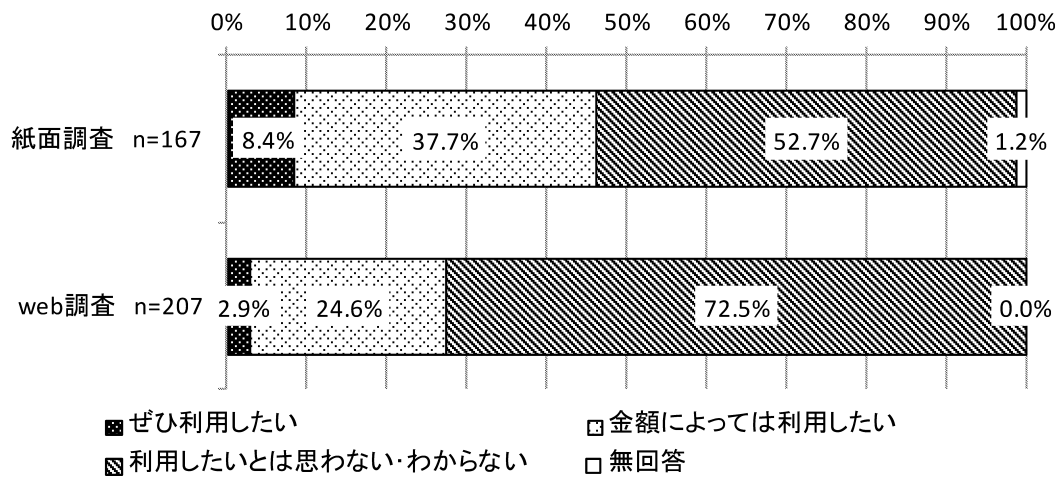
<Web調査>

今のところ支障はないのでいいと思う。
電話をかけやすい。
かけ間違いがなくなった。
タブレット端末やスマートフォンみたいなタッチパネルになればよい。
今のところ必要に迫られる場面がないので、たまに使い方を確認するために練習させている程度。

5) 【利用未経験者】商品の利用意向

操作しやすい電話を「知っているが、利用したことは無い」「知らない」人について、「ぜひ利用したい」「金額によっては利用したい」を合わせた利用意向のある人の割合をみると、紙面調査は46.1%、Web調査は27.5%となっている。

図表34 操作しやすい電話：【利用未経験者】商品の利用意向
（紙面調査Q9（3）⑤/Web調査Q26）単数回答



操作しやすい電話を「知っているが、利用したことは無い」「知らない」人のうち、「ぜひ利用したい」「金額によっては利用したい」を選択した人の、商品の希望金額は下表のとおりである。

図表35 操作しやすい電話：【利用未経験者】商品の希望金額
 (紙面調査Q9 (3) ⑤/Web調査Q29) 数値回答

<「1. ぜひ利用したい」「2. 金額によっては利用したい」を選択した人の希望金額>

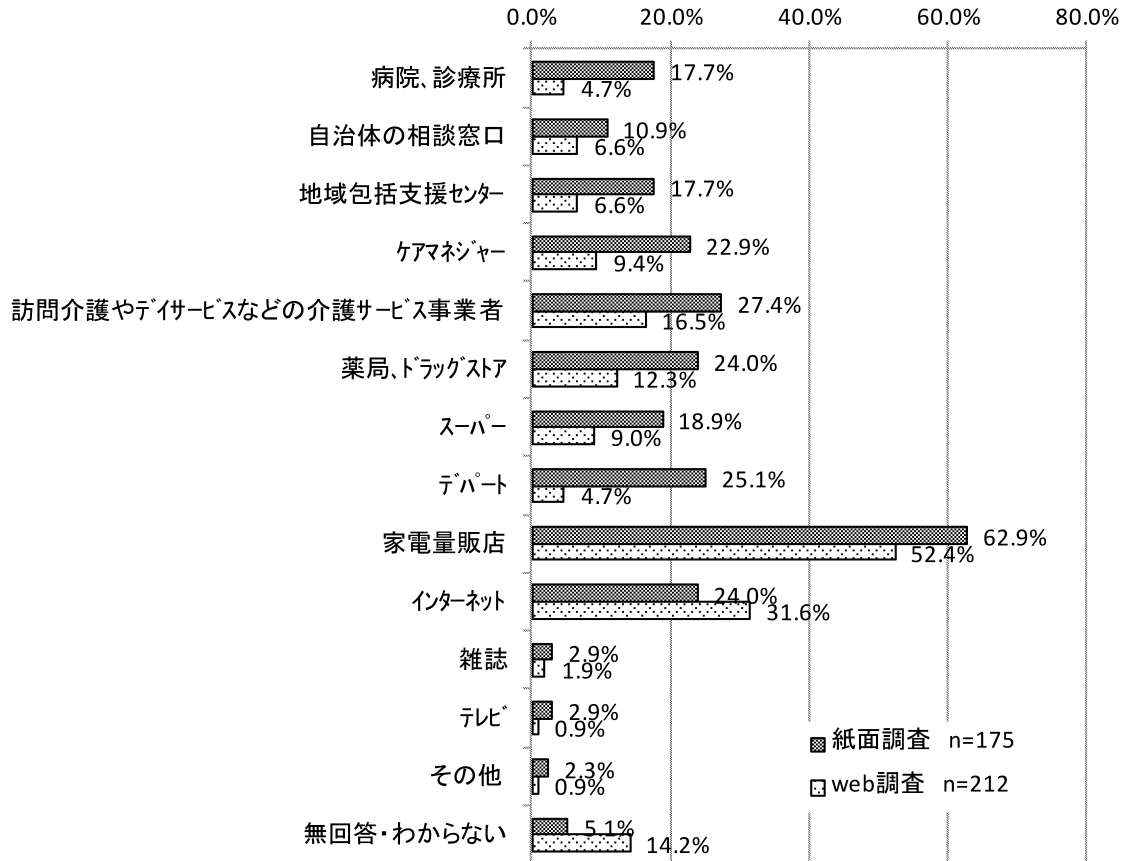
【紙面調査】			【Web調査】		
金額	N	%	金額	N	%
1,000	2	3.0	0	2	3.5
2,500	1	1.5	1,000	2	3.5
3,000	1	1.5	2,000	1	1.8
5,000	10	14.9	2,500	1	1.8
5,500	2	3.0	3,000	4	7.0
7,000	1	1.5	5,000	14	24.6
7,500	2	3.0	7,000	1	1.8
8,000	1	1.5	8,000	7	12.3
9,000	1	1.5	10,000	17	29.8
10,000	31	46.3	12,000	2	3.5
15,000	6	9.0	15,000	5	8.8
18,000	1	1.5	20,000	1	1.8
20,000	7	10.4	全体	57	100.0
25,000	1	1.5			
全体	67	100.0			

6) 購入する場合の希望入手先

操作しやすい電話を購入する場合の希望入手先をみると、紙面調査、Web調査とも「家電量販店」の割合が高く、紙面調査は62.9%、Web調査は52.4%となっている。

図表36 操作しやすい電話：購入する場合の希望入手先

(紙面調査Q9 (3) ⑥/Web調査Q35) 複数回答



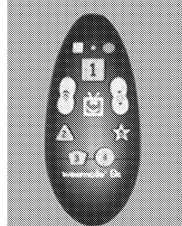


④操作しやすいテレビリモコン

【商品の目的や機能】

- ・「**大きくわかりやすい数字ボタン**」「**大小がわかりやすい音量ボタン**」「**リモコンのボタンが少ない**」「**形が異なるボタンに別々のチャンネルを割り当てる**」などの機能により、簡単に操作しやすいテレビリモコン。
- ・「テレビリモコンの操作方法を覚える」「テレビリモコンのボタンを判別する」「操作に必要なボタンを見つけ出す」「形が似ているボタンを判別する」等が難しい方が、テレビを楽しむことを支援します。

【商品例】

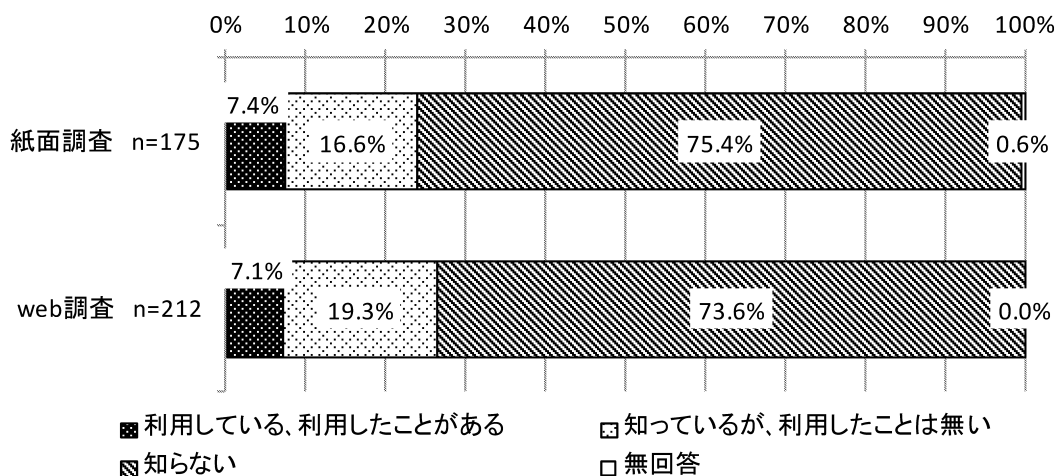
<p><簡易テレビリモコン (番号選択型)></p>  <p>価格：約 1,000 円</p>	<p><テレビリモコン (グリップ型)></p>  <p>参考価格：2,000 円</p>	<p><テレビリモコン (異種ボタン型)></p>  <p>参考価格：4,000 円</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1) 商品の認知・利用状況

操作しやすいテレビリモコンについて、「利用している、利用したことがある」「知っているが、利用したことは無い」を合せた認知している人の割合は 25%程度となっている。

図表37 操作しやすいテレビリモコン：認知・利用状況

(紙面調査Q9 (4) ①/Web調査Q8) 単数回答

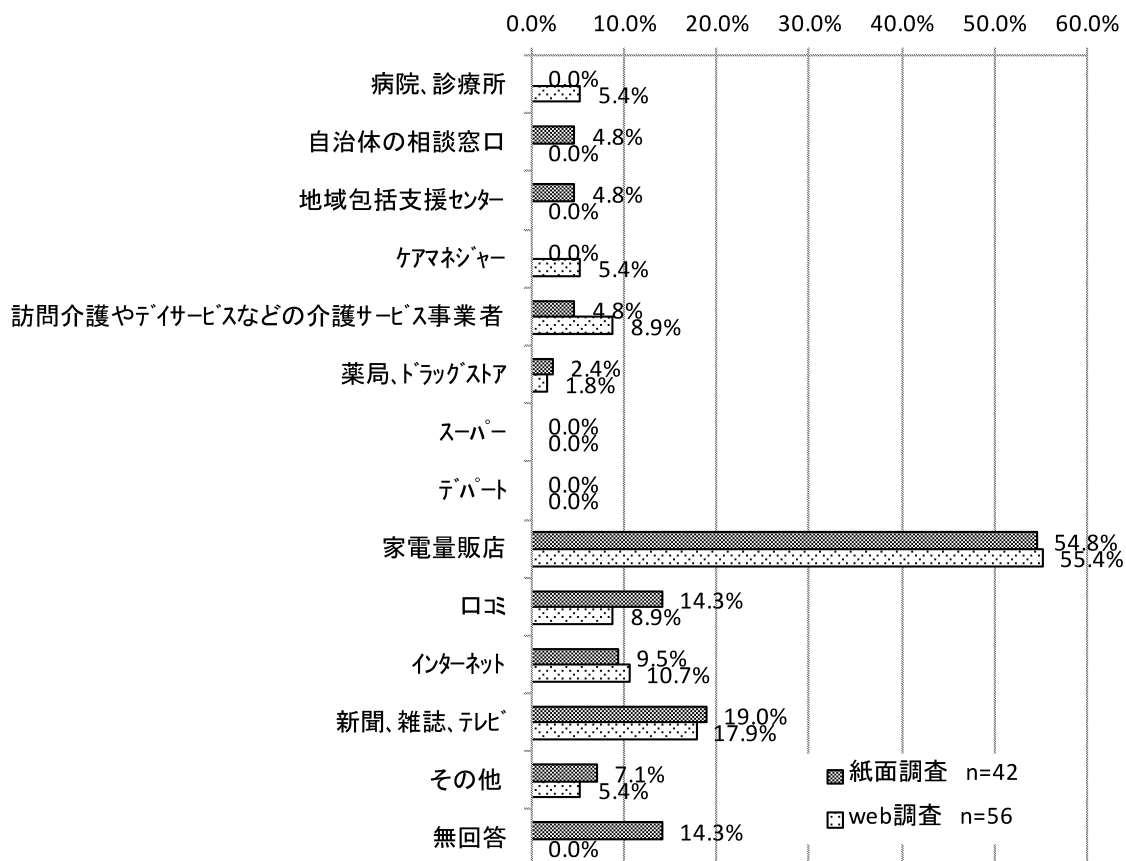


2) 商品の認知経路

操作しやすいテレビリモコンを「利用している、利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」人について、商品の認知経路をみると、紙面調査、Web調査とも「家電量販店」の割合が高く、いずれも55%程度となっている。

図表38 操作しやすいテレビリモコン：認知・利用状況

(紙面調査Q9(4)②/Web調査Q9)複数回答



3) 【利用経験者】商品を購入したきっかけ、利用に至る経緯

操作しやすいテレビリモコンを「利用している、利用したことがある」人について、この商品を購入したきっかけ、購入にいたるまでの経緯は下表のとおりである。

図表39 操作しやすいテレビリモコン
 : 【利用経験者】商品を購入したきっかけ、利用に至る経緯
 (紙面調査Q9 (4) ③/Web調査Q13) 文字記入

<紙面調査>

使いやすいものを探していたので、目について買った。
母のためにリモコンが使いやすいように購入。
夫が見つけてきた。
本体に付いてきた。
義母のリモコン操作が難しかったため、たまたま見つけた。
娘が買ってきてくれた。
本人がTVのリモコンを失くしたため。
店頭で見つけて購入。
夫が買って来てくれた(家電量販店)。
子供が親に買ってきてくれた。
父が購入した。
祖母の認知が初期の頃、リモコンの使用方法がわからない時があり、わかりやすい物を購入。
テレビの機能が複雑になってきて、ボタン自体が小さくなってきていた。いろいろ試みたが理解できにくく、単純なものを求めて家電量販店で見つけた。

<Web調査>

インターネットにて購入。
テレビのリモコンの反応が悪かったので。
地デジテレビに買い替え、CSボタンやBSボタンがあり、衛星放送アンテナをつなげていないので、不意にCS/BSボタンを押してしまうと、地上波放送のチャンネルに戻せなくなるので、安価簡単リモコンを購入し、CS/BSボタンはカッターで削って、押せないようにしている。
テレビのリモコンが押しづらい、見づらいので購入した。
母がテレビを見ることが大変好きで、既存のリモコンではボタンが小さく機能が多すぎ誤操作が頻繁にあったため、インターネットで調べ、家電量販店で実際に私が触ってみて購入。
認知症はないが、知人の親が高齢となり使っていたのを見ていた。 自分の家族が認知症となり、使用してみることにした。
目が悪くなったので文字の大きいリモコンを購入した。
目が悪いから。
主人が店頭で見つけて購入した。
認知症者にとって娘の夫にあたる人が、患者のリモコンいじりに苛立って購入してきた。
家電量販店で購入。
学習リモコンを買いに行き店頭で見つけた。
TV付属のリモコンが壊れてしまったため、電気屋さんに相談して、使いやすいリモコンを持ってきてもらった。

4) 【利用経験者】利用した感想（役立った点、改善点等）

操作しやすいテレビリモコンを「利用している、利用したことがある」人について、この商品を利用して見た感想は下表のとおりである。

図表40 操作しやすいテレビリモコン：【利用経験者】利用した感想（役立った点、改善点等）
（紙面調査Q9（4）④/Web調査Q21）文字記入

<紙面調査>

使いやすくて良かった。電池を交換するとメーカーの選択をする必要があるが、設定が本人には難しい。
使いやすいと思う。
使いやすかった。最も簡単なもの(左のもの)が良い。
わかりやすかった。(数字が大きくて良い)
わかりやすい。ずっと利用している。
わかりやすく、使いやすそう。
番号がみやすいので良かった。(音大きく)(小さく)の表示をした方が良いと思う。
複雑過ぎる。
それでも難しく電源にマジックで矢印をつけたりして工夫した。
一番左のものが簡単で良かった。
左の簡単なものが良かった。変わっているものは認知症があるとかえって使えないと思う。
少なくともBSと地デジの大きなボタンが必要。矢印などによって手順をより明確にしたらどうかと思った。

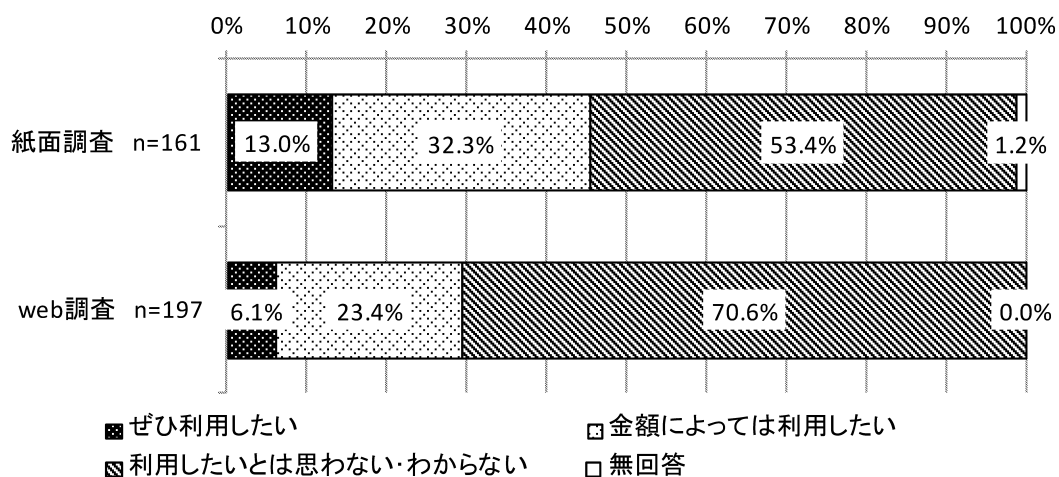
<Web調査>

今のところ支障なく使用している。
テレビのチャンネル選択が気軽にできるようになった。
簡単リモコンに替え、あまり操作上の問題は起こらなくなった。
値段安で壊れやすかった。
大変使いやすいが、ベッドから落としたり水がかぶることがたまにあるので、携帯並に防水防塵仕様の製品を期待。
チャンネルは回す感覚が残っており遠隔操作に慣れさせるのは大変だった。 手でチャンネルを回す感覚のリモコンはできないかと期待する。
昔のアナログテレビのNHKは2でデジタルテレビは1の押し間違いがあったので、1と2を入れ替えてほしい。
最初、地上波とBSの切り替えがわからず混乱していたが、使っていくうちに慣れてきた。
押しやすいからいい。
過去に使ったが、本人が使いきれなかった。リモコンのボタン操作自体、理解できていない時がある(使える時と使えない宇宙人になっている時がある)。 エアコン用のものがあれば使いたい(ON/OFFのみ)。
CSチャンネルに変更して大騒ぎなどということは無くなったが、電源ボタン(目立つオレンジ色)が理解出来ないようで、リモコンの改善よりも本人の症状の方が深刻かもしれない。
簡易リモコンを購入したが 内部の接点が弱い。
データボタンと番組内容確認ボタンは独立してあってほしい。
特になし。(2件)

5) 【利用未経験者】商品の利用意向

操作しやすいテレビリモコンを「知っているが、利用したことは無い」「知らない」人について、「ぜひ利用したい」「金額によっては利用したい」を合わせた利用意向のある人の割合をみると、紙面調査は45.3%、Web調査は29.5%となっている。

図表41 操作しやすいテレビリモコン：【利用未経験者】商品の利用意向
(紙面調査Q9 (4) ⑤/Web調査Q26) 単数回答



操作しやすいテレビリモコンを「知っているが、利用したことは無い」「知らない」人のうち、「ぜひ利用したい」「金額によっては利用したい」を選択した人の、商品の希望金額は下表のとおりである。

図表42 操作しやすいテレビリモコン：【利用未経験者】商品の希望金額
(紙面調査Q9 (4) ⑤/Web調査Q30) 数値回答

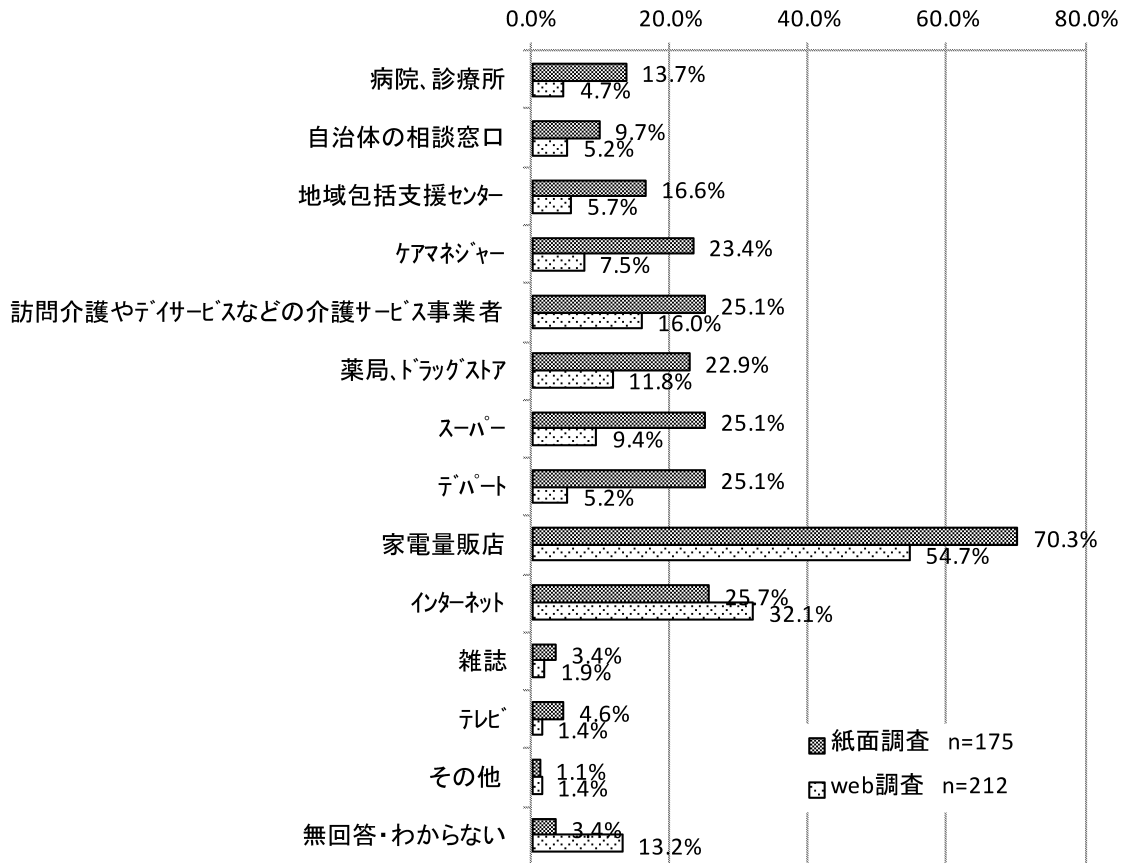
<「1.ぜひ利用したい」「2.金額によっては利用したい」を選択した人の希望金額>

【紙面調査】			【Web調査】		
金額	N	%	金額	N	%
500	4	6.6	0	2	3.4
1,000	28	45.9	250	1	1.7
1,500	2	3.3	300	2	3.4
1,800	1	1.6	500	6	10.3
2,000	13	21.3	700	3	5.2
2,500	1	1.6	800	2	3.4
3,000	10	16.4	980	1	1.7
5,000	2	3.3	1,000	28	48.3
全体	61	100.0	1,500	5	8.6
			2,000	7	12.1
			3,000	1	1.7
			全体	57	100.0

6) 購入する場合の希望入手先

操作しやすいテレビリモコンを購入する場合の希望入手先をみると、紙面調査、Web 調査とも「家電量販店」の割合が高く、紙面調査は 70.3%、Web 調査は 54.7%となっている。

図表43 操作しやすいテレビリモコン：購入する場合の希望入手先
(紙面調査Q9 (4) ⑥/Web調査Q35) 複数回答



⑤止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓

【商品の目的や機能】

- ・「指でレバーに触れた場合のみ水が出る」機能によって止め忘れることなく水道を使えるようにする、「一定量のお湯を浴槽に入れたら自動的に止める」機能によってお湯が出っぱなしにならないようにする、「お湯の温度が高くなると自動的に停止する」機能によってやけどを防止するなどをも目的とした水栓。
- ・流しやお風呂で水道の止め忘れのある方、お湯の温度設定を適切に行うことが難しい方を支援します。

【商品例】

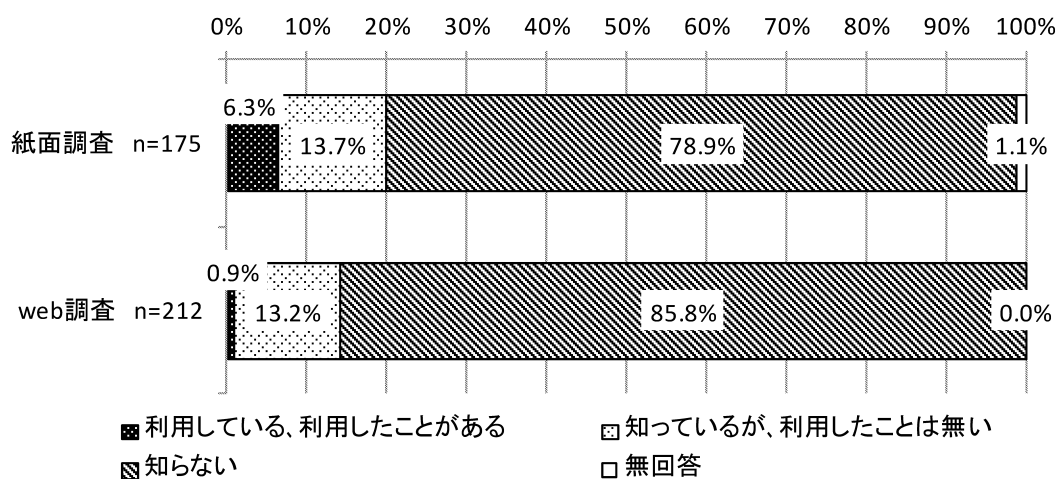
商品名	参考価格
＜自動水栓器＞	約 5,000 円
＜定量止水バルブ＞	約 5,000 円
＜やけど防止水栓＞	約 5,000 円

1) 商品の認知・利用状況

止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓について、「利用している、利用したことがある」「知っているが、利用したことは無い」を合わせた認知している人の割合は15～20%程度となっている。

図表44 止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓：認知・利用状況

(紙面調査Q9 (5) ①/Web調査Q8) 単数回答

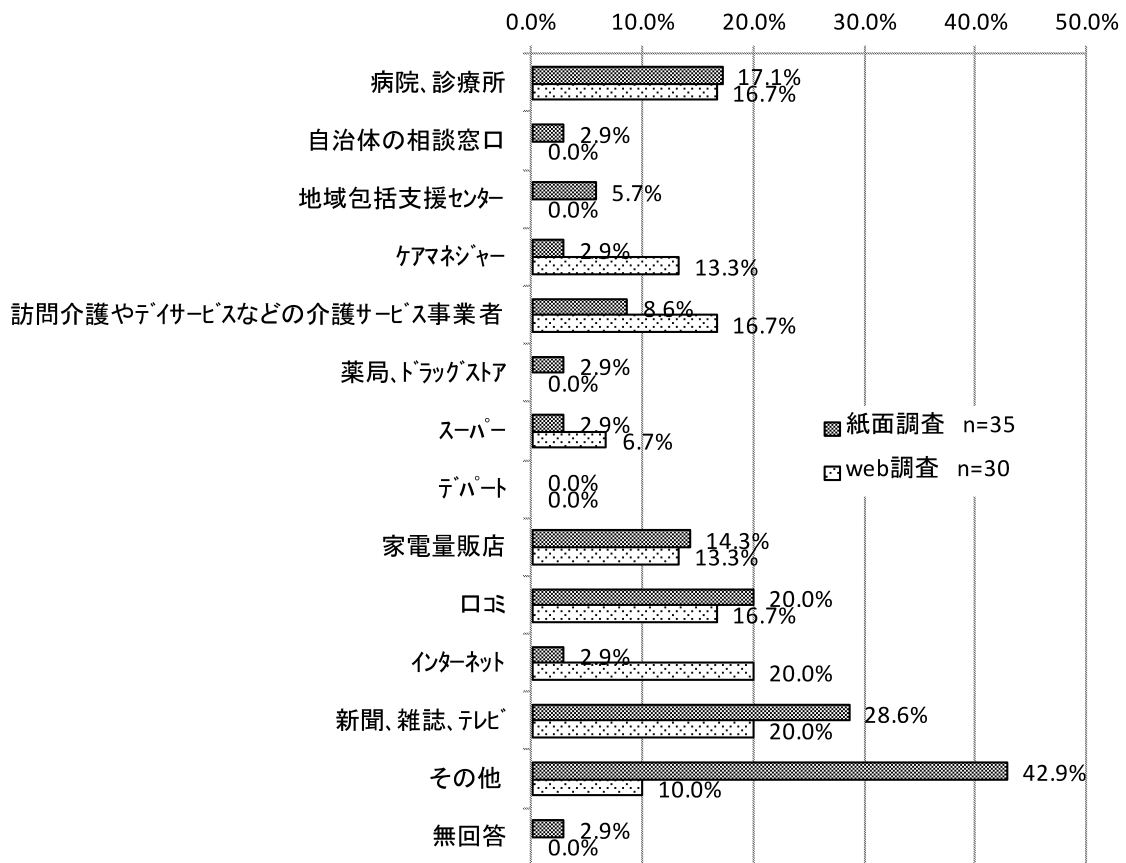


2) 商品の認知経路

止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓を「利用している、利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」人について、商品の認知経路をみると、紙面調査は「その他」、Web調査は「新聞、雑誌、テレビ」の割合が高い。

紙面調査の「その他」の回答内容をみると、工事施工会社、工務店、公共施設などの回答がみられた。

図表45 止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓：認知・利用状況
(紙面調査Q9(5)②/Web調査Q9) 複数回答



3) 【利用経験者】商品を購入したきっかけ、利用に至る経緯

止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓を「利用している、利用したことがある」人について、この商品を購入したきっかけ、購入にいたるまでの経緯は下表のとおりである。

図表46 止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓
：【利用経験者】商品を購入したきっかけ、利用に至る経緯
(紙面調査Q9 (5) ③/Web調査Q14) 文字記入

<紙面調査>

洗面所・台所などは未対応(温度調整はメインスイッチで可能)。 浴室のみ対応。家を建て直した時に湯量・温度調整付のものを設置。
大手建設会社の「改善係」を利用した。
訪れた他の家、レストランなど。
お風呂を取り替える時に、工務店の方から教えて頂き大変便利に使っている。
リフォームの時に設置。
介護サービス事業者の推薦。
随分以前のこと。建て替える前の古い家の風呂では、沸き上がりや水位がわからず不便だったので、購入した。
新築工事の時。

<Web調査>

家を建てる時に選択肢として紹介され、健常者・小さな子供にも便利と考え、選択。それが有効だったことは偶然。
指の力が弱いから。

4) 【利用経験者】利用した感想(役立った点、改善点等)

止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓を「利用している、利用したことがある」人について、この商品を利用して見た感想は下表のとおりである。

図表47 止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓
：【利用経験者】利用した感想(役立った点、改善点等)
(紙面調査Q9 (5) ④/Web調査Q22) 文字記入

<紙面調査>

やけどの心配がないので安心して入浴できる。
自動的に止まるので、安心して用事ができる。
清潔面を第一に考え使用中。
いいと思う。
見張りをしていなくても良い。安全性。
有効さを実感している。
当時は、音での知らせや自動的に水はりが停止したので、とても便利だった。
とても便利。

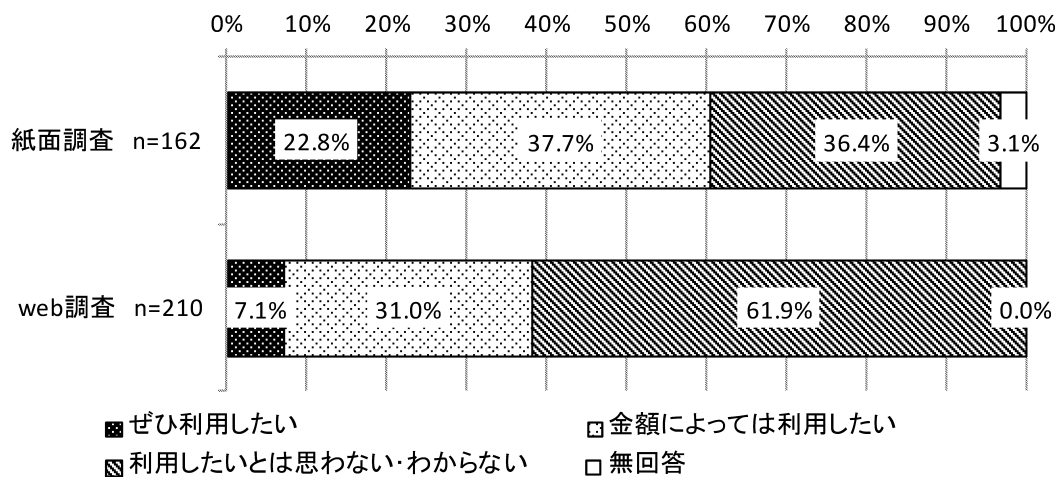
<Web調査>

風呂とトイレについている。キッチンにもつければよかったか。また、定量タイプは使い過ぎで何かもったいない気もしている。
家事が楽になった。

5) 【利用未経験者】商品の利用意向

止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓を「知っているが、利用したことは無い」「知らない」人について、「ぜひ利用したい」「金額によっては利用したい」を合わせた利用意向のある人の割合をみると、紙面調査は60.5%、Web調査は38.1%となっている。

図表48 止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓：【利用未経験者】商品の利用意向
(紙面調査Q9 (5) ⑤/Web調査Q26) 単数回答



止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓を「知っているが、利用したことは無い」「知らない」人のうち、「ぜひ利用したい」「金額によっては利用したい」を選択した人の、商品の希望金額は下表のとおりである。

図表49 止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓：【利用未経験者】商品の希望金額
(紙面調査Q9 (5) ⑤/Web調査Q31) 数値回答

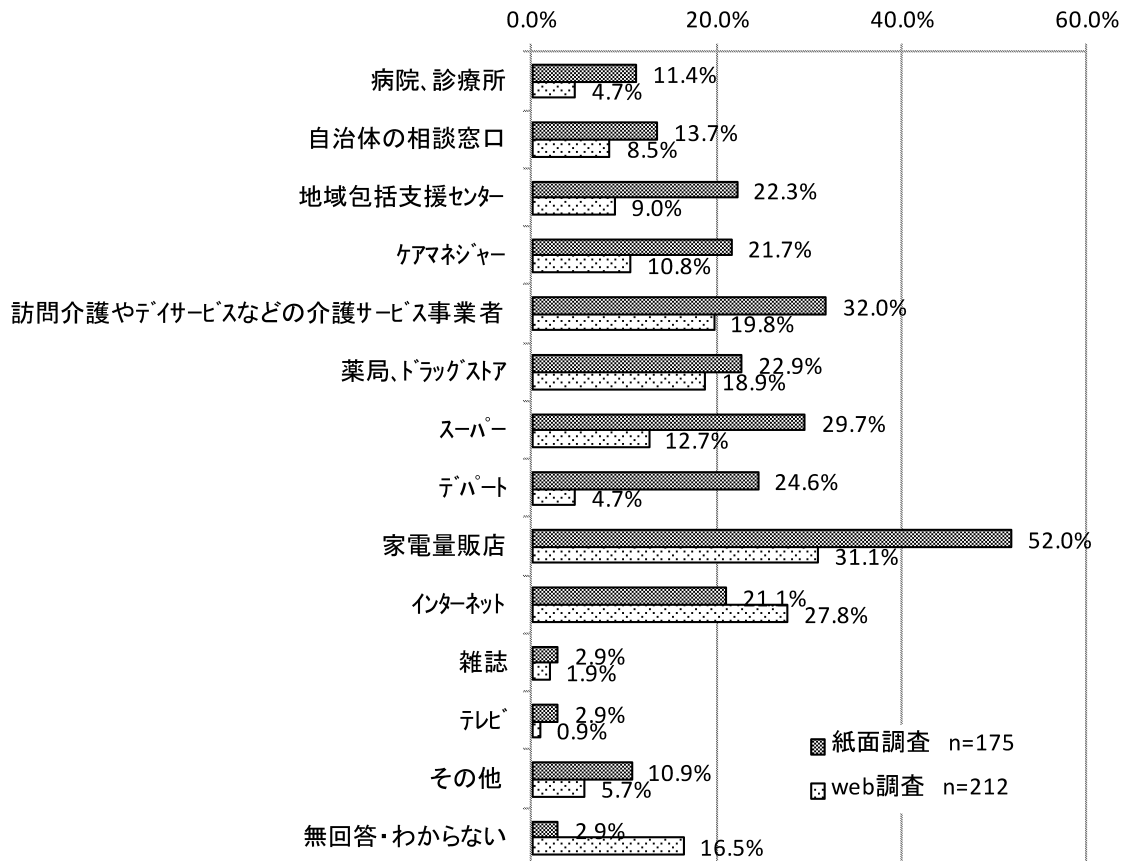
<「1. ぜひ利用したい」「2. 金額によっては利用したい」を選択した人の希望金額>

【紙面調査】			【Web調査】		
金額	N	%	金額	N	%
1,000	3	3.4	200	1	1.3
1,500	1	1.1	500	3	3.8
2,000	8	9.1	1,000	5	6.3
2,500	5	5.7	1,980	1	1.3
3,000	25	28.4	2,000	10	12.5
4,000	3	3.4	2,500	3	3.8
4,500	1	1.1	3,000	32	40.0
5,000	38	43.2	3,500	4	5.0
6,000	1	1.1	4,000	3	3.8
10,000	3	3.4	5,000	18	22.5
全体	88	100.0	全体	80	100.0

6) 購入する場合の希望入手先

止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓を購入する場合の希望入手先をみると、紙面調査は「家電量販店」の割合が高く 52.0%となっている。Web 調査は「家電量販店」(31.1%)、「インターネット」(27.8%) の割合が高くなっている。

図表50 止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓：購入する場合の希望入手先
(紙面調査Q9 (5) ⑥/Web調査Q35) 複数回答




⑥自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロ

【商品の目的や機能】

- ・「**コンロの消し忘れや鍋の焦げ付きを感知して自動的に消火する**」「**音声アラームで消し忘れを知らせる**」機能により、火事になることを防ぐことを目的としています。
- ・適切なタイミングでコンロを止めることに気付く、コンロがついていることを忘れがちな方が、料理をすること、火災による危険を防ぐことを支援します。

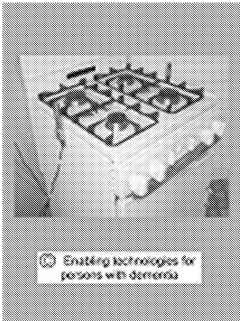
【商品例】

＜ガスコンロ（自動消火機能つき）＞



価格：約 44,000 円

＜ガスコンロ（音声アラーム機能つき、自動消火機能つき）＞

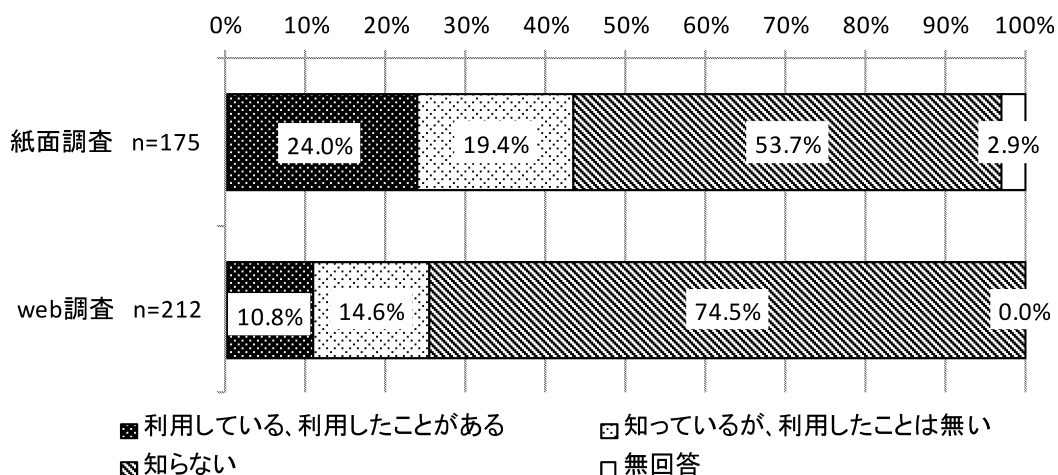


非売品（研究中）

1) 商品の認知・利用状況

自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロについて、「利用している、利用したことがある」割合をみると、紙面調査は 24.0%、Web 調査は 10.8%となっている。また、「知っているが、利用したことは無い」割合をみると、紙面調査は 19.4%、Web 調査は 14.6%となっている。

図表51 自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロ：認知・利用状況
(紙面調査Q9 (6) ①/Web調査Q8) 単数回答

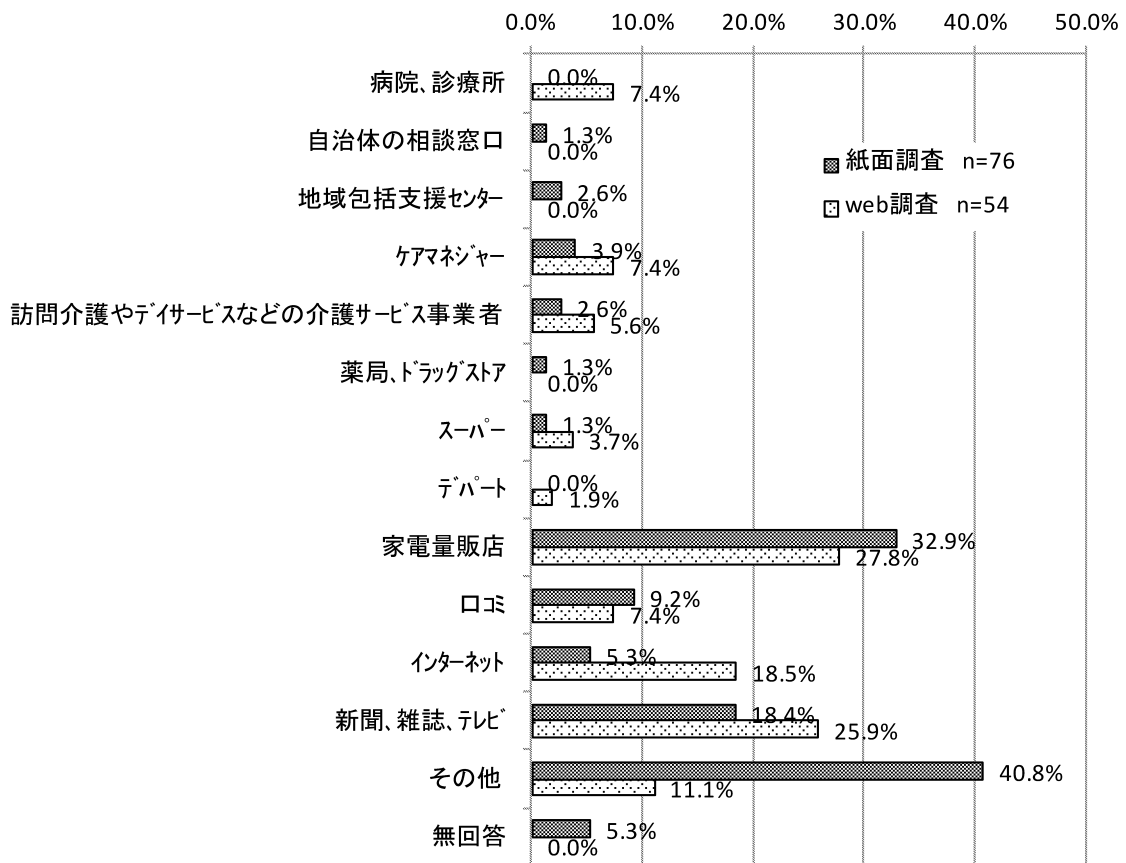


2) 商品の認知経路

自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロを「利用している、利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」人について、商品の認知経路をみると、紙面調査は「その他」(40.8%)、「家電量販店」(32.9%)、Web 調査は「家電量販店」(27.8%)、「新聞、雑誌、テレビ」(25.9%)の割合が高い。

紙面調査の「その他」の回答内容を見ると、ガス会社の回答が多くみられた。

図表52 自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロ：認知・利用状況
(紙面調査Q9(6)②/Web調査Q9)複数回答



3) 【利用経験者】商品を購入したきっかけ、利用に至る経緯

自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロを「利用している、利用したことがある」人について、この商品を購入したきっかけ、購入にいたるまでの経緯は下表のとおりである。

図表53 自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロ
：【利用経験者】商品を購入したきっかけ、利用に至る経緯
(紙面調査Q9(6)③/Web調査Q15) 文字記入

<紙面調査>

ガスコンロを買いかえる時に購入。
新しいガスコンロに変えた時、この機能が付いていた。
ガスコンロを新しく買い替える時に自動消火機能つきを購入。
本人は使うことはないが、以前のものが古くなったので、買い替えて自動消火機能つきに。
新規にガスコンロを購入する際、この機能のついたものがあったので。
今は新しい商品にするとこれらの機能がついている。
自分が買い替える時にガス会社の展示で知り、親が買い替える時にもすすめたもの。
ガス展示会場で見て。
ガス器具の販売店で勧められた。
ガス会社。
ガスコンロ取り付けの際にガス会社の方に勧められた。
台所を直すときにガス会社から紹介された。
ガス屋さんに説明された。やかんを焦がしたので不安があった(高齢夫婦世帯)。
ガス会社に設置してとりつけた。
ガス定期検査の時。
たまたま買ったものにその機能がついていた。
建設会社「改善係」と相談の結果現在に至る。
鍋を焦がすようになり取替えた。
鍋を焦がすので危険と思っていたところ、器具のとりかえ時期にガス会社で教えてくれた。
何度か鍋をこがして時点で購入。
実際に商品を見て、安全性を重視して買った。
時々失敗があり不安になったので。
息子(同居者)が、物忘れが多くなった時点で購入。
マンションについていた。
台所をリフォームしたとき、勧められた。
リフォームしたときに、ガス会社から紹介された
リフォーム時に購入したコンロに自動消火機能がついていた。
リフォームをした時に購入した。
リフォーム。
リフォームの時に設置。
火災を心配して。
高齢者2人暮らしなので、火の元の安全のために買うように勧めた。
工務店によって購入。
工務店の紹介。
父の転居時に新しい商品購入の際、いろいろ調べて、購入に至った。
ケアマネに勧められた。
安全装置つきは以前、一方にだけついていたが、両方についていれば、安心と思っていたところ、そういう型式がほとんどになり、購入を決めた。

<Web調査>

ビルトインコンロが老朽化したことを機に、新しい機種に買い替える際に、インターネットなどで情報を精査し、新しい機能の付加されたものにも買い替えることにした。
ガス屋さんに勧められた。
知人に聞いた。
ガスコンロ買い替え時に、メーカーのカタログを見て購入を決めた。

ガスの扱いに不安を感じたので家電量販店で購入し取り替えた。
認知症とは関係なく、火災予防のために購入した。
前のコンロが壊れたので、ホームセンターで安かったので購入した。
通常の買い替えとして購入した。
性能が良い物を選んだらアラーム機能等が付いていた。
家を建てる時に選んだIHクッキングヒータについていた。キッチンをきれいにしたかったことが選んだ理由で、有効なことは偶然。
火事がこわいから。
娘が買ってきた。
自宅一人で留守番をしている時、鍋にあるものを温めようと思ったらしく、火に掛け忘れて、家の中が煙で大変になるほど鍋を焦がし、ということが何回か続き、ホームセンターで購入して取り付けた。
自分が新聞折り込みチラシのスーパーのセールで見つけて、買ってきた。
火の消し忘れが頻繁にあるので購入。
鍋を焦がしてしまうことが頻繁に起きるので。
リフォームをきっかけに、担当者から聞き、設置。
消し忘れが数回あったので自動消火付きのものに買い換えた。
購入したら説明書に書いてあった。
お鍋を焦がしたり、薬缶を空焚きしてしまったりしたので。リフォームする際に、そういう商品があると知った。
コンロの火を付けっ放ししていることが多くなり、火事が心配になった。息子が家電量販店に行き、自動消火機能付きのガスコンロを買い取り付けてもらった。
たまたま、それを買った。
なし。

4) 【利用経験者】利用した感想（役立った点、改善点等）

自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロを「利用している、利用したことがある」人について、この商品を利用して見た感想は下表のとおりである。

図表54 自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロ
：【利用経験者】利用した感想（役立った点、改善点等）
（紙面調査Q9（6）④/Web調査Q23）文字記入

<紙面調査>

誰にとっても役立つと思う。
吹きこぼれた時なども自動消火してくれるので安心。湯が沸いてしばらくすると自動消火する。
長時間火にかけたままで忘れてしまっても、自動消火するので安心。
今のところアクシデントはないが、長時間つけておいて（煮込みの時）消えたことがあり、健康な人が使っていると不都合に思うこともある。
必要になった事はないが安心である。
合図があり安心できる。
焦げる一歩手前で消火できると良いが、少し焦げてから止まるので火事にはならないが、食べ物は食べられなくなってしまう。
鍋が少しこげる程度で火が止まるので安心。
やかん、鍋などの消し忘れが日常的にあり、この装置のおかげで火事になっていない。
ロック機能がついているので家族が留守をする時に誤使用を防げる。
便利である。
安心である。価格が割高なので、今後高齢化に伴う利用者の増加を考えると普及して価格が安くなることを期待する。
今は満足している。
消し忘れた時に自動消火できて助かっている。
安心感はある。少し時間が長くなると消えてしまうので、面倒な感じもする。
自動で感知してガスが消えるので、料理をする時の調節が難しい。
良かった。
音声アラームのついたものは便利だと思う。自宅で使っていたのは消火するだけ。
火力が弱い。

フライパンを熱しているうちに食品を入れる前に消火してしまった。
コンロの消し忘れをしていても感知して自動的に消火してくれるので、安全だし、便利だと思った。
ガス台を使用したのが、すぐ消火してしまい、普段不便。
焦げるもう一歩前に知らせるようになったらより良い。
これで十分である。
家族も消し忘れに助けられている。
簡単に消えてしまうので不便を感じた。
たまに本人が触っていることがあるが、誤作動がないか、心配。(ガスだけ出してしまうことがないか)
とても良い機能だが、100%信用していいのか。
焦げ等を防ぐことができた。
自動消火機能で安心して台所に立つことを見守っている心の余裕ができた。アラームの音が高くてもいいのでは。調整機能が必要。
特に魚焼き器は返す心配もなく、他の調理ができる。
消し忘れがなくなり、あるいはタイマーも設定できるので、ストレスがなくなった。ただ、タイマーや設定(我家の場合は、湯沸かしとタイマー)などは、複雑だと新しいことが覚えられない方には使いにくいかもしれない。

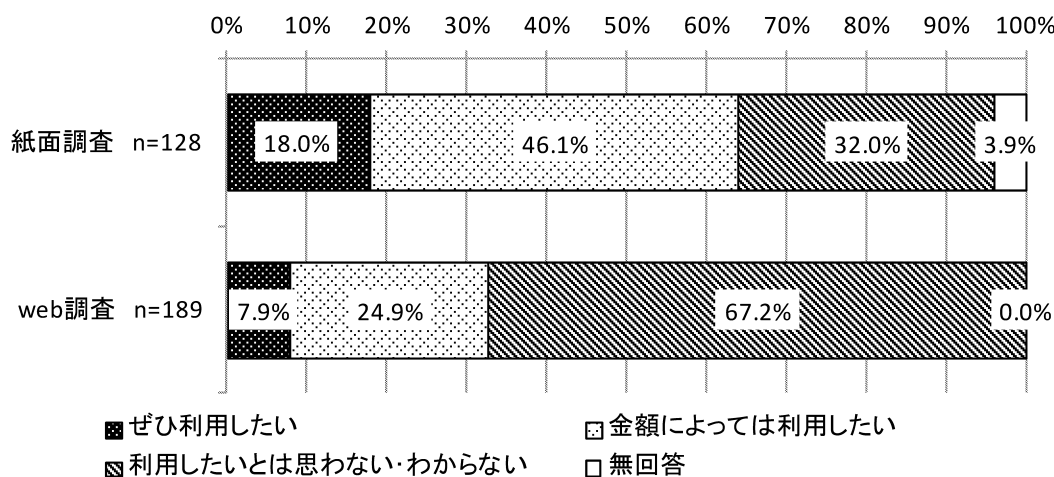
<Web 調査>

その後、さらに母の認知症が進行し、コンロそのものに触れることが無くなったので、特に改善と言う事を認識するには至らなかった。
安心して使える。
高温になるとアラームが鳴りだし火が小さくなるという優れもの。餃子を焼いても焦げないという優れもの。良いももっと早く火を止めて欲しい(鍋の焦げ付きが軽くなる訳では無い)。
付け忘れなどの時、自動的にガスが止まるので事故を予防できたことがしばしばあった。
センサー部分の故障が多いと販売店から聞いている。
鍋の中のものが焦げついてからしか止まらない。
フライパンの使用時に意図しない消火がある。
消し忘れても自動で消えるので火事の心配が少し減った。
IHクッキングヒーターによるキッチンのきれいさは想定通り。吹きこぼれて勝手に停止等も嬉しい。改善できるなら、より安価に。また、大火力に。ボンベコンロのようにテーブルに置くタイプも入手。やはり安全のようで良い。
心配が減った。
火事にならないからいい。
まず、家族が、安心して、外出できるようになった。
火を付けていることを忘れるのか、そのまま戸外に出るのでアラームが鳴っても聞こえないという状況があった。
IH調理器具ほうがより安全だと思うようになっている。
火事の心配がなくなったので、ずっとついている必要がいくらか減った。
タイマーをつけてほしい。
リフォーム後は、安心して使っている。最近、点火スイッチの場所を間違えることが多い。コンロに点火するつもりで、魚焼き器のスイッチを点火させたりしている。
自動で消火してくれるので心配は減ったが、時折お鍋やフライパンなど、何ものせていない時に火が付けっ放しになっている時があることに気づいた。何も乗っていないと消火しないので、そういった場合にも消火する機能が必要だと思った。
外出から帰った時アラームが鳴っていて かつガスが止まっていたときは、ほっとした。
なし。(3件)

5) 【利用未経験者】商品の利用意向

自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロを「知っているが、利用したことは無い」「知らない」人について、「ぜひ利用したい」「金額によっては利用したい」を合わせた利用意向のある人の割合をみると、紙面調査は64.1%にのぼる。Web調査は32.8%となっている。

図表55 自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロ：【利用未経験者】商品の利用意向
(紙面調査Q9(6)⑤/Web調査Q26) 単数回答



自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロを「知っているが、利用したことは無い」「知らない」人のうち、「ぜひ利用したい」「金額によっては利用したい」を選択した人の、商品の希望金額は下表のとおりである。

図表56 自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロ：【利用未経験者】商品の希望金額
(紙面調査Q9(6)⑤/Web調査Q32) 数値回答

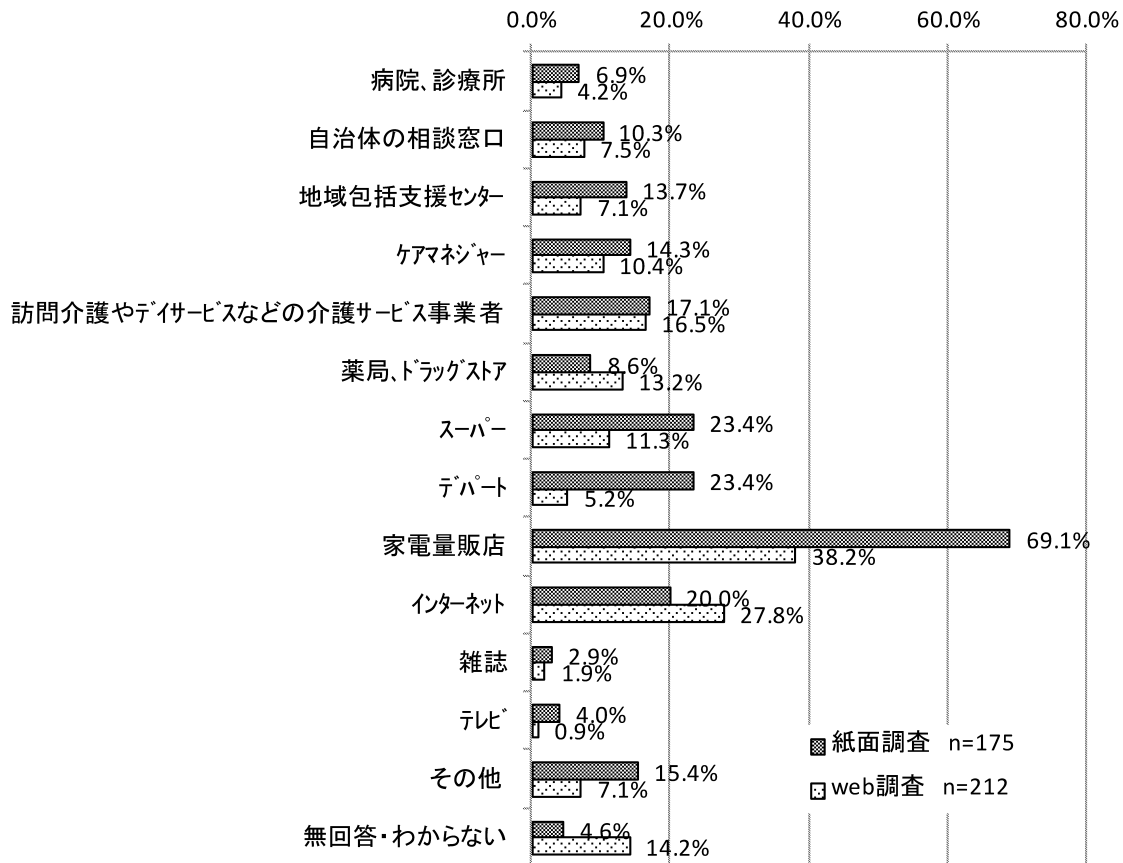
<「1. ぜひ利用したい」「2. 金額によっては利用したい」を選択した人の希望金額>

【紙面調査】			【Web調査】		
金額	N	%	金額	N	%
1,000	1	1.4	0	1	1.6
4,000	1	1.4	500	1	1.6
5,000	2	2.9	2,000	1	1.6
10,000	10	14.3	3,000	1	1.6
15,000	3	4.3	5,000	6	9.7
20,000	20	28.6	10,000	11	17.7
25,000	5	7.1	15,000	9	14.5
30,000	20	28.6	16,000	1	1.6
35,000	1	1.4	20,000	12	19.4
40,000	1	1.4	25,000	1	1.6
50,000	6	8.6	30,000	12	19.4
全体	70	100.0	35,000	1	1.6
			40,000	3	4.8
			44,000	2	3.2
			全体	62	100.0

6) 購入する場合の希望入手先

自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロを購入する場合の希望入手先をみると、紙面調査は「家電量販店」の割合が高く 69.1%となっている。Web調査は「家電量販店」(38.2%)に次いで、「インターネット」(27.8%)の割合も高くなっている。

図表57 自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロ：購入する場合の希望入手先
(紙面調査Q9 (6) ⑥/Web調査Q35) 複数回答



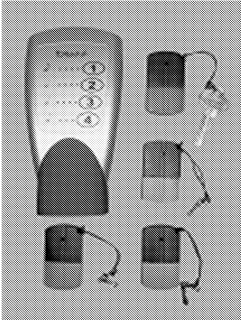
⑦探し物発見器、置き忘れ防止アラーム

【商品の目的や機能】

- ・送信機のボタンを押すと受信機が鳴って場所を伝えるなどの機能によって失くした物を見つける、物を置き忘れないようにすることを目的とした商品です。
- ・物を置いた場所を覚えておくことが難しい方が物を管理することを支援します。


【商品例】

<探し物発見器（送信機、受信機独立型）>



価格：約 10,000 円

<置き忘れ防止アラーム>

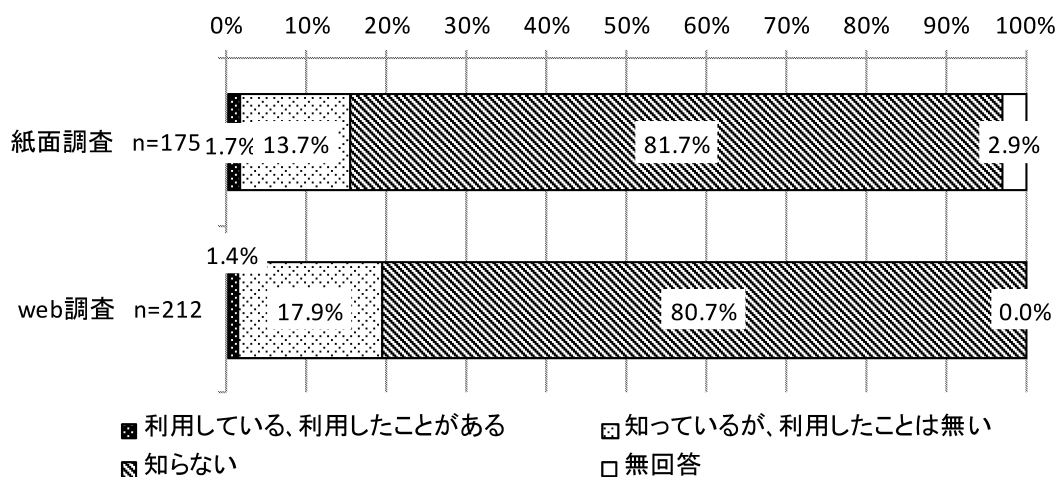


価格：約 3,000 円

1) 商品の認知・利用状況

探し物発見器、置き忘れ防止アラームについて、「利用している、利用したことがある」「知っているが、利用したことは無い」を合せた認知している人の割合は15～20%程度となっている。

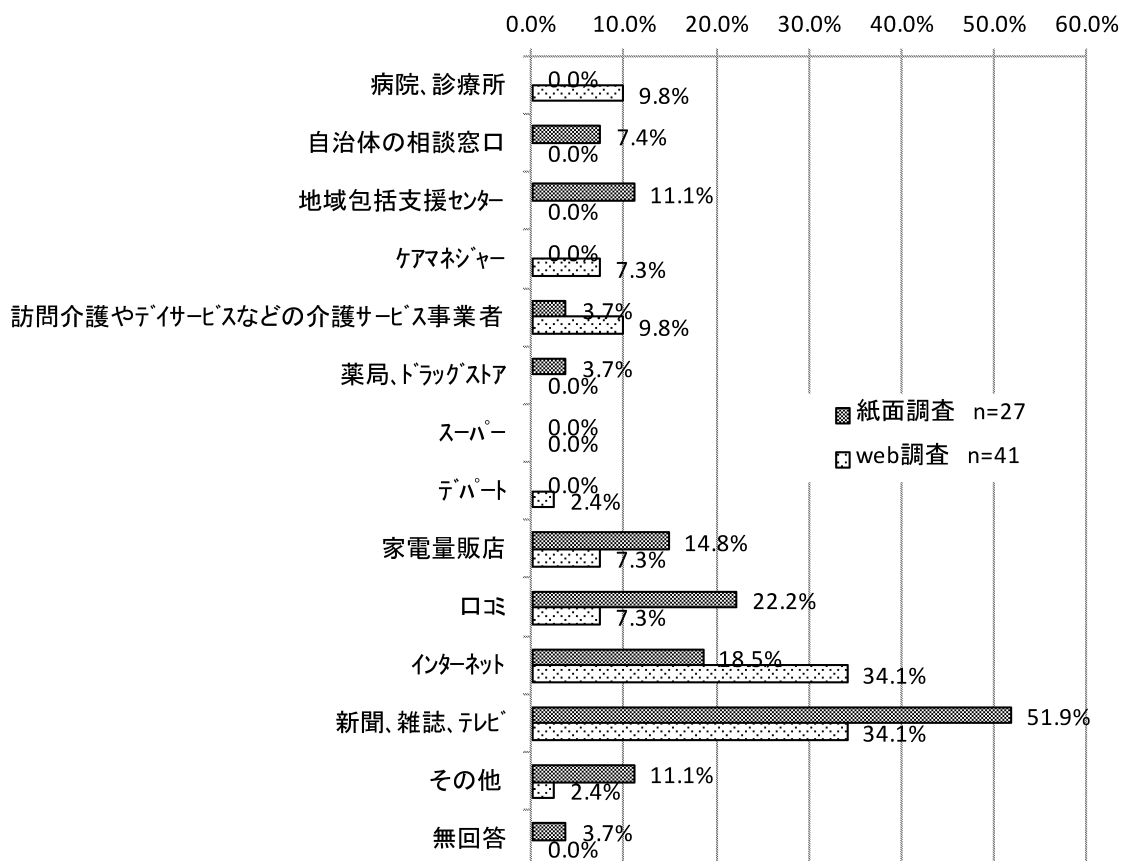
図表58 探し物発見器、置き忘れ防止アラーム：認知・利用状況
(紙面調査Q9 (7) ①/Web調査Q8) 単数回答



2) 商品の認知経路

探し物発見器、置き忘れ防止アラームを「利用している、利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」人について、商品の認知経路をみると、紙面調査は「新聞、雑誌、テレビ」の割合が高く、51.9%となっている。Web調査は「インターネット」「新聞、雑誌、テレビ」の割合が高く、それぞれ34.1%となっている。

図表59 探し物発見器、置き忘れ防止アラーム：認知・利用状況
(紙面調査Q9 (7) ②/Web調査Q9) 複数回答



3) 【利用経験者】商品を購入したきっかけ、利用に至る経緯

探し物発見器、置き忘れ防止アラームを「利用している、利用したことがある」人について、この商品を購入したきっかけ、購入にいたるまでの経緯は下表のとおりである。

図表60 探し物発見器、置き忘れ防止アラーム
：【利用経験者】商品を購入したきっかけ、利用に至る経緯
(紙面調査Q9 (7) ③/Web調査Q16) 文字記入

<紙面調査>

紛失する物が出てこないことがあるので。
部屋の電灯のリモコンや家の鍵をなくすことが多くなったため。インターネットで探して購入した。

<Web 調査>

物忘れがひどくなり、デイサービスに持って行くバッグがどこに置いたか分からなくなって、朝デイサービスの迎えが来た時に大騒動だったので、インターネットで見つけた。ただ使ってはくれなかった。
ケアマネジャーに紹介されて。

4) 【利用経験者】利用した感想（役立った点、改善点等）

探し物発見器、置き忘れ防止アラームを「利用している、利用したことがある」人について、この商品を利用して見た感想は下表のとおりである。

図表61 探し物発見器、置き忘れ防止アラーム
：【利用経験者】利用した感想（役立った点、改善点等）
(紙面調査Q9 (7) ④/Web調査Q24) 文字記入

<紙面調査>

誠によく役に立つ。
探し物が見つかるのは便利だけれど、電池が一般に売られていないもののため、インターネット購入になり、少し手間がかかる。

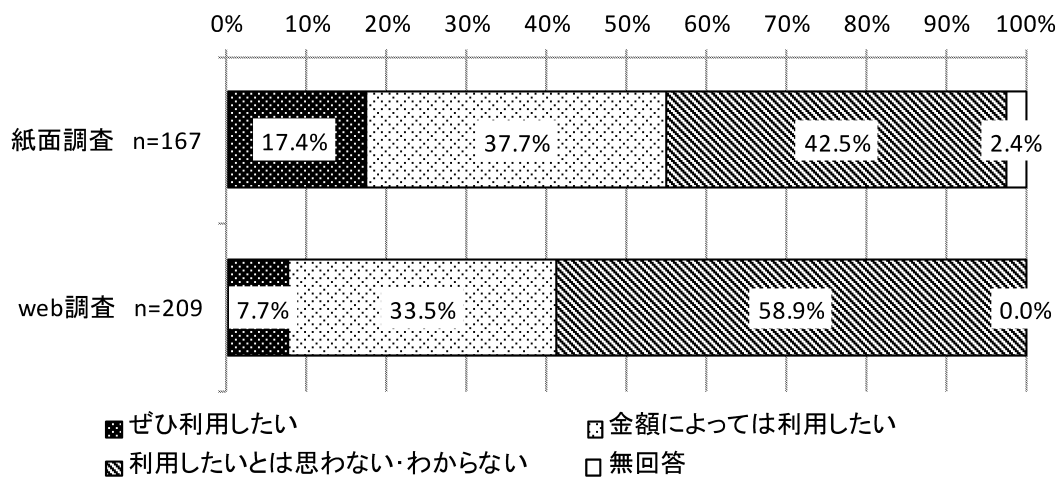
<Web 調査>

使うことを忘れている人、絶対に使いたがらない頑固者には役に立たない。
すぐにある場所がわかる優れもの。
電池の消費が早くて結局使わなくなった。
電池の消費を少なくして電池の交換を3年ぐらいにして貰いたい。

5) 【利用未経験者】商品の利用意向

探し物発見器、置き忘れ防止アラームを「知っているが、利用したことは無い」「知らない」人について、「ぜひ利用したい」「金額によっては利用したい」を合わせた利用意向のある人の割合をみると、紙面調査は55.1%、Web調査は41.2%となっている。

図表62 自探し物発見器、置き忘れ防止アラーム：【利用未経験者】商品の利用意向
(紙面調査Q9 (7) ⑤/Web調査Q26) 単数回答



探し物発見器、置き忘れ防止アラームを「知っているが、利用したことは無い」「知らない」人のうち、「ぜひ利用したい」「金額によっては利用したい」を選択した人の商品の希望金額は下表のとおりである。

図表63 探し物発見器、置き忘れ防止アラーム：【利用未経験者】商品の希望金額
(紙面調査Q9 (7) ⑤/Web調査Q33) 数値回答

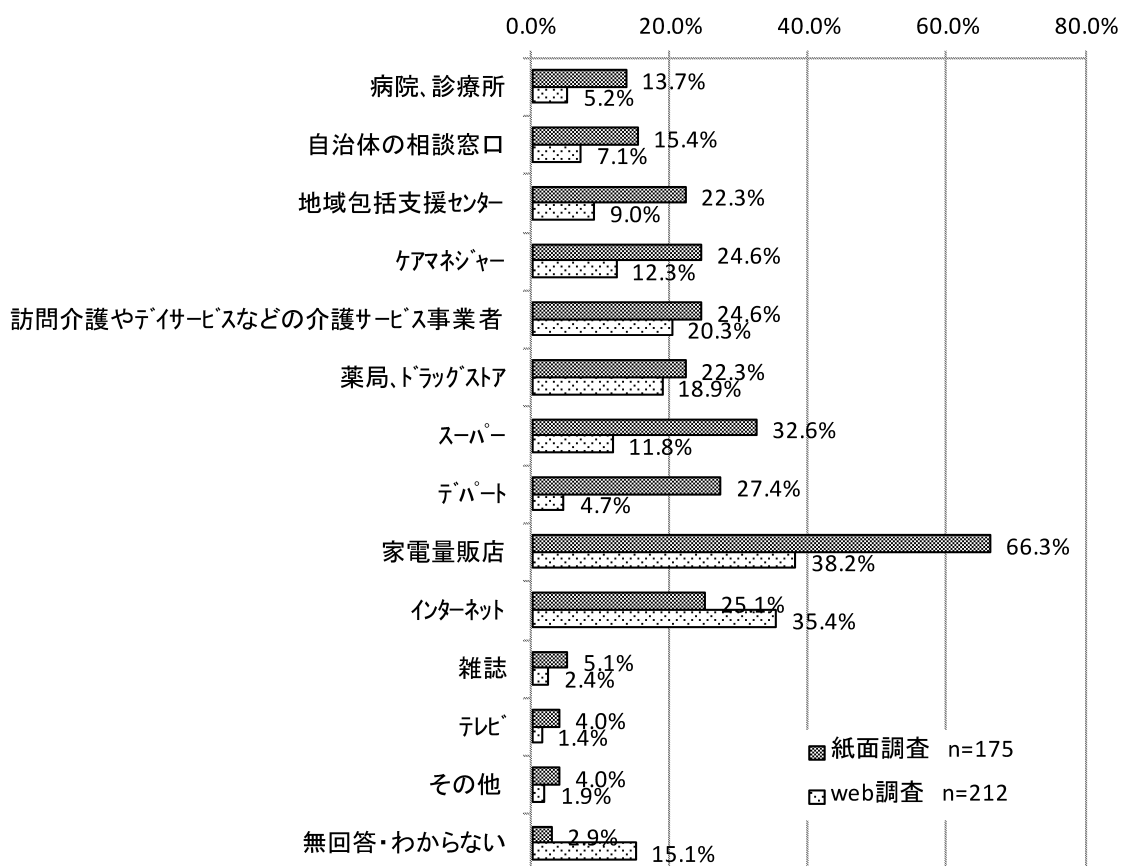
<「1. ぜひ利用したい」「2. 金額によっては利用したい」を選択した人の希望金額>

【紙面調査】			【Web調査】		
金額	N	%	金額	N	%
500	1	1.2	100	1	1.2
1,000	10	12.0	500	6	7.0
1,500	2	2.4	1,000	20	23.3
2,000	12	14.5	1,500	3	3.5
2,500	4	4.8	2,000	17	19.8
3,000	19	22.9	2,500	1	1.2
3,500	1	1.2	2,800	1	1.2
4,000	2	2.4	3,000	24	27.9
5,000	26	31.3	4,500	1	1.2
6,000	1	1.2	4,980	1	1.2
8,000	1	1.2	5,000	8	9.3
10,000	4	4.8	7,500	1	1.2
全体	83	100.0	10,000	2	2.3
			全体	86	100.0

6) 購入する場合の希望入手先

探し物発見器、置き忘れ防止アラームを購入する場合の希望入手先をみると、紙面調査は「家電量販店」の割合が高く 66.3%となっている。Web 調査は「家電量販店」(38.2%)に次いで、「インターネット」(35.4%)の割合も高くなっている。

図表64 自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロ：購入する場合の希望入手先
(紙面調査Q9 (7) ⑥/Web調査Q35) 複数回答




⑧コミュニケーションのできる人形

【商品の目的や機能】

- ・ 音声や撫でられたことを認識すると内蔵された**メッセージが再生**されるなどして子どもの世話を疑似体験すること、動物を持ち込めない施設等で**アニマルセラピー**を実現すること、**音声で時間を知らせる**等を目的とした商品です。
- ・ 情緒を安定させることが難しい方の**ストレスを癒したり、余暇を楽しく過ごしたり**することを支援します。

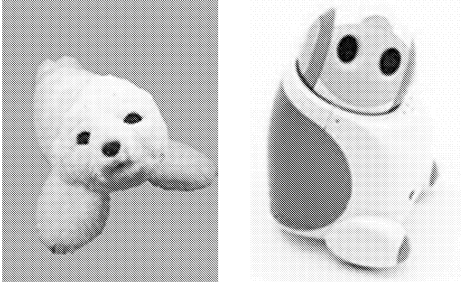
【商品例】

<ヒーリング人形（音声認識型）>



価格：約 8,000 円、 価格：約 20,000 円

<コミュニケーションロボット>

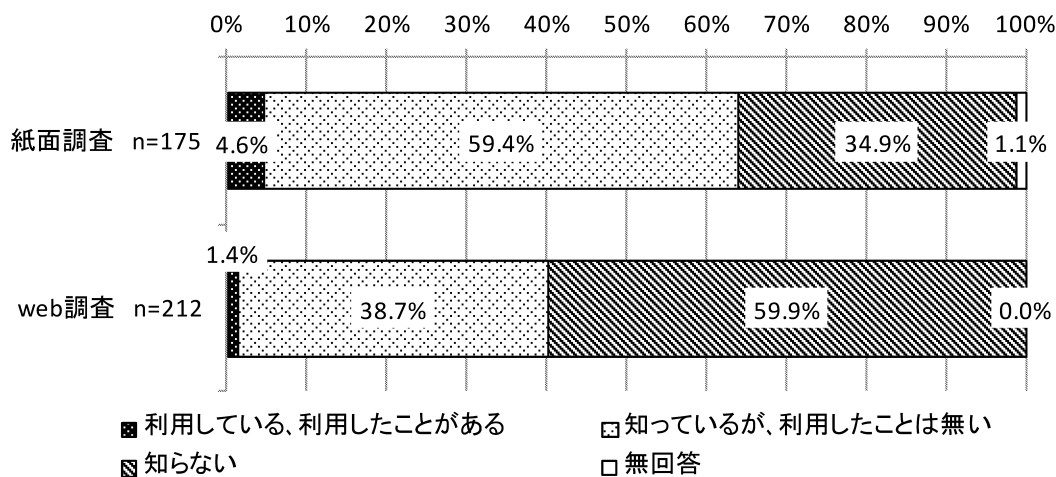


価格：約 350,000 円 レンタルのみ

1) 商品の認知・利用状況

コミュニケーションのできる人形について、「利用している、利用したことがある」「知っているが、利用したことは無い」を合せた認知している人の割合をみると、紙面調査は 64.0% にのぼる。Web 調査は 40.1% となっている。

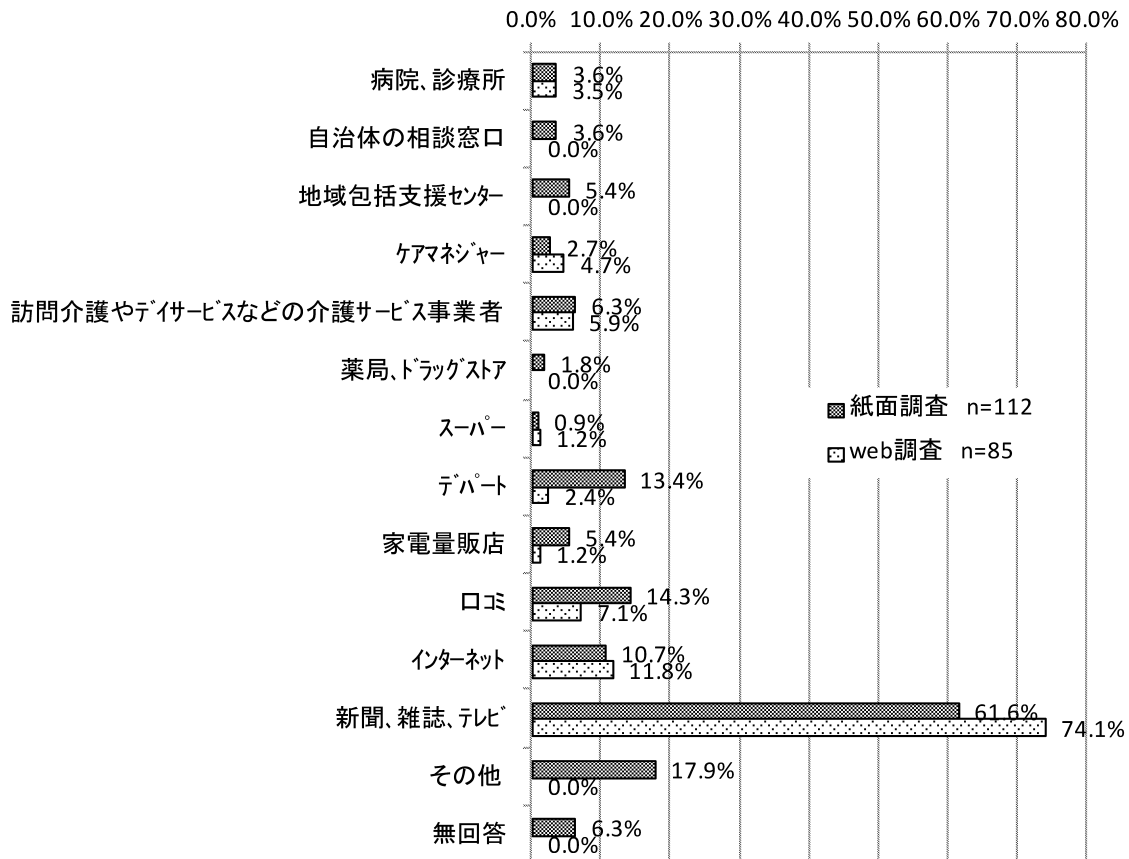
図表65 コミュニケーションのできる人形：認知・利用状況
(紙面調査Q9 (8) ①/Web調査Q8) 単数回答



2) 商品の認知経路

コミュニケーションのできる人形を「利用している、利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」人について、商品の認知経路をみると、紙面調査、Web調査のいずれも「新聞、雑誌、テレビ」の割合が高く、紙面調査は61.6%、Web調査は74.1%となっている。

図表66 コミュニケーションのできる人形：認知・利用状況
(紙面調査Q9 (8) ②/Web調査Q9) 複数回答



3) 【利用経験者】商品を購入したきっかけ、利用に至る経緯

コミュニケーションのできる人形を「利用している、利用したことがある」人について、この商品を購入したきっかけ、購入にいたるまでの経緯は下表のとおりである。

図表67 コミュニケーションのできる人形
：【利用経験者】商品を購入したきっかけ、利用に至る経緯
(紙面調査Q9 (7) ③/Web調査Q16) 文字記入

<紙面調査>

子供達で母に誕生日プレゼントとして。
友人に進められて母のボケ防止のため購入した。(男女の人形二体)
義母が少しでも寂しがらないようにと、この手のぬいぐるみ(もっと安価なもの)を、ことあるごとに購入し5匹くらいいる。
知り合いの方がいつも手元に持って触れていた。息子が買ったらしいが、気持ちの良い感覚のようだ。
施設ボランティアでいつも触れている。とってもいいと思う。年寄り達は多いにだっこしたり、触れ合っている。
友人から届いた。
義姉が雑誌で探してくれた。
知ってはいても利用したことはない。

<Web 調査>

普通のぬいぐるみをいつも肌身離さず可愛がる姿を見ていて、玩具店で見かけた学習効果で喋るぬいぐるみをプレゼントした。毎日いろいろ話しかけていて癒し効果やボケの進行防止に期待している。
お友達からもらった。
親戚からもらった。

4) 【利用経験者】利用した感想(役立った点、改善点等)

コミュニケーションのできる人形を「利用している、利用したことがある」人について、この商品を利用して見た感想は下表のとおりである。

図表68 コミュニケーションのできる人形
：【利用経験者】利用した感想(役立った点、改善点等)
(紙面調査Q9 (8) ④/Web調査Q25) 文字記入

<紙面調査>

本日プレゼントしたばかりなので…。でも、とても喜んでいて。
友人に勧められて母のボケ防止のため購入したが(男女の人形二体)、認知症の母には難かしくよくケンカしていた。人形が重すぎた。
とても喜んでくれた。効果大。
すごくいい。柔らかいタッチと声出し、孫のように子のように思い、愛んでいる様子の年寄り多し。
電池を入れ替えることができずに困っていた。データセットの仕方が覚えられず、たまに訪問してくれる息子にお願いしていた。
家に人がいると思われて、けっこう防犯に役立つと思う。けっこうちゃんと受け答えをしてくれるので、私でも楽しいと思うし、母もとても喜んで話しをしている。

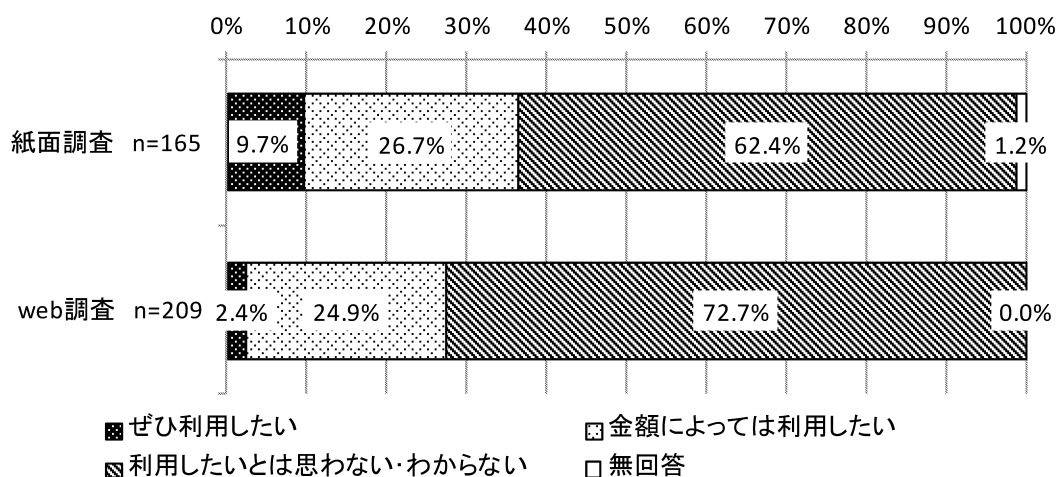
<Web 調査>

大変癒し効果があり、本人のみならず介護している周りの家族も癒される。洗濯が簡単に出来るようにして欲しい。
故障しやすい。
少しだけ笑顔が増えた気がするが、機械が拾うほどの音量はなかなか出さないの、積極的には使えない。

5) 【利用未経験者】商品の利用意向

コミュニケーションのできる人形を「知っているが、利用したことは無い」「知らない」人について、「ぜひ利用したい」「金額によっては利用したい」を合わせた利用意向のある人の割合をみると、紙面調査は36.4%、Web調査は27.3%となっている。

図表69 コミュニケーションのできる人形：【利用未経験者】商品の利用意向
(紙面調査Q9 (8) ⑤/Web調査Q26) 単数回答



コミュニケーションのできる人形を「知っているが、利用したことは無い」「知らない」人のうち、「ぜひ利用したい」「金額によっては利用したい」を選択した人の商品の希望金額は下表のとおりである。

図表70 コミュニケーションのできる人形：【利用未経験者】商品の希望金額
(紙面調査Q9 (8) ⑤/Web調査Q34) 数値回答

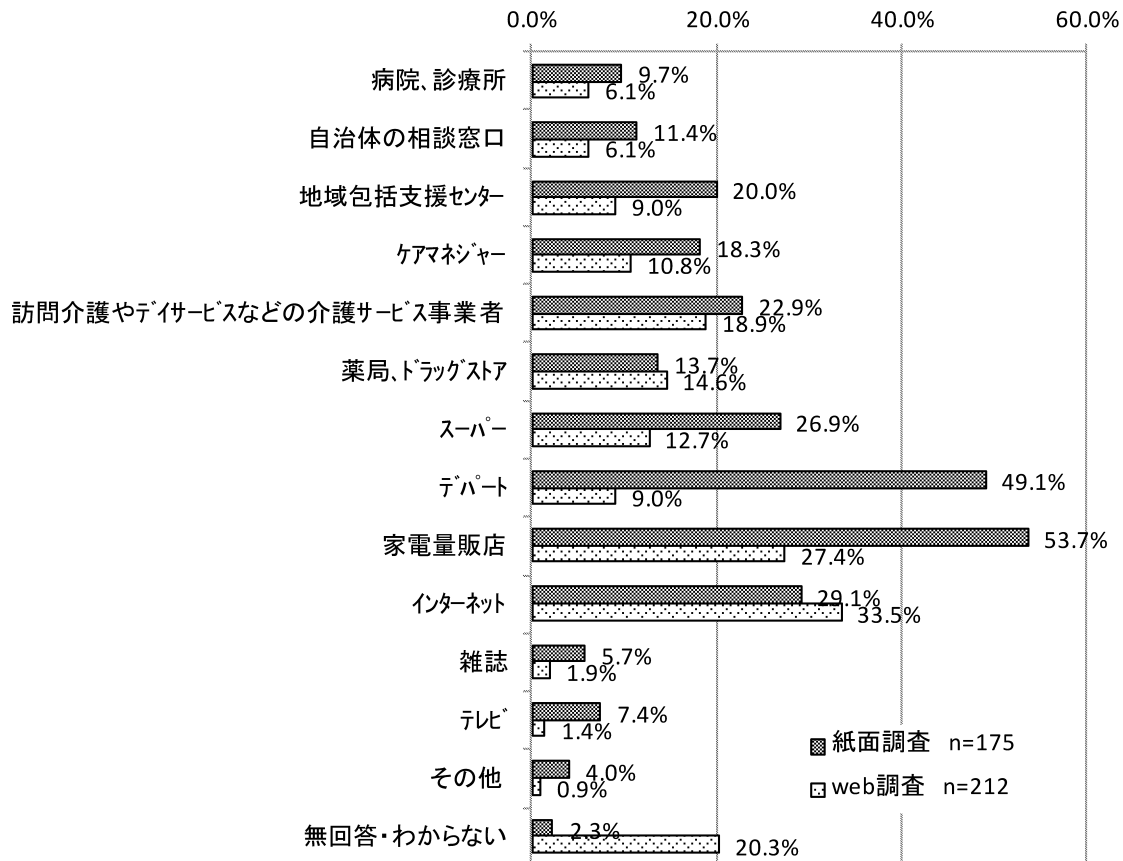
<「1.ぜひ利用したい」「2.金額によっては利用したい」を選択した人の希望金額>

【紙面調査】			【Web調査】		
金額	N	%	金額	N	%
1,000	1	1.9	100	1	1.8
1,500	1	1.9	300	1	1.8
2,000	2	3.8	500	1	1.8
3,000	3	5.7	980	1	1.8
4,000	1	1.9	1,000	4	7.0
5,000	14	26.4	2,000	6	10.5
7,500	1	1.9	3,000	9	15.8
8,000	2	3.8	4,000	1	1.8
10,000	21	39.6	5,000	19	33.3
15,000	1	1.9	6,000	1	1.8
20,000	4	7.5	7,000	1	1.8
30,000	1	1.9	8,000	3	5.3
75,000	1	1.9	10,000	7	12.3
全体	53	100.0	15,000	1	1.8
			20,000	1	1.8
			全体	57	100.0

6) 購入する場合の希望入手先

コミュニケーションのできる人形を購入する場合の希望入手先をみると、紙面調査は「家電量販店」(53.7%)、「デパート」(49.1%)の割合が高い。Web調査は「インターネット」(33.5%)、「家電量販店」(27.4%)の割合が高い。

図表71 コミュニケーションのできる人形：購入する場合の希望入手先
(紙面調査Q9(8)⑥/Web調査Q35)複数回答



(4) その他、使って良かったと思った機器や商品について

①手助けや介護が必要な家族／認知症の家族が家で暮らしていくために使って良かったと感じた機器・商品の有無

手助けや介護が必要な家族（紙面調査）、同居している認知症の家族（Web 調査）が家で暮らしていくために使って良かったと感じた機器や商品を自由に記入してもらった結果は、下表のとおりである。

図表72 手助けや介護が必要な家族／認知症の家族が家で暮らしていくために使って良かったと感じた機器・商品（紙面調査Q10/Web調査Q36）文字記入

■センサー、ブザー、カメラ、徘徊時の位置確認

【紙面調査】

ガス会社の探知器。
防犯カメラ。
徘徊用探索装置(レンタル)。 数年前さんざんお世話になった。今ではだいぶ改良されてきたとは聞いているが、いろいろ問題点・改善点も多くより改良を期待したい。 ①器具の大きさ、重さ等体のどこにつけるか。 ②電波の届く環境。 ③現在地を伝える情報の誤差(距離的並びに時間的)より精度が高いことが必要。 ④落とした場合の危惧。
・必要時に呼び出すもの(本人使用の連絡)。 ・火災警報器(けむりセンサー)。
・センサーマット。
・我家でも使用していたものだが、本人がベットから起き上ったり棚から出ようとする時にセンサーが働いてブザーで知らせる装置。
緊急通報サービス
手助けが必要な時を知らせるアラーム。
徘徊をしていたので離床センサーを玄関に置いて、対応していた。外に出た時に早く知ることができて良かった。GPSの機械は持って出ないことが、本人が気付いて捨てていくため使えない時もあったが、持っている時はとても助かった。
人感センサー、Web 対応監視カメラ、週間タイマー。
ホームセキュリティシステム(警備会社、自治体助成)。
遠隔スピーカー。

【Web 調査】

黙って出て行っても門を開けたら音で知らせる。
部屋の様子を見る、ワイヤレスカメラ。
GPS 機能付き携帯。
GPS 携帯と位置確認サービス。ネットワークカメラ。ボイスレコーダ(音感応式)。
徘徊の時の位置を知らせる小型の GPS。
徘徊した時にGPSである程度の位置が確認できるもの。
現在位置が特定でき、緊急メールの自動発信ができる見守り携帯電話。
GPS による位置情報・現場急行サービス。
ドアセンサー防犯ブザー。
呼出しブザー。

■キッチン関係

【紙面調査】

コンロの消し忘れ、やけど防止のもの。使いやすく安価で長く壊れないもの。
びんなどの蓋をあける時の補助具。
ポット型瞬間湯沸かし。

【Web 調査】

IH クッキングヒーター。
温めるを押すだけの機能しかない簡単操作の電子レンジ。
焦げ付き防止のガスコンロや水を流したままを防止する装置。
家をオール電化にしてから火の消し忘れや火災の心配が減った。
止め忘れ防止水栓器具。

■ 食事関係**【紙面調査】**

アイソニックゼリー: 飲用量が分かること。
スプーン・フォーク: メーカーに発注、長さ・重さ・大きさ等調節、自分で持てること。

■ 手すり、スロープ等**【紙面調査】**

手すり(各場所において)。
天井と床の突っ張り棒、手すり。
階段昇降器。
浴室の手すりの装着。
玄関用の手すり設置。
手すりなどの体を支えるものは、転倒防止になっているように感じる。
玄関に入って、家へ上がるまでの手すりや段差解消のための道具。階段の手すり。
やはり、手すり。特に階段。トイレの手すりと便器サイドの両手を置く手すり。
階段の手すりが良かった。

【Web 調査】

手すり。(4件)
手すり 感知式ライト。
階段や玄関の手すり付き昇降機。
玄関の段差解消のためのスロープと手すり。
スロープ。

■ 薬関係**【紙面調査】**

薬を一週間分分けて入れるカレンダータイプ(壁かけ)の入れ物。
お薬カレンダー。

【Web 調査】

薬を飲む曜日がわかるようにするためにカレンダーに貼るシール。
飲み薬を管理するもの。
薬を入れる日付入りのカレンダー。

■ 歩行器、車いす、移乗用具等**【紙面調査】**

シルバーカー。(6件)
車いす。(5件)
リクライニング車いすが便利であった。体位固定型で食事時に助かる。
車いす(身体に合った品)。
軽い車いす。
電動車いす。
移乗のための板。あれはあって良かった。
車の乗り降りが楽になるイージーターン。
足(歩行)が不自由になった時、便利に使用できる機器。

【Web 調査】

車いす。

車いす用シートベルト。
転倒防止用杖。
シルバーカー。(2件)

■おむつ、トイレ、排せつ関係

【紙面調査】

ポータブルトイレ。(3件)
ポータブルトイレが良かった。
簡易トイレ。
椅子型ポータブル(家具調)トイレ。
ポータブルトイレ(アウトドア用)密閉式で持ち運べる。
①紙パンツ。
②ポータブルトイレ(使い捨て袋が使用時に開き、不使用時は閉じていて臭気が出ない構造のもの)。
温水洗浄便座g。
ポータブルトイレの中に入れる吸水性のある紙(ペットのおしっこシートのようなもの)。
おむつを自分ではずせない様なグッズ。
トイレ・・・和式から洋式に。

【Web 調査】

紙おむつ。
トイレ・おむつの替えを知らせる装置。
ポータブルトイレ。(2件)

■入浴関係

【紙面調査】

バスボード。
入浴の椅子。
シャワーチェア車輪付。
お風呂の中の色々な機器(すのこ、椅子等)。
風呂に入る際、腰かけて向きを変えて入れることが出来るプラスチック製の座布団。
入浴用の椅子、スベリ止めマット。
お風呂に入るための補助用具、パスグリップ。
シャワー椅子。
入浴時使用の手すり付き椅子。

【Web 調査】

風呂用の防滴時計、湯温計。
入浴補助機。
車いすに座ったままシャワーを浴びる事が出来るシャワーキャリー。

■ベッド等

【紙面調査】

介護用ベッド。(2件)
ベッド。(2件)
介護用ベッドのレンタル使用(無料)。
ウォーターベッド、介護ベッド。
ギャジベッド、エアーマット。
電動ベッド。
電動ベッド。
ベッド用テーブル。
アップダウンのベッド。
機能性ベッド。
床ずれ防止のマットレス。
様々なパッド(ベッドの上で床ズレ防止のため)。
体位交換後維持するための枕、パッド(ビーズ)のようなもの。
ベッドから立ち上がる際に支えとなる棒。

寝たきりだったので、ベッドなどは必要なものだった。ただ、1人きりになる時間がほとんどなかったで、その他は安心していられた。

【Web 調査】

電動ベッド。

介護電動ベッド。

ベッド用のテーブル。

褥瘡ができないようにするベッド。

クッション。

■スケジュール表、カレンダー

【紙面調査】

薬カレンダーや大きなカレンダーに予定を書きこんで、日にちを本人に分かってもらうことをしていた。認知症が進行した後は安全面の心配事がたくさんあった。

・三輪車に乗って徘徊。

・家族不在時に空き巣と遭遇。

そのような時にセンサーや探知機を利用していれば良かったと思う。

【Web 調査】

スケジュール表で、フラッシュや音で知らせる。

カレンダー。

■電話

【紙面調査】

簡単な操作で出来る携帯電話。

【Web 調査】

電話の音量を電話機以上に大きくする装置。

・電話の音を大きくするもの。

・留守電(出なくて良い)。

■リモコン

【Web 調査】

部屋のリモコンがあまりに複雑だったので、簡単なリモコンに変更した。

■その他

【紙面調査】

おてだま。

小学2～3年程度の問題集(国語と算数)があるといいと思う。本屋で買ってきてさせているが、患者用のものがあるといいと思う。

マジックハンド。

災害防止機器。留守の際に安心。

テレビリモコン。わかりやすい。

リウマチでリウマチ友の会に入っているが、そこで提供されるグッズが本人にとって非常に使い易い。

ゴム手袋(薄手)。

離れているのを拾うためのハサミ棒(60cm位か)。

介護ロボット、介護老人でも力を必要としないで、介護を行えるもの。

拡大鏡(ライト付)。

【Web 調査】

自分でしまったものを忘れて、見つけないと怒鳴られるので発見できるものは嬉しい。

若いころ幼児を死なせているのでお経のCDを聞いているときは気分が若返る。

吸引器。

内鍵をかけられる。

暗証番号簿。他人に分からない方法で。

介護用机。

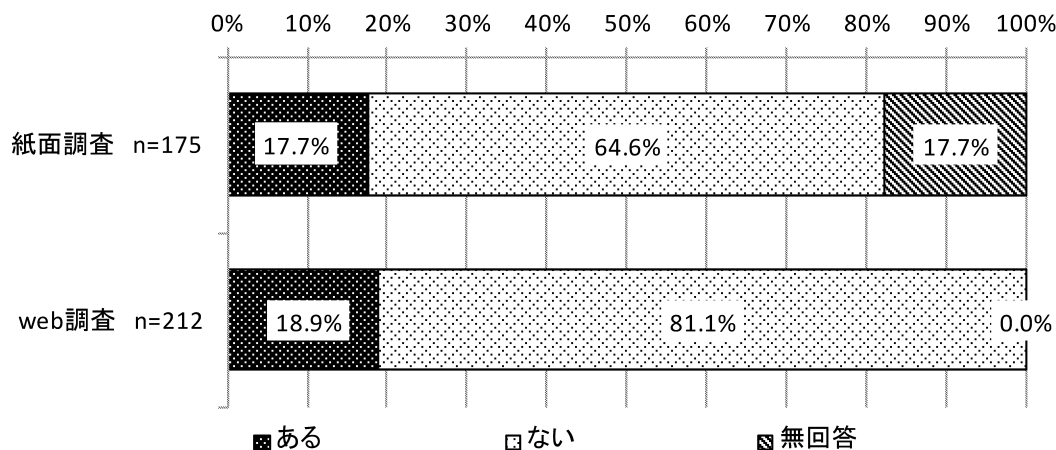
介護用エプロン。

②グッズや日用品を手作りした経験

1) 工夫してグッズや日用品を手作りした経験の有無

自身や仲間などで、工夫してグッズや日用品等を手作りした経験をみると、紙面調査、Web調査とも、「ある」と回答した人は2割弱となっている。

図表73 グッズや日用品を手作りした経験（紙面調査Q11/Web調査Q38）単数回答



2) 工夫して手作りしたグッズや日用品の内容

自身や仲間などで、工夫してグッズや日用品等を手作りした経験がある人について、どのようなものを手作りしたか、具体的に記入してもらった結果は、下表のとおりである。

図表74 工夫して手作りしたグッズや日用品の内容（紙面調査Q11-1/Web調査Q39）文字記入

■薬関係

【紙面調査】

薬ケース。

【Web 調査】

毎食前、後、起床後、寝る前等に服用する薬を個別整理できるように工夫した薬袋。

薬ケース（「朝食後」等シールを貼った箱）。

薬の保管ケース、インシュリン注射の針の管理ケース。

薬と薬の空き袋を分けた時、数が合っていることを確認するための小箱を用意した。

朝・昼・晩ときちんと分けられた薬入れ。

薬の服用結果を記録するチェックリスト。

薬入れ。大事な物入れ。

薬を朝屋夕、種類別に分けて入れておき、当日飲む分も分けて小箱に入れるようにした。

薬を小分けできるような袋を作って、朝屋晩、いつ飲めばいいかわかるようにした。日付もわかるように。

■スケジュール表、カレンダー、時計

【Web 調査】

日めくりカレンダー。(2件)

食卓から見えるところにボードを掲示し、一週分の予定を書く。「今日」と書いた丸いマグネットを家族が毎日ずらして、本人がみるだけで今日がいつかわかるようにしている。

ホワイトボードに今日の日付と、行事予定を書く。

予定表。

簡単なものだが、今日がデイサービスかどうか分からないことがあるので、「きょうはデイサービスです」「きょうはデイサービス休みです」と書いたものを部屋に掛けておくもの。

カレンダーと時計の文字盤の数字を大きくした。

■手すり、スロープ、段差解消等

【紙面調査】

車いす足台の中・長々調節具・・・足の長い人のため、筋力が落ちると曲げていられず、足台よりはみ出す。足先の打撲等けがをするため手作りした。
車いす用段差スロープ・・・高価だったので手作り。

【Web 調査】

手すり。
手すりやステップの取り付け。
玄関用蹴上げ階段。
風呂場の段差解消具。
足元灯。

■歩行器、車いす等

【紙面調査】

車いすに座った時の膝かけ。
車いすにロープを結び、散歩をして疲れたら座れるようにした(両手引き歩行のため、車いすをもっていけなかった)。
傘から車いすカバー。
折りたたみのステッキ。

【Web 調査】

足が悪くて歩けないので押し車を使っている。
狭いマンションの廊下・洗面所を通るベッドから浴室に運ぶ簡易移動車。
車いす。

■ベッド、テーブル、ベッド周り、移乗用具等

【紙面調査】

就寝時、ひざの下に入れる細長い枕を手作りした。
エアーマット。
体位交換マット(シート・ビニール素材を2枚使う)＝すべりやすい布。
寝たきりの人の体位を支えるための枕のようなもの、大・小。
ローリングシート。
回転補助シート。
ベッド座位用背当てクッション。
足先に毛布やフトン等重い物(軽い物でも)がかかると赤く充血してしまうので、除圧を考えて作った。足だけのコタツ(毛布等、足先を入れる)。
ベッドの上での移動(車いす子に移す時も)、体の下に傘の布で作った敷物。

【Web 調査】

ベッドのセーフティーベルト。
電動ベッド柵用目隠し板。
ベッドの上に横向きに座れる横向き用背もたれ。
母が使っている籐椅子の高さに合わせた一人用のテーブル。
物が滑らないように滑り止めのテープやシートを様々な個所に設置。

■リモコン

【Web 調査】

リモコン等の操作盤で、必要最低限のボタン以外は隠す型紙。
不必要なボタンに触れないように目隠しテープを貼る。必要なボタンに赤のシールを貼る。

■ センサー、ブザー、カメラ、徘徊時の位置確認

【紙面調査】

廊下の電気で、人を感じてセンサーでつくようにする。夜トイレへ行く時等便利。
家屋の中でインターホン、枕元に取り付けたが聞き取りづらい。
Web 対応監視カメラ、人感センサー、週間タイマー。
ベッドから下りたことが判るように、ベッド下のマット。マットをマットの間にドッキリで使う(ブーブー鳴る)オモチャを入れた。

【Web 調査】

ドアを開けるとブザーが鳴る。
置き忘れ防止アラームを玄関先と玄関のドアに取り付け、夜間ドアが開いたらアラームで起きることができるようにした。

■ 食事関係

【Web 調査】

寝たきりの時に水等を飲ませるときにこぼすのでペットボトルの小さい物に飲ませ易いキャップをつけた。

■ 入浴関係

【紙面調査】

陰部洗浄グッズ。体位変更用品(バスタオル等利用)。

■ おむつ、トイレ、排せつ関係

【Web 調査】

便が出た時に お尻を洗うもの。ペットボトルに ジョーロの頭を付けた。

■ 名札

【Web 調査】

ボタンに簡単に付けられる名札。

■ メモ帳

【Web 調査】

メモ帳やペンを常に置いておく。

■ 洋服、帽子、下着

【紙面調査】

タオル一枚で作る帽子。
着衣が簡単な服(ファスナーを付ける。上着・シャツ・ズボン)。
着やすい服のリフォーム(ズボンすそにファスナー付け)、(ボタンをマジックテープ)。
介護用衣服(着脱がスムーズにできるように)。
装着したままトイレ使用可能なスカート。
パジャマの上下をくっつけるためボタンホールとボタンつけ。
下着やパジャマを祖母が脱ぎ着できるようにマジックテープでボタンを変更した。
車いす用簡易エプロン。
寒さ対策の小物(肩かけ、レッグウォーマー)
食事をする時に使用する。大きめの胸あて。寒さ対策の肩かけやひざ掛け。
プロテクターパンツ。

【Web 調査】

洋服が脱ぎ着しやすいもの。

■ その他

【紙面調査】

布製ボール(あんこ・ビーズ・ストッキング)キャッチボールに使用。
消臭・グッズ(ぬいぐるみ)。
落下物を拾う引掛け棒。
汗とりタオル。
小さな和布で作った袋(小物入)。

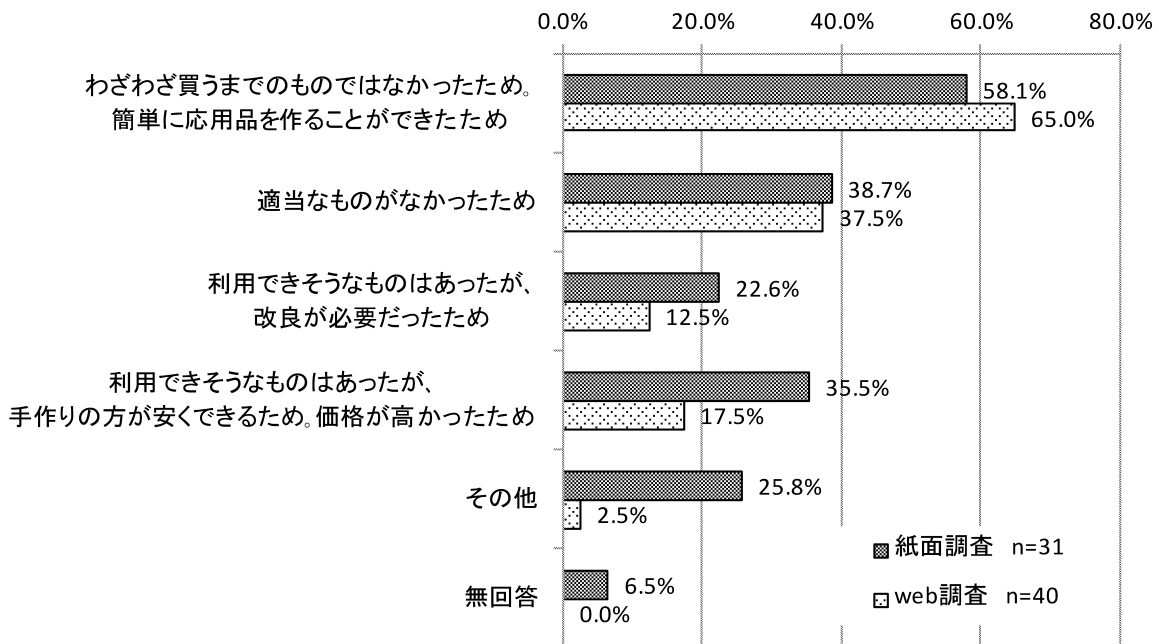
【Web 調査】

危険なものには、必ず赤い文字で手順を書いた不燃用紙を張っている。
野菜を栽培し毎日収穫して貰ったり、鶏を飼って世話をして貰ったりする。
内ドアを自転車のチェーンで閉める。

3) グッズや日用品を手作りした理由

自身や仲間などで、工夫してグッズや日用品等を手作りした理由をみると、紙面調査、Web調査とも、「わざわざ買うまでのものではなかったため、簡単に応用品を作ることができたため」の割合が高く、紙面調査は58.1%、Web調査は65.0%となっている。

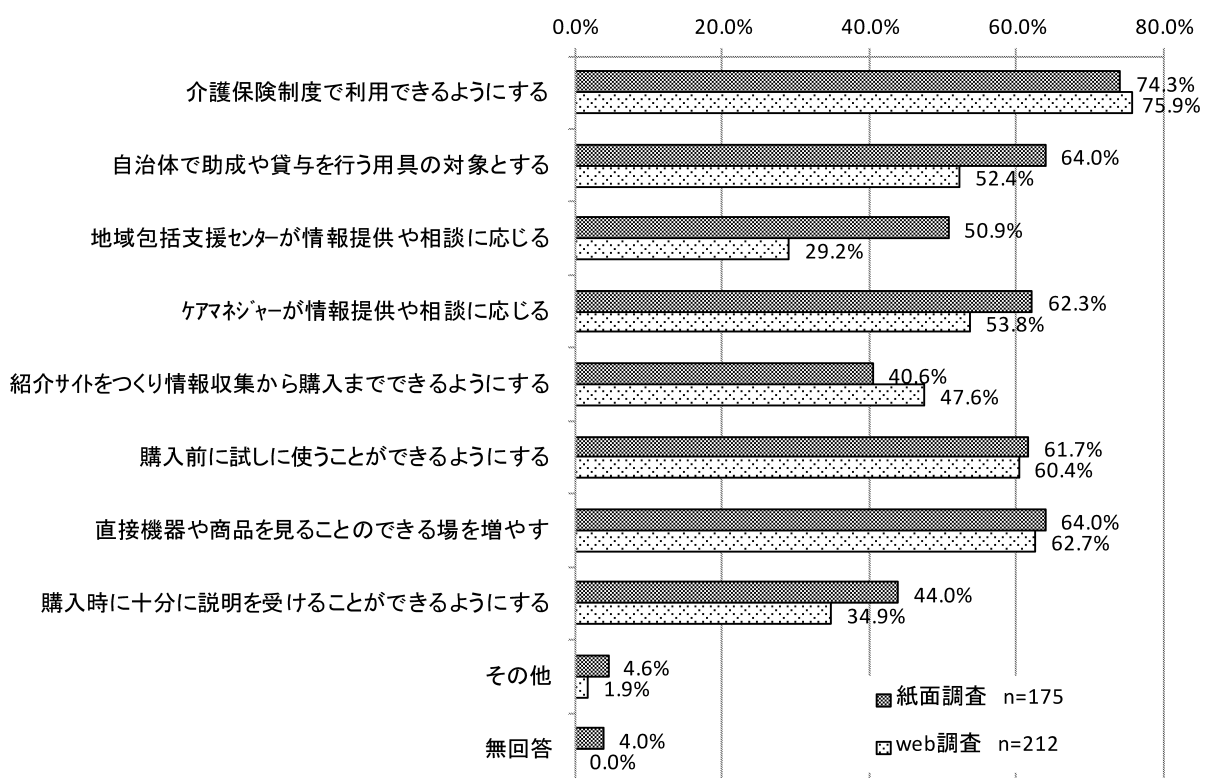
図表75 グッズや日用品を手作りした理由（紙面調査Q11-2/Web調査Q40）複数回答



③手助けや介護が必要な家族、認知症の家族が家で暮らしていくことを支援する機器や商品を普及させるために必要だと思うこと

手助けや介護が必要な家族、認知症の家族が家で暮らしていくことを支援する機器や商品を普及させるために必要だと思うことをみると、紙面調査、Web 調査とも「介護保険制度で利用できるようにする」の割合が高く、いずれも7割を超えている。次いで、「自治体で助成や貸与を行う用具の対象とする」「ケアマネジャーが情報提供や相談に応じる」「購入前に試しに使うことができるようにする」「直接機器や商品を使うことができるようにする」の割合が高くなっている。

図表76 手助けや介護が必要な家族、認知症の家族が家で暮らしていくことを支援する機器や商品を普及させるために必要だと思うこと（紙面調査Q12/Web調査Q41）複数回答



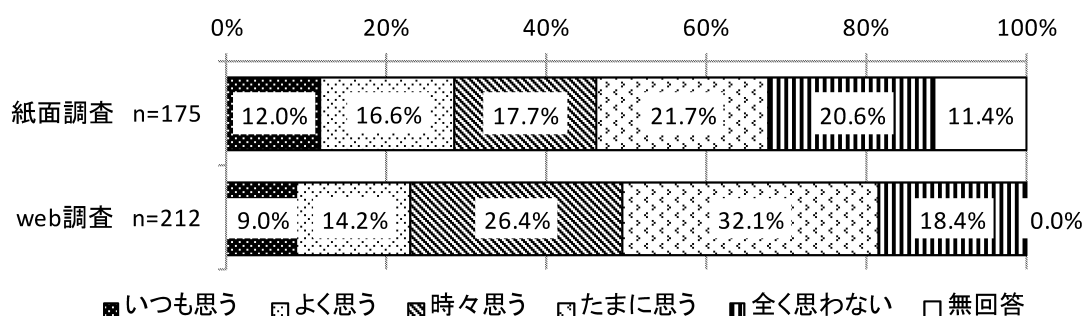
(5) 困りごとやあったらよいと思う機器・商品について

①手助けや介護が必要な家族／同居している認知症の家族を支援するにあたり、困っていること

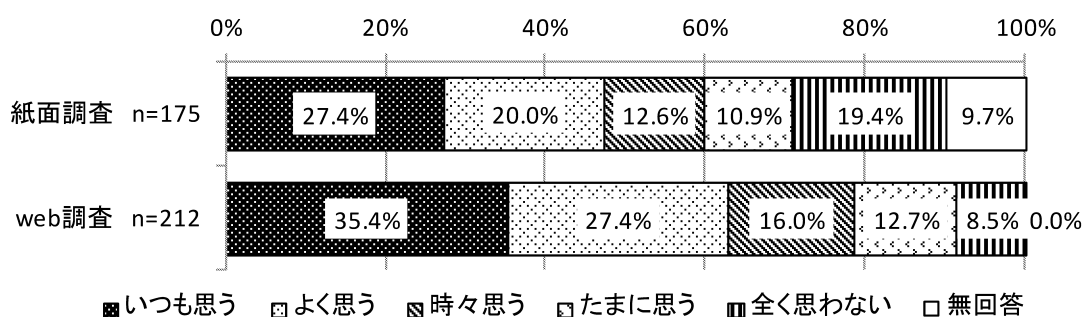
手助けや介護が必要な家族、同居している認知症の家族を支援するにあたり、困っていることをみると、特に「②同じことを何度も聞かれる」「④気の休まる時がない」「⑦火の不始末が不安」「⑨薬をきちんと飲むことができない」「⑩家を空けることができない」で「いつも思う」「よく思う」を合わせた割合が高くなっており、「②同じことを何度も聞かれる」が5～6割程度、「④気の休まる時がない」「⑦火の不始末が不安」「⑨薬をきちんと飲むことができない」「⑩家を空けることができない」は3～4割程度を占めている。

図表77 手助けや介護が必要な家族（紙面調査）、同居している認知症の家族（Web調査）を支援するにあたり、困っていること（紙面調査Q13/Web調査Q41）単数回答

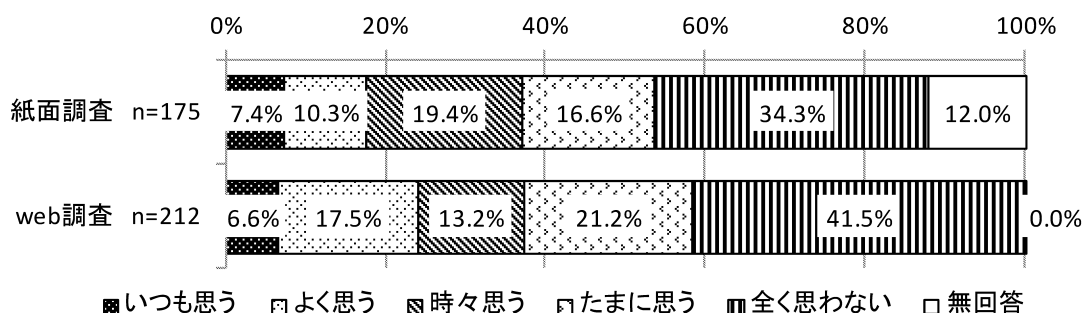
【①本人とコミュニケーションをとることができない】



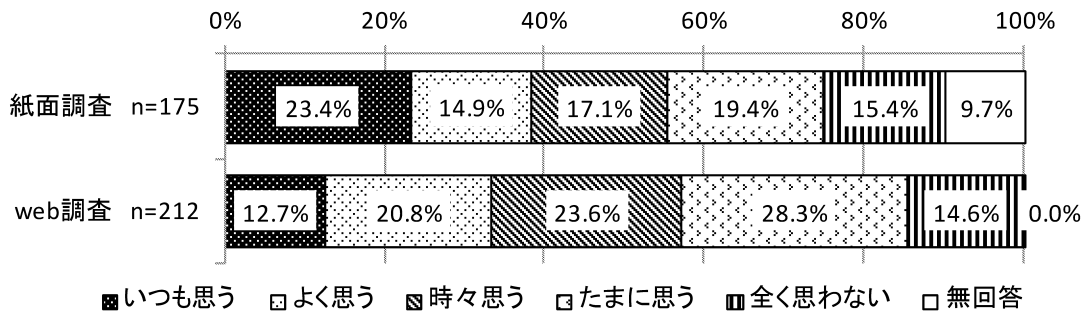
【②同じことを何度も聞かれる】



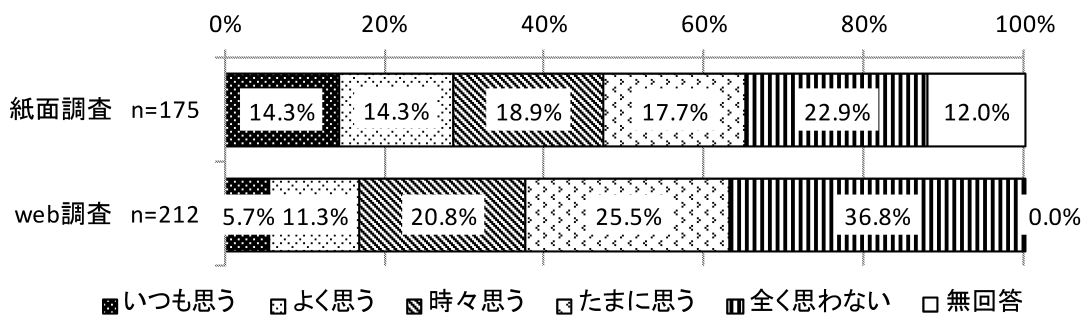
【③昼夜逆転するなど、生活時間が乱れている】



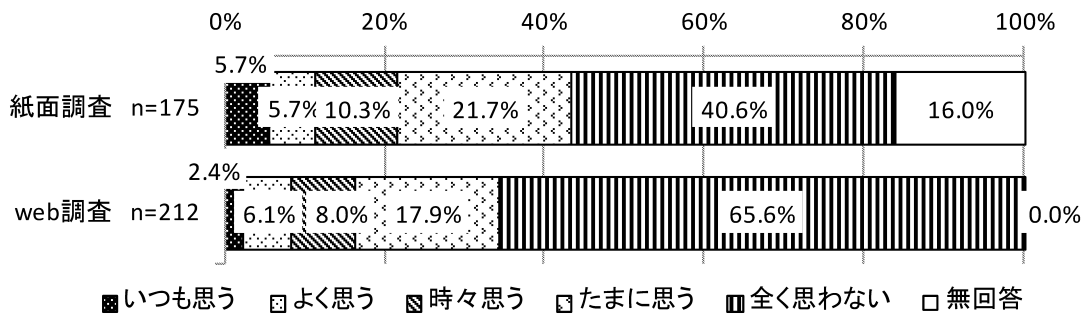
【④気の休まるときがない】



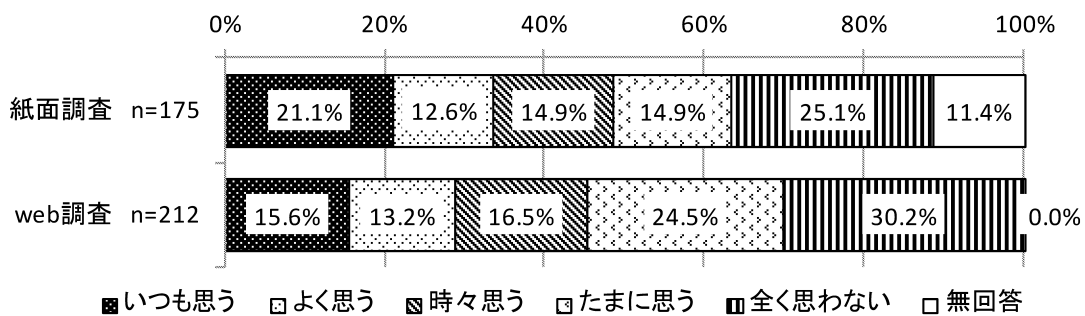
【⑤何かあっても、すぐに駆けつけることができない】



【⑥1日に何度も連絡が来る】

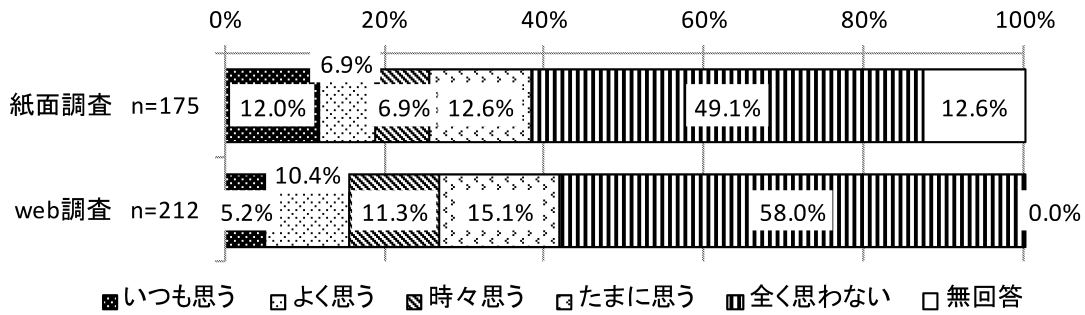


【⑦火の不始末が不安】

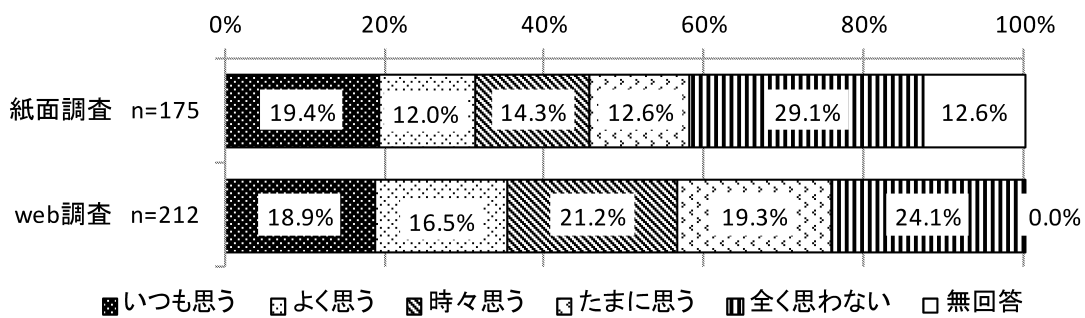


S

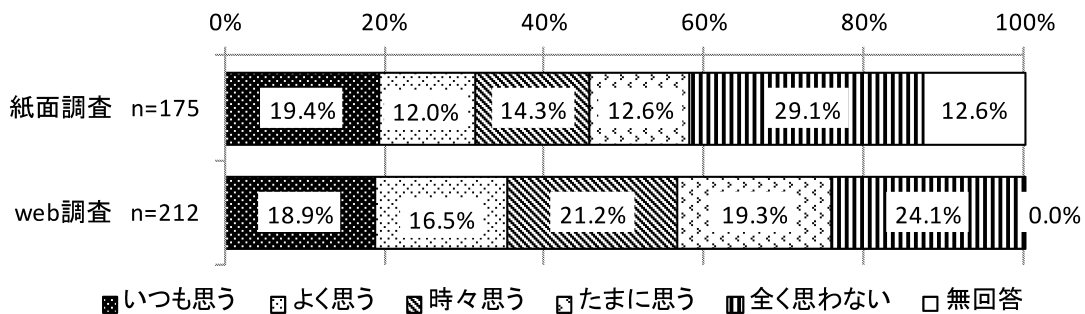
【⑧徘徊への対応が大変】



【⑨薬をきちんと飲むことができない】



【⑩家を空けることができない】



②手助けや介護が必要な家族／同居している認知症の家族について、その他、困っていること
手助けや介護が必要な家族（紙面調査）／同居している認知症の家族（Web 調査）について、
その他、困っていることを、具体的に記入してもらった結果は、下表のとおりである。

図表78 手助けや介護が必要な家族／同居している認知症の家族について、
その他、困っていること（紙面調査Q13/Web調査Q43）文字記入

■物忘れ、物をなくしてしまう

【紙面調査】

年齢相応の物忘れと病的の物忘れの区分・区別がどの程度なのか。体格が良いと介助するのに大変。

【Web 調査】

忘れることへの対応。

物忘れがある。(2件)

物忘れがひどく いつも探し物をしている。
私が言ったことをすぐに忘れてしまう。 水道の蛇口を閉めるのを忘れてしまう。
忘れたことを忘れてるので、言われるとすごい剣幕で怒る。独り言がひどく、頭で考えることを何でも口にだして言う。テレビを付けていると音声多重の放送のようで、私が更年期のせいもありすごく疲れる。この頃は大事なことは口で言って紙にも書くようにしている。
物を整理した場所がわからない。また、物を片づけたことすら忘れている。
家の鍵をどこかへ落としてきたことがあって、それからなるべく家を全く留守にはできなくなった。マフラーや傘など、落として忘れてくることがある。近所に買い物へ出かけているとき、方向が分からなくなって迷ったことがある。
毎日のように何かをなくす。大抵は自分が隠したことを忘れてるので困る。
子どもたちの名前が出てこなくなった。時折、自分の兄弟や親だと勘違いすることがある。
新しいことが覚えられないのが大変。
大事な書類をなくさないか心配。
五分もすると忘れてしまうので同じことの繰り返し。きれいに片付けてもまたごちゃごちゃにされ、病気と分かっても怒ってしまい、精神的にいつまで耐えられるか不安。
こちらが言ったことを聞いていないということが多いため、簡単に録音したら記録できるスケジュール表で、簡単に自分で確認できるものがあればいいと思う。
色ボケが激しい時がある。
同じものを毎日買ってくる。

■話を聞かない、頑固、興奮、攻撃的

【紙面調査】

危険なことを言うことを聞かず頑固なのが困る。 ・熱中症や一酸化炭素中毒などの危険があるのに窓を閉めてばかりいようとする。 ・危険物を生ゴミの中に入れていようとする。
頑固・耳も遠いので、こちらの意思をなかなか受け入れない。
感情の起伏が激しく困っている。

【Web 調査】

頑固な人なので 素直に言うことを聞いてくれないし、聞いたことを忘れる。勘違いが多いのが困っている。
頑固になり性格が変わってきたこと。
だんだん頑固になってきた。
頑固でいうことを聞かない。
身勝手に怒鳴る怒り手を出す。
自尊心が強すぎて周りを振り回して、迷惑をかけまくっている。
人の話を聞かないこと。
こだわりが強くなり、基本的に自分のことしか考えられなくなってきているので、分かっているつもりでも、イラっとするストレスが溜まる。 最近は一日寝て過ごす事が多く、トイレの失敗も多い。
間違っ理解している事柄について、周りのアドバイスを受け付けない。
言ってもなかなか聞いてくれないことが多い。自分のやり方を変えられない。
注意と文句の区別ができず、被害妄想的になる。
気が短くなった。怒りやすくなった。話が成立しない。
怒る。
怒る。悪いほうに想像して機嫌が悪くなる。
いつも怒鳴り声をあげているが、薬では止められない。
ものの言い方、対応がまだよく分からず、言い合いになってしまうことがあってストレスが溜まってしまう。
まだらぼけのために理解できる時にはイライラして怒りやすいので困る。
情緒不安定で、何か注意するとすぐに怒り出すなど、対応が難しくストレスになっている。 人のいうことを聞かず、なんでも「わたしが悪いんだから」とひねくれた思考になる。 子供のように、いつもおやつを欲しがる。食べても、すぐに忘れて「食べてない！」と言い張る。どうしたら、「食べた」ことを認めさせられるのか知りたい。 こうなったら、ビデオやボイスレコーダで記録しておくしかないのかとよく思う。
認知以前にその人そのものの性格でコミュニケーションが取れない上、暴力的でも何かあれば外部との対応に応じなければならぬことが厄介である。
誰の言うこともきかない。
お風呂に入らない。自分勝手に怒り出す。

親の意地が強く、意見を素直に聞かない。
正しいことを伝えても分かってくれない。
何かを注意するとき本人がそれを自覚しておらず納得させることができないことがある。
娘のいうことは素直に聞くが、孫のいうことは聞かず反発がすごい。

■同じことを何度も言う・聞く

【Web 調査】

同じ事を何回もいう。
同じ事を何回も聞くので困る。
同じことを繰り返すので、どう注意していいのかわからない。
同じことを2～3分後に聞いてくる。
同じことを何度も聞かれストレスが溜まる。
何度も同じことを言われる。
同じことを何回も繰り返し聞いてくるので、こっちが精神的に参ってくる。
私や家族だけでなく、訪問歯科の先生たちにも同じことを毎回何回も話すので、先生たちに気の毒になる。その日に着る服を用意しないと何日も同じものを着るし、用意していても見ていないとまた別のものを着てしまうから、目が離せない。
部屋の片付けができない。同じことを何度も言う。
ヒステリック。
とにかくしつこくてうるさくて何にでも口を挟んでくる。それを忘れて何度も繰り返す。仕方ないとは思いつつ怒鳴ってしまうことがあって、認知症者より自分の方をなんとかしたい。
金や、物が、なくなったといわれるとき。

■コミュニケーションができない、理解してもらえない

【紙面調査】

表情がとぼしく、反応がほとんどなかった。
本人の意思が全く無視されていくように感じる。
コミュニケーションツールがあっても、言葉が通じていないのだから、宝の持ちぐさである。薬の管理ツールもアラームが鳴って「薬」と気が付くかが疑問である。理解能力が落ちている事を前提とした機器開発が必要。

【Web 調査】

現在、全く普通の会話ができない状態(受け答えができない)ので、本人の考えや意思を確認することが大変というかいつも不安を感じる。
時々訳の分からないことを言う。
言っていることを理解してもらえない。
症状・既往歴により異なるが、認知があると何事にも不安は尽きない。「わかった」と言いつつ、理解してないことが多い。新しい物・事に対して順応できないし、それさえも初めから期待できない。
コミュニケーションがうまく取れない時がだんだん増えてきたこと。
他の人とコミュニケーションが上手くとれていない。
言葉が話せないのので何を言っているのか分からない。

■妄想

【Web 調査】

口から出まかせを言う。
妄想気味で、外部に固執した考えを吹聴する。
被害妄想が激しい。
物とられ妄想がひどく、怒り狂って攻撃される。ターゲットが、家族のほとんどに順番にやってくる。他人の前ではしっかりしている。とにかく家族を困らせようとする。
うそか本当か判断できないことを言う。
動けるので勝手に多数の病院に行き、同じ薬をもらったりする。
家族のお金をとったり、大事なものをかくして自分は何も覚えてないので困る。
要介護1だが認知症で動けるので、家族は本当に大変。認知で動ける人について、介護度の見直しをしてほしい。
家族がバラバラで、介護している方が病気になり、心療内科に通院している。介護している方が死にたいと思う。
昔の思い出のものなどを出してみればそれを今のものだと思いこむこと(手紙など)。
夢の話を実話の話として話すこと。

聞いた話を妄想含め話した事。

■ 幻覚・幻聴

【Web 調査】

他の人には見えないものが見えるらしく、その話を聞くことがあるが、話を合わせることが大変なことがある。

■ 昼夜逆転

【Web 調査】

昼夜逆転しているので常に様子を見に行っている。

昼間居眠りして、夜は2~4時間程寝たら早々と起きてうろろしている。おむつを嫌がる。

■ 食事関係

【紙面調査】

食事の好みが日によって変化する(味、硬さ)。

【Web 調査】

食事したことを覚えていない。

食事をしたかどうかなど自分の行動を思い出せないことがよくある。突然怒り出す。

食べ過ぎる。

食事をして、すぐ寝てしまって、また「ごはんは？」と聞かれ、何を食べたのか、思い出させないと納得しない。

デイサービスを利用しない日は、皆仕事で出てしまうのでお弁当を作っていくが、食べるのを忘れてることが多くなり困っている。冬なので温かいお茶を置いていきたいが、軽く使いやすい水筒がない。

誤飲が心配。

食事や入浴などを済ませたのを忘れるので、何か食べさせたり体を拭いたりして二度手間になるのが面倒。気に入らないことがあると一人で外に出てしまうのが心配。

やたらとお菓子を食べたがる。

食事。出来るだけ家族で同じものを食べられるように工夫するが、なかなか難しい。

「嫁がご飯を作ってくれない」と言っているらしく、近所の老人からありもしないことで文句を言われることに困っている。

出かける時の食事の摂取が難しい。

何回も食べ物を要求する。

勝手に片付けて忘れる。

■ 排泄関係

【紙面調査】

①汚れた紙パンツを家のあちこちに置いたため家中がくさくなる。

②ポータブルトイレの後始末ができない(ヘルパーは週1)。

下の世話。

お腹を壊していることを本人が分からず、おむつをはいてくれない(パンツを汚す)。

トイレがとても近い。夜間に起こされること。

トイレの衣服の着脱が不便なので、常に心配。転倒すると一人で起き上がれず常に心配。時々、喉に物が詰まるので心配。

3時間毎のトイレ介助でよく眠ることが出来ず、疲労がたまった。

最も困っていたことは就寝中に頻りに尿意の訴えがあり、介助を要したこと。

排泄用品をちぎれる限り、ベッドの中で行動する。防止策が無く、困っている。

【Web 調査】

排泄の処理。下の世話。(4件)

このまま認知症が進行した場合、排泄の世話が心配。

トイレの汚し方がひどい。

排便の失敗の後始末。

排便→時々失敗がありこの先思いやられる。

トイレの失敗を汚れたまま、隠そうとする。

足が弱く、車いすがないと移動できない。トイレで大便することができなくなった。

紙おむつを自分でしっかりと着けることができず、手伝わせるのを拒む。また、手に付いた汚物に気がつかず、トイ

レ廊下、部屋に付け、日に何回も拭き取らなければならないこと。
紙パンツに執着して捨てられない。
足腰が弱くなり立つことができない。排便等にも手助けが必要。
紙おむつを交換する時に嫌がって抵抗する時がある。
排便時にトイレトイレットペーパーを使わずに手で拭いてしまうので、毎回対処するのが大変。
夜中のトイレがきつい。
本人は何でもできると勘違いしているので、排便の処理など手遅れ状態で発見し清掃が大変、トイレの詰まりや洗濯機の汚れなど。
排尿の意識が薄くおむつ、尿漏れパッドの履き忘れがある。
自慰行為をするため、夜中におむつの中に手を入れ、服や寝具が尿で濡れてしまう。
排便のサイクルが安定しない。特に冬。
家族としての認識がないので、張り合いがない。パンツ、パッドの取り替えを嫌がる。
トイレが頻回で介助が必要なためしんどい。
・何度言い聞かせても「してはいけないこと」を認識できない。 ・母がその時々で他の人になっている。 ・トイレがうまくできない。 ・紙パンツやズボンを脱いで垂れ流しながらトイレまで降りていく。せめて紙パンツをしたままトイレまで行ってほしい。

■服薬管理

【Web 調査】

食事の時間が規則正しくなく、食後の薬・食間の薬の面倒を見ることを、時間のタイミングを合わせるのが大変。食後の薬は何錠も飲まなければならない、ひとつの袋にいれてあるが、飲むときに落としてしまう。
仕事などで留守にしたとき、薬の二重飲みがあった。
薬の飲み忘れ、尿取りパッドの交換を嫌がる。
薬の飲用後に記憶が混乱することがある。
軽いうちに飲む薬があるのに、嫌がって飲まない。 無理やり飲ますわけにもいかないので、病状が進むのが困る。

■徘徊、道に迷う

【紙面調査】

徘徊が心配になる状態になり、遠方に居て確認する手段がなくて困った経験がある。カメラを設置しようと考えた（実行はしなかった）。

【Web 調査】

開けて家から出ようとして、困って、鍵を2重3重につけている。すると、椅子を持って来て上がり、外そうとする。
目を離れた隙に屋外を徘徊するので、常に監視しなくてはいけないので大変。
今は特別養護老人ホームに入っているが、家にいたときは目が離せない状態で、気が休まらなかった。 特に徘徊は夜中が多かったので寝られなかった。
徘徊性があるので見守りが大変。駅等へ行くと切符を買ったりできるので遠方に行かれて事故を心配している（最近の踏切事故の賠償のニュースなどを聞くと心が凍りつく）。
・夜間の徘徊に気づけない時。 ・朝起きたら家に居なくて、あちこち探し回ること。 ・アクセサリ感覚で身につけられるネックレスや指輪型のGPSが欲しい（携帯電話は電源切ったりどこかに置いてしまう）。
認知症はあるが、身体は元気なので、徘徊時は10キロ離れている場所で見つかったりするの困る。
一日何度もポストに行く。
一人で出たがるけれど、帰り道を間違えて他人に送ってもらったりするので、なるべく出さないように、また歯科などは送迎するようにしている。

■サービスや物を利用したがない、病院にいきたがない

【紙面調査】

父が母の面倒を見ているが（私は別居しているため）、父に休息を与えるため、ショートステイを母にすすめているのだが、“絶対にイヤだ！”と言って、聞く耳をもたない。それなのに、父は薄情だと文句ばかりを言う。自分は正しく、まわりの人の言葉を聞き入れる事がない。素直になってくれるとうれしいのだが…。
配食にすぐ飽きてしまう。

仕事をしているため、すぐに外へ(散歩など)に連れ出せない。自分でどうにかしようと、リハビリなどに積極的でない。

本人は病院での診断を希望しない。成人検診の中に自治体で60歳以上に認知症などの検診を行って欲しい。介護の年数を少しでも短くするための予防に。

【Web 調査】

本人のためにまた介護している家族のために便利なものやサービスを使いたくても使おうとせず文句を言われる。いつもほかの人(デイケアの利用者、親戚等)の悪口を聞かされる等。

認知症と認めなく、デイケアなどの参加を拒む。

病院に行きたがらない。

取り敢えず現在の状態でとどまっていた欲しい。

いまはまだ介護認定等は受けていないが、どうしたら本人の気分を害さずに介護サービスの利用を促せるか。

■用具を使うことができない

【紙面調査】

認知症用のグッズを使える時期は限られている。なかなか購入しても使いこなせない。困っていることは多すぎて。

■電話や訪問者等への対応

【紙面調査】

一人で留守番ができない。

私が通院時、1人で留守番が心配。

【Web 調査】

電話や宅急便などの対応。電話などの伝言等。

留守で人が訪ねて来た場合。

電話での販売(サプリ、食品など)を断ることが出来ない。訪問でも危ない金融商品を購入しそうになった。

引き戸や蓋を閉めることができない。注文や計算を間違える。

昼間に寝ている時間が増え、電話対応がしにくくなった。

一人で歩くこともままならないので、家に一人でいても、留守番も電話にでることもできないので、デイサービスがお休みの日は心配。

■移乗

【紙面調査】

ベッドから車いすへの移動(かなり太っていた)。

母の体重があるので、移動する際、腰に負担がかかる。

■着替え・入浴関係

【紙面調査】

食卓に座る時、また離れる時が困難。衣服の着脱。トイレの回数が多い。

【Web 調査】

服を着替えて就寝しない。

着替えなど身の回りの世話。

入浴の手間が大変。

■金銭管理

【紙面調査】

・周囲から見ると認知症と思われるが自分はそうではないと思っている。

・記憶力がおとろえているので不要なものを注文したりする。

・将来金銭管理ができなくなると思うのに後見人制度を利用したくない。

生活費を計画的に使えない。電気料金未払いでストップされたりしている。

【Web 調査】

金銭感覚がハッキリせず、何にお金を使ったか判断できない、従ってお金だけが減っている。しかし、万単位のお金を財布に入れておかないと猛烈に怒る。

■家事等への支援、火の始末

【Web 調査】

認知症に加え、体に麻痺があるため、家事全般の負担が大きい。
足が悪くて、どこへいくのも車がいることと家事に援助が必要なこと。
ゴミの始末が十分でない。
何度も仏壇でお線香を立てるので火事が心配。

■緊急時、災害時の対応

【紙面調査】

地震のとき(1人暮らしなので)。

■時間、曜日の感覚

【Web 調査】

曜日の感覚がない。
日にちや曜日を間違える。

■ものを壊す

【Web 調査】

電化製品を壊すのでお金がかかる。

■うつ、不安、さみしがる

【Web 調査】

皆の気持ちを察してか、早く死にたいということが増えた。
物忘れ、聞こえない(補聴器を嫌がってつけない)。生きる気力が無いらしい(生きがいが無いらしい、あっても忘れるらしいゆえに後ろ向き)。
夜1人でいられない。
人を恋しがる。

■身体機能の低下、病気

【紙面調査】

低酸素脳症から始まり情緒不安→レビー小体型認知症へと移行していったと思われるが、確認診断はつかぬまま過ぎる。最後は視力・聴力も障害され、介護が非常に困難だった。夫は人を信頼することを嫌い、頼れない大変さもあった。私は病気なり入院。
耳が遠くなってきているので、側に行って話をしないと全然会話にならない。目も悪いので白内障の手術を検討中。腰やひざの痛みを毎日聞かされるのが辛い。

【Web 調査】

耳も遠くなっているため、なかなかコミュニケーションが取れない。
足が不自由なので困っている。
寝たきりになってしまって、痰の吸引が頻繁に必要なこと。
テレビの音量が高い。
頭だけは若いつもりなので、身体は弱いのに行動しようとする。
耳が遠いので大声で話さなければならない。一度で理解してくれず何度も言わなければならない。同じことを何度も聞く。
週二日のケアか通院以外、あまり歩かないので足腰が弱ってきている。
転倒が怖い。
部分入れ歯を支えていた歯が折れて困っている。かかりつけの歯科医に予約して治療する予定だが、本人はすぐに見てもらいたい。
心臓病を患っている。

■すぐに対応できない

【紙面調査】

一人暮らしのため、すぐに対応できない。

■認知症の家族同士の関係

【Web 調査】

軽い認知症の家族が重い認知症の家族のことをとても気にして、監視するような態度や煽るような発言をし、ハラハラする。また感情の起伏が激しいので差し障りのない会話に誘導するのに非常に神経を使う。

軽いほうと言っても、我が家は、円背で歩行困難ですので、散歩に行きたいと言っても私たちがついて行かなくてはならない。また、我が家の場合、母も認知症である。その母を脳血管性認知症の父が怒鳴るのがつらい。

■介護者の負担軽減、他の家族の理解

【紙面調査】

介護が終わった者の心のケアも大切と思う。

時間を気にして生活している。デイケアの送迎時間・病院診察の時間・入浴の時間…。その時間家にいるようにする。外出してもその時間を気にする。

実家の母も介護を必要としており、夫の母の介護との両立が難しい。

じっとしていない。何をするか分からない。でも自由にさせたい。この時が一番大変で自分の日常の家事等もしながら目を離せない。特に関わらなくても見ていなければならない。相手も動けて介護者も動ける。それでいて監視が出来るものがあればと思う。鉢を床にちらかす、物を整理する等見ることができたら対処の幅も広がるかと。

代わって介護してくれる、あるいは手助けしてくれる施設の仲間。

急用で家を空けなければならない時などに介護の人が来て預けるとありがたい。

・介護は女性がするもの…という考え方はおかしい。

・介護をする人が嫁であっても苦労はむくわれず、今の家族制度と法律のズレを感じる。

・介護が必要になった時、家族が近くにいると介護度が上がらないのはおかしい。仕事をやめて介護するような制度は考え直す必要がある。

困っている時、とてもつらい時、相談する人がいなかった。姉妹でも「ヒトゴト」で介護とは…実情を知らない・知ろうとしないことが一番辛かった。

老々世帯(90才、83才)、自分も要介護1。自分のことで精一杯(大変)。

主たる介護者である兄が、ケアマネジャーとのコミュニケーションを密にとってくれれば、もっといろいろなサポートを受けることができるのでは、と思いつつ、直接の介護者ではないし、夫の母を見ているので、自分が動くことができず、歯がゆく思う。

現在は、歩けなくなったため、その必要はなくなったが、半年位前までは1人にしておけなく、数時間家を空ける時には、必ずヘルパーが必要だった。自分のスケジュールリングとヘルパーさん配置のスケジュールリングの2重の調整が大変だった。

【Web 調査】

認知症である姑の症状に舅が対応しきれしていない。

自分の時間が取れない。自由な時間を持つことができない。(2件)

家族の自由になる時間がない。

夫の姉妹の理解が得られない。

主に世話する女房の苦労。報いなければ。母が悪いが、父は女房の手伝いをしない。不思議だし、おかしい気もする。だが、気持ちを変えてくれることはなく、そのまま。打つ手が見つからない。

自由な時間を確保することに苦労している。特に主に面倒を見てもらっている妻に対しては特に思う。また妻と二人、これから先の人生がこのまま介護をすることで終わってしまうのではないかと不安になることがある。

年金暮らしで介護しなくてはならない。母をいつまで面倒見るのかも解らず、貯金を切り崩すしかないで自分の老後も不安になる。介護をしている世帯の金額面の支援が必要とも思う。まだ、発症して半年位だが大変。

わかっていながら同じことを何度も注意したりして、こちらのストレスが溜まる。

ストレスが溜まる。

困っている家庭は増加の一途をたどっていることだろうが、他人様の様に思っている人も多いので、なかなか周りの援助は期待できない。

よく施設やサービスの利用を進められるが、作業的にも感情的・愛情的(患者本人にとっても)にも家族にしか出来ないことも多く、介護そのものの作業を代わってしてもらいサービスも必要。もう少し違う意味で家族のバックアップしてもらえる制度があればと思う。

家を留守に出来ないことが一番困る。

同居だと気が休まらない。

■ 認知症の進行への不安

【Web 調査】

今後の認知症の進展が見られると、今の生活の維持が困難になるのではと言う漠然とした不安が有る。
見ている父がうるさいので何も言えないだけに、進んでいるように見えるから不安。
これから悪化していくのが心配。
本当はどの程度進んでいるのかわからない。
だんだんと症状が進んでくるのが心配。
病気の進行で将来が心配。
今のところはあまり大変なことはないが、これから先が心配。

■ その他

【紙面調査】

ヘルパーに最低限の教育をしてほしい。
契約書はきちんと交わしてほしい。
独居老人や老老介護などの人達が多くなると便利グッズより人とのつながりの方を先にした方がよいのに。
新しい物が開発されてもその情報が入ってこない。一般に知られていない。もっと一般的に情報が広まれば良い。
認知症の症状が出てすぐにホームに入ったので、在宅で困ったということはない。耳が遠くテレビを大きな音でつけるので、集団での暮らしができていく。
ショートステイ場所はいつも一杯で、予約が難。
心臓ペースメーカー埋込みしているため、電化製品で利用できない物が多いので、開発願いたい。

【Web 調査】

たえず咳払いのようなことをしてとても耳触り。
今は病院で検査をし、合う薬を処方してもらったので以前より困ることはない。
そんなものだと割り切っている。これに関わるのは 10 人目だから。
目の前で起こっていることが何なのか、どうしてよいのか分からない。事例のような情報がほとんどない(と言うか公開されない)。自分の状況が客観的に理解、納得できない。
本人が物臭で努力が認められないこと。
寝たきりになったら、介護が大変になるので、特養等施設に入居できる環境があればよい。
家族が指示しないと何も出来ない。
お酒を飲むと記憶障害など症状が悪化するが、お酒をやめないで困る。

■ 特にない

【紙面調査】

特になし。(2 件)
特にない。本人の性格やボケの進行状況によってありのままを受け入れる。
すぐに特別老人ホームに入居したので、困ったことは思い出せない。

【Web 調査】

特にない。(22 件)
今のところない。(3 件)
今のところ他にはない。
そのほかはあまりない。
前項のほかは特に無い。
今のところ介護サービス事業者と家族で問題は無し。
気を付けて見ていれば現状は大丈夫。
今のところ余り困ることはない。

③手助けや介護が必要な家族／同居している認知症の家族が家で暮らしていく上で困っていることを解決するためにあったらよいと思う商品やサービス

手助けや介護が必要な家族（紙面調査）／同居している認知症の家族（Web 調査）が家で暮らしていく上で困っていることを解決するためにあったらよいと思う商品やサービスを、具体的に記入してもらった結果は、下表のとおりである。

図表79 手助けや介護が必要な家族／同居している認知症の家族が家で暮らしていく上で困っていることを解決するためにあったらよいと思う商品やサービス
（紙面調査Q14/Web調査Q44）文字記入

■センサー、ブザー、セキュリティ、見守り等

【紙面調査】

遠隔介護を支援する機器・ネットワークがほしい。
目を離すと出ていくので、ドアをあけようとするメッセージが流れる装置。 ex.「お母さん！もうすこし寝ていてね・家にいてね～」など。
様子が分かる TV 電話みたいな物のレンタルなど。
車いす、クレーン、室の改修、家族(家庭)の人間関係、通報システム。
訪問して安否確認してくれるサービスが欲しい。
家を留守(とまり)にできない。
緊急通報システムをもっと普及してもらいたい。
見守りサービス(映像などでお知らせ)。
スマートフォンや携帯電話から家の状況(映像等)確認でき、異常があった際に緊急通報できるシステム。
パソコン、スマートフォン等を使用した日常生活の通知機能。更に地域でのレベルのインターネットを利用した介護サービス。サービスの24時間化。
用事がある時に音声でお知らせしてくれるようなものが(病院やお薬の服用など)あるとよいかもかもしれない。
耳が聞こえにくい人のために、チャイム・ベル等音声ではなく、光(フラッシュライト等)で分かる機器があるといいと思う。
外へ出ようとしたとき、テレビが自動的に本人の好きな番組を流す。
テレビ電話のようなもの。本人の様子がわかるので、出向かなくても済む。
転倒した時に家の者に知らせる機器(家の中で)。

【Web 調査】

センサー付 wifi カメラ。
センサー。
玄関や窓を通過するときに鳴るブザー。
室内カメラ。
ビデオカメラ。
遠隔操作で家の状況が確認でき、なおかつ会話ができる機器。
訪問者を特定してドアが開かないようにするセキュリティ。
セコムなどの在宅管理のサービスの補助。
自宅に数時間一人で置いていく間の、様子を確認できるもの。
母子1人、父子1人といった場合、介護者が仕事で家を空ける時の見守りを介護保険等が利用できる仕組みを希望する。
外出先で家の中が見えるスマートフォン。
安否確認の電話をかけてくれる。
GPS付き携帯電話は考えたことがあるが変更や料金のこともあるので実行していない。

■徘徊への対応

【紙面調査】

居場所が確認できる GPS 付のペンダントや服装装備負担のかからないもの。
いつも腕時計をはめていた(こだわりがある)腕時計型の徘徊探知装置があると良いと思った。男性など特に時計や名刺にこだわりがあると思うので。比較は身につけて出かけるのではないかと思う。
認知症の探知センサーについて。本人が持つセンサーに個人情報が入っていると、保護してから身元がわかるまで

が早くなると思う。

【Web 調査】

徘徊を追跡するもの。GPS. できれば、身体に埋め込みしてほしい。

行きたい場所がすぐに出力できる小型GPS付き地図。

■服薬を支援する機器

【紙面調査】

服薬管理がひとり暮らしでも出来るもの。

一週間分の錠剤、顆粒剤がセット(朝、昼、夕、夜)出来、バンドで止めることが出来る物。落下した時、バラバラにならないため。

時々薬を飲み忘れるので「一回分取り出し機能付きアラーム薬入れ」が安くなれば買いたい。

時々薬を飲み忘れるので「アラーム薬入れ」があれば便利だと思う。「一回分取り出し機能つき」タイプがもう少し安価であれば将来的に購入するかも知れない。

【Web 調査】

薬の飲み間違いが多いので朝昼晩と分包しているのだが、これを薬局で分けてくれると助かる。

薬を間違いなく服用できるような工夫が必要だ。もっと簡単な方法があればいいと思う。

軽いだけに薬を飲まず解決策がない。

■電話

【紙面調査】

電話機はとてもよい。

【Web 調査】

電話は指定した電話番号以外は受信できないようにする。

使いやすい電話。

留守電機能の充実。

メッセージ付きアラーム携帯電話。

■ラジオ

【Web 調査】

目が不自由でもあるので操作がしやすいラジオとかあったらいい。

■時計

【Web 調査】

昼夜逆転していることがあったので、時計はいいと思った。

■パソコン

【Web 調査】

音声認識の簡単なパソコン。

■洗濯機

【Web 調査】

毎度蓋を閉め忘れるので喋る洗濯機。

■リモコン

【Web 調査】

リモコンや電化製品のボタン操作ができないので(ボタン操作ひとつで動くエアコンの簡単リモコン 電化製品)お風呂での目覚まし警告。

■排泄関係

【紙面調査】

だんだん歩行が困難になってきており、寝たきりになった時の排尿の製品・機器等を知りたいと思っている。
便がトイレのいたる所についても、尿がどこへについても、簡単にとれる仕様のもの。
・夜間の排泄介助負担を軽くするもの。
トイレは便座の横にスペースがもっとあると介助しやすいと思う。家庭のトイレでは現状の倍のスペースをとっても良いと介助生活をして、初めて痛感した。
狭いトイレ内で安全に使えるモーター。
おむつの機能が良いもの。

【Web 調査】

ずれなく漏れない尿とりパッド。
パッドにおしっこがいっぱいになったとき知らせてくれる。
尿とりパッドやおむつが許容範囲を超えたら、知らせてくれるもの。
尿とりパッドやおむつを外したら、知らせてくれるもの。
排泄したと知らせる、アラーム。
完璧なおむつはない。
臭わないおむつ。
介護用設備の整ったユニットバスへの改修(リフォーム)費用の助成制度。助成金額も9割位見てもらえるのであれば、すぐにもリフォームに取り掛かりたいほど困っている案件である。要するに下の世話をする上で、粗相をしてしまった場合、必ずといってよいほど風呂場を使用するため。
今のところは半分寝たきりなので、排尿と排便の処理。
前後がはっきり色分けされた紙おむつがあるとよい。
紙おむつ。
おむつの着用を確実にできるようなもの。
背中側で止めるテープ式の紙おむつ。
陰茎から陰囊まですっぽりと入れる事が出来る、袋状の尿取パッド(外せないようにテープでしっかりと固定できるもの)。
手首にしっかりと固定できるパペット型のグローブ。
どうしても排便関係になる。
トイレのことで本当に困っているので相談に乗ってくれる機関がほしい。簡易トイレも用意しているがオカシイときはそこにあることも解っていないみたい。そのたびに2階から1階のトイレまで拭き掃除をし、消毒をしているので寝不足が続いている。

■食事関係

【紙面調査】

朝の宅配のお弁当がほしい。どこまでも本人及び家族の気持ちを第一に考えて欲しい。ともすると老人のためでなく、商売のためという印象が強い。
自分の味付けで調理できる料理セット。
配食サービスは非常に助かった。話し相手、症状が進行しても感情はある。聴いてくれる人が居たらと度々思った。
食事のおかずが年寄り用にバラエティが多く考えられていれば嬉しい。
1.宅配弁当サービス:あらかじめ入金して、5日分や7日分をまとめて配達してくるか。日によって家族の行動が違うので、①前日、当日0時迄の申込で、②その日の必要数を届けてくれるといい。お金は事前登録でカードか自動引落でやる。冷蔵庫にも多量に入らない。うちは女房が該当者なので、弁当を頼むと3人分×7日間(5日間)は冷凍庫に入らない。
食事(栄養バランスの良いもの)。

【Web 調査】

飲み込みやすい水。

■着替え・入浴関係

【紙面調査】

洗髪がベッドでできる道具:昔ケリーパードがあったのだが、現在なく家庭で簡単にできる洗髪器があればと思った。タオルを重ねて行っていたが、美容室程大がかりでなくとも、タンクに入れたお湯がシャワーで流せ、洗った水は容器に収まる。
清掃パッド:身体を洗う時、ベッドが濡れないようにおむつのように水分を含むとゼリー状になる。大きなシートがある

とお湯を流し洗える。拭くより気持が良い。
入浴中の見守りシステム(声かけすれば何とか入浴する人に対して)←身近で事故が起きた。
ズボンの上げ下げが困難なので、改善出来れば良いと思う。上着の長さの難しさ。
冬で防寒用ジャンパーを着るか、ほとんどのジャンパーがチャック式。このチャックの最初の噛み合わせが出来ないのだ。一時間かかってもできない。スリットにはめて、下までおろし、チャックを上を布をまき込まず引上げるのは至難の技だ。防寒衣の着脱が簡単にできる、留め金具、又は閉じ方の防寒衣の開発を求む。

■物忘れへの支援

【Web 調査】

置き忘れ探査機のようなもの。
ネックレスや指輪型の GPS(携帯電話はどこかに置いてしまう。というか持ち歩く習慣がない。電源を切ってしまう)大事なものをきちんと片付けるのはいいけれど、前に片付けた場所しか思い出せず大騒ぎになるので、自分の行動を記録しておいて自分が確認できるようにすればいいと思う。
一日前の行動を自動再生する機器。
書きやすいメモ帳や伝言板。
簡単にメモを取ったり、書いたりできる商品。

■本人の話し相手、本人への説得

【紙面調査】

何度も同じことを聞かれたり、言ったりした時に、オウム返しでも良いから、声を出す人形かぬいぐるみのロボットを作って欲しい。介護保険でリース出来るともっと嬉しい。

【Web 調査】

介護される人の現状(平均像)を本人に話して、紙パンツを履くことは常識であると説得してくれるサービス。
本人を説得させるサービス。
話し相手。
話し相手がほしい。
話し相手になってくれるサービス。
話し相手のボランティア。
認知症に精通されている人に話し相手になってもらう。
お相手のできるロボット。
人型ロボット。
寝たきりの認知症者に対する機械的なサポート。

■火事防止、電気の消し忘れ防止

【紙面調査】

火災への対応

【Web 調査】

火災報知機 煙探知器など。
火の元が心配なので、自動消火があるコンロがほしい。
火の消し忘れや水の出しっ放し、電気の消し忘れを教えてくれるような商品があればいいなと思う。
電気の消し忘れが時々あるので、自動で消える電球に替えたい。

■災害時の対応

【紙面調査】

災害時の避難機械。

■鍵

【Web 調査】

鍵。
鍵と蝶番の併用。

■ゲーム、本人が楽しめるもの

【Web 調査】

脳を鍛えるパズルやゲームのようなもの。
簡単なゲーム機。
デイサービスを利用しているが、サービスのない日は暇でしょうがない様子。認知症向けの家庭用ゲームなど、やる気になるものがあると良い。
易しいゲームのようなものがあつたらいいと思う。
何でもよいので継続できる趣味がもてるようになってほしいので、それをサポートしてくれるようなものがあるとよい。
人形よりも患者がひとりでも楽しく時間を過ごせる娯楽品。
何もやりたがらないので、みんなで軽い体操をするような行きやすい場所があるといいなと思う。
健常者と同じ思いを持てるようにする機器、商品、サービス。
喪失感を和らげるためのサービス。

■歩行を支援する機器、車いす、移乗を支援する機器等

【紙面調査】

自宅でも簡単に移動できるような車いす程大げさでないもの。
家の中で、自由に動ける軽く小さい車いす。
家の中でも動き易いような車いす、電動式で小型ならなお良い。
ベッドから車いす、トイレに行ける。
動くのを手助けしてくれる用具。
歩行を補助してくれる商品等。
移動手段(安価なもの)(安全なもの)(免許不要)。

【Web 調査】

歩行の手助けが簡単にできる機器。
まだ補助具を使い歩くので転倒防止の補助具を望む。
義足。
電動車いす。
つかまり立ちを支援する機器。
歩行機。

■補聴器

【紙面調査】

補聴器の貸出し、又は補聴器自体を安く扱いやすくできると助かる。

【Web 調査】

補聴器を实际使用している人から経験を聞きたい(使用しての良好感想)→出来れば、日常生活をするにあたって、結構聞こえていないので、是非使用して貰いたい＝補聴器を販売するところの話ではなく、一般の人の話を聞きたい。
補聴器で、ゆっくり大きな音声で言い直してくれるものがあつたら便利かも。
嫌がらない補聴器。

■相談窓口、情報提供

【紙面調査】

困ったことをすぐ連絡できる相談通話。
どのようなサービスや商品が有るのか、情報がとても少なかった。

【Web 調査】

インターネット等匿名の相談窓口。
定期的に届けてもらえる介護に関する情報誌があるといいと思う。
ケアマネジャーからの情報提供。
全国の関係機関が入手した情報を共有できるシステムが欲しい。緊急時に相談、対応してもらえる機関が欲しい。
認知症の家族にどう対応したらよいのかをもっと具体的にアドバイスしてくれるようなサービスがあると助かる。特に

我が家の場合、認知症の家族の息子がどうしても口うるさく説教するくせがあるので、それをどう改善させていったらよいのか悩んでいる。家族への踏み込んだアドバイスが欲しいといつも思ってしまう。
信頼できる人がほしい。
24時間電話相談できる場所があれば助かる。
どのようなサービスがあるかを知りたい。

■ サービスや施設、制度の充実

【紙面調査】

ケアマネジャーが密に連絡を取ってくれると安心。家の改修なども上限金額を少し上げて頂けると…。
毎日ヘルパーが入ってほしい。家族が隣に住んでいるため、同居とみなされ介護保険のヘルパー利用ができない。私費利用は経済的に厳しい。
施設への入所(通所)、病院への入院を嫌うので、家族が突発的なことで家をあける時に短期に介護・見守りを代行してくれるサービス。
緊急時にすぐに入れる施設(今のショートステイは申込制のため)。
定期的訪問を回数多くして欲しい。まだ、当方は利用していない。
介護(家で)を24時間サービスがあったらよい。

【Web 調査】

何時でもショートステイが利用できる。
いつでもショートステイを利用できる施設があればいい。
ショートステイサービスの施設の充実。
本人をどこか遠くに何日も連れて行ってくれるサービス。
もう機器や商品等のモノで対応することが難しい状況なので、例えばデイサービスの対応時間とか、特養の入所を早めてもらうとか、モノではなく人の介護サービスをもっと手厚くしてほしい。
今はデイサービスに週3回行っており、その間はゆっくり出来るので(以前はよく具合が悪くなって電話がかかり迎えに行っていたが)助かっている。
泊りのあるデイサービス。
日曜日もあずかってくれるデイサービスも利用したい。
ちょっとした訪問介護のような、世間話をしてくれるようなサービス。
家政婦さんのような一日中介護をおねがいできる制度。
認知を治す薬。
貧困家庭でも利用できるケアハウス。
自分たちでは仕事もあるし世話がしきれない。施設に入るか専門の方にずっと見てもらう方が好ましい。
ケアマネジャーや施設の利用についてもっとわかりやすくして欲しい。今はなにをすべきかさっぱりわからない。こちらから声をあげないとだめなのか。
本人が行きたくなるような施設があるといい。
介護認定のハードルを下げて欲しい。
介護料金を安くしてくれるのが一番と思う。
介護保険料は何のために取ってるのかと思うし、今回消費税が上がっても、本当に福祉事業などに役立てられるのか疑問に思う。
国からの金銭的援助。
家族で見るのが基本、機器も商品もいらない、衣食住をする為のお金が必要。
医療の充実のみ。色々サービスや物はあるが、本人が理解・使いきれていないから。
他の病気も抱えているので、すべてをケアサービスできる機関を作ってもらいたい。

■ 介護者支援

【紙面調査】

介護者の心のケアが必要。
介護している人を介護から解放してくれるサービス。
主たる介護者が外部からのサポートを受けやすい環境があると良い。(2件)
要介護者を自宅で世話をするには結局家族が介助技術を修得することが必要になると思う。

【Web 調査】

介護している人達の交流の場があってもいいかな、と感じる。
父がもう少し協力的だと良いと思う。とにかく自分のペースで行動するので もう少し私の身になって考えてほしい。
介護者の精神的負担が軽減できる方が良いと思う。

■その他

【紙面調査】

家で生活することは機器ではなく、介護をする人的サービスではないか？どんなに良い商品が出来てもそれに頼るような制度はおかしいと思う。
色んな機器が開発されているが軽度の認知でも使い方が覚えられない。早目に機器を利用する方法を考えた方がよいと思う。例えばIH調理器、緊急連絡通報など。
操作が簡単な商品。
ロボットが家に一台の時代が来るロボットを開発。
ロボット。
マッサージとか、足・腰をあたためる。小さめの機器が手ごろな価格であると、ほしいなと思う。少しは痛みがやわらぐのではないかなと思う。
褥瘡防止具。
介護カード：女房を女子トイレに連れて行き、扉の開閉ができず、また、忘れ物をしても、中に入れず、変質者呼ばわりもされている。介護中カード等が制度化できないか。
人感センサー付、水道の蛇口（止め忘れ防止）。

【Web 調査】

もっと褒めて笑顔で接していくことが大切。
具体的な指示をしてくれるもの。
変に自尊心が強いので、とても難しい。
目が悪いので余計に不安だし、本人も使いこなせないと思うので・・・何とも言えない。
回復薬。
実はそれを知りたい。性格は変えられないので、怒りっぽくなるのは仕方ないけど、毎日介護する身としては、腹が立って仕方ない。
認知症ではない人にとっても、高齢者なら誰でも使用している商品があれば、認知症の自覚症状がない人にでも使わせやすい。
ある特別の設定をすれば、誤った操作をしても、キャンセルしてくれる仕組み。

■ない、わからない

【紙面調査】

機器で解決できるものはない。
特に思い当たらない。
今のところは充分。

【Web 調査】

特になし。(24件)
なし。(4件)
今のところない。(4件)
機器で何とかなるものではないと思われる。
あまり思いつかない、というか解決できるのはあり得ないと思う。
今のところ機器、サービスで不満はない。
困っていることを解消するような機器は思いつかない。
本人が認知症とっていないので、どんな便利グッズも今のところ使えない。
まだ少し歩けるので特に思いつかない。
記憶障害を解決する機器はないと思う。
自らの家庭で認知症を認めたくなくて前向きに楽しく看ることしかない。
機器には頼れない。
今のところ他人には期待していない。
いまは思い浮かばない。
今のところ思い浮かばない。
特に思い浮かばない。
現在のところ機器商品については思い浮かばない。
今のところ特になし。(2件)
わからない。(21件)
思い当たらない。思いつかない。(11件)
今はわからない。まだわからない。(2件)

見当もつかない。
今のところ困っていない。
教えてほしい。

④助けや介護が必要な家族／同居している認知症の家族が家で暮らしていく上で困っていることを解決するためにあったらよいと思う商品やサービスについて、どこで相談・情報入手・購入できたらよいと思うか

手助けや介護が必要な家族（紙面調査）／同居している認知症の家族（Web 調査）が家で暮らしていく上で困っていることを解決するためにあったらよいと思う商品やサービスについて、どこで相談・情報入手・購入できたらよいと思うかを具体的に記入してもらった結果は、下表のとおりである。

図表80 助けや介護が必要な家族／同居している認知症の家族が家で暮らしていく上で困っていることを解決するためにあったらよいと思う商品やサービスについて、どこで相談・情報入手・購入できたらよいと思うか（紙面調査Q15/Web調査Q45）文字記入

■ケアマネジャー

【紙面調査】

ケアマネジャー。(13件)
ケアマネジャーに相談。しかし多忙過ぎるみたいで無理を言えない。
ケアマネジャーに相談や情報を得て、インターネットで購入できたらいいと思う。
ケアマネジャーとは月に1回会うため、ケアマネジャーからの情報は大変助かる。
ケアマネジャーが相談にのってくれるので不自由は感じていない。
身近で対応できることが良い(ケアマネジャー・地域包括支援センター・事業所)。
今回の商品について知らない品が多くあり、情報が少ないと思った。インターネットなどで探すにも結構時間がかかる。一番身近で接する機会の多いケアマネジャーや事業所が情報を伝えて下さるとありがたいと思う。介護者はなかなか遠くまで出る時間がとれないため。入手は電話なりインターネットで出来るとありがたい。
本人にかかわってくれる方(ケアマネジャー、事業所)のアドバイスを受けたい。※身近で相談したい。(出かけていかなくとも済む所)。状況は変化する。その時々ですぐ相談したい。
ケアマネジャーにこちらから言うと調べるが、一歩先を見て、情報提供してほしかった。このアンケートに出て来た商品はほとんど知らなかった。半年前、一年前よりどんどん進歩しているので、何度でも知らせてほしかった。
やはり、今はケアマネジャーを通じてとなると思う。
身近なケアマネジャーからの情報が一番良いと思う。
介護していると、なかなか外出できず、月1回の受診の病院クリニックが訪問して下さるケアマネジャーから情報を得ることになると思う。

【Web 調査】

ケアマネジャー。(35件)
ケアマネジャーやケアセンター。
ケアマネジャーに相談できるとよい。(3件)
ケアマネジャーが一番相談しやすい。
ケアマネジャーで今のところ問題ない。
年間の予算もあるので、ケアマネジャーと相談。
ケアマネジャーや福祉介護用具のレンタル業者からの情報提供が有ればありがたい。
ケアマネジャーとか病院とか。
ケアマネジャーに相談することが多いので、ケアマネジャーが豊富な商品情報をもっていると助かる。
なかなか出かけることも出来ないで、ケアマネジャーが詳しく説明してくれるのが一番だと思う。
ケアマネジャーや利用しているデイサービスから。
ケアマネジャーに相談したり、新聞やテレビなどで情報を得たい。
ケアマネジャーの訪問が月に1回あるし、何かあったら間で相談もできるから、今のところ、特にない。

身近にいるケアマネジャー。本人の事も理解してくれているし、行政にも詳しいし、なにより家族に対しても一番の理解者であってくれているから。
ケアマネジャーの中でも、認知症高齢者の対応経験の多いケアマネジャー。
やはり、ケアマネジャーしか、頼るところがないので、そこを重点にしている。
ケアマネジャーに全てを依頼することによりサービスを受けられるのが一番よいかと考える。
ケアマネジャーのいる事務所や介護用品貸し借りのできるところ。
ケアマネジャーから情報がもらえたらいいと思う。
ケアマネジャーから情報が欲しい。
今は主にケアマネジャーに聞いたり相談したりしているが、そういった機器や商品を専門に研究している「信用」のおける情報があれば知りたいし相談もしたい。
ケアマネジャーに相談して介護保険で安く利用したい。
病院で相談しても認知症についてのアドバイスは大して受けられない。明日、専門の病院に行ってみるつもりだが、今もリハビリも入れて週に2回病院に通っているのだからこれ以上通院を増やすのは負担。ケアマネジャーに何でも相談できればすごくありがたい。でも、正直ケアマネジャーの立ち居地がいまいちわかってない。

■ 地域包括支援センター

【紙面調査】

地域包括支援センター。(8件)
地域包括支援センターに相談するように知らされている。
地域包括支援センターの人達が、介護をしている人達に外に出て、他の人たちの介護をしている様子や話をきく機会を作るサービス。
地域包括支援センター、ケアマネジャーが相談にのり、購入は商品にあった量販店より。
地域包括支援センターの積極的な利用が最も有効な方法であると思う。

【Web 調査】

地域包括支援センターに実物を展示して欲しい。
地域包括支援センター。(8件)
地域包括支援センターや保健センター等、身近にある機関。
やはり、地域包括支援センターで相談できると気軽に行けるし、こちらの事情もわかっているのだから、最初から説明しなくてもよいので助かると思う。
地域包括支援センターや、役所などの人からも少し生活に密着した相談援助を受けられたらいい。

■ 自治体

【紙面調査】

自治体、自治体の相談窓口。(6件)
自治体の相談窓口。地域包括支援センター、購入先はその商品の量販店。
行政・ケアマネジャー・地域包括支援センター・テレビ・ラジオ・新聞など。
家はケアマネジャーとかに相談したりしないので、むしろ区役所などに気軽に説明してもらえるか、見本などを置いておいて、おためしができると、簡単に行けるので助かる。
区役所、出張所、郵便局等近辺にあれば、手軽に行けるし、連れて行ける。

【Web 調査】

自治体の福祉課、介護課、自治体の窓口。(7件)
行政で3か月に1度様子うかがいにきてほしい。その時にいろいろと相談したい。
役所でもっと親身に相談できるとよい。

■ 社会福祉協議会

【紙面調査】

社会福祉協議会。

■ 病院、診療所

【紙面調査】

病院。
診療所。
主治医。

【Web 調査】

病院。(9 件)
かかりつけの病院。(2 件)
近くの診療所、病院。
病院で、実際に触ったり購入できたら便利だと思う。
病院やデイサービスで相談したい。
医師などからの斡旋がよいと思うが、コストがかかりすぎると思う。
医師。(2 件)
かかりつけの医師。(4 件)
他の病気で通っている病院の先生に話していただきたい。
いきなり介護となると本人が身構えてしまうのでかかりつけの病院で気軽に話ができれば。

■薬局、ドラッグストア**【紙面調査】**

薬局。
近くの薬局。

【Web 調査】

薬局、ドラッグストア。(10 件)
ドラッグストアや量販店。
ケアマネジャーやドラッグストアにも置いてほしい。
インターネットや近所のドラッグストアの医薬品レジで情報提供や購入ができれば便利だと思う。
デパート・ドラッグストアなどの介護コーナー。

■介護サービス事業所、介護施設**【紙面調査】**

介護サービス事業者。
随時訪問、小規模多機能がもっと使いやすく単位も安かったらよい。
いつも本人が行っているデイサービスの場所で良い(便利と思われる)と思われる物を紹介して頂けたら、あちらこちらに捜し回らなくて良いと思う。
相談情報は介護サービス事業者。購入はできるだけ身近に沢山ある店で選ぶことができる。
ヘルパー

【Web 調査】

介護施設。(4 件)
家庭で安心して介護できるように行政の介護事業の充実。 優良ヘルパーなどを育てる。
デイサービス。(6 件)
身近な居宅サービス。
デイケア施設。
介護保険施設。
デイケアのスタッフ。
デイサービスのスタッフ。
介護事業者。
介護サービス用品を扱っている店やインターネットショップ。
福祉センター。
デイサービスを利用しているので、そこに置いてあって試しに使えるといいと思う。
デイサービスの場所や、ケアマネジャーがいらっしゃる会社で。
ケアセンター、公的機関。
ケアワーカーや介護施設などがお勧めするものだったら質を信用できる。

■スーパー、コンビニ、百貨店**【紙面調査】**

コンビニ。(2 件)
身近なスーパーやデパートに手にとって見られるような所で購入できたら。

デパート。
デパート、介護用品相談所のような場所があり展示していると良い。また、その様な場所があることをもっとPRしてほしい。
スーパーやデパートの介護用品売り場。
スーパー等で展示されて自由に触ることが可能ならよし、デモンストレーションを見られたら、なおよし。
身近なスーパー。
なかなか家を出ることが困難になるため、近所のスーパーやドラッグストアで購入出来たら良かった。利用手順がわかりやすいことが条件。

【Web 調査】

スーパー。(2件)
近くのスーパー。
スーパーの介護用品売り場。
町の大規模スーパー等の介護用品売り場等。

■ホームセンター

【Web 調査】

ホームセンター。(2件)

■家電店

【紙面調査】

病院の売店などはもちろん、街の一般の電気屋さん(大型含)で目にする機会・手にする機会が多ければと思う。全く存在すら知らないものが多い。

【Web 調査】

電気屋。
家電量販店。(3件)
家電量販店(介護コーナー)。
家電量販店で気軽に買いたい。
家電量販店で実際に試せるコーナー。
家電量販店、スーパー等、普通に買い物に行くお店。病院や役所等いかにも認知症対策しているというところは好ましくない。
家電量販店 特別なところは価格が安くならないし努力もしてない。
家電量販店やスーパーなど日頃利用しているところで購入できればいいと思う。
家電量販店など日頃よく行くお店など。

■インターネット

【紙面調査】

インターネットで情報を得られたら、良い物だけを本人に伝え、選択することができると思う。
インターネットでわかりやすく、すぐに購入できるサイトを作って欲しい。
インターネット。(2件)

【Web 調査】

インターネット。(12件)
インターネットが便利でいいと思う。
インターネットで調べて、情報を得たり、購入出来たら良いと思う。
インターネットの口コミサイト。
インターネットの相談コーナー。自治体は顔見知りが多く相談しづらい。
インターネットで調べる。
インターネットの公的な、信頼できるサイト。
相談のしやすさから言えばインターネットで基礎知識を身につけておきたい。
インターネット・CMで情報を得ることができたらよい。
特化した行政のHP。
インターネットで相談できると便利。
今のところ相談したくない。なぜならネット検索で足りている。
インターネットや新聞広告。

パソコンが使える世代がいればインターネットで探せると便利。あとは病院で相談してそこで購入出来たら手間も省ける。が、病院だと高い値段になってしまうのが問題。

■テレビ、ラジオ、新聞、雑誌

【紙面調査】

介護保険を使っていない時は、テレビや新聞で情報を知りたい(どこで買えるを含め)。
テレビ、新聞。
テレビ、ラジオ。
TV画面で離れている介護者の様子を見て確認できると便利だと思う。訪看センター・介護者・離れている家族とが同時に情報を見て共有でき、判断しやすくなると安心なのだが。

【Web調査】

テレビの情報番組。
テレビCMやインターネット広告。
通販番組など。
老人ホームや専門家の人たちによる専門誌(補聴器や介護用品についての口コミ)。
雑誌。

■電話相談

【紙面調査】

電話1本でワンストップ、相談受付や情報提供、購入できることが理想と思われる。高齢の方にとってインターネットや手間のかかる方法だと購入意欲が無くなる可能性があるため、簡潔な手段が望ましいと感じる。訪問形式はサギ被害を警戒している方々にとって負担となる可能性があり、難しい状況なのかもしれない。

【Web調査】

夜でも気軽に気兼ねなく電話相談できるような。
介護施設や地域包括支援センター、市町村窓口などで、まず電話相談ができれば良いと思う。
24時間電話サービスが受けられるところ。

■介護者団体、口コミ

【紙面調査】

介護者の会などで使って良かったとか口コミが大切と思う。
地域の介護支援団体。
口コミが一番良い。
現在、「介護者の会」を作り、(デイケア)毎月、定例で(第2木曜日)行なっていて、毎日の生活状況を交換し、その中から、病院、施設、薬、車椅子で利用出来るレストランの情報交換している。商品の「おためし」を見たり、ふれたり出来るなら、デイケア等の施設、地域包括支援センターにショーケースで置いてほしい。

■研修会

【紙面調査】

アンケートに記入しながら、こんなに多くの商品がある事を知った。認知症に関係する研修会がよく開かれる。そんな時に、「こんな商品があります」とPRしていただけたらと思う。

■その他

【紙面調査】

介護している家族は遠出が出来なかったり、時間が取れない事が多いので身近で相談が出来たり、自宅で現物が見られる機会があっても良いのではと思う。
震災のために避難してきて同居という形になったが、急だったため全く情報がわからず困った。日常より目に入るところにいろいろなグッズがあり知識が少しでもあればもう少し何とかできたかもと今更ながら思う。
緊急時に簡単に通報できる器具。

【Web調査】

郵送してもらえたらありがたい。
家に来てもらえると良い。
介護に限らず、誰にでも使いやすいもの(ユニバーサルデザイン)をもっと身近な店で扱うといい。介護用品となる

と、特別なところに行かないといけないというハードル感がある。
現在普通にある医者以外の専門とする場所。
携帯ショップ。
家の近く。
専門店。
遠くに出かけて行って、待たされてということがない、いいところがあるといいなと思います。購入は1箇所ではなく、いろいろな選択肢があるといい。
一般の販売店。

■ わからない、特にない

【紙面調査】

今のところは特にない。
無し。

【Web 調査】

どこで相談や情報を得ればよいかよく判らない。
リースとかで借りることができればよいと思う。
特にどうも思わない。
わからない。(8 件)
まだわからない。
なし。(5 件)
特になし。(12 件)
特に思いつかない。(4 件)
思い浮かばない。
あまり考えたことがない。

3. アンケート調査のまとめ

(1) 機器・用具の認知度と利用意向

機器・用具の例として提示した「①服薬を支援するための商品」「②曜日や時間を把握しやすいよう配慮した時計」「③操作しやすい電話」「④操作しやすいテレビリモコン」「⑤止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓」「⑥自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロ」「⑦探し物発見器、置き忘れ防止アラーム」「⑧コミュニケーションのできる人形」の認知度は2割程度のもが多く、一般的には知られていないことがうかがえた。一方で、利用したことがない人や知らない人の利用意向は4～5割程度と比較的高く、認知度を高めることが普及につながる可能性が示唆された。

(2) 機器・用具の相談先、購入経路

機器・用具を購入する場合の希望入手先について、「①服薬を支援するための商品」は「薬局、ドラッグストア」「病院、診療所」の割合が高いなど、各機器・用具によって特徴がみられるものの、身近なスーパー、コンビニ、百貨店、家電店などのほか、インターネットで購入したいという希望が多くみられた。

一方、購入にあたって、ケアマネジャー、地域包括支援センター、自治体の相談窓口、病院などから情報を得たい、相談したいという意見も多くあげられており、特に、ケアマネジャーに相談したいという意見が多数みられた。

ケアマネジャーや地域包括支援センター、かかりつけ医など、専門職に相談にのってもらった上で、地域の身近な場所で購入したいというニーズの高いことがうかがえ、さらに、購入の際には、実際に機器や用具の実物が置いてあり、試用できたらよいとの意見もみられた。

(3) 介護する上で困っていることを解決するために

介護者自身や仲間などで、工夫してグッズや日用品を手作りした経験のある人は2割弱おり、その理由をみると、4割程度が「適当なものがなかったため」と回答していた。認知症の家族を支援するにあたり困っていることをみると、「同じことを何度も聞かれる」「気の休まる時がない」で「いつも思う」「よく思う」の割合が高くなっていったほか、自由記入欄では「物忘れ」「話を聞かない、頑固」「コミュニケーションができない」「妄想、幻覚・幻聴」「食事に関する課題」「排泄に関する課題」「徘徊、道に迷う」「金銭管理」「介護者の負担軽減」など、多岐に渡っていた。

課題解決のためにあったらよいと思う商品やサービスを自由に記入してもらったところ、見守りや緊急対応のためのセンサーやブザー、排せつや食事、入浴時等の課題を解決するためのもの、本人の話し相手となってもらえるものなど、様々な意見、アイデアがあげられていた。

既存の機器や用具を上手く利用することで課題を解決できるものもあるだろうが、新たに機器や用具が開発されていくことへの期待も大きいことがうかがえた。

第3節 諸外国における販売ルート調査（英米のネット販売サイトについて）

1. Alzheimer's Store

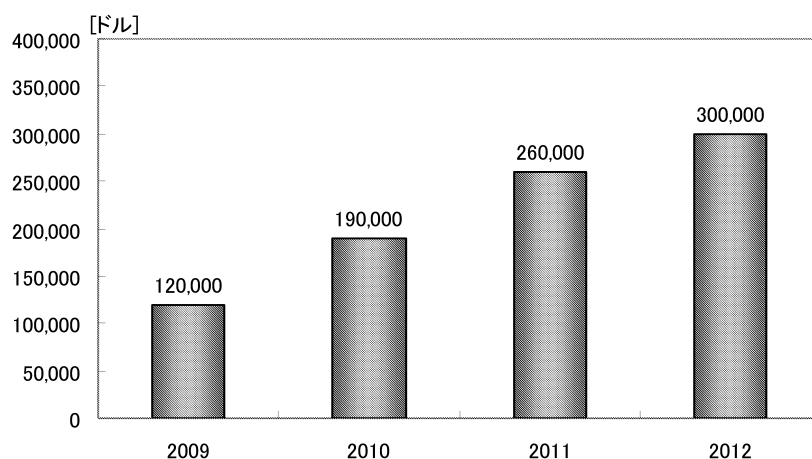
(1) 運営主体

現在の運営主体は、Healthcare Products, LLC¹である。

運営会社名	: Healthcare Products, LLC
所在地	: 420 Osierfield Drive, Fitzgerald, GA 31750-6717（ジョージア州）
URL	: http://www.alzstore.com

Healthcare Products, LLC の売上高は 30 万ドル（2012 年）、従業員は 9 名（2012 年）である。

Healthcare Products社の売上高推移



Alzheimer's Store は、「Complete Guide to Alzheimer's Proofing Your Home」の著者である Mark Warner、Ellen Warner により立ち上げられた。著書の中で、家を認知症者にとって、より安全で使いやすくするためのアドバイスや製品を紹介していた。あわせて、こうした製品の購入方法を著書に記載していたため、読者から製品の入手方法に関する問い合わせの電話が多く入るようになった。そこで、認知症グッズを総合的に購入できるサイトへのニーズが高いと考え、2001 年 6 月に Alzheimer's Store を立ち上げることとなった。

2012 年には Healthcare Products 社が Alzheimer's Store 事業を買い取った。同社は 1 年で 2,500 スクエアフィート（約 230m²）の倉庫を備えるようにするなど、オンラインストア事業の拡張を行っている。

2013 年 10 月には、Alzheimer's Store で販売された商品金額の 1% について、Alzheimer's Association に寄付を行う提携を行っている。但し、Alzheimer's Store で取り扱う商品につい

¹ LLC：有限責任会社

て、Alzheimer's Association が保証するといったことはなく、Alzheimer's Association から Alzheimer's Store には便宜は供与されない。

(2) 取扱商品

21 の商品分野にわたる商品が提供されている。

主な商品としては、以下のようなものがある。

主な取扱商品の例

	<p>自動薬ディスペンサー 28 回分の薬を入れることが可能であり、1 日に 4 回までの服薬時間をセットできる。服薬時間になるとアラームがなる。服薬時間以外にはロックされ、二重投薬等を防止できる。 価格：175 ドル</p>
	<p>食品を見て、操作することが容易な食器。商品がさめにくく、またこぼしにくい構造となっている。 価格 小皿：7.5 ドル 大皿：10.5 ドル ボール：9 ドル カップと蓋：8 ドル 上記 1 セット：32.5 ドル</p>
	<p>電話をかけたい相手の写真を押すことで電話をかけることができる。9 枚の写真を設定することができる。1 つは緊急電話番号 911 に割り当てることができる。 価格：64.95 ドル</p>
	<p>モーションセンサーライト 単三電池 3 本で動作。AC/DC オプションでコンセントに接続することも可能。 以下の 4 モードを選択することができる。 ・動きを検知した際に自動で点灯し、動きが無くなった後 30 秒後に自動消灯 ・夜間のみ点灯 ・常に点灯 ・完全に消灯 価格：14.95 ドル</p>

取扱商品の分類

- アクティビティ・エンターテイメント
- 認知機能、運動機能喪失の予防、向上グッズ
- 入浴グッズ
- 時計
- 衣料、エプロン
- コミュニケーション支援グッズ（リマインダー、エモーションカード、痛みアセスメントチャート等）
- 食器
- 人形、ぬいぐるみセラピー用品
- DVD
- 書籍
- 薬ディスペンサー、ドアアラーム、シニア用リモコン、モーション検知機等
- リフトチェア等の介護補助家具
- ゲーム
- 成人用失禁用品
- 記憶力向上に向けたゲーム
- 外出時の安全性向上のためのグッズ
- パズル
- 安全性向上のためのグッズ（薬ディスペンサー、ドアアラーム、キャビネットロック、ウォーターアラーム 等）
- 電話
- 徘徊防止グッズ（モーション検知機、ストップサイン、ドアロック、ドアカモフラージュ等）
- ギフト券

(3) 購入方法

商品はカテゴリ別に分類されて掲載されている。同サイトで紹介されている商品はオンライン上で全て購入することができる。また、商品カタログをみて、電話で注文することも可能である。

商品分類別の他に認知症のステージ（Early、Middle、Later）ごとに商品を探すことができる。

商品紹介ページにおいて、「ADD TO CART」というボタンを押すことで、商品がカートに移動する。支払はクレジットカードで行える。

商品は米国内だけではなく、カナダ、プエルトリコ、オランダ領アンティル、英国、仏国、オランダ、デンマーク、ベルギー、チェコ、ニュージーランドから購入することも可能である。

商品紹介ページの例

To Order By Phone: 1-800-752-2222

Home My Account Order Status Help


The Alzheimer's Store
Products designed for people with Alzheimer's
and Dementia and their Caregivers

Enter Your Search...

Browse Store Popular Our Story Alz-Proof Your Home Educate Yourself Newsletter On Sale! My Rewards

Home > Memory >

Automatic Medication Dispenser



Price: \$175.00
Product Code: 6032

Choose your options:


Models
Model*: Automatic Medication Dispenser

Qty: 1 **ADD TO CART** **ADD TO WISHLIST**

→ LARGER PHOTO EMAIL A FRIEND

Twitter Facebook Like 2

Alternative Views:




Description

Select one of the famous MedReady Medication Dispensers that are right for you. They are all lockable (to prevent double dosing) with 28

購入プロセス画面例

Free Order By Phone: 1-800-762-2228

[Home](#)
[My Account](#)
[Order Status](#)
[Help](#)



The Alzheimer's Store
Products designed for people with Alzheimer's
and Dementia and their Caregivers

[Browse Store](#)
[Popular](#)
[Our Story](#)
[Alz-Proof Your Home](#)
[Educate Yourself](#)
[Newsletter](#)
[On Sale!](#)
[My Rewards](#)

PLEASE NOTE: Orders received after 3:00 PM EST will be processed the following business day


[SHOP FOR MORE ITEMS](#)

alzheimer's association

The Alzheimer's Store is proud to announce a cause marketing affiliation with the Alzheimer's Association. For every product purchased, the Alzheimer's Store will contribute 1% of the gross sales price to the Alzheimer's Association, a non-for-profit 501 (c) (3) organization. This contribution is not tax deductible.

The Alzheimer's Association does not endorse any of The Alzheimer's Store products. The Alzheimer's Store will not receive any compensation from the Alzheimer's Association for or relating to this promotion.

Your Cart

ITEM DESCRIPTION	EACH	QTY	TOTAL	
 Memory Phone	\$64.95	1	\$64.95	X

Click X to remove an item from your cart [Empty My Entire Cart](#)

Coupon Code: [APPLY](#) [RECALCULATE](#)

Calculate Shipping (optional)

Country:

State:

Zip / Postal Code:

[GET SHIPPING OPTIONS](#)

Tax: \$0.00

Total: \$64.95

[PROCEED TO CHECKOUT](#)

2. Alzheimer's Association

(1) 運営主体

運営主体は、非営利のボランティア団体である Alzheimer's Association である。

運営会社名	: Alzheimer's Association
所在地	: 225 N. Michigan Ave., Fl. 17, Chicago, IL 60601 (イリノイ州)
URL	: http://shop.alz.org/

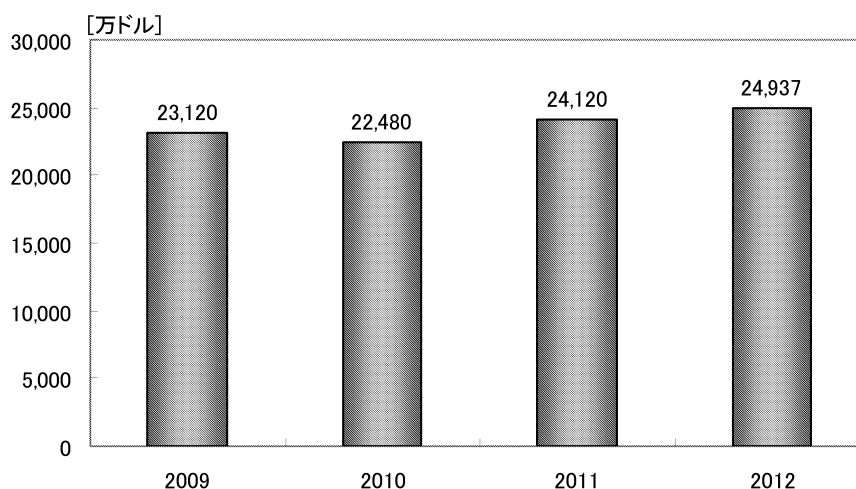
Alzheimer's Association は 1980 年 4 月に設立された NPO である。その使命として、「研究の発展によるアルツハイマー病の撲滅、全ての患者に対する介護とサポートの提供および促進、そして脳の健康を啓発することによる認知症のリスクの減少を目指す²⁾」ことを掲げている。

認知症の影響を受けている人に対するケアと支援の向上に向けた取り組みとして、ヘルプラインの開設（毎日 24 時間、専門スタッフが情報提供やアドバイスを実施）や、介護者や家族向けの情報提供（初期ステージ、中期ステージ、後期ステージごとに介護方法や安全確保方法等に関する情報提供）、教育プログラムの提供、安全確保に関するサービス提供等を行っている。

また、認知症に関する研究開発を推進するための資金援助を行っている。

収入の多くは寄付金であり、2012 年 6 月期の売上高は 2 億 4900 万ドルに達している。企業スポンサーもあり、MetLife Foundation、Pfizer Inc.等は年間 25 万ドル以上 100 万ドル未満の資金を提供している。その他、Bristol-Myers Squibb Company、GE Healthcare、Rolex Watch U.S.A., Inc.、CBS Television Network、IBM Corporation、Microsoft Corporation、Takeda Pharmaceuticals U.S.A., Inc.等が企業スポンサーとなっている。

Alzheimer's Associationの売上高推移



²⁾ Alzheimer's Association Web サイト (http://www.alz.org/asian/about_us.asp?nL=JA&dL=JA)

(2) 取扱商品

取扱商品は、衣料品やグッズ類等が主である。Alzheimer's Association のオリジナル商品が多い。

その他、認知症者の位置を確認するサービス、徘徊で行方がわからなくなった時の支援サービス、教育プログラム等の提供がなされている。

取扱商品の分類は以下のようになっている。

取扱商品の分類

○衣料

- ・シャツ
- ・スポーツ衣料
- ・パーカー
- ・アクセサリー
- ・帽子、バイザー
- ・スカーフ、ネクタイ
- ・バッグ

○自宅、職場向け商品

- ・ホームグッズ（マグカップ、マグネットシート等）
- ・屋内・屋外グッズ（傘、ビーチタオル、水筒等）
- ・文具

○行進、イベント用品

- ・イベント用品（風船等）
- ・アパレル
- ・グッズ
- ・the Longest Day³用品

○介護、安全

- ・Comfort Zone⁴ & MedicAlert⁵
- ・CD、DVD

○学習、娯楽

- ・書籍、ゲーム
- ・CD、DVD

³ 夏至に開催するイベント。Alzheimer's Association の活動資金の獲得や、認知向上に向けて日の出から日没まで、ハーフマラソン、バスケットトーナメント等のイベントを行う。

⁴ 認知症者の位置を、家族が遠隔で知ることができるサービス。事前に設定した範囲を超えて認知症者が移動した場合に、自動でアラートが送られる。

⁵ 認知症者が徘徊等した場合に、介護者が緊急通報することで、Alzheimer's Association の地域支部、警察等が捜索支援するサービス。

(3) 購入方法

Alzheimer's Association の Web サイト上に Web Shop が開設されており、商品を購入することができる。

ほとんどの商品は、同サイトで購入することができるが、一部の商品に関しては、パートナーの Web サイトへのリンクが設定されており、パートナーの Web サイトで購入することとなる。

商品は、ユーザ別（男性、女性、子ども、介護者、認知症者の同居者）、価格帯別、商品分野別などで分類されている。購入したい商品について「Add to Cart」ボタンを押すことによって、商品が「カート」に移り、購入手続きが行える。パートナーの Web サイトで購入する商品は、「Click here to buy」ボタンを押すことによって、パートナーのサイトへ移ることとなる。

電話で注文することも可能である。平日の午前 8 時から午後 8 時の間に顧客サービスセンターに電話することで、注文が行える。

税金が免除されている場合には、非課税証明書を FAX で送ることにより、非課税金額で購入することができる。

商品を国外から購入することも可能である。UPS 国際輸送サービスで配送される。

購入時に商品の価格に加えて、寄付金を支払うこともできる。

商品紹介ページの例

The screenshot shows the Alzheimer's Association website's product page for a 'Home Goods' mug. The page layout includes a top navigation bar with links like 'Home', 'Wear It', 'At Home or Work', 'WALK and Events', 'Care and Safety', 'Learn and Play', 'Sale Items', and 'Special Promotions'. A search bar and a shopping cart icon are also present. The main content area features a large image of the mug, a description, and a price of \$5.99. A large black arrow points to the 'Add to Cart' button. The page also includes a 'Customers Who Bought This Item Also Bought' section with various product thumbnails.



Enter Keyword(s) [SEARCH]

TEXT SIZE [A] [A]

View Cart Checkout

- Home
- Wear It
- At Home or Work
- WALK and Events
- Care and Safety
- Learn and Play
- Sale Items
- Special Promotions

Special Promotions

- 2013 Holiday Collection
- Companies That Give Back
- Gift Certificates
- The Longest Day

Shop by User

- For Men
- For Women
- For Kids
- For Caregivers
- For Persons Living with Alzheimer's

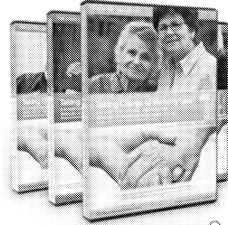
Shop by Price

- Under \$25
- \$25 - \$50
- \$50 - \$100
- Over \$100

Alzheimer's Featured Video



Special Promotions



enlarge

The Savvy Caregiver (DVD)

ALZSC-1

This award-winning DVD series for families is designed to be watched once a week for four weeks. The Savvy curriculum has been shown in university research to reduce caregiver distress and has been recognized nationally by the U.S. Administration on Aging. It has also been praised by families. Click the link for a free "Test Drive" of the program.

Source: HealthCare Interactive, Inc.

Price: \$19.95 per DVD (or \$69.95 for 4-DVD set)

*15 percent of all proceeds benefit the Alzheimer's Association

Customer Rating

SEND TO A FRIEND

Average Rating (N/A)

Write a Review

Click here to...



3. AT Dementia

(1) 運営主体

運営主体は、チャリティー団体の Trent Dementia Services Development Centre (TrentDSDC) である。TrentDSDC は、英国保健省 (Department of Health) からの財政支援を受けている。

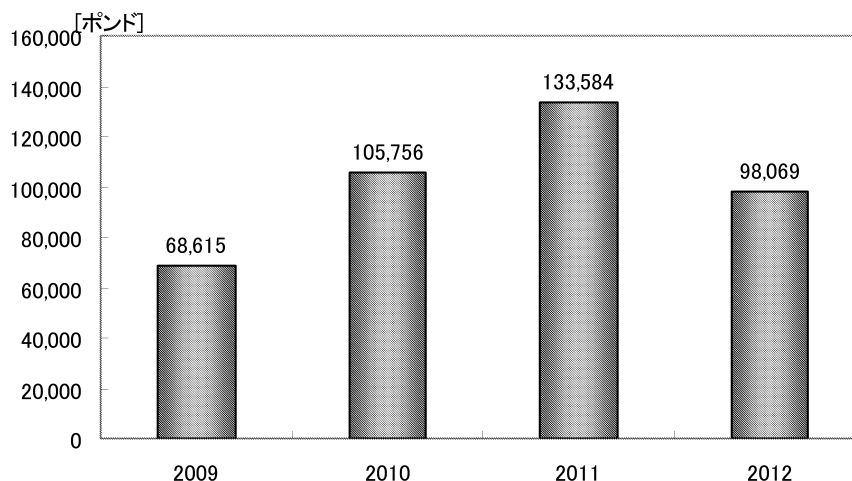
運営団体名	: Trent Dementia Services Development Centre
所在地	: 9 Newarke Street, Leicester, LE1 5SN
URL	: http://www.atdementia.org.uk/

TrentDSDC は 2005 年 3 月 31 日に保証有限責任会社⁶の形態で法人化、2005 年 6 月 3 日にはチャリティー団体としての登録をしている。保証有限責任会社であることから、投票権を持つメンバーは、会社の保証責任を負うが、その額は 1 ポンドに制限される。

TrentDSDC の収入額は 2012 年 3 月期で 98,069 ポンドである。収入の内、61,309 ポンドは英国保健省からの資金であり、26,327 ポンドが技術戦略委員会 (Technology Strategy Board) からの資金となっている。その他、認知症のトレーニングコース、Web サイトの広告収入を得ている。

従業員数は 2 名である。

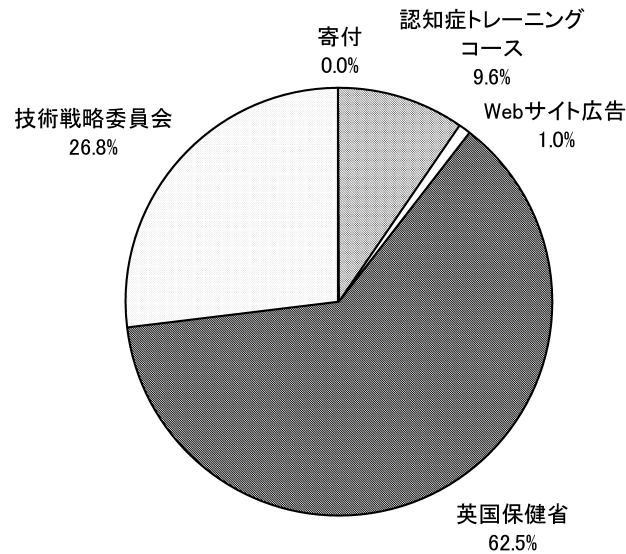
TrentDSDCの収入額推移



(注) 各年3月期

⁶ 社会的企業の形態の一つ。

2012年3月期の収入内訳



TrentDSDC では、認知症を患っている者の為の支援技術について情報提供するサイトとして、AT Dementia を運営している。AT Dementia では、専門家や介護者、認知症者などを対象に、以下の情報提供を行っている。

- 支援技術とは何か
- 資源技術は認知症者の自立をどのように支援するのか
- 入手可能な製品
- 利用事例
- 倫理指針

(2) 取扱商品

AT Dementia では、以下の4つのカテゴリーに分けて商品を紹介している。認知症者本人や家族等を支援するための商品が幅広く紹介されている。

取扱商品の分類

○Prompts and reminders :

視覚や言語、音声による合図により記憶を呼び起こす機能を果たす製品。

- ・日付、時刻
- ・モノの場所
- ・薬リマインダー、薬ディスペンサー
- ・ボイスレコーダー
- ・サイン

○Leisure :

娯楽を楽しむことを可能にする、容易にするための製品。

- ・ PC 利用支援機器（音声認識ソフト、画面拡大スクリーン、大型プリントキーボード等）
- ・ TV、ラジオ、音楽（リモコン、シンプルラジオ）
- ・ 書籍、写真、回想用グッズ
- ・ ゲーム

○Communication :

コミュニケーションを支援する製品。

- ・ インターカム
- ・ 電話（写真ボタン電話、大型ボタン電話等）
- ・ コミュニケーション支援機器（トーキングマット、サイン等）

○Safety :

家庭内での安全性を向上させる製品。

- ・ アクティビティセンサー
- ・ アラーム、緊急電話
- ・ 転倒検知
- ・ 漏水検知、水温モニター
- ・ ガス、一酸化炭素、煙、高温検知
- ・ 照明
- ・ その他、安全対策機器
- ・ 徘徊対策機器（位置検知、動作検知）

(3) 購入方法

AT Dementia で商品を購入することはできない。

AT Dementia では、それぞれの商品について、製品概要、価格とともに、どこで購入できるのかに関する情報を提供している。Web サイト内に表示された「Buy this product」というリンクをクリックすることにより、販売サイトや製品メーカーのサイトにアクセスできる。これらの販売サイトで購入したり、製品メーカー等に問い合わせで購入したりすることとなる。

尚、Web サイトで紹介している商品について TrentDSDC では検証していないことや品質等を保証していないこと等を注意書きしている。

また、Web サイトで提供しているのは一般的な情報であるため、個々の利用者にとって適しているかどうかはわからない。そのため、製品を決定する際には健康やソーシャルケアの専門家の助言を得ることを勧めている。

サイトでは、支援技術（assistive technology）の入手方法に関する情報提供を行っている。支援機器は個人で購入することも可能だが、その他にソーシャルケアサービスや NHS から提供される可能性があること、住宅サービス事業者による支援が得られる可能性があることを紹介している。

例えば、NHS では支援技術やテレケアサービスについて、アセスメントの実施後、継続的なヘルスケアプログラムの一部、又は中間ケアサービスとして提供することがある。提供を受け

るための条件は地域によって異なるため、住居地域の看護師や作業療法士に問い合わせをすることを勧めている。

商品紹介ページの例

Enter search term **Search** [Help support this site](#) [Donate now](#)

About assistive technology
Research and development
Find a product
Supplier directory
Frequently asked questions
News & events
Training
Discussion forum
Useful links
About this site

You are here:
Home > Find a product > Prompts & reminders > Item locator devices > Smartfinder V3 Key Finder

Product information | Product specification | Product reviews | [Back to search results](#)

Stand alone
Smartfinder V3 Key Finder

Description
The Smart Finder is a remote control device with four colour coded receivers which can be attached to things like keys, wallets, mobile phones, hand bags, TV remotes. The remote control transmitter can send a radio signal through walls and floors to activate the 85 decibel alarm on the receiver, locating items up to 30 metres away. Provided with a sucker hook so you can hang remote on fridge, window, any flat surface so you don't lose it! * Low battery warning. 4 double sided adhesive pads provided for sticking the receivers to remotes, phone etc. The receivers have an individual tone for each one.

Where to buy this product

Smart Finder
Upperdale House
Gladstone Way
Hawarden
CH5 3HF
Phone: 01244 509727

NO IMAGE AVAILABLE

£22.95 (incl VAT)

[Buy this product](#)

This site is managed by
Tren DSDC
Tren Dementia Services Development Centre
Registered Charity No. 1109855

[Print this page](#) [Back to top](#)

クリックして表示される販売サイトの例

YOUR ACCOUNT | LOG IN (USER) | SHOPPING CART (EMPTY) | OPTIONS (GB) | 01978 855 509

GADGETS UK

HOME & KITCHEN | HOBBY&LEISURE | TRAVEL | GADGETS | WEATHER | HOT DEALS | MOVEMBER

Home > GADGETS > SmartFinder Key finder

SMARTFINDER KEY FINDER
£ 25,00

Keep losing your keys and other important items? This handy pocket sized device can help you find lost keys and other important items quickly.

Easy to use - it simply attaches onto keyrings, purse, handbag, or even onto the remote control.

[More details](#)

Type:
 Single
 Multi
 Valet

Quantity: Reference: 0705105291413

[ADD TO CART](#)

Smart Finder

[View full size](#)

4. Alzheimer's Society

(1) 運営主体

運営主体はチャリティー団体の Alzheimer's Society である。

運営団体名	: Alzheimer's Society
所在地	: Devon House, 58 St Katharine's Way, London E1W 1LB
URL	: http://shop.alzheimers.org/

Alzheimer's Society は、イングランド、ウェールズ、北アイルランドで認知症の影響を受けている人の QOL の向上を目的として活動する会員組織である。

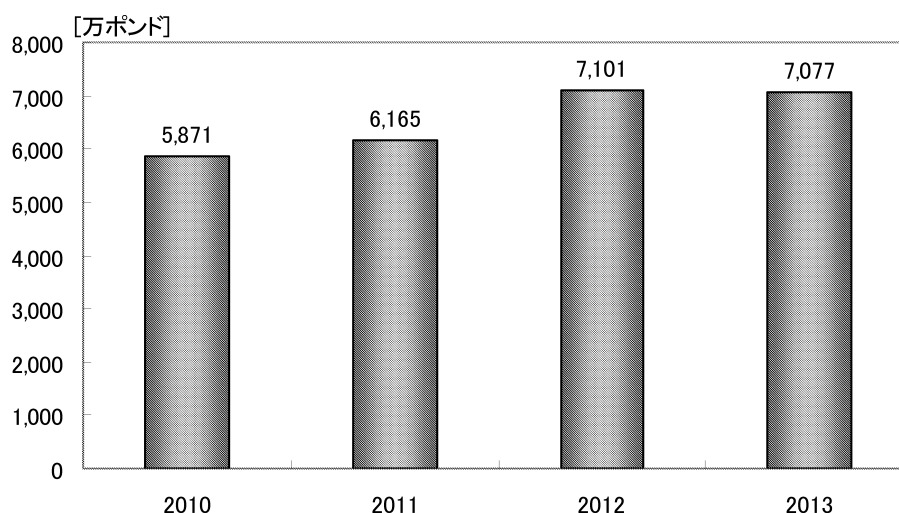
1979 年に認知症を患った家族のケアに関して豊富な経験を持った者 2 名により、認知症への認知を高め、ケアの質を向上し、認知症者と家族に情報提供を行う必要性に関する議論がなされ、Alzheimer's Disease Society が設立された。1999 年に Alzheimer's Society と改称している。

会員向けに機関誌を提供することや、地域事務所で同様の状況の人と会合する機会を設けることなどが行われている。年会費は定められていない。支払える範囲で会員が自ら年会費を設定する。会員登録画面では、年会費として 50 ポンド、30 ポンド、25 ポンド、20 ポンド、その他の選択が行えるようになっている。約 2 万人の会員の多くは、認知症者本人、介護者、医療専門家等である。

Alzheimer's Society の収入額は 2013 年 3 月期で 7,077 万ポンドである。2012 年 3 月期の収入は 7,101 万ポンドであり、収入には、英国保健省からの助成金 155,000 ポンド、North of Tyne NHS からの助成金 92,000 ポンド等が含まれる。

2012 年 3 月期の平均従業員数はフルタイムが 785 名、パートタイムが 1,317 名である。

Alzheimer's Societyの収入額推移



(注) 各年3月期

(2) 取扱商品

Alzheimer's Society で取り扱われている商品は、7つの商品分野に分類されている。その内の日常生活用品では、認知症者の日常生活を支援するための商品等が販売されている。

その他には、クリスマスカードやアクセサリ、ギフト商品等が取り扱われている。

主な取扱商品の例

	<p>電波式掛け時計 価格：15.95 ポンド</p>
	<p>ワンボタンラジオ ラジオ局を選択後、カバーをすることで、ラジオのオン・オフ以外の操作が行えないようにしたラジオ。 価格：85 ポンド</p>
	<p>ロックライト 夜に鍵穴を探すときに、鍵から明かりをともすことができる。 既存の鍵に簡単に取り付けることができる。 価格：5.99 ポンド</p>
	<p>大型ボタン電話 ワンタッチメモリボタンと、フォト ID ボタンを有する電話機。 価格：29.99 ポンド</p>

取扱商品分野

- クリスマスカード
- クリスマスアクセサリー（ギフトバック、キャンドル、リボン等）
- 日常生活用品
 - ・飲食用品（エプロン、滑り防止テーブルマット、2ハンドルカップ・ポット等）
 - ・入浴、睡眠用品（滑り防止バスマット、ノーリンスシャンプー、シャンプーキャップ、ネックウォーマー等）
 - ・活動、感覚刺激（ワンボタンラジオ、ゲーム、写真集等）
 - ・時計
 - ・安全支援（センサー付き照明、滑り防止テーブルマット、2ハンドルカップ・ポット等）
 - ・リマインダー（記憶リマインダー、薬リマインダー等）
 - ・電話
- Alzheimer's Society ブランド商品
- ギフト商品
- 書籍
- CD、DVD

(3) 購入方法

商品はカテゴリー別に分類されて掲載されている。同サイトで紹介されている商品はオンライン上で購入できる。オンラインだけではなく、電話で注文することも可能である。電話での注文は、月曜から金曜の午前8時から午後8時、土曜、日曜の午前9時から午後6時の間、受け付けている。

英国向けの送料は、購入額 10 ポンドまでは 2.95 ポンド、10 ポンドから 45 ポンドまでは 4.95 ポンド、45 ポンド以上は無料となっている。海外から注文する場合には、カスタマーケアセンターに電話することにより、送料を知ることができる。

送られてきた商品が配送中に破損していたり、品質に満足できなかつたりした場合には、商品を受領してから 28 日間内は返品することができる。その場合、商品の取替えまたは返金をしてもらうことができる。

その他、パートナーが提供する商品が紹介されている。パートナーの商品は、Alzheimer's Society のオンライン販売サイトでは購入できず、それぞれのパートナーの Web サイトで購入することとなる。

商品紹介ページの例


Back to alzheimers.org.uk Search shop... Go

Leading the fight against dementia

Alzheimer's Society

Online Store

You are here: Home > Branded Products > Dementia Awareness Mug

Christmas Cards 

Christmas Accessories

Daily Living Products

Branded Products


Gifts

Books

CDs and DVDs

Special Offers

Shop with our Partners

Wedding Favours 

Hello and welcome to the Alzheimer's Society Online Store


Your basket
0 items

Dementia Awareness Mug
Category: Branded Products

£5.00

Quantity
1

This item is in stock

Add to Basket 


Dementia Awareness Mug.
Limited edition mug to celebrate Dementia Awareness Week 2013

Click here if you'd like to purchase 10 or more of these mugs at an introductory 10% discount


Tell a Friend

M
f
t
e
+

11



注文商品表示画面の例

Back to alzheimers.org.uk Shop Delivery Contact Us Basket  Search shop... Go

Leading the fight against dementia

Alzheimer's Society


Online Store

Hello and welcome to the Alzheimer's Society Online Store

Your basket 1 item £5.00 >

Please review your basket

You can review your basket contents before checking out. To make any changes please update the items below.

	Dementia Awareness Mug Dementia Awareness Mug	— 1 +	£5.00	£5.00	Remove
-------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------	-------	-------	-------	--------

Click to show related items

Tax inc (20%)	£0.83
Total	£5.00

[Continue](#)

5. 諸外国における販売ルート調査のまとめ

アメリカ、イギリスでは、認知症グッズを総合的に購入できるサイトが存在していた。

イギリスでは、NHS から財政支援を受けている団体が、認知症者や家族等を支援するための商品を幅広く紹介する Web サイトが作られていた。このサイトでは購入はできないものの、他の販売サイトや製品メーカーのサイトへリンクされており、リンク先で購入や問い合わせができるようになっていた。

	Alzheimer's Store	Alzheimer's Association	AT Dementia	Alzheimer's Society
	米：ジョージア州	米：イリノイ州	イギリス	イギリス
運営主体	Healthcare Products, LLC	Alzheimer's Association (非営利のボランティア団体)	Trent Dementia Services Development Centre (チャリティー団体)	Alzheimer's Society (チャリティー団体)
特色等	認知症グッズを総合的に購入できるサイト。	認知症者向け商品は限定的。認知症者支援団体としてのグッズ販売、寄付集め	販売は行っておらず、商品を紹介するページ（製品概要、価格とともに、どこで購入できるのか等の情報提供） 英国保健省からの財政支援を受けている団体が運営。	イングランド、ウェールズ、北アイルランドで認知症の影響を受けている人の QOL の向上を目的として活動する会員組織が運営。会員数は約 2 万人
取扱商品	21 の商品分野	衣料品やホームグッズ等、 Alzheimer's Association のオリジナル商品	認知症者本人や家族等を支援するための商品が幅広く紹介されている。	7 つの商品分野。その内の日常生活用品では、認知症者の日常生活を支援するための商品等が販売されている。 その他には、クリスマスカードやアクセサリー、ギフト商品等が取り扱われている。
購入方法	全てオンラインで購入可能。電話注文も可能。 国外からも購入可能	オンラインで購入可能。一部は、パートナーの Web サイトで購入可能	販売サイトや製品メーカーのサイトにリンクされている。これらの販売サイトで購入したり、製品メーカー等に問い合わせる購入したりすることとなる。	オンラインで購入可能。電話注文も可能。国外へも発送可能。 一部、パートナーの Web サイトで購入可能

第3章 シンポジウム実施結果

1. 開催概要

(1) 目的

認知症高齢者等にとって有用なグッズ等の開発、普及に貢献するために、今回の事業の成果等に関するシンポジウムを開催した。

(2) 日時

平成26年3月2日（日） 13:30～17:00

(3) 場所

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 24階 セミナー室・大会議室

(4) 対象者

- ・福祉用具の製造事業者、販売事業者等
- ・作業療法士等の専門職、地域包括支援センター職員、ケアマネジャー等
- ・利用者／等

(5) 参加人数

87名

（ただし、展示メーカー等の参加者を一部除く）

2. プログラム

開始時間	内容	講師
13:30	開会	
13:35	①基調講演 「認知症施策の動向について」	厚生労働省 老健局高齢者支援課 認知症・虐待防止対策推進室 室長補佐 翁川純尚
13:55	②福祉機器開発の実際 「厚生労働省の施策 ～介護ロボットについて～」	厚生労働省老健局振興課 福祉用具・住宅改修指導官 宮永 敬市
14:10	③支援機器を用いた認知症者の自立支援手法の開発 「支援機器を用いた認知症者の自立支援手法の開発」	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長 井上 剛伸
14:25	④現場からの報告 「自立支援機器活用事例 ～『できる力』を支えるために～」 「現場からの報告 ～作業療法士の視点から～」 「現場からの報告 ～現場の工夫で作成された手作り便利グッズの紹介～」 「誰でも望めば住み慣れた自宅で暮らし続けられるために」	<ul style="list-style-type: none"> ・世田谷区若林地域包括支援センター 看護師 伊藤 光世 ・公益財団法人積善会 曾我病院 作業療法士 佐藤 良枝 ・NPO 法人杉並介護者応援団 理事長 北原 理良子 ・い内科クリニック 院長 井 益雄
15:10	⑤本事業の研究成果 「介護が必要な方、認知症の方を介護されているご家族を対象としたアンケート調査結果」	三菱UFJリサーチ&コンサルティング 主任研究員 鈴木 陽子
15:25	⑥展示品・展示企業のご紹介	三菱UFJリサーチ&コンサルティング 研究員
15:30	休憩（30分） 機器展示	
16:00	⑦パネルディスカッション （質疑応答）	<p><コーディネーター> 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長 井上 剛伸</p> <p><パネリスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホーム平成園 施設長 栗林 孝得 ・サンビレッジ瑞穂 施設長 玉城 栄之功 ・日本電気株式会社 リユースプラットフォーム 統括本部 大中慎一 <p>ほか②～④の講師</p>
17:00	閉会	

○開会

国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長 井上剛伸氏



①基調講演

厚生労働省 老健局高齢者支援課認知症・虐待防止対策推進室 室長補佐 翁川純尚氏



②福祉機器開発の実際

厚生労働省老健局振興課福祉用具・住宅改修指導官 介護支援専門官 宮永敬市氏



③支援機器を用いた認知症者の自立支援手法の開発

国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長 井上剛伸氏



④現場からの報告

・世田谷区若林地域包括支援センター看護師 伊藤光世氏



・公益財団法人積善会 曾我病院作業療法士 佐藤良枝氏



・NPO 法人杉並介護者応援団理事長 北原理良子氏



・い内科クリニック院長 井益雄氏



⑤本事業の研究成果

三菱UFJリサーチ&コンサルティング主任研究員 鈴木陽子氏



○休憩 (30分) 機器展示



⑦パネルディスカッション

<コーディネーター>

国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長 井上剛伸氏

<パネリスト>

- ・厚生労働省老健局振興課福祉用具・住宅改修指導官 介護支援専門官 宮永敬市氏
- ・世田谷区若林地域包括支援センター看護師 伊藤光世氏
- ・公益財団法人積善会 曾我病院作業療法士 佐藤良枝氏
- ・NPO 法人杉並介護者応援団理事長 北原理良子氏
- ・い内科クリニック院長 井益雄氏
- ・社会福祉法人雄勝福社会特別養護老人ホーム平成園施設長 栗林孝得氏
- ・社会福祉法人新生会サンビレッジ瑞穂施設長 玉城栄之功氏
- ・日本電気株式会社ソリューションプラットフォーム統括本部 大中慎一氏



パネルディスカッションの発言要旨は以下の通りである。

現場からの報告、本事業の研究成果の発表を受けパネルディスカッションを行った。パネルディスカッションでは、誰のために機器を利用するのか、機器利用の主体は利用者であるといった考え方が必要であること、機械開発メーカーと介護現場で抱えている問題は異なっているため、それを調整する機関があるとよいといった提案がなされた。また、機器を利用することによって、認知症者が自分でできるという自信をもつことによって豊かな生活をするのが可能になる。そのためにも機器の利用を推進されることが望まれているが、機器の広報についてはインターネットが有効ではあるが、インターネットを利用したことがない人に対してどのように広報するかは検討する必要があるといった課題が提示された。

【地域での取り組み】

- ・様々な行事を地域の人と共同で企画し、当施設も町内の一員として諸行事に参加している。それらの行事を通じて介護を受けているお年寄りの姿が広く目に入るようになる。お年寄りの姿が目に入ると、お年寄りが困っていると助けるといった関係性を築くことが可能なのではないかと。これまでは介護を必要としている人を保護的にかくまっては、その人の

存在が見えない透明人間のように隠していた感があるが、これからは彼等の生活振りが見える透明性が重要だろう。介護や生活の様子が見えることによって、認知症に対する対応も変わってくるのではないか。(栗林氏)

- ・「情けは人のためならず」という言葉があるが、他人にかけた情けがやがては巡り巡って自分のところに回ってくるような雰囲気期待、互助もそうだが今後は互酬社会を築いていけるような仕組みが必要ではないか。(栗林氏)
- ・在宅サービスと施設サービスの一元化を目指している。例えば、認知症の BPSD に伴う混乱により、在宅で生活することができないが、その問題を解決することにより、在宅で生活を継続することができる場合、一定期間施設に滞在してもらい施設の中で、その方に必要な介護の量の見極めを行い、在宅のケアマネジャーにつないでいる。これは、困っているところを手助けできていないという葛藤から生まれたサービスである。(玉城氏)

【機器利用の主体は誰か】

- ・世の中にどういった機器があり、それを使用することにより、どのような生活が待っているのかということが知られていない。本人や家族が自分らしい生活をする上で役に立つ物がすぐにわかり、どういう使い方をすればどんな生活が待っているのかがわかるとよい。今は、本人や家族が主体的に選択することがないように思われる。(宮永氏)
- ・福祉用具を使うのは本人や家族だが、主体は利用者である。(宮永氏)
- ・これまでの施設は、職員が主体で、職員の勤務に合わせて利用者の生活をつくってきた。しかし今は、これを変えようとしている所がでてきている。(栗林氏)
- ・機器を利用する主体は誰なのか、考え方を変換することが重要ではないか。(井上氏)

【機器開発メーカーと介護現場をつなぐ機関】

- ・私たちが何を必要としているかは、その場にならないとわからないことがかなりある。(栗林氏)
- ・機器開発メーカーと介護関係者の間での意識のギャップが大きい。機器開発メーカーとしてボランティア精神で様々なことに取り組むことは可能だが、採算がとれるビジネスにはならない。それが一番の問題である。(大中氏)
- ・機器開発メーカーと介護関係者をつなぐ独立した組織が関係者をつないでくれるとよい。機器を使用する場合、手間がかかるため、恐らく苦勞している人も多い。その際に、メーカーから委託を受けたある機関から介護のノウハウがある人が、機器と一緒に派遣され、機器の導入にあたるというようなことができたらよい。そういった組織が必要なのではないか。(大中氏)
- ・機械メーカーで、補助の有無、人的支援の有無などについて情報が無い。そのため、どこまでの性能をもった機器をつくったらよいかを判断することができず、検証することも難しい。(大中氏)
- ・介護の現場では今問題だから、すぐ解決して欲しいが、機器開発メーカーとしては、採算を考えなくては行けない。現場と機器開発メーカーの間に第三者的なつなぐ機関があったらどうか。(井上氏)
- ・事業化の方法については、在宅で介護が行われている場合は、比較的考えやすい。その場合は、介護者の方が楽になるものをリーズナブルな値段で提供すればよい。導入と、モニタリングでの工夫は必要だが、通常のビジネスに近い。(大中氏)
- ・今後、家族等の支援がない独居の高齢者が問題となる。機器を使用するためには人が必要であ

る。そのため、機器を導入する際には、人も必要となる。特に、導入当初は、かなり人手が必要である。(大中氏)

- ・早期の認知症者が増えると、人手は不足する。そこで、「ここは機械でやりましょう。ここには幾らぐらいの財源があてられます。ここにはこれぐらいの人があてられます。だから、これぐらいの効果が出るようなものをつくってください。」というように枠を決めて機器を開発していくことにより、目標設定をすることができる。(大中氏)

【自分でできるという自信】

- ・機器を使用して生活を豊かにし、自分でできることを増やして、自分のことは自分でできるという自信をいかに介護の中で掲げていくかが最終的な課題ではないか。(宮永氏)
- ・一つでも自分でできたと実感するものがあると、自信を持てたり、元気になったりする。これはとても大事なことである。そのためにも機器を使用して欲しい。(伊藤氏)

【機器の広報・導入について】

- ・福祉機器を活用することに対して不安が少なく、試してみた時の成功率が高いのは、MCI あるいはそれ以前の方である。彼等にきちんと情報を届けることによって、より長く自分らしく暮らすことに寄与することが可能となる。情報を届けるためには、インターネットに対して比較的抵抗感が少ない世代では、インターネットが一番 PR の場になるのではないか。しかし、もう少し上の世代は、インターネットを使ったことがない。60 代後半～70 代前半ぐらいで、元気で、地域の自治会活動などにも取り組んでいるが、時々薬を飲み忘れてしまうような方に対しての PR が必要だが、現状では PR をする場がない。(佐藤氏)
- ・本シンポジウムで聞いたこと、感じたこと、知った機器をどういった対象者であればつなげる可能性があるのかということを見極め、やみくもにつなぐだけではなく、その人にとって必要な機器が何であるのかということをどのように見極めていくのかを少し整理しながら相談援助に当たっていけるとよい。(玉城氏)
- ・今後、認知症もしくは独居、あるいは家族がいても、昼間は仕事をしている人たちのために、人の手が届かないところについて機器で補うことが可能となる。(井氏)
- ・専門職につながっている方はよいが、全体から見れば一部である。専門職につながっていない、つなげることすらできない方が多い。(北原氏)
- ・これまでの機器は介護者中心だと言われていた。確かに介護者にとって便利でなければ使いにくいということもあるが、我々も要介護になる前に、機器が必要になった際、どのように導入してもらったらよいのかについて考えておく必要がある。(北原氏)
- ・便利な機器を導入するためにも、介護保険が使えるようにして欲しい。(北原氏)
- ・公的な制度はどこかで線を引き必要がある。(宮永氏)

3. 機器展示

認知症の方に日常生活支援に有用と考えられる以下のような機器、用具について、展示を行った。

【展示品】

- ・服薬支援グッズ（2種類）
- ・時計（3種類）
- ・止め忘れ・やけど防止機能等付時水栓（1種類）
- ・探し物発見器、置き忘れ防止アラーム（3種類）
- ・記憶補助・回想&センサリー（感覚刺激）関連グッズ（7種類）
- ・ヒーリング人形/コミュニケーションロボット/見守りシステム（7種類）
- ・機能付車いす（1種類）
- ・その他便利グッズ（5種類）

4. 参加者アンケートの結果

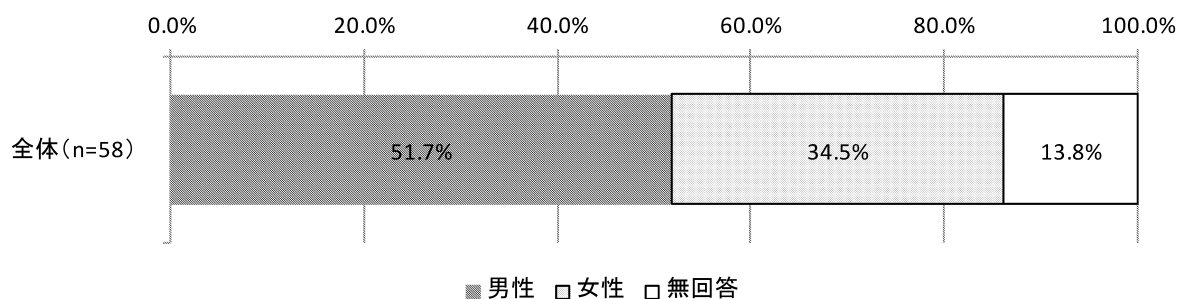
シンポジウム会場にて、参加者を対象として、シンポジウムに関する意見等をたずねるアンケートを実施した（直接配付・直接回収）。回収数は58件だった。

(1) 回答者の属性

①性別

アンケートの回答者の性別をみると、「男性」が51.7%、「女性」が34.5%であった。

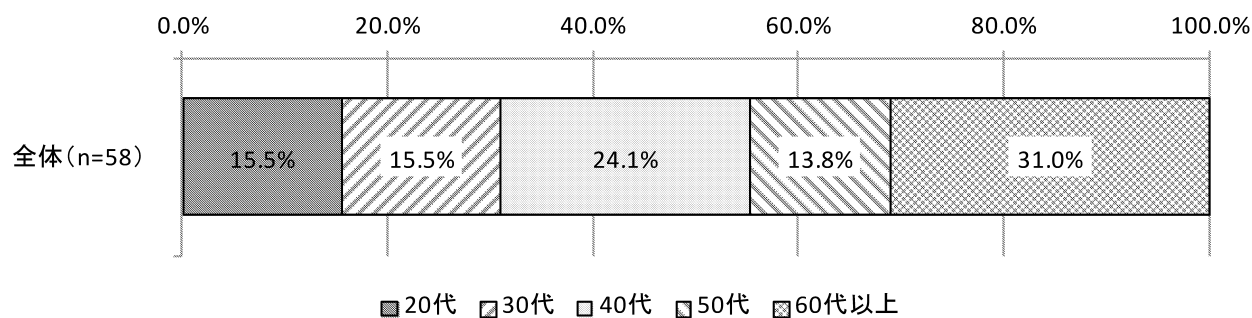
図表81 性別



②年齢

年齢をみると、20代が15.5%、30代が15.5%、40代が24.1%、50代が13.8%、60代が31.0%であった。

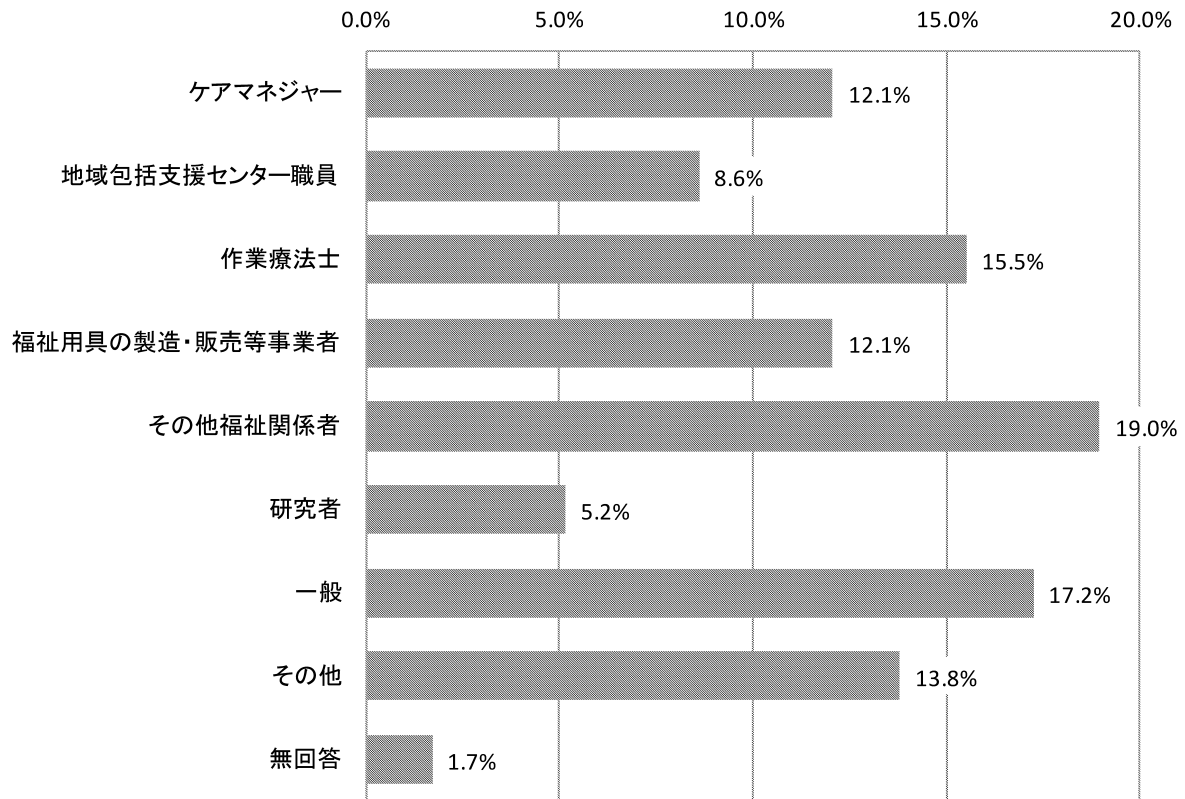
図表82 年齢



③職種

参加者の職種をみると、「ケアマネジャー」が12.1%、「地域包括支援センター職員」が8.6%、「作業療法士」が15.5%だった。「一般」の方の参加も17.2%あった。

図表83 職種 (n=58) 複数回答

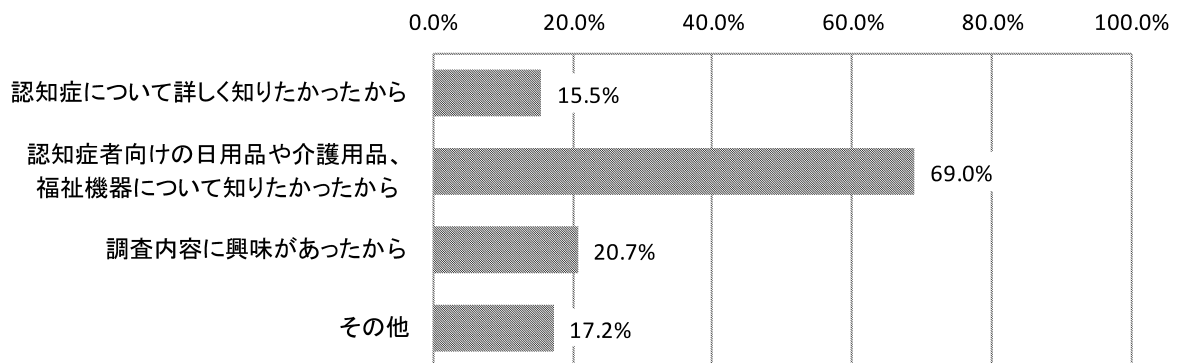


(2) セミナーについて

①セミナーに参加したきっかけ

セミナーに参加したきっかけをみると、「認知症者向けの日用品や介護用品、福祉機器について知りたかったから」が約7割を占めた。

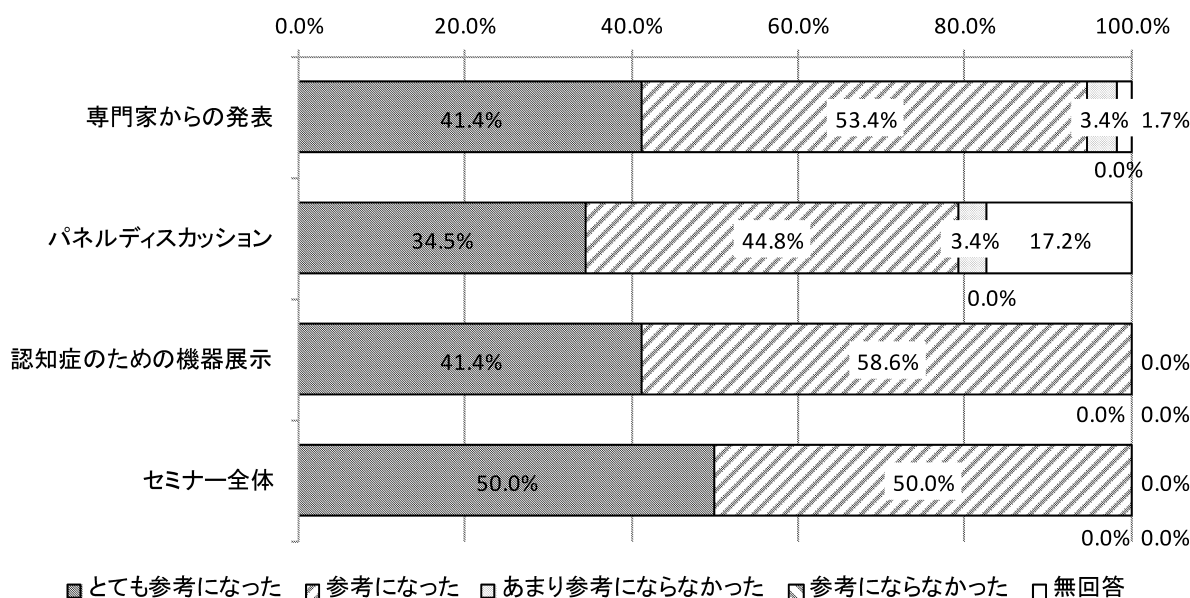
図表84 セミナーに参加したきっかけ (n=58) 複数回答



②セミナーの内容の満足度

セミナーの内容の満足度をみると、「専門家からの発表」では「参考になった（「とても参考になった」と「参考になった」の合計）」が9割を超えた。「パネルディスカッション」では「参考になった」は約8割にとどまった。「認知症のための機器展示」及び「セミナー全体」は全員から「参考になった」と回答があった。

図表85 セミナーの内容について (n=58)



③展示や紹介された認知症者向けの日用品や介護用品、福祉機器について

展示や紹介された認知症者向けの日用品や介護用品、福祉機器について使用意向（本人や家族へのすすめたいか）については以下の通りであった。

図表86 展示や紹介された認知症向けの日用品や介護用品、福祉機器についての使用意向

●現在使用している（本人やご家族にすすめている）もの：5件

ヒーリング人形/コミュニケーションロボット

時計

アラーム

●今後使用したい（本人やご家族にすすめたい）もの：31件

服薬支援（7件）

電子時計、電子カレンダー（7件）

自動節水器（6件）

コミュニケーションできる人形（3件）

探し物発見器（2件）

自動的にブレーキがかかる車椅子（2件）

五感に働きかけるグッズ（2件）

●使用したい（本人やご家族にすすめたい）ものはなかった：3件

(3) どのようなものがあればいいか

どのようなものがあればよいかについては以下のような意見があった。

図表87 どのようなものがあればいいか

【具体的な商品】

- 徘徊したくなくなる機器（父で苦労しましたので）（女性/40代/ケアマネジャー）
- 会話が出来るロボット（男性/60代以上/一般）
- 会話ロボット、探し物発見器（男性/60代以上/一般）
- エアコンは、どんな家にも付いているレベルまで普及しているが、認知症になると、リモコンが適切に使えず、猛暑の日に暖房にしてあったりする。リモコン機だけで簡単操作なものにできないか。（男性/60代以上/その他）
- ガスコンロに自動停止機能があるとよい（自動水洗器のようなもの）（女性/60代以上/その他福祉関係者）
- 電子カレンダー（女性/60代以上/ケアマネジャー）
- 日付、時刻だけではなく、見当識をサポートする音声あるいは視覚情報機器。ロボットも良いとは思いますが。認知症の能力・機能に合わせたコンテンツ。（男性/40代/作業療法士）
- 目覚まし時計にラジオが付いていたらいい（男性/40代/作業療法士）

【周知方法】

- 福祉機器を使用した結果の web での状況把握など（男性/60代以上/その他）
- 機器の使用者モデルの提供し、利用者の成功使用事例を当事者から公的（市町村の）イベントで発表してもらおう。（-/60代以上/-）
- 杉並介護者応援団様の手作りグッズがとても良かったです。これらのグッズをまとめた書籍などあれば在宅の方に役立つと思う。服薬グッズに関しては粉薬にも対応すれば便利。（男性/20代/その他福祉関係者）
- こうした日用品・機器の紹介サイト・及び事例（口コミ）紹介サイトがあれば、ちょっとした相談や悩みの解決の糸口になるのでは。（女性/30代/一般）

【専門職について】

- 専門職が各々スキルを上げていく事が一番重要だと考える。（男性/30代/ケアマネジャー）
- 私はソーシャルワーカーの社会人大学院生ですが、実際にソーシャルワーク系の大学院とも組んで、QOL 向上の質的研究とか、アセスメントや倫理綱領をどうするかとかも併行して研究できれば、さらに普及は加速すると思います。（-/40代/その他福祉関係者）
- その方によってニーズが違う。まずはアセスメントが大事だと思いました。なければ作っていくくらいのモチベーションで。（女性/20/福祉用具の製造・販売等事業者代）

【その他】

- 介護の具体的な経験がないのでわからない（男性/60代以上/その他）
- 今日紹介のあった認知症高齢者の方が自立して生活するのを支援するためのものが、安価又は介護保険が適用になると良いと思いました。（女性/60代以上/ケアマネジャー、地域包括支援センター職員）
- 福祉機器のデザインがハイカラ（←古い言い方ですが）ではないでしょうか。復刻版のような昔懐かしい形ならより親しみやすいと思います。（女性/50代/一般）

(4) 要望

要望については以下の通りとなった。

図表88 要望

【参考になった】

- このようなセミナーに参加したい。(男性/60代以上/その他)
- 多職の方の多様な意見を伺う事ができ大変参考になりました。(女性/20代/一般)
- 普及させるために必要なことは何かに絞った議論が続編としてであると良いです。(男性/40代/一般)
- 良い機会を頂戴しました。ありがとうございます。(女性/30代/一般)
- とても参考になりました。今後の進歩を期待しています。(男性/40代/作業療法士)
- 今後も積極的に参加し、考えて行動に移す機会をつくろうと思います。ありがとうございます。(女性/20代/福祉用具の製造・販売等事業者)

【機器の活用について】

- 感想：認知症の早期発見・早期対応といわれる中に、MCI や早期の認知症の方むけの日常生活用具について、発想がありませんでした。でも、確かに早期であれば今回の用具を利用することで自立できるのだと眼からうろこでした。(女性/50代/地域包括支援センター職員)
- 用品、機器の情報を一括して見ることができるものがあるのか。なければ、そういうものがあれば便利になるかと思う。(男性/20代/その他)
- 普及のための工夫が大切だと思います。スーパーやコンビニに期待しています。今日はありがとうございました。(女性/40代/ケアマネジャー)

【制度への要望】

- 国から県、市町へ改定で権限委譲されていますが、(国が言う程)多くの市町は理解してはいないでしょう。(女性/40代/ケアマネジャー)
- 福祉機器利用効果算定基準が欲しい(男性/60代以上/その他)
- 医療の世界はこういう症状ならこういう福祉機器を使おうといったプロトコルはできて普及しやすい標準化はできると思うが、介護福祉領域は「組織としての対応力を高めるスーパービジョン」を普及させて社会システムとして、ゆるやかな標準化が統括されるよう(スーパービジョン)にしないと担当者個人の力量任せでは日本の福祉の現状では、経済的虐待にもつながると思う。(一/40代/その他福祉関係者)

【その他】

- 杉並介護者応援団が発表した手作りグッズは参考になった。あのような品々の発表の機会をもうけて奨励すれば、地域で近所のお年寄りのために手作り会などができ、近所活性化になる。(男性/60代以上/その他)
- 今回のようなもの(セミナー展示)を地域の人、介護者、今後介護を受ける人に聞きたい。排泄機器の使用事例がなかったのが残念だった。アニマルセラピー(これをPRするのは犬や猫でないのはなぜか。年代がもう少したつとアザラシでよいが。(女性/60代以上/その他福祉関係者)
- 携帯みたいにガラパコス化しないで世界標準もしっかりとお願いします(一/40代/その他福

社関係者)

- 一般的な方は身体的な機能低下にはジム等に通ったりするが、脳機能ジム等はありません。認知症になる前か MCI の方には、認知症予防リハが必要であると思いました。ジムに脳トレを活用したり、それこそ NHK の体操に加えてもらう事が一番有効と思いました。(男性/40代/作業療法士)

第4章 まとめ

ここでは、本調査研究を通じて分かったことや今後の課題についてとりまとめる。

1 グッズ、日用品等の意義

本事業において、認知症高齢者等を介護している家族で、デジタルカレンダーを利用している人にインタビューを行ったところ、本人の予定や家族の予定を自分で確認することができることで、本人が不安を感じることを軽減し、自立支援をできていたことが分かった。また、認知症高齢者等から予定を繰り返したずねられることがなくなることで、家族の介護負担の軽減にもつながっていた。

また、アラーム付き薬入れを利用している別の家族の場合、飲み忘れ、飲みすぎを防止することができているという効果が評価されていた。

適切にグッズ・日用品等が使われれば、認知症高齢者等自身ができることが増え、自立につながる。また、BPSDを減じる効果が示されている機器もある。介護負担を軽減する効果が期待される場所である。

2 グッズ、日用品等に関する現状、課題

ただし、認知症高齢者等の利用に資すると考えられるグッズ、日用品等の現状については課題もある。

○認知症高齢者等に必要なグッズ・日用品等がない

まず、アンケートでは、介護者自身や仲間などで工夫してグッズや日用品を手作りした経験のある人が2割弱いた。その理由をみると、4割程度が「適当なものがなかったため」と回答していた。認知症高齢者等向けのグッズ・日用品等について、まだまだ十分な種類・内容の商品が準備されているとはいえない状況であると考えられた。

○認知度が低い

また、既存の認知症高齢者等の利用に資すると考えられたグッズのうち、「①服薬を支援するための商品」「②曜日や時間を把握しやすいよう配慮した時計」「③操作しやすい電話」「④操作しやすいテレビリモコン」「⑤止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓」「⑥自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロ」「⑦探し物発見器、置き忘れ防止アラーム」「⑧コミュニケーションのできる人形」について、アンケートで認知度をたずねた。おおむね認知度は2割程度のものが多く、一般には知られていないことがうかがえた。

○販売ルートが限られる

認知症高齢者等向けのグッズ、日用品等の販売ルートについて、アメリカやイギリスでは専門に取り扱っているインターネット販売サイトがあったが、日本では介護用品を扱う中で一部取り扱うといった方法が多く、インターネットでの専門の販売サイトは見つからなかった。また、一部のネット販売者や百貨店に、販売についての現在の対応や今後の意向等をたずねたものの、必

ずしも認知症高齢者等向けのグッズや日用品を販売することに関心は高くなく、積極的な対応意向は確認できなかった。

販売ルートが限られる中では、商品を必要とする認知症高齢者等やその家族が入手することは難しいと考えられた。

○専門職への相談意向がある

さらに、グッズ・日用品等の購入にあたって、アンケートでは、ケアマネジャーに相談したいとの声が多数あった。ヒアリングによれば、認知症高齢者等の家族は、認知症であることを受け入れられず、便利な福祉用具等があっても、導入を拒む場合もあるとのことで、専門職によるアドバイス、導入支援が重要と考えられた。ただし、現状、特段の相談体制は整えられてはいない。

3 今後の方向性

上記のような課題を踏まえ、今後の方向性としては、まず、開発者と利用者とのニーズをマッチングさせていくことが必要であると考えられる。また、既存の商品の認知度を向上させ、販売ルートを確保することも必要である。さらに、購入決定や認知症の進行にあわせた利活用のためには、ケアマネジャーや地域包括支援センター職員、作業療法士などの専門職による支援があると効果的であると考えられる。なお、購入前の試用や介護保険によるレンタル等、制度的な体制作りも期待される場所である。

○開発者と利用者のニーズのマッチング

アンケートでは、認知症高齢者等の家族が困っている内容なども把握できた。「同じことを何度も聞かれる」「気の休まる時がない」という回答が多かったほか、「物忘れ」「話を聞かない、頑固」「コミュニケーションができない」「妄想、幻覚・幻聴」「食事に関する課題」「排泄に関する課題」「徘徊、道に迷う」「金銭管理」など、多岐に渡っていた。このような利用者のニーズにマッチしたグッズ、日用品等が開発されることが期待される。

○グッズ、日用品等の認知度の向上のために

また、既存の商品は認知度が低く、知られていないことが利用につながっていないとみられた。認知度が上がれば、必要な人にグッズ、日用品等が届く可能性がある。

そのための方策として、本事業において啓発シンポジウムを実施したが、参加者からは非常に好評であった。啓発シンポジウムの開催等は今後も方策として有用であろう。また、啓発の対象者としては、本人・家族のみならず、後述するが、グッズ、日用品等の使用を支援する立場である専門職において、もっと知ってもらうことが重要である。

シンポジウムの参加者からも啓発を強く求める意見があり、便利なグッズを集約したホームページの開設要望は、ヒアリング・アンケート・シンポジウム参加者のいずれからも挙げられた。国立障害者リハビリテーションセンターでは、関連のデータベースを公開しているが、今後このようなホームページの充実が必要である。

また、認知症サポーター養成講座のプログラムにグッズ・日用品等の紹介が組み込まれると効

果的であると考えられる。

○グッズ、日用品等の販売ルートについて（ユニバーサル化、インターネットでの販売）

グッズ、日用品等の販売ルートの確保に向けては、まずは、認知症高齢者等の生活を支援するグッズ、日用品等の取り扱いについて、小売店等の対応に変化がおこることを期待したい。

そのための1つの方法としては、認知症高齢者等に役立つ商品をユニバーサルに便利な商品として取り扱うということである。アラーム付き薬入れや置き忘れ防止アラームなどを紹介すると、一般の人からも使ってみたいという声があがる。また、コミュニケーションロボットも認知症高齢者等以外からも欲しい、という声がある。認知症高齢者等以外にも便利なグッズとして利用できるタイプの商品については、広く利用してもらうことができるだろう。また、一般に普及していれば、ヒアリング調査でデジタルカレンダーの利用者が家族全員で使うということで、利用に納得した例があったが、認知症になった場合でも、早期から抵抗なく利用が可能となる。この場合、認知症高齢者等専用の販売ルートを想定するのはなく、ユニバーサルな視点に立ち、一般のスーパー、ドラッグストア、量販店など、日常的に利用している場を活用するのが効果的である。ユニバーサルな商品にすることで、販売数を増やすことが期待でき、販売商品の種類を増やしたり、低価格化を進めることもできるであろう。

また、インターネットで購入できると、日本全国どこであっても、また、認知症高齢者等を介護する家族が購入するにあたっては便利であろう。アメリカやイギリスのように専門のサイトで総合的に商品を取り扱うようなサイトができることも望まれる。

○専門職による購入・活用支援

前述のとおり、購入経路は、幅広く、また身近なところにあることが期待されるが、実際の利用開始・購入決定にあたっては、ケアマネジャー、地域包括支援センターの職員、作業療法士などが専門職種として、相談に応じることが求められる。ただし、専門職種も現時点においては、認知症高齢者等にとって役立つグッズ・日用品等について十分な知識を持っているとは限らず、情報を普及させていくことも大きな課題となる。

さらに、ニーズのある認知症やMCI等の高齢者は、専門職が関与する前の段階の者が多いことも、調査検討委員会の議論から指摘された。対象となる利用者の早期発見には、社会の仕組みや体制づくりも重要である。

○グッズ・日用品等の利用のタイミング、認知症の進行にあわせた利活用支援

加えて専門職には、導入段階だけでなく、継続的な支援が期待される。

ヒアリングで指摘されたとおり、認知症状が重度になってから新しいグッズ、日用品を使い始めてもらうのは、難しいと考えられ、適切なタイミングで活用する必要がある。軽度のうちにグッズ・日用品等を活用すれば、本人の自立を支援することができる。また、認知症の進行度合いに合わせて、使用するグッズを変えたり、使い方を変えていくことが求められる。専門職種が認知症の進行状況を踏まえ、グッズ等の使い方について、的確なアドバイスを行っていくことが効果的である。

○グッズ、日用品等の購入前の試用制度

なお、グッズ・日用品等を購入する前に、実際に実物を見たり、試用できる機会も必要であろう。アンケートでも要望されていた。販売者が機会を提供したり、地域包括支援センター等の公的な窓口等を通じて、試用できる制度などがあるとよい。現在、国立障害者リハビリテーションセンター研究所では、機器の展示や貸し出しを行っているが、より多くの窓口が求められる。

○介護保険によるレンタルの可能性

アンケートによれば、利用意向について、「金額によって利用したい」という意見が多かった。ヒアリングでも年金生活を送るなか、価格が高いものを購入することへの抵抗感が強いことも分かった。

既存のグッズ、日用品等は、広く普及することに伴い低価格化が進むことを期待するものの、このようなグッズ・日用品について、状態に応じてニーズが変化するため、利用する期間が必ずしも長くないこともあり、購入は利用者にとって負担感が大きい。

岡山市では総合特区の指定を受け、最先端介護機器貸与事業を実施、コミュニケーションロボットの1つを、月額 3,000 円で利用できるようにしている。この取り組みの成果もみながら、必要な期間、レンタルで使える仕組みが準備されればなお好ましいと考えられ、介護保険制度のレンタル対象とする検討が望まれる。

謝辞

最後になりましたが、本事業では、アンケート調査、ヒアリング調査で多くの方のご協力をいただきました。また、シンポジウムにおいてグッズ、日用品等の展示に多くのメーカー、販売会社の方にもご協力をいただきました。ここに記し、感謝いたします。

資料編

【無料シンポジウム】開催のご案内

認知症の方の暮らしに役立つ福祉機器、日用品などを普及するために

開催日時	2014年3月2日(日) 13:30～17:00(開場 13:00)	定員	定員100名
会場	三菱UFJリサーチ&コンサルティング 24階セミナー室	主催	三菱UFJリサーチ&コンサルティング (厚生労働省老人保健健康増進等事業)

シンポジウムの概要

現在、認知症の方や要介護高齢者等の自宅での生活を支える福祉機器や日用品、グッズが開発されています。また、認知症の方を介護をされているご家族により、様々な生活上の工夫が行われ、できるだけ住み慣れたご自宅で暮らし続けられるよう、ご努力されています。一方で、このような福祉機器、日用品や様々な工夫が、必要な方に届いていない状況にあります。このシンポジウムでは、福祉機器等の開発者や介護専門職、認知症の方を介護されているご家族等による講演やパネルディスカッションを通じて、これらの福祉機器や日用品等を普及することを目的にシンポジウムを開催します。会場には、日用品やグッズ等の展示も行います。ぜひ、実物もご覧ください。

対象者

- ケアマネジャー、地域包括支援センター等の介護専門職の方
- 福祉用具等の製造、販売、レンタル等を行っている事業者の方
- 認知症の方、認知症の方を介護されている方
- このシンポジウムの趣旨にご賛同いただける方

プログラム（予定）

開始時間	内容	講師(予定:調整中)
13:30	開会のごあいさつ	
13:35 (20分)	基調講演 ・サービス創設の目的と制度概要 ・地域包括ケアにおけるサービスの位置付けと今後の展望 等	厚生労働省 老健局高齢者支援課 認知症・虐待防止対策推進室 室長補佐 翁川純尚
13:55 (95分)	各専門家からのレポート ①福祉機器開発の実際 ②支援機器を用いた認知症者の自立支援手法の開発 ③現場からの報告 ④本事業の研究成果(アンケート・インタビュー結果) ⑤展示品・展示企業についての紹介	①厚生労働省老健局振興課 宮永 敬市 ②国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長 井上 剛伸 ③世田谷区若林地域包括支援センター 看護師 伊藤 光世 公益財団法人積善会 曾我病院 作業療法士 佐藤 良枝 NPO法人杉並介護者応援団 理事長 北原 理良子 い内科クリニック 院長 井 益雄 ④⑤三菱UFJリサーチ&コンサルティング
15:30	休憩(30分) 機器展示	
16:00 (60分)	パネルディスカッション(質疑応答) ・認知症の方、その家族が安心して地域で暮らせることをサポートする機器、用具、制度等を、どのようにしたら普及できるのか?	<パネリスト> ・厚生労働省老健局振興課 宮永 敬市 ・い内科クリニック 院長 井 益雄 ・世田谷区若林地域包括支援センター 看護師 伊藤 光世 ・NPO法人杉並介護者応援団 理事長 北原 理良子 ・特別養護老人ホーム平成園 施設長 栗林 孝得 ・公益財団法人積善会 曾我病院 作業療法士 佐藤 良枝 ・サンビレッジ瑞穂 施設長 玉城 栄之功 <コーディネーター> 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長 井上 剛伸
17:00	閉会のごあいさつ 機器展示(~17:20まで)	

本シンポジウムに関する
お問い合わせ先

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
 経済・社会政策部「認知症グッズ」シンポジウム事務局
 受付担当：鈴木陽子、谷川香織、星芝由美子
 Tel: 03-6733-3792(平日10時～17時) E-mail: shien@murc.jp

会場

三菱UFJリサーチ&コンサルティング

24階 セミナー室

住所:東京都港区虎ノ門5-11-2

オランダヒルズ森タワー

TEL 03-6733-3792

【アクセス】

- ・東京メトロ日比谷線
神谷町駅1番出口より徒歩1分



お申し込みの流れ

お申し込み専用メールアドレス shien@murc.jp

申込みメールの送付

「お申し込み専用メールアドレス」 shien@murc.jp に、以下の情報を記載して、メールをお送りください

※メールを使用されない方は、お問い合わせ先まで、お電話をください

(03-6733-3792 平日10時~17時)

- ・ご参加者氏名
- ・ご所属先名
- ・職種等 ※以下より選択してください
(①ケアマネジャー ②地域包括職員 ③福祉用具の製造・販売等事業者 ④その他福祉関係者 ⑤研究者 ⑥一般 ⑦その他())
- ・ご住所
- ・電話番号
- ・メールアドレス

申込締切等について

申込み多数の場合、シンポジウム事務局よりメールもしくは電話にて連絡いたします
特に連絡がない場合は、当日、会場までお越しください

(携帯電話のメールで申し込まれた場合、迷惑メール対策などで、携帯電話のメールの受信拒否設定をしている方は、あらかじめ当社からのメールを受け取れるように設定を行ってください)

変更・取り消し等ございましたら表面記載「お問い合わせ先」までご連絡下さい

お申し込み・開催に際しての留意事項

- ❑ 反社会的勢力に該当すると認められる場合は、お申し込みを受付することができません
- ❑ お申し込み多数の場合、ご参加人数の調整をお願いすることがございます
- ❑ 止むを得ない事情により、予告なくプログラム、講師に変更が生じる場合がございます
- ❑ 会場での録音は固くお断りいたします
- ❑ 会場が変更となる場合があります。変更の際は、事前にお知らせいたします

個人情報の取り扱いについて

1. ご記入いただいた氏名、住所、電話番号、その他の個人情報は、当社の「個人情報保護方針」(<http://www.murc.jp/corporate/privacy>)及び、「個人情報の取り扱いについて」(<http://www.murc.jp/privacy/>)に従って適切に取り扱います
2. お預かりした個人情報は、当社において、本セミナーの運営及び本セミナーに関するご連絡、今後のセミナーのご案内の目的に限って利用し、厳重に管理いたします
3. お預かりした個人情報は、法令等に基づく場合を除き、ご本人の同意なく第三者には提供いたしません
4. お預かりした個人情報は、業務委託により当社以外の第三者に預託する場合がございます。そうした場合には、十分な個人情報保護の水準を備える者を選定し、契約によって個人情報の保護水準を守るよう定め、個人情報を適切に取り扱います
5. 申込のご記入内容に不備がある場合は、改めて内容の確認をさせて頂く場合がございます。なお、必須項目以外のご記入は任意ですが、できるだけご記入いただけますようお願い申し上げます
6. お預かりした個人情報の開示、訂正、利用停止等若しくは利用目的の通知のご請求、または個人情報に関する苦情のお申し出、その他の問い合わせにつきましては、表面記載の「お問い合わせ先」までご連絡ください



2014年3月2日（日）13:30～17:00

三菱UFJリサーチ&コンサルティング セミナー室

平成25年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業
認知症高齢者等の利用に資するグッズ、日用品等に関する調査研究事業

認知症の方の暮らしに役立つ福祉機器、 日用品などを普及するために

【シンポジウム資料集】



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

シンポジウムの概要

現在、認知症の方や要介護高齢者等の自宅での生活を支える福祉機器や日用品、グッズが開発されています。また、認知症の方を介護をされているご家族により、様々な生活上の工夫が行われ、できるだけ住み慣れたご自宅で暮らし続けられるよう、ご努力されています。一方で、このような福祉機器、日用品や様々な工夫が、必要な方に届いていない状況にあります。このシンポジウムでは、福祉機器等の開発者や介護専門職、認知症の方を介護されているご家族等による講演やパネルディスカッションを通じて、これらの福祉機器や日用品等を普及することを目的にシンポジウムを開催します。会場には、日用品やグッズ等の展示も行います。ぜひ、実物もご覧ください。

■□■ 目 次 ■□■

プログラム	1
登壇者のご紹介	2
【基調講演】	
認知症施策の動向について	4
【福祉機器開発の実際】	
厚生労働省の施策～介護ロボットについて～	12
【支援機器を用いた認知症者の自立支援手法の開発】	
支援機器を用いた認知症者の自立支援手法の開発	21
【現場からの報告】	
自立支援機器利活用事例～『できる力』を支えるために～	28
現場からの報告	41
誰でも望めば住み慣れた自宅で暮らし続けられるために	47
【本事業の研究成果】	
介護が必要な方、認知症の方を介護されているご家族を対象とした アンケート調査結果	48
【パネルディスカッション】	
機器、用具、制度等の普及に向け	58
「高齢者の記憶と認知機能低下に対する生活支援ロボットシステムの開発」 プロジェクトご紹介	62

プログラム

開始時間	内容	講師
13:30	開会	
13:35	①基調講演	厚生労働省 老健局高齢者支援課 認知症・虐待防止対策推進室 室長補佐 翁川純尚
13:55	②福祉機器開発の実際	厚生労働省老健局振興課 福祉用具・住宅改修指導官 介護支援専門官 宮永 敬市
14:10	③支援機器を用いた認知症者の自立支援手法の開発	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長 井上 剛伸
14:25	④現場からの報告	・世田谷区若林地域包括支援センター 看護師 伊藤 光世 ・公益財団法人積善会 曾我病院 作業療法士 佐藤 良枝 ・NPO 法人杉並介護者応援団 理事長 北原 理良子 ・い内科クリニック 院長 井 益雄
15:10	⑤本事業の研究成果	三菱UFJ リサーチ&コンサルティング 研究員
15:25	⑥展示品・展示企業のご紹介	三菱UFJ リサーチ&コンサルティング 研究員
15:30	休憩（30分） 機器展示	
16:00	⑦パネルディスカッション （質疑応答）	＜コーディネーター＞ 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長 井上 剛伸 ＜パネリスト＞ ・社会福祉法人雄勝福祉会 特別養護老人ホーム平成園 施設長 栗林 孝得 ・社会福祉法人新生会 サンビレッジ瑞穂 施設長 玉城 栄之功 ・日本電気株式会社 リハビリテーションプラットフォーム 統括本部 大中慎一 ほか②～④の講師
17:00	閉会	

※当日、変更になる場合があります。

※機器の展示は休憩時間～17時20分ごろまでの予定です。

登壇者のご紹介

伊藤 光世 世田谷区若林地域包括支援センター 看護師

平成9年4月より、世田谷区内のショートステイ及びデイサービスにおいて看護師として勤務。平成19年12月より、世田谷区内の地域包括支援センターに勤務し現在にいたる。

井上 剛伸 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長

1989年より国立障害者リハビリテーションセンターにて福祉機器の研究に取り組む。主な研究テーマは重度障害者を対象とした自立移動機器の開発、福祉機器の心理的効果に関する研究、福祉用具の経済性に関する研究、介助負担の評価、認知症者の自立支援機器の開発等。1996年～1997年科学技術庁長期在外研究員派遣（トロント大学）。主な著書：ヒトの運動機能と移動のための次世代技術開発－使用者に寄り添う支援機器の普及に向けて－、NTS（編著），新版福祉住環境、市ヶ谷出版（共著），福祉用具満足度評価－福祉用具の効果測定、大学教育出版（共著）

井 益雄 い内科クリニック 院長

熊本県出身

国立宮崎医科大学卒業後、長野県厚生連佐久総合病院にて臨床医学研修を受け佐久総合病院内科に就職。故若月俊一先生の教えを受け、佐久地域における365日24時間在宅医療体制を確立。その後上田市で、い内科クリニックを開業。

平成23年度厚生労働省のチーム医療実証事業に選定され、上田市新田自治会内で「安心して老いを迎えられるまちづくり」をめざして3年目に入る。家族だけの介護から家族を含めた地域全体で支える介護（介護の社会化）をめざして活動中である。

大中 慎一 日本電気株式会社 ソリューションプラットフォーム統括本部

1992年NEC入社。動画像認識の研究開発に従事した後、1997年からコミュニケーションロボットの研究開発PJに参加。2005年愛知万博に出展したチャイルドケアロボットの開発とりまとめと出展チームリーダーを務めた。

その後、初のレンタル版となったPaPeRoR500の開発とりまとめも行う。2011年1月から国立障害者リハビリテーションセンター研究所を中心とする高齢者と記憶の認知機能低下に対する生活支援ロボットシステムの開発に参加中。

翁川 純尚 厚生労働省老健局高齢者支援課認知症・虐待防止対策推進室室長補佐

(敬称略、五十音順)

北原 理良子 NPO 法人杉並介護者応援団 理事長

平成5年、在宅ヘルパーとして活動開始。
数年後、介護家族から介護の悩みや困惑している胸の内を聞くようになる。
その間、実父の介護体験で身内間のトラブルに直面、介護うつになる。
平成16年、社会福祉士を取得。
平成18年3月、地域住民と共に杉並介護者応援団を設立、「お互い様」の精神で介護者支援活動を開始する（平成21年2月、法人化）。
気が付けば「いずれ我が身」で始めた活動が「もうすぐ我が身」に！

栗林 孝得 社会福祉法人雄勝福祉会 特別養護老人ホーム平成園 施設長

稲庭饅頭の産地、秋田県稲川町（昔、稲庭川連町、現、湯沢市）産。
明治学院大学（落語研究会）卒業後、秋田県社会福祉事業団、秋田県コロニーに勤務。
その後、現法人に転職、身体障害者療護施設、特別養護老人ホーム生活指導員を経てH8より現職。現在、日本社会福祉士会理事、日本認知症ケア学会代議員。
H10より、仲間と“元気の出る福祉・介護セミナー”を地元で主宰、が開催は不定期。

佐藤 良枝 公益財団法人積善会 曾我病院 作業療法士

公益財団法人積善会曾我病院認知症治療病棟に勤務。
1986年 国立療養所箱根病院附属リハビリテーション学院卒業、作業療法士免許取得。
肢体不自由児施設、介護老人保健施設等勤務を経て2010年4月より現職。
2006年 バリデーションワーカー資格取得。
2008年 第19回全国老人保健施設協会京都大会にて奨励賞受賞。
一般社団法人日本作業療法士協会神奈川県代議員
一般社団法人神奈川県作業療法士会ウェブサイト管理委員
一般社団法人日本作業療法士協会認定SIG「小田原OT勉強会」主催
一般社団法人日本作業療法士協会認定SIG「作業療法総合研究所」アドバイザー

玉城 栄之功 社会福祉法人新生会 サンビレッジ瑞穂 施設長

2000年に社会福祉法人新生会に入社。介護職・生活相談員に従事後、2006年に同法人の地域密着型サービスの開設に関わる。
現在はサンビレッジ瑞穂（特養・デイ・SS）施設長、及び同地域を拠点とするもやいの家瑞穂（GH・認知症対応型デイ・地域交流スペース）、サンビレッジほづみ駅前（GH・小規模多機能・住宅型有料）のエリア責任者。
またサンビレッジ国際医療福祉専門学校の非常勤講師や岐阜県の認知症介護指導者として県内の認知症関係研修などの講師を務めている。
社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・認知症ケア専門士

宮永 敬市 厚生労働省 老健局振興課 福祉用具・住宅改修指導官



認知症施策の動向について

厚生労働省 老健局 高齢者支援課
認知症・虐待防止対策推進室

平成26年3月2日

地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。
 - 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
 - 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。
- 地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく必要があります。

地域包括ケアシステムの姿



「認知症高齢者の日常生活自立度」Ⅱ以上の高齢者数について

1. 認知症高齢者数

- 平成22年（2010）で「認知症高齢者の日常生活自立度」Ⅱ（※）以上の高齢者数は280万人であった。

〔算出方法〕

- ①平成22年1年間の要介護認定データを基に、「認知症高齢者の日常生活自立度」Ⅱ以上の認知症高齢者割合を算出した。
- ②年間データでは同一人物で複数回要介護認定を受けている者がいるので、平成15年と同月である平成22年9月の要介護認定データに上記①の割合（性別・年齢階級別・要介護度別認知症高齢者割合）を乗じて算出した。

※ただし、この推計では、要介護認定申請を行っていない認知症高齢者は含まれない

※日常生活自立度Ⅱとは、日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意すれば自立できる状態。（次頁の参考「認知症高齢者の日常生活自立度」参照）

2. 将来推計

（単位：万人）

将来推計（年）	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)
日常生活自立度Ⅱ以上	280	345	410	470
	9.5%	10.2%	11.3%	12.8%

※平成24年（2012）を推計すると、305万人となる。

※下段は65歳以上人口に対する比率

〔算出方法〕

- 将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所：H24.1推計。死亡中位出生中位）に、上記1の算出方法による平成22年9月の認知症高齢者割合を性別年齢階級別に乘じて推計した。

（参考：平成15年 高齢者介護研究会報告書）

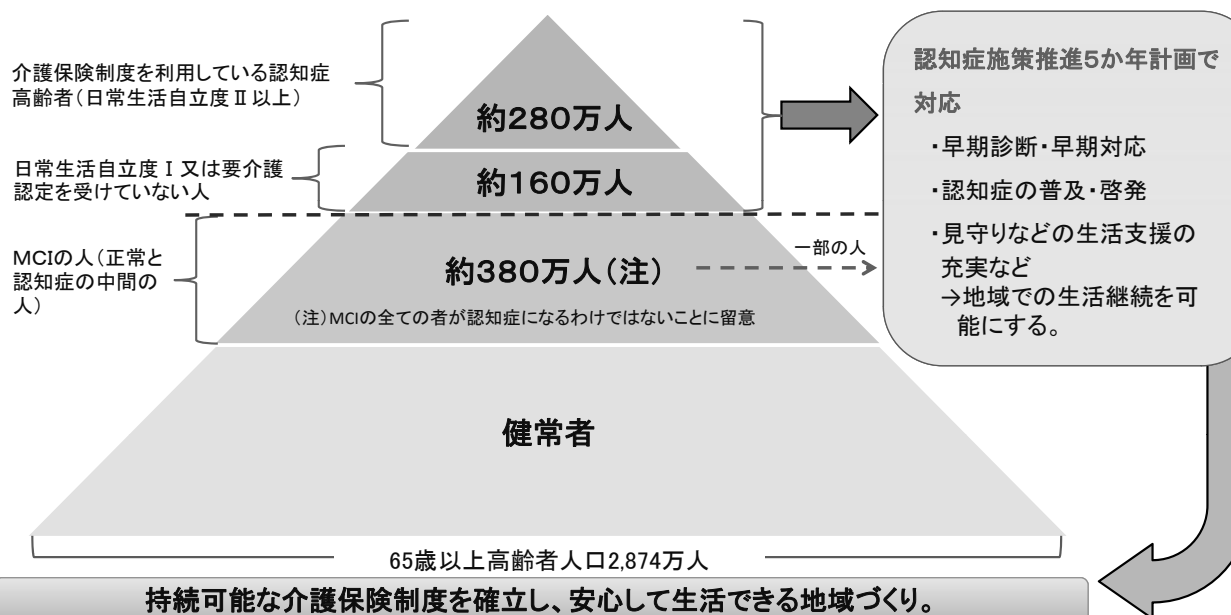
（単位：万人）

将来推計（年）	平成14年 (2002)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)
日常生活自立度Ⅱ以上	149	208	250	289	323
	6.3%	7.2%	7.6%	8.4%	9.3%

2

認知症高齢者の現状（平成22年）

- 全国の65歳以上の高齢者について、認知症有病率推定値15%、認知症有病者数約439万人と推計（平成22年）。また、全国のMCI（正常でもない、認知症でもない（正常と認知症の間）状態の者）の有病率推定値13%、MCI有病者数約380万人と推計（平成22年）。
- 介護保険制度を利用している認知症高齢者は約280万人（平成22年）。



出典：「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」(H25.5報告)及び「認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上の高齢者数について」(H24.8公表)を引用

3

『今後の認知症施策の方向性について』の概要

今後目指すべき基本目標—ケアの流れを変える—

- 「認知症の人は、精神科病院や施設を利用せざるを得ない」という考え方を改め、「認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会」の実現を目指す。
- この実現のため、新たな視点に立脚した施策の導入を積極的に進めることにより、これまでの「ケアの流れ」を変え、むしろ逆の流れとする標準的な認知症ケアパス（状態に応じた適切なサービス提供の流れ）を構築することを、基本目標とする。

1 標準的な認知症ケアパスの作成・普及

認知症の人やその家族が、認知症と疑われる症状が発生した場合に、いつ、どこで、どのような医療や介護サービスを受ければよいか理解できるよう、標準的な認知症ケアパスの作成と普及を推進する。

2 早期診断・早期対応

「認知症初期集中支援チーム」の設置

認知症の人や家族に関わり、アセスメント、家族支援などの初期支援を包括的・集中的に行い、自立生活のサポートを行う事業をモデル的に実施する。

かかりつけ医の認知症対応力の向上

認知症の人の日常の医療をかかりつけ医が担えるよう、その認知症対応力の向上を図る。

「身近型認知症疾患医療センター」の整備

かかりつけ医と連携し、そのバックアップを担う医療機関を整備し、早期的確な診断、介護との連携を確保する。

3 地域での生活を支える医療サービスの構築

「認知症の薬物治療に関するガイドライン」の策定

不適切な薬物使用により長期入院することのないよう、実践的なガイドラインを策定し、普及を図る。

一般病院での認知症の人の手術、処置等の実施の確保

一般病院勤務の医師・看護師をはじめとする医療従事者が、認知症ケアについて理解し適切な対応ができるよう研修を拡充する。

精神科病院に入院が必要な状態の明確化

医療従事者、介護関係者を含めた有識者等により十分な調査、研究を行う。

精神科病院からの円滑な退院・在宅復帰の支援

「退院支援・地域連携クリティカルパス（退院に向けての診療計画）」の作成等を通じて、退院後に必要な介護サービス等が円滑に提供できる仕組みづくりを推進する。

一般病院・介護保険施設等での認知症対応力の向上

「身近型認知症疾患医療センター」の職員が行動・心理症状等に対応困難な事例へのアドバイスや訪問をし、専門的な医療を提供する。

4 地域での生活を支える介護サービスの構築

認知症にふさわしい介護サービスの整備

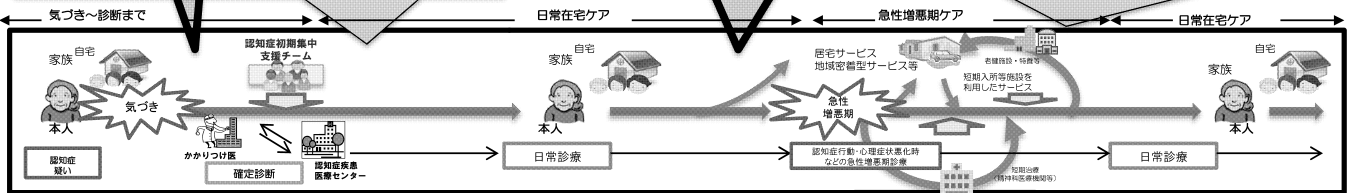
「グループホーム」「小規模多機能型居宅介護」などの地域密着型サービスの拡充を図る。

認知症行動・心理症状が原因で在宅生活が困難となった場合の介護保険施設等での対応

認知症の症状が悪化し、在宅での対応が困難となった場合には、介護保険施設等の地域の介護サービスがその担い手となることを推進していく。

「グループホーム」の活用推進

「グループホーム」の事業者が、その知識・経験・人材を生かして、在宅で生活する認知症の人やその家族への相談や支援を行うことを推進する。



5 地域での日常生活・家族の支援の強化

「認知症サポーターキャラバン」の継続的な実施

「認知症サポーター」の養成を引き続き進めるとともに、その自主的な活動が、認知症の人を支える地域づくりへと広がりをみせるよう支援していく。

「認知症地域支援推進員」の設置

全国の市町村に、介護と医療の連携を強化し、認知症施策の推進役を担う「認知症地域支援推進員」を設置する。

家族に対する支援

認知症の人のアセスメント、サービス提供等を行う際には、認知症の人だけでなく、家族への支援の視点を含めたサービス提供が行われるようにする。

市民後見人の育成と活動支援

全国の自治体で権利擁護の確保や、市民後見人の育成と活動支援が実施されるよう、その取組の強化を図る。

- 6 若年性認知症の特性に配慮し、支援のためのハンドブックを作成、配布するとともに、本人や関係者等が交流できる居場所づくりの設置等を促進する
- 7 認知症の人への医療・介護を含む一体的な生活の支援として「認知症ライフサポートモデル」を策定し、これらを踏まえ医療・介護サービスを担う人材を育成する

今後の認知症施策の方向性

～ ケアの流れを変える ～

- 「認知症の人は、精神科病院や施設を利用せざるを得ない」という考え方を改め、「認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会」の実現を目指す。
- この実現のため、新たな視点に立脚した施策の導入を積極的に進めることにより、これまでの「ケアの流れ」を変え、むしろ逆の流れとする標準的な認知症ケアパス（状態に応じた適切なサービス提供の流れ）を構築することを、基本目標とする。

「認知症施策推進5か年計画」(平成24年9月厚生労働省公表)の概要

事項	5か年計画での目標
○標準的な認知症ケアパスの作成・普及 ※ 「認知症ケアパス」(状態に応じた適切なサービス提供の流れ)	平成27年度以降の介護保険事業計画に反映
○「認知症初期集中支援チーム」の設置 ※ 認知症の早期から家庭訪問を行い、認知症の人のアセスメントや、家族の支援などを行うチーム	平成26年度まで全国でモデル事業を実施 平成27年度以降の制度化を検討
○早期診断等を担う医療機関の数	平成24年度～29年度で約500カ所整備
○かかりつけ医認知症対応力向上研修の受講者数	平成29年度末 50,000人
○認知症サポート医養成研修の受講者数	平成29年度末 4,000人
○「地域ケア会議」の普及・定着	平成27年度以降 すべての市町村で実施
○認知症地域支援推進員の人数	平成29年度末 700人
○認知症サポーターの人数	平成29年度末 600万人(現在340万人)

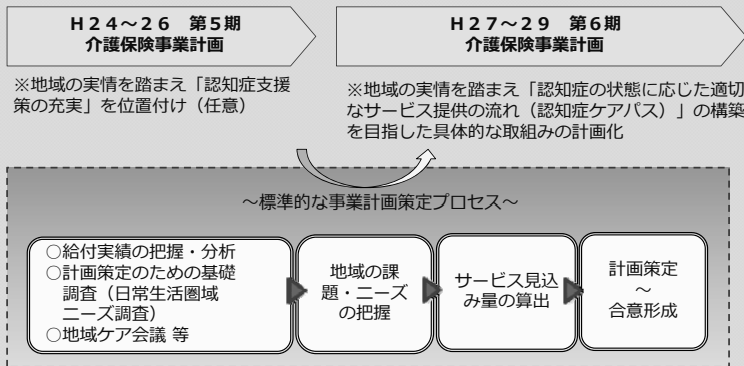
標準的な認知症ケアパスの作成・普及

「認知症ケアパス」：「認知症」は、病気の進行によって症状が変化し、症状によって、必要な医療・介護が異なることから、認知症の人が認知症を発症したときから、生活機能障害が進行していく中で、その進行状況にあわせていつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受ければよいのかをあらかじめ標準的に決めておくもの。

<地域ごとの標準的な認知症ケアパス>

= 認知症の状態に応じて支えていく社会資源の整備

認知症の人の生活機能障害の進行にあわせ、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受けることができるのか、具体的な機関名やケア内容等を、あらかじめ、認知症の人とその家族に提示する → 『市町村介護保険事業計画』に反映



<個別の認知症の人が歩む「認知症ケアパス」>

= 認知症の進行や生活上の課題に応じて、様々な資源を使いながら歩いていく道のり

- ①教育・啓発活動：認知症への理解をベースに住民意識の転換を図る
- ②地域の社会資源づくり：既存の資源をフル活用する
- ③情報連携：医療機関、介護事業者などに集まる地域の高齢者情報を活かして、早期診断・早期支援につなげる
- ④ネットワークづくり：それぞれの資源が果たしている役割や機能を相互に理解する、資源同士がネットワーク化し、顔の見え関係をつくる、チームケアにつなげる → いわゆる地域包括ケアマネジメントに求められること。

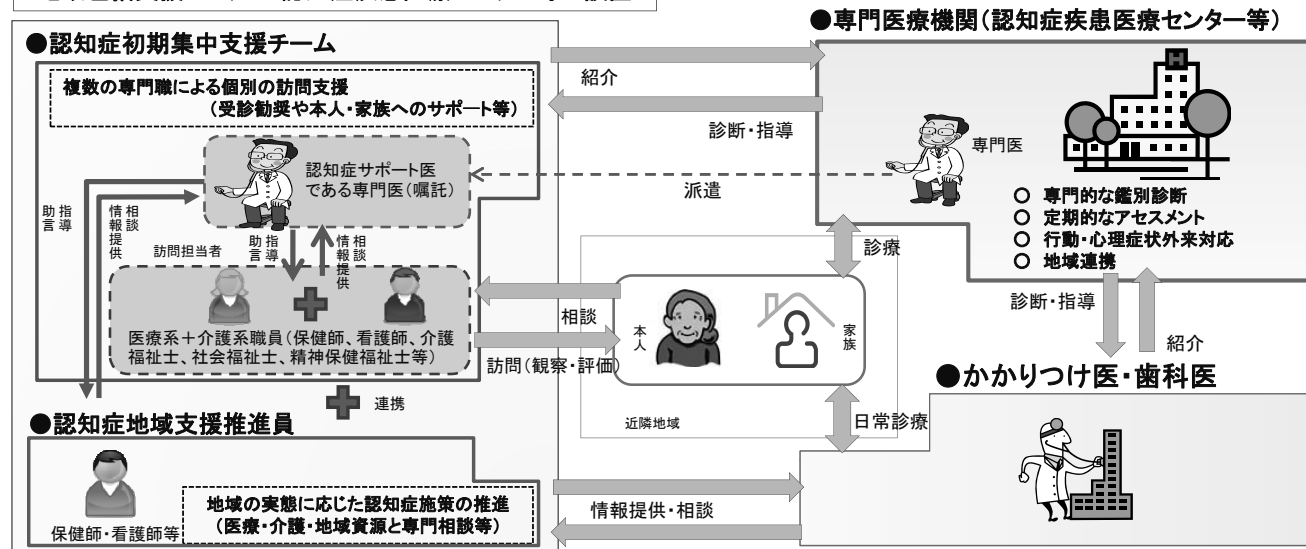
6

認知症初期集中支援チームと認知症地域支援推進員について

認知症専門医による指導の下(司令塔機能)に早期診断、早期対応に向けて以下の体制を地域包括支援センター等に整備

- 認知症初期集中支援チーム** — 複数の専門職が認知症が疑われる人、認知症の人とその家族を訪問(アウトリーチ)し、認知症の専門医による鑑別診断等を(個別の訪問支援)ふまえて、観察・評価を行い、本人や家族支援などの初期の支援を包括的・集中的に行い、自立生活のサポートを行う。
- 認知症地域支援推進員** — 認知症の人ができる限り住み慣れた良い環境で暮らし続けることができるよう、地域の実情に応じて医療機関、介護サービス事業所や地域の支援機関をつなぐ連携支援や認知症の人やその家族を支援する相談業務等を行う。

地域包括支援センター・認知症疾患医療センター等に設置

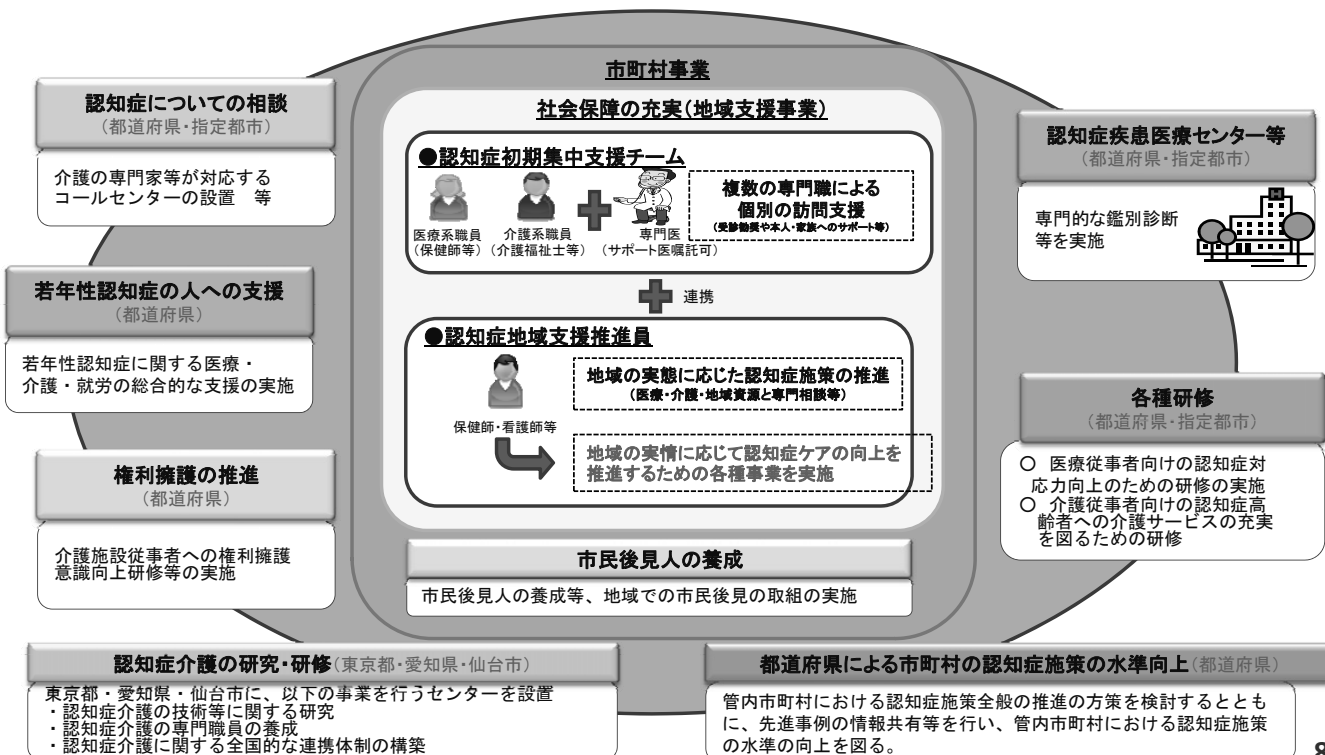


<認知症初期集中支援チームの主な業務の流れ>

- ①訪問支援対象者の把握、②情報収集(本人の生活情報や家族の状況など)、③観察・評価(認知機能、生活機能、行動・心理症状、家族の介護負担度、身体の様子などのチェック)、④初回訪問時の支援(認知症への理解、専門的医療機関等の利用の説明、介護保険サービス利用の説明、本人・家族への心理的サポート)、⑤専門医を含めたチーム会議の開催(観察・評価内容の確認、支援の方針・内容・頻度等の検討)、⑥初期集中支援の実施(専門的医療機関等への受診勧奨、本人への助言、身体を整えるケア、生活環境の改善など)、⑦引き継ぎ後のモニタリング

国が推進する認知症施策の全体像

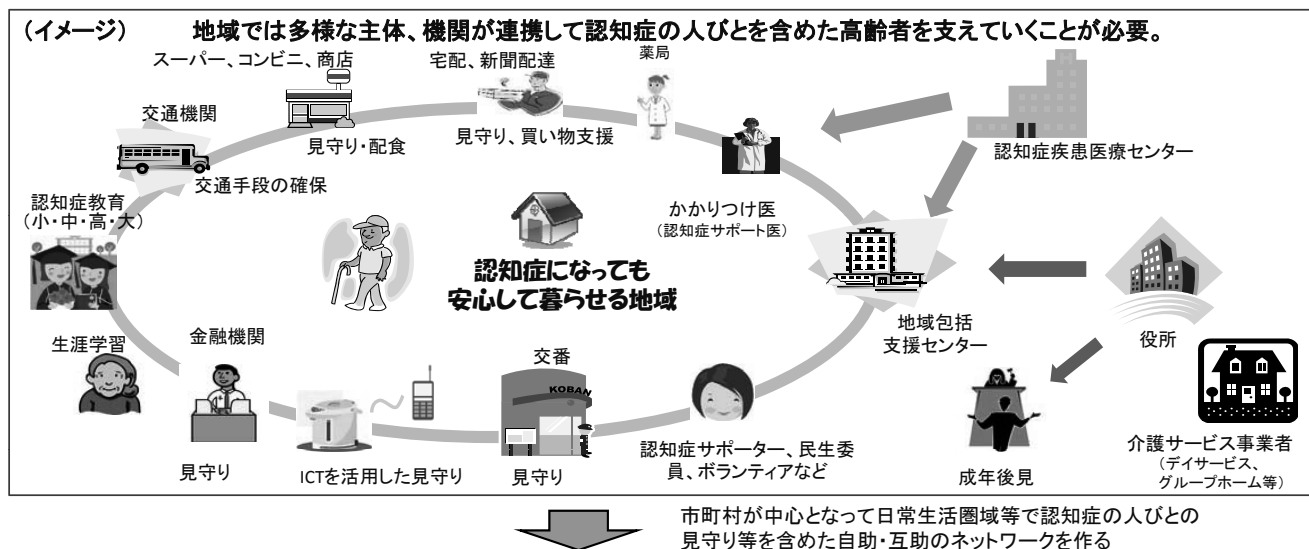
「認知症施策推進5か年計画」の着実な実施を図り、全国の自治体で、認知症の人とその家族の支援体制を計画的に整備するため、以下の取組を推進する。



8

社会全体で認知症の人びとを支える

○社会全体で認知症の人びとを支えるため、介護サービスだけでなく、地域の自助・互助を最大限活用することが必要。



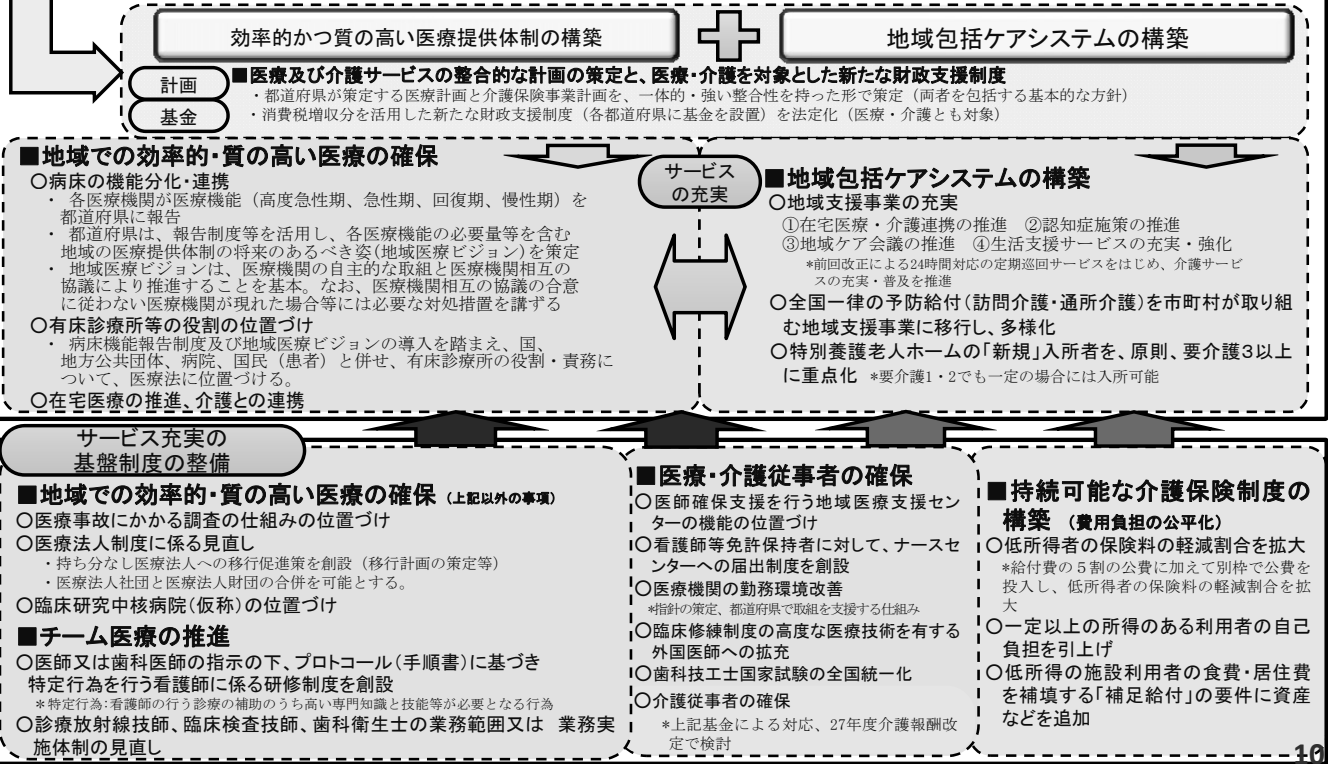
関係府省と連携し、地域の取組を最大限支援

関係団体や民間企業などの協力も得て、社会全体で認知症の人びとを支える取組を展開

9

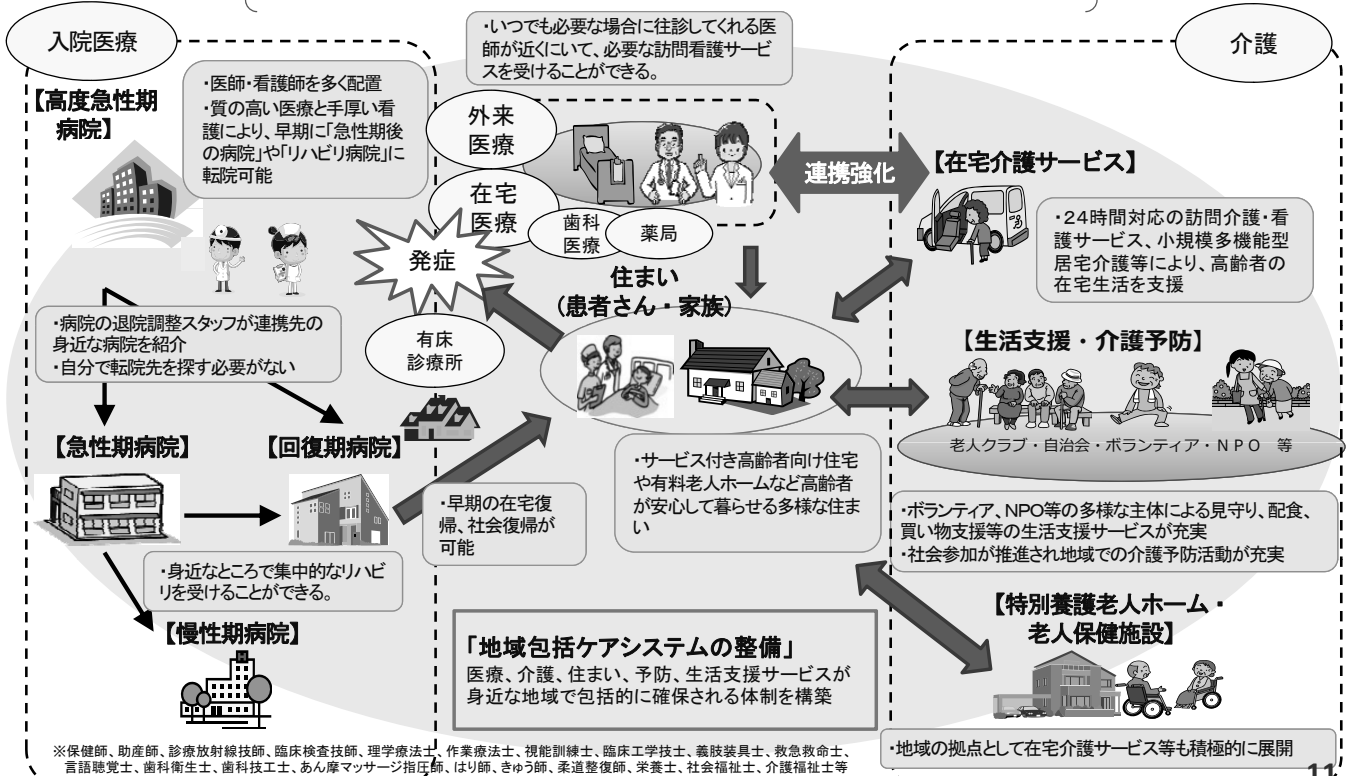
地域における医療・介護の総合的な確保を図るための改革

改革の目的： 今回の医療・介護の改革は、プログラム法の規定に基づき、高度急性期から在宅医療・介護までの一連のサービスを地域において総合的に確保することで地域における適切な医療・介護サービスの提供体制を実現し、患者の早期の社会復帰を進め、住み慣れた地域での継続的な生活を可能とすること



医療・介護サービスの提供体制改革後の姿（サービス提供体制から）

医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護支援専門員その他の専門職(※)の積極的な関与のもと、患者・利用者の視点に立って、サービス提供体制を構築する。



介護保険制度改革案について

①地域包括ケアシステムの構築

高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるようにするため、介護、医療、生活支援、介護予防を充実。

サービスの充実

○地域包括ケアシステムの構築に向けた地域支援事業の充実

- ①在宅医療・介護連携の推進
- ②認知症施策の推進
- ③地域ケア会議の推進
- ④生活支援サービスの充実・強化

- * 介護サービスの充実は、前回改正による24時間対応の定期巡回サービスを含めた介護サービスの普及を推進
- * 介護職員の処遇改善は、27年介護報酬改定で検討

重点化・効率化

①全国一律の予防給付(訪問介護・通所介護)を市町村が取り組む地域支援事業に移行し、多様化

- * 段階的に移行(～29年度)
- * 介護保険制度内でサービスの提供であり、財源構成も変わらない。
- * 見直しにより、既存の介護事業所による既存サービスに加え、NPO、民間企業、住民ボランティア、協同組合等による多様なサービスの提供が可能。これにより、効果的・効率的な事業も実施可能。

②特別養護老人ホームの新規入所者を、原則、要介護3以上に限定(既入所者は除く)

- * 要介護1・2でも一定の場合には入所可能

- このほか、「2025年を見据えた介護保険事業計画の策定」、「サービス付高齢者向け住宅への住所地特例の適用」、「居宅介護支援事業所の指定権限の市町村への移譲・小規模通所介護の地域密着型サービスへの移行」等を実施

②費用負担の公平化

低所得者の保険料軽減を拡充。また、保険料上昇をできる限り抑えるため、所得や資産のある人の利用者負担を見直す。

低所得者の保険料軽減を拡充

○低所得者の保険料の軽減割合を拡大

- ・給付費の5割の公費に加えて別枠で公費を投入し、低所得者の保険料の軽減割合を拡大
- * 保険料見直し: 現在5,000円程度→2025年度8,200円程度
- * 軽減例: 年金収入80万円以下 5割軽減 → 7割軽減に拡大
- * 軽減対象: 市町村民税非課税世帯(65歳以上の約3割)

重点化・効率化

①一定以上の所得のある利用者の自己負担を引上げ

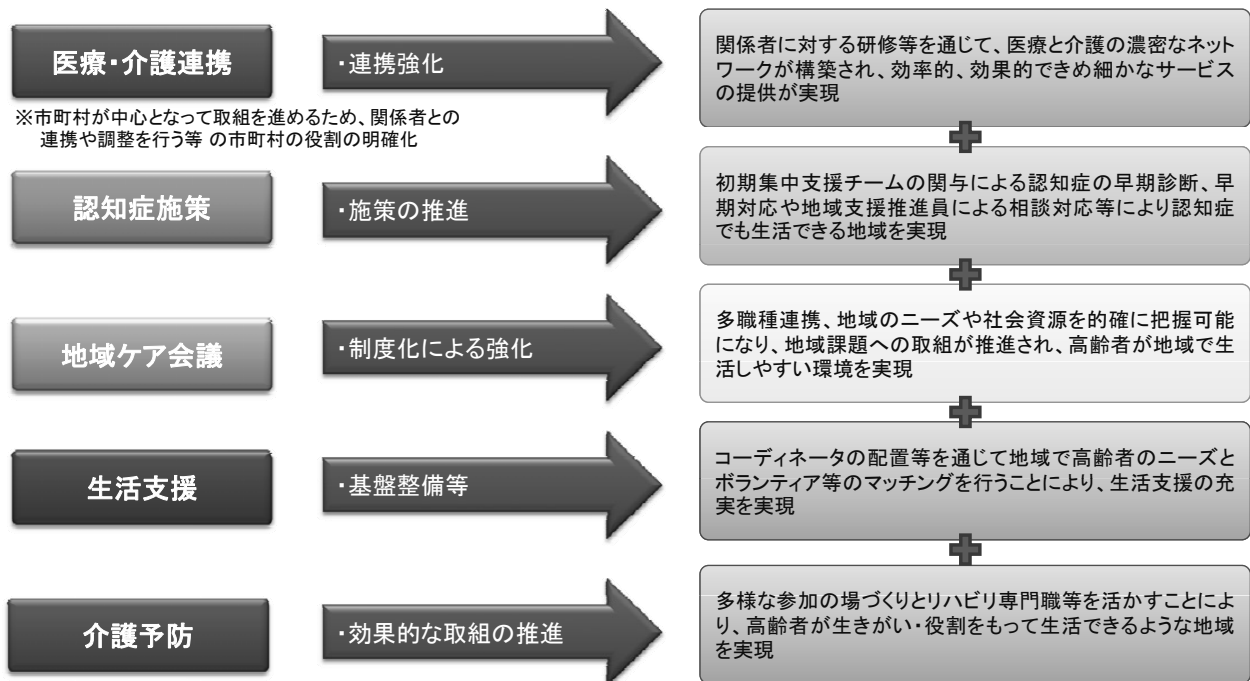
- ・ 2割負担とする所得水準を、65歳以上高齢者の所得上位20%とした場合、合計所得金額160万円(年金収入で、単身280万円以上、夫婦359万円以上)。ただし、月額上限があるため、見直し対象の全員の負担が2倍になるわけではない。
- ・ 医療保険の現役並み所得相当の人は、月額上限を37,200円から44,400円に引上げ

②低所得の施設利用者の食費・居住費を補填する「補足給付」の要件に資産などを追加

- ・ 預貯金等が単身1000万円超、夫婦2000万円超の場合は対象外
- ・ 世帯分離した場合でも、配偶者が課税されている場合は対象外
- ・ 給付額の決定に当たり、非課税年金(遺族年金、障害年金)を収入として勘案
- * 不動産を勘案することは、引き続きの検討課題

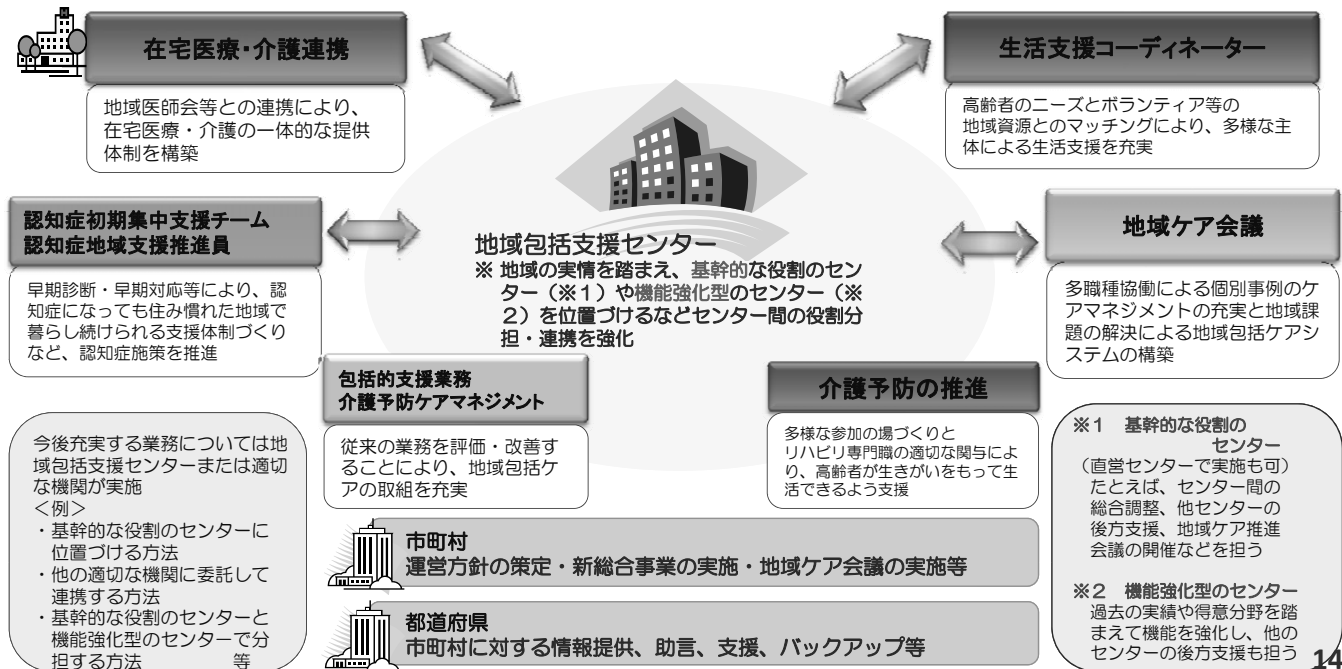
医療・介護連携、認知症施策、地域ケア会議、生活支援、介護予防の充実・強化

- 地域包括ケア実現のため、地域支援事業の枠組みを活用し、以下の取組を充実・強化。
- あわせて要支援者に対するサービスの提供の方法を給付から事業へ見直し。
- これらを市町村が中心となって総合的に取り組むことで、地域で高齢者を支える社会が実現。



地域包括支援センターの機能強化

- 高齢化の進展、相談件数の増加等に伴う業務量の増加およびセンターごとの役割に応じた人員体制を強化する。
- 市町村は運営方針を明確にし、業務の委託に際しては具体的に示す。
- 直営等基幹的な役割を担うセンターや、機能強化型のセンターを位置づけるなど、センター間の役割分担・連携を強化し、効率的かつ効果的な運営を目指す。
- 地域包括支援センター運営協議会による評価、PDCAの充実等により、継続的な評価・点検を強化する。
- 地域包括支援センターの取組に関する情報公表を行う。



ご静聴ありがとうございました。

厚生労働省の施策 ～介護ロボットについて～



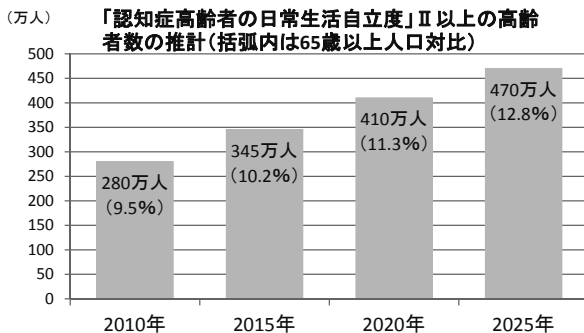
2014年1月29日(水)
厚生労働省老健局振興課
福祉用具・住宅改修指導官
介護支援専門官
宮永 敬市

今後の介護保険をとりまく状況について

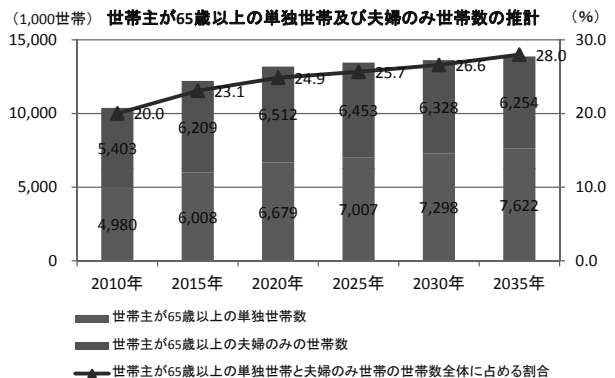
- ① 65歳以上の高齢者数は、2025年には3,658万人となり、2042年にはピークを迎える予測(3,878万人)。また、75歳以上高齢者の全人口に占める割合は増加していき、2055年には、25%を超える見込み。

	2012年8月	2015年	2025年	2055年
65歳以上高齢者人口(割合)	3,058万人(24.0%)	3,395万人(26.8%)	3,658万人(30.3%)	3,626万人(39.4%)
75歳以上高齢者人口(割合)	1,511万人(11.8%)	1,646万人(13.0%)	2,179万人(18.1%)	2,401万人(26.1%)

- ② 65歳以上高齢者のうち、「認知症高齢者の日常生活自立度」Ⅱ以上の高齢者が増加していく。



- ③ 世帯主が65歳以上の単独世帯や夫婦のみの世帯が増加していく。

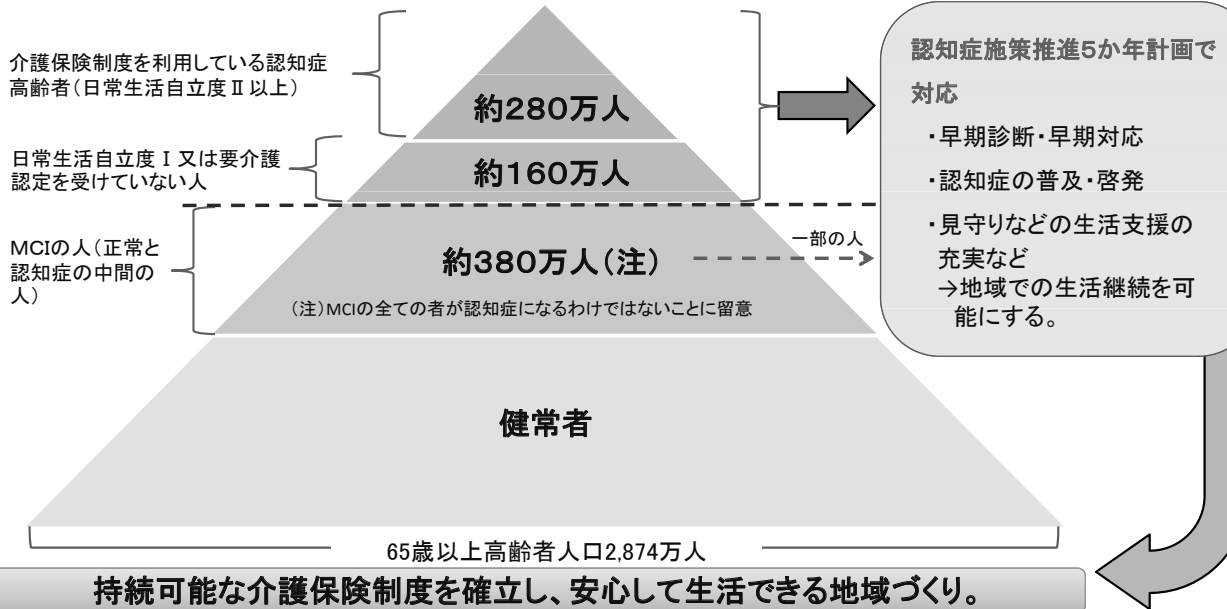


- ④ 75歳以上人口は、都市部では急速に増加し、もともと高齢者人口の多い地方でも緩やかに増加する。各地域の高齢化の状況は異なるため、各地域の特性に応じた対応が必要。

	埼玉県	千葉県	神奈川県	大阪府	愛知県	東京都	~	鹿児島県	島根県	山形県	全国
2010年 <>は割合	58.9万人 <8.2%>	56.3万人 <9.1%>	79.4万人 <8.8%>	84.3万人 <9.5%>	66.0万人 <8.9%>	123.4万人 <9.4%>		25.4万人 <14.9%>	11.9万人 <16.6%>	18.1万人 <15.5%>	1419.4万人 <11.1%>
2025年 <>は割合 ()は倍率	117.7万人 <16.8%> (2.00倍)	108.2万人 <18.1%> (1.92倍)	148.5万人 <16.5%> (1.87倍)	152.8万人 <18.2%> (1.81倍)	116.6万人 <15.9%> (1.77倍)	197.7万人 <15.0%> (1.60倍)		29.5万人 <19.4%> (1.16倍)	13.7万人 <22.1%> (1.15倍)	20.7万人 <20.6%> (1.15倍)	2178.6万人 <18.1%> (1.54倍)

認知症高齢者の現状（平成22年）

- 全国の65歳以上の高齢者について、認知症有病率推定値15%、認知症有病者数約439万人と推計（平成22年）。また、全国のMCI（正常でもない、認知症でもない（正常と認知症の間）状態の者）の有病率推定値13%、MCI有病者数約380万人と推計（平成22年）。
- 介護保険制度を利用している認知症高齢者は約280万人（平成22年）。



出典:「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」(H25.5報告)及び「認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上の高齢者数について」(H24.8公表)を引用

介護サービス量と給付費の将来見通し

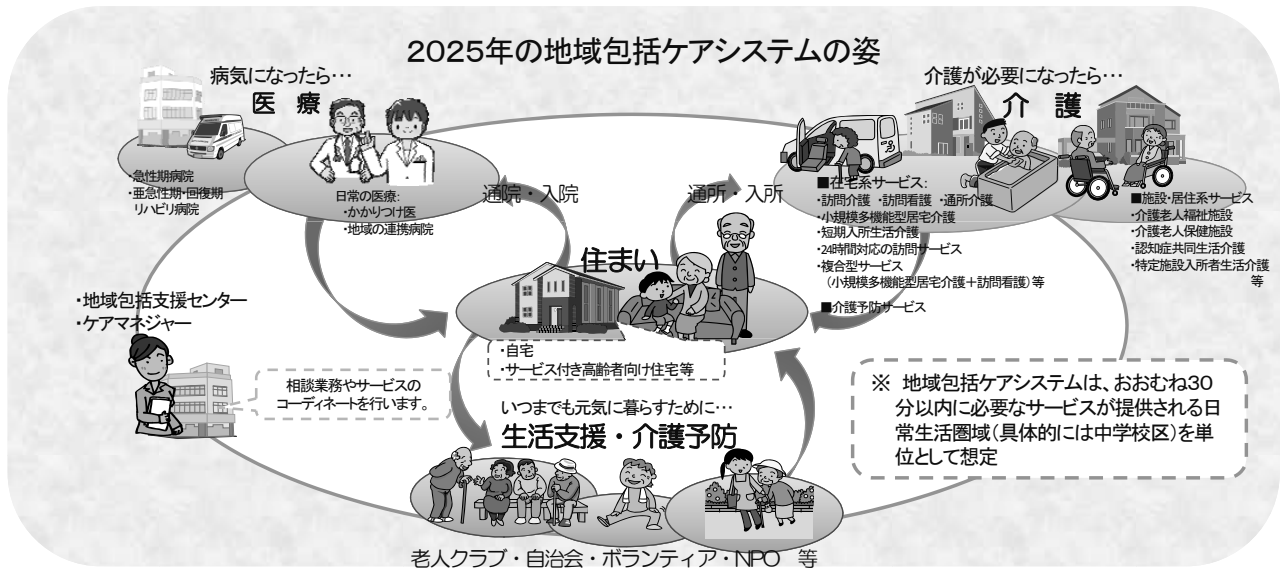
- 現状の年齢階級別のサービス利用状況が続いたと仮定した場合（現状投影シナリオ）に比べ、改革シナリオでは在宅・居住系サービスを拡充。
※2025年度は社会保障に係る費用の将来推計について（平成24年3月）

2012年度		2025年度 (現状投影シナリオ)	2025年度 (改革シナリオ)
利用者数	452万人	663万人(1.5倍)	657万人(1.5倍) ・介護予防・重度化予防により全体として3%減 ・入院の減少(介護への移行):14万人増
在宅介護	320万人分	447万人分(1.4倍)	463万人分(1.5倍)
うち小規模多機能	5万人分	8万人分(1.5倍)	40万人分(7.6倍)
うち定期巡回・ 随時対応型サービス	—	—	15万人分(—)
居住系サービス	33万人分	52万人分(1.6倍)	62万人分(1.9倍)
特定施設	16万人分	25万人分(1.6倍)	24万人分(1.5倍)
グループホーム	17万人分	27万人分(1.6倍)	37万人分(2.2倍)
介護施設	98万人分	164万人分(1.7倍)	133万人分(1.4倍)
特養	52万人分 (うちユニット13万人(26%))	87万人分(1.7倍) (うちユニット22万人分(26%))	73万人分(1.4倍) (うちユニット51万人分(70%))
老健(+介護療養)	47万人分 (うちユニット2万人(4%))	76万人分(1.6倍) (うちユニット4万人分(5%))	60万人分(1.3倍) (うちユニット29万人(50%))
介護職員	149万人	237~249万人	
介護費用	8.9兆円	21兆円	
第1号保険料(月額)	約4,972円	約8,200円	

4

介護の将来像(地域包括ケアシステム)

- 住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの実現により、重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるようになります。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差を生じています。
地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や、都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく必要があります。



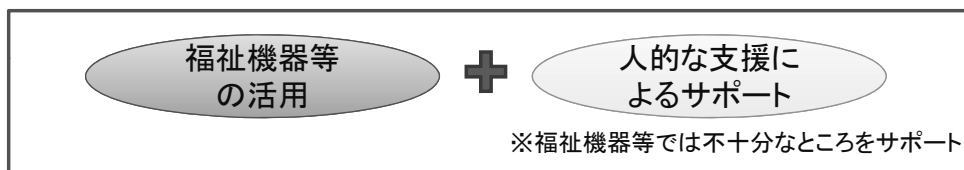
在宅生活を支える福祉機器



- 廃用性(使わないことにより能力が低下してる状態)や体の不調などをきっかけにして、できなくなることが増えてくる。
- 喪失体験の連続により生活意欲が低下

「自らの力で生活し続けることができる」という自信がもてるよう支援することが必要

自らの能力を最大限発揮できるには
生活環境の改善(動作の工夫や福祉用具等の利用)が有効



効果的な自立支援

介護保険における福祉用具

【制度の概要】

○ 介護保険の福祉用具は、要介護者等の日常生活の便宜を図るための用具及び要介護者等の機能訓練のための用具であって、利用者がその居宅において自立した日常生活を営むことができるよう助けるものについて、保険給付の対象としている。

【厚生労働大臣告示において以下のものを対象種目として定めている】

	福祉用具貸与	特定福祉用具販売
対象種目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車いす(付属品含む) ・ 特殊寝台(付属品含む) ・ 床ずれ防止用具 ・ 体位変換器 ・ 手すり ・ スロープ ・ 歩行器 ・ 歩行補助つえ ・ 認知症老人徘徊感知機器 ・ 移動用リフト(つり具の部分を除く) ・ 自動排泄処理装置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腰掛便座 ・ 自動排泄処理装置の交換可能部品 ・ 入浴補助用具(入浴用いす、浴槽用手すり、浴槽内いす、入浴台、浴室内すのこ、浴槽内すのこ、入浴用介助ベルト) ・ 簡易浴槽 ・ 移動用リフトのつり具の部分

【給付制度の概要】

① 貸与の原則

利用者の身体状況や要介護度の変化、福祉用具の機能の向上に応じて、適時・適切な福祉用具を利用者に提供できるよう、貸与を原則としている。

② 販売種目(原則年間10万円を限度)

貸与になじまない性質のもの(他人が使用したものを再利用することに心理的抵抗感が伴うもの、使用によってもとの形態・品質が変化し、再利用できないもの)は、福祉用具の購入費を保険給付の対象としている。

③ 現に要した費用

福祉用具の貸与及び購入は、市場の価格競争を通じて適切な価格による給付が行われるよう、保険給付における公定価格を定めず、現に要した費用の額により保険給付する仕組みとしている。

福祉用具の追加について(平成24年度から給付対象)

○ 福祉用具貸与

対象となる用具	概要	備考
介助用ベルト	「特殊寝台付属品」の対象の拡充	入浴介助用以外のもの
自動排泄処理装置	福祉用具の貸与種目に追加  	次の要件を全て満たすもの ・尿又は便が自動的に吸引されるもの ・尿と便の経路となる部分を分割することが可能な構造を有するもの ・要介護者又はその介護を行う者が容易に使用できるもの

介護ロボットである「自動排泄処理装置」が給付対象となる。

○ 特定福祉用具販売

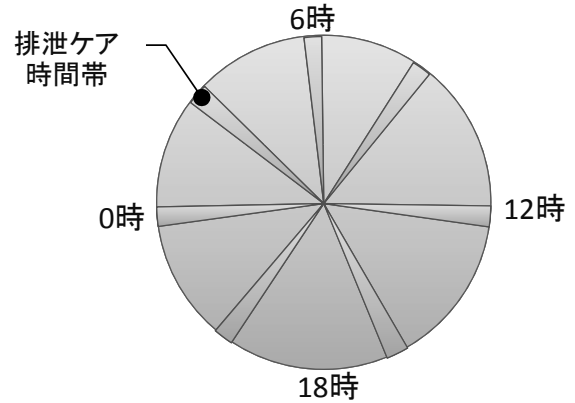
対象となる用具	概要	備考
便座の底上げ部材	「腰掛便座」の対象の拡充	—
自動排泄処理装置の交換可能部品	「特殊尿器」の改正 	次の要件を全て満たすもの ・レシーバー、チューブ、タンク等のうち、尿や便の経路となるもの ・要介護者又はその介護を行う者が容易に交換出来るもの

腰掛便座の底上げ部材

自動排泄処理装置の利用状況例

【夫がALSを発症し妻が介護を行っている事例】

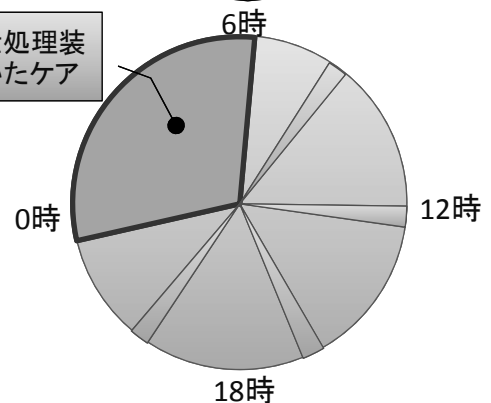
- 重度の麻痺があり、発語による意思疎通は困難。
- 深夜帯は2回ほど排泄介護が必要であり、妻が起きてケアを行っていた。
- 自動排泄処理装置を用いた深夜帯の排泄ケアとしたところ、妻の介護負担の軽減がはかれ、居室内の尿臭・便臭も軽減している。
- 利用者も陰部周辺の清潔感が得られ、QOLの向上につながっている。



【妻が脳梗塞を発症し夫が介護を行っている事例】

- 重度の麻痺があり、全介助が必要な状態。
- 準夜から早朝にかけて、4~5回ほどの排泄介護が必要であり、夫とヘルパーが分担してケアに対応していた。
- ヘルパーによるケアと自動排泄処理装置を併用したところ、十分な睡眠を介護者がとることができ、生活を継続する自信を取り戻すことが出来ている。

自動排泄処理装置を用いたケア



介護ロボットを含む福祉用具の特徴

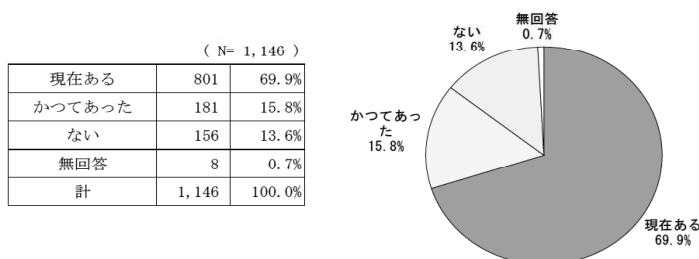
- **福祉用具は利用する方が望む生活を達成するための有効な手段**
 - 福祉用具は、利用者が主体となって利用するものであり、利用者の「自分でできる」を支えるもの。
- **福祉用具が効果的に活用されためには援助技術が必要**
 - 一般の家庭電化製品や生活用品とは異なり、利用する方の状況に応じた援助技術(支援体制も含む)が必要。
 - 適切な利用がなされない場合、かえって利用する方の身体機能等の低下を招く恐れがある。

福祉用具を活用した援助技術を普及啓発
(介護現場の意識改革)

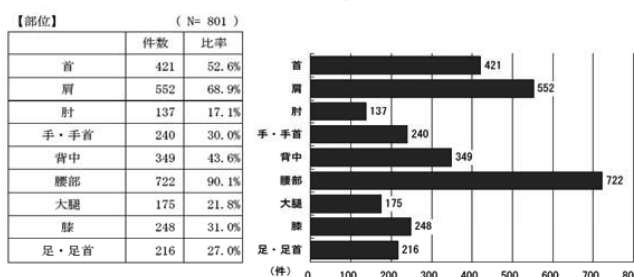
施設介護職員における腰痛等の発生状況

- 首や肩などを含む腰痛などについて、69.9%が「現在ある」と回答。
- 「現在痛みのある」部位は、腰部（90.1%）、肩（68.9%）、首（52.6%）の順で高値を示している。
- 「痛みの程度」について「かなり痛む」のは、腰部、肩などが多い。

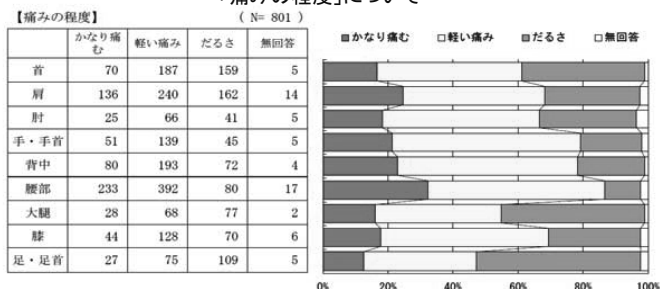
「腰痛など(首や肩、腕などの凝りや痛み)の有無」について



「痛みのある部位」について



「痛みの程度」について



出典：平成19年度 介護職員の腰痛等健康問題に係わる福祉用具利用調査(介護職員の腰痛対策等健康問題に係わる福祉用具利用研究会)

第三次産業労働災害防止対策支援事業(社会福祉施設)の概要

必要性

- 第三次産業の労働災害が占める割合は年々増加し、平成21年以降は全産業の4割を占め、その数も4万7千人に達している。
- 小売業、社会福祉施設の割合が高く、近年は増加率も高い。
- しかしながら、死亡などに至る重篤な災害は少なく、事業者の意識が低くなりがちな傾向にあることから、災害件数は多いものの、事業者側への周知・啓発が浸透しにくい。
- 特に、社会福祉施設においては転倒と腰痛で約7割を占めることから、これらに対する対策を行い、災害を減少させる必要がある。

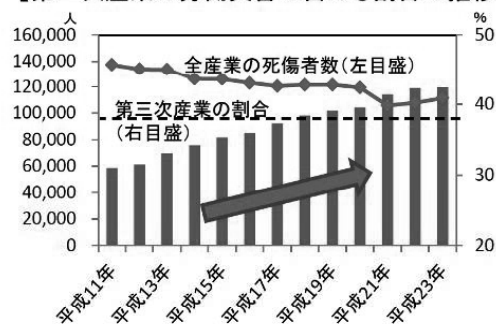
施策概要(仕様書による)

- 職場内の危険箇所の「見える化」の推進
 - ・職場内の危険マップに盛り込むべきコンテンツの作成
 - ・災害事例の動画の作成
- 社会福祉施設事業場に対する個別コンサルティングの実施
 - ・全国の社会福祉施設400事業場
- 腰痛予防対策の周知・啓発
 - ・リーフレットの作成・配布
 - ・腰痛予防対策指針の要点をまとめた動画の作成
 - ・講習会用マニュアルの作成
- 介護事業者を対象とした腰痛予防対策講習会の実施(全国47回)

期待される効果

- 腰痛予防対策の普及、第三次産業の労働災害(腰痛を含む。)の減少

【第三次産業の労働災害の占める割合の推移】



【保健・衛生業の労働災害・腰痛発生状況】

【休業4日以上】

	第3次産業の死傷者数	うち保健・衛生業※	対21年増加率(%)	うち腰痛※	対21年増加率(%)
H23	47,216	6,270	+20.6%	1,338	+13.4%
H22	45,594	5,592	+7.5%	1,268	+7.5%
H21	43,747	5,200	-	1,180	-

※保健・衛生業には社会福祉施設を含む。
※労災保険給付データ等により作成、
ただし、腰痛の件数は業務上疾病調による。

IV 福祉・医療分野等における介護・看護作業

（一部抜粋）

3 リスクの回避・低減措置の検討及び実施

(1) 対象者の残存機能等の活用

対象者が自立歩行、立位保持、座位保持が可能かによって介護・看護の程度が異なることから、対象者の残存機能と介助への協力度等を踏まえた介護・看護方法を選択すること。

(2) 福祉用具の利用

福祉用具（機器・道具）を積極的に使用すること。

(3) 作業姿勢・動作の見直し

イ 抱上げ

移乗介助、入浴介助及び排泄介助における対象者の抱上げは、労働者の腰部に著しく負担がかかることから、全介助の必要な対象者には、リフト等を積極的に使用することとし、原則として人力による人の抱上げは行わせないこと。また、対象者が座位保持できる場合にはスライディングボード等の使用、立位保持できる場合にはスタンディングマシーン等の使用を含めて検討し、対象者に適した方法で移乗介助を行わせること。

人力による荷物の取扱い作業の要領については、「I 重量物取扱い作業」によること。

ロ 不自然な姿勢

ベッドの高さ調節、位置や向きの変更、作業空間の確保、スライディングシート等の活用により、前屈やひねり等の姿勢を取らせないようにすること。特に、ベッドサイドの介護・看護作業では、労働者が立位で前屈にならない高さまで電動で上がるベッドを使用し、各自で作業高を調整させること。

不自然な姿勢を取らざるを得ない場合は、前屈やひねりの程度を小さくし、壁に手をつく、床やベッドの上に膝を着く等により身体を支えることで腰部にかかる負担を分散させ、また不自然な姿勢をとる頻度及び時間も減らすこと。

(4) 作業の実施体制

(2)の福祉用具の使用が困難で、対象者を人力で抱え上げざるを得ない場合は、対象者の状態及び体重等を考慮し、できるだけ適切な姿勢にて身長差の少ない2名以上で作業すること。労働者の数は、施設の構造、勤務体制、作業内容及び対象者の心身の状況に応じ必要数を確保するとともに、適正に配置し、負担の大きい業務が特定の労働者に集中しないよう十分配慮すること。

13

日本再興戦略(抄)

二. 戦略市場創造プラン

テーマ1: 国民の「健康寿命」の延伸

③病气やけがをしても、良質な医療・介護へのアクセスにより、早く社会に復帰できる社会

II) 解決の方向性と戦略分野(市場・産業)及び当面の主要施策

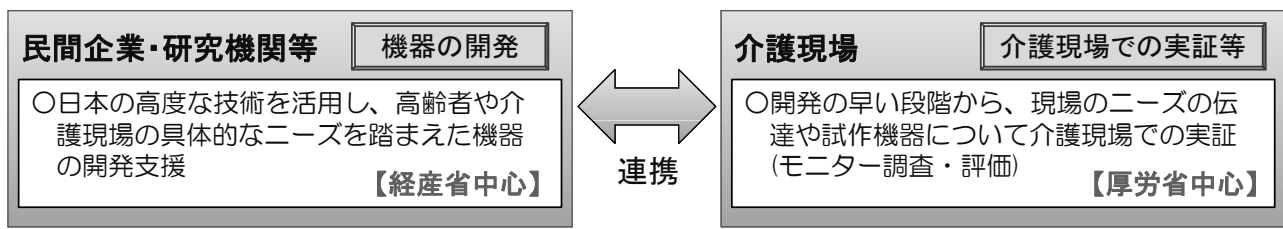
健康増進・予防や生活支援に関する市場・産業を創出する(前述)ことに加え、医療・介護提供体制の強化、高齢者向け住宅の整備等に取り組み、良質な医療やリハビリサービスへのアクセス、介護ロボット産業の活性化を実現し、高齢者、障害者等が、地域で安心して暮らせるようにする。

***** 略 *****





○ロボット介護機器開発5か年計画の実施等

- ・急速な普及拡大に向けて、移乗介助、見守り支援等、安価で利便性の高いロボット介護機器の開発をコンテスト方式で進めること等を内容とする「ロボット介護機器開発5か年計画」を今年度より開始する。
- ・また、研究開発に先立ち、開発された機器の実用化を確実にするため、安全基準及びそれに基づく認証制度を今後1年以内に整備する。
- ・ロボット技術を利用した機器が、障害者の自立や生活支援に活かされるよう、企業が行う開発を更に促進するためのシーズ・ニーズマッチング等を行う。


介護ロボットの開発支援について



(開発等の重点分野)
 経済産業省と厚生労働省において、重点的に開発支援する分野を特定(平成25年度から開発支援)

<p>○移乗介助(1) ・ロボット技術を用いて介助者のパワーアシストを行う装着型の機器</p> 	<p>○排泄支援 ・排泄物の処理にロボット技術を用いた設置位置調節可能なトイレ</p> 
<p>○移乗介助(2) ・ロボット技術を用いて介助者による抱え上げ動作のパワーアシストを行う非装着型の機器</p> 	<p>○認知症の方の見守り ・介護施設において使用する、センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム</p> 

○移動支援
 ・高齢者等の外出をサポートし、荷物等を安全に運搬できるロボット技術を用いた歩行支援機器



※開発支援するロボットは、要介護者の自立支援促進と介護従事者の負担軽減に資することが前提

福祉用具・介護ロボット実用化支援事業

【具体的な取り組み内容(平成25年度)】

相談窓口の設置

介護ロボットの活用や開発等に関する相談窓口を開設

- 電話による相談
- ホームページによる相談



実証の場の整備

実証に協力できる施設・事業所等をリストアップし、開発の状態に応じて実証試験へつなぐ。

- ホームページにて募集
- 協力施設・事業所等に対する研修



モニター調査の実施

開発の早い段階から試作機器等について、協力できる施設・事業所等を中心にモニター調査を行う。

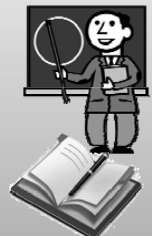
- 試作段階での評価
- 介護現場において実証試験 等



普及・啓発

国民の誰もが介護ロボットについて必要な知識が得られるよう普及・啓発を推進していく。

- パンフレットの作成
- 介護ロボットの展示・体験
- 介護ロボットの活用に関する研修 等



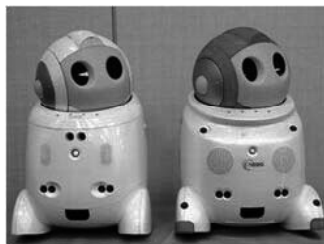
その他

- 介護現場におけるニーズ調査の実施
- 介護現場と開発現場との意見交換の場の開催 等

開発されつつある様々な介護ロボット



HAL(ロボットスーツ)



PAPER0
(コミュニケーションロボット)



リズム歩行アシスト
(歩行支援ロボット)



PARO(メンタル・コミットロボット)



スマートスーツ
(ロボットスーツ)



PALRO(コミュニケーションロボット)



SASUKE(移乗ロボット)
17

厚生労働科学研究費補助金（認知症総合対策研究事業）

支援機器を用いた 認知症者の自立支援手法の開発 平成22～24年度

研究代表者：井上剛伸（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）

研究分担者：永田久美子（認知症介護研究・研修東京センター）

種村留美（神戸大学 医学部）

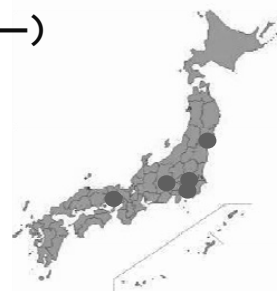
上村智子（信州大学 医学部）

関川伸哉（東北福祉大学 総合福祉学部）

石渡利奈（国リハ研 福祉機器開発部）

リサーチアシスタント：間宮郁子（長寿科学振興財団・

国立障害者リハビリテーションセンター研究所）¹

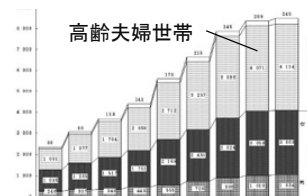


背景

社会的背景：高齢者の生活形態の変化

従来：2、3世帯同居が一般的

近年：独居・高齢夫婦世帯の増加→個別の支援が困難



医学的背景：軽度認知機能低下者の増加

もの忘れのある健常高齢者、軽度認知障害（MCI）、軽度認知障害者 2010年→2020年

もの忘れ高齢者*1：約431万人→約518万人に増加

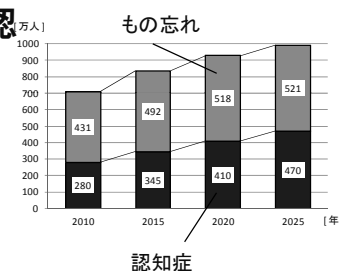
認知症：約280万人*2→約410万人に増加

補注)もの忘れ高齢者*1：約400万人以上、認知症：約462万人*3

アルツハイマー病：進行を遅らせる薬

MCI

：スクリーニング手法の進歩



自立・自律した生活を少しでも長く行えるような社会の実現
適切な技術による生活支援の必要性

*1 もの忘れ健常高齢者数：高齢者の15%、石原他、高齢者の日常認知・記憶の主観的な側面およびADL・IADLに関する研究、ダイヤ高齢社会研究財団ダイヤニュースNo. 62, 2010

*2 認知症者数：厚生労働省老健局高齢者支援課認知症・虐待防止対策推進室、「認知症高齢者の日常生活自立度」Ⅱ以上の高齢者数について、平成24年8月24日

*3 認知症有病率等調査について「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」厚生労働科学研究 朝田隆（筑波大学） 社会保障審議会第45回介護保険部会資料 2013年6月6日

国リハ研究所における軽度・中等度認知機能低下に対する自立・自律支援機器の開発・普及促進の取り組み（2005～）



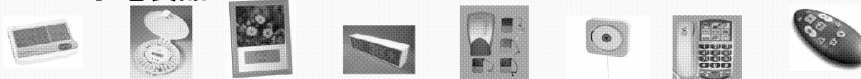
モデルルーム



機器展示

実証実験

服薬支援機器・電子カレンダー・探し物発見器・認知機能低下に対応した家電製品



情報提供

国内外の機器 約80点を展示

来館者数：約3000名（2007年12月以来）

貸出件数：45件

データベースアクセス：9,500件/年

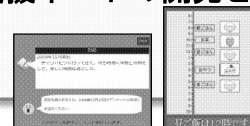
認知症のある人の福祉機器シンポジウム：計8回



機器開発

・認知症グループホームにおけるスケジュール支援ボードの開発と実証評価

・認知症者を対象とした電子日記帳の開発



井上, 他; 認知症者の自立・自律を支える福祉機器の情報提供, 第10回認知症ケア学会(2009)

3

本研究の背景と目的

背景

近年、中核症状（記憶、見当識障害）を補う支援手段として欧米で支援機器が注目→各国で機器を用いた支援の開始

国内での早急な対応



服薬支援機器



電子カレンダー



探し物発見器



認知機能の低下に対応した家電製品

本研究の目的

軽度認知症者の地域での暮らしの継続を支援するため、機器による認知症者の自立支援手法を開発する

①生活全体の
アセスメント

②機器による
支援ニーズの抽出

③機器の導入
使用の習慣化

④状況変化に合わせ
たフォローアップ

・早期実用化が必要な支援機器の開発

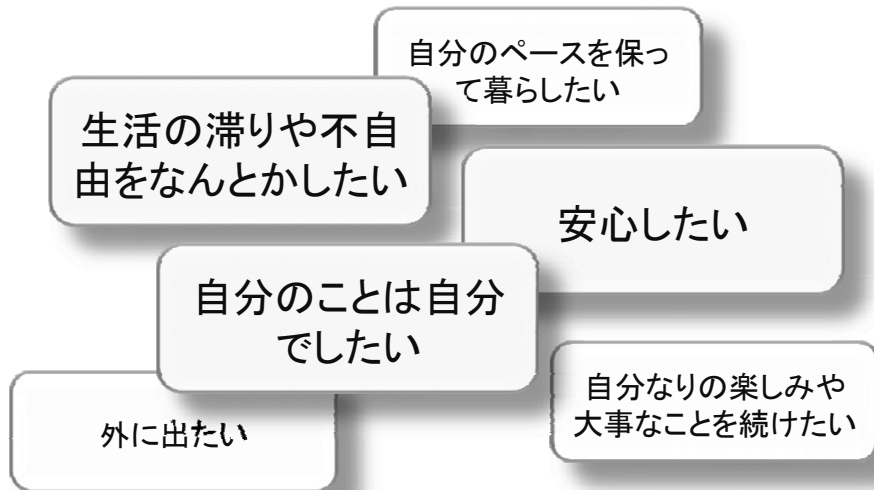
4

自立支援手法の開発

ニーズ抽出手法開発のための予備調査

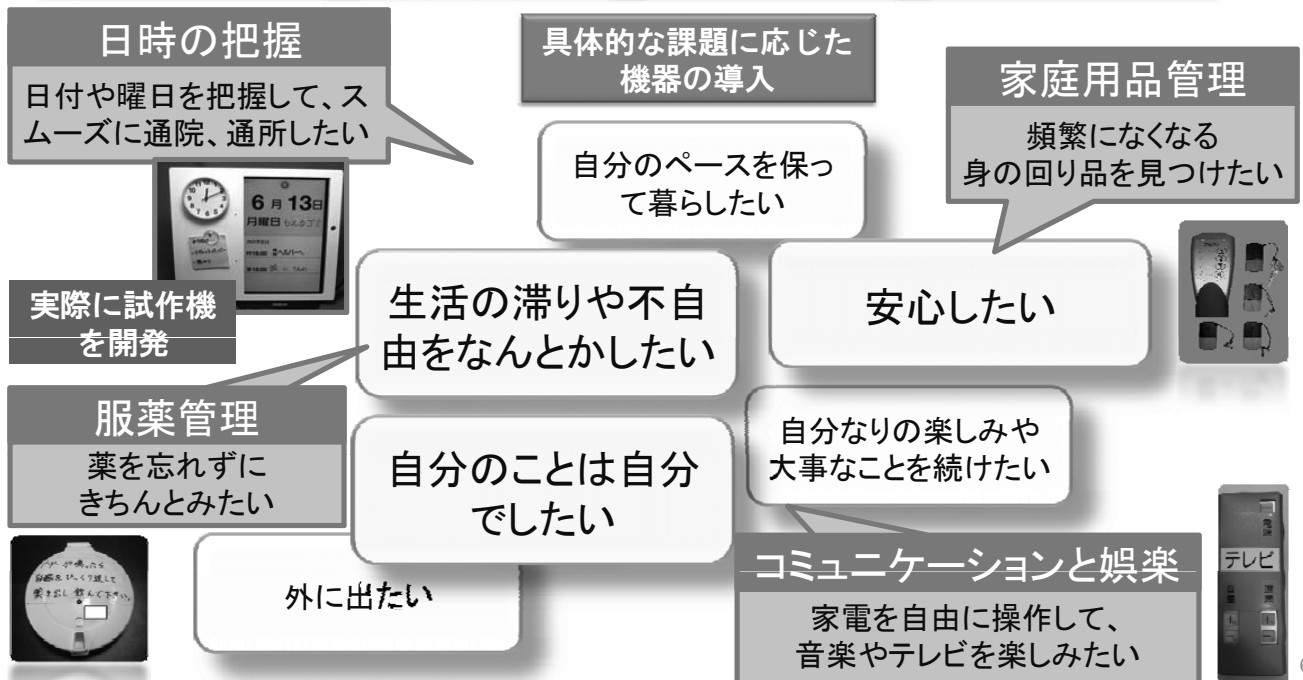


認知症者6名を対象とした実際のケア現場におけるアセスメント
⇒1人につき、6～9の生活上の課題が抽出



自立支援手法の開発

予備調査の結果から得られた機器での支援の可能性



自立支援手法の開発

①生活全体のアセスメント、②機器による支援ニーズの抽出



ニーズ抽出シートパック（センター方式）

参考 センター方式で活用されている主なシート

ケア職員10名とケアマネージャ10名へのヒアリング

現場に無理なく導入できる手法



手法 センター方式※を用いて生活全体の課題をアセスメントできるシートパックにより、機器による支援ニーズを抽出

※認知症の人の視点にたつて生活課題とケアニーズを総合的にとらえるためにケア現場で用いられているアセスメント手法

自立支援手法の開発

③機器の導入と使用の習慣化、④フォローアップ



支援機器適合マニュアル

認知症者53名（CDR0.5-2、アルツハイマー病25名、脳血管性認知症5名、MCI 2名、混合型3名、レビー小体病3名、他診断なし）を対象とした「支援機器を用いた6ヶ月間の適合実践」（服薬支援機器：18名、電子カレンダー15名、探し物発見器：8名、簡易テレビリモコン：12名）

➤機器の導入、使用の習慣化、フォローアップのための知見を収集

⇒適合技術※を開発（※対象者に合わせて機器を導入、機器を用いた自立を支援）

支援機器適合マニュアルとしてまとめる

（内容：機器の紹介、事例、機器の導入、使用の習慣化、フォローアップ）

現場での適合実践に基づく手法



手法 開発した支援機器適合マニュアルに基づいて、対象者に合った機器を導入し、地域での自立生活を継続的に支援

支援機器適合マニュアル

内容：機器の紹介、事例、機器の導入、使用の習慣化、フォローアップ



目次
● はじめに
● 電子カレンダーとは？
● どのような機器があるの？
● どのように役立つの？
● どのような人に適しているの？
● どのように使うの？
● その他

どのように使うの？ —使い始めてからの支援—
1. 使用の習慣化 認知症者は、機器の使用に慣れるまで、時間がかかることが多くあります。情報を知りたい時に電子カレンダーを確かめる習慣を身につけるため、使用に慣れるまでは、繰り返し、電子カレンダーの使用を促しましょう。
2. 使用の継続 予定の入力など、必要な支援を行いましょう。
3. 機器の調整 予定の表示件数の変更など、本人のニーズや能力の状態変化に合わせて調整しましょう。

9

自立支援手法の開発 支援機器の導入結果



認知症患者53名(CDR0.5-2、アルツハイマー病25名、脳血管性認知症5名、MCI 2名、混合型3名、レビー小体病3名、他診断なし)を対象とした「支援機器を用いた6ヶ月間の適合実践」→前後比較(服薬支援機器:18名、電子カレンダー15名、探し物発見器:8名、簡易テレビリモコン:12名)

服薬管理 導入事例

- ・処方通り、忘れずに飲めるようになった
- ・多重摂取のリスクが減った
- ・自分で出来るようになり、自信を取り戻せた

日時の把握

- ・間違えずに、通院できるようになった
- ・確実にわかり、安心できるようになった

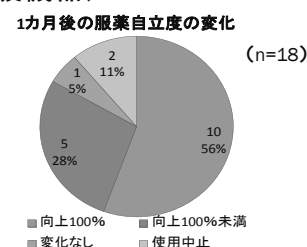
家庭用品管理

- ・通帳や鍵をなくしても、探せるようになった
- ・いつでも探せるので安心し、生活が安定した

コミュニケーションと娯楽

- ・テレビなどを簡単に操作できるようになった

自立度の変化
 >1ヶ月以内に多くのユーザで使用が習慣化、ユーザの84%で自立度が向上(服薬支援機器)



Tomoko Kamimura et. al. Medication Reminder Device for the Elderly Patients With Mild Cognitive Impairment, American Journal of Alzheimer's Disease & Other Dementias 2012,27(4) p.238-242.

適合技術を基に導入支援を行った結果、認知症者の自立度が向上し、生活の滞りや不自由の軽減、安心感の向上につながった

10

自立支援手法の開発 現場での支援実践に向けて

①生活全体の
アセスメント

②機器による
支援ニーズの抽出

③機器の導入
使用の習慣化

④状況変化に合わせ
たフォローアップ

機器の利活用をケア関係者が支援するためのガイドを作成

認知症の人が自身の力でよりよく暮らすために

自立支援機器の利用支援ガイド(試案)
～「時間がわかる」支援にむけて～



目次

1. はじめに
2. 日常の中で自立支援機器を活かしていくためのプロセス
3. 「ひとり」の人の利活用を支援してみよう！
 - 1) 「時間」に関する支援を求めている人がいませんか：
対象者の把握
 - 2) 本人がよりよく暮らしていくために、
「時間」の支援機器に関するニーズをとらえよう
 - 3) 本人が暮らしの中で支援機器を活かすための
支援プランをつくろう
 - 4) 本人といっしょに、支援プランを実践してみよう
 - 5) モニタリングと評価をしよう
4. 支援機器の利活用について、関係者と話し合ってみよう

11

自立支援手法の適用 全プロセスの試行結果

①生活全体の
アセスメント

②機器による
支援ニーズの抽出

③機器の導入
使用の習慣化

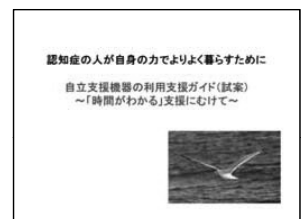
④状況変化に合わせ
たフォローアップ

居宅/グループホーム在住の認知症者とケア職員10組を対象に
支援ガイドを用いた時間の把握のための支援を実施



職員が支援ガイドを用いることで、
日常業務の中で本人の支援機器のニーズの見極めと
個々の特徴に応じた支援を行い、本人の自立した行動の増加、
安定して過ごせる時間の伸長等が確認された。

認知症者の支援機器のニーズと支援成果が高い一方、
それらが見過ごされているケースが多く、
より早期からの支援機器の利活用の支援を
ケア業務の一環として推進していく必要性が示唆された。



12

結論

軽度認知症者を対象とした支援機器を活用した自立支援手法を開発した

機器を用いた自立支援手法

①生活全体の
アセスメント

②機器による
支援ニーズの抽出

③機器の導入
使用の習慣化

④状況変化に合わせ
たフォローアップ

ニーズ抽出シートパック（センター方式）

支援機器適合マニュアル

ケア関係者のための自立支援機器の利用支援ガイド

1. ケアの現場で用いられているセンター方式により、生活全体をアセスメントし、機器による支援ニーズを抽出する
2. 開発した適合技術に基づいて、対象者に合った機器を導入し、地域での自立生活を継続的に支援する

上記の自立支援手法を実際のケアに適用した結果、ケア関係者が日常業務の中で本人の支援機器のニーズを見極め、地域生活における自立度の向上、生活の滞りや不自由の軽減、安心感の向上につながる支援を行うことができた。

今後は、自立支援手法を効果的に広めていくための
ケア関係者・支援機関の連携体制の構築が課題となる。

日時：2014年3月2日(日)13:00～17:00

会場：三菱UFJリサーチ&コンサルティング24階セミナー室

主催：三菱UFJリサーチ&コンサルティング

(厚生労働省老人保健健康増進等事業)

認知症の方の暮らしに役立つ福祉機器、
日用品などを普及するために

自立支援機器利活用事例 ～『できる力』を支えるために～

世田谷区若林あんしんすこやかセンター

(地域包括支援センター)

看護師 伊藤光世

o

- 平成18年度に地域包括支援センターが設置され、世田谷区では、高齢者に馴染みやすいようにと、あんしんすこやかセンター(略称あんすこ)と呼ばれています。
- あんしんすこやかセンターは世田谷区内に27か所設置されています
- 若林地区の65歳以上の人口は4639人で高齢化率は17.8%です。(平成25年4月1日現在)

1

高齢化に伴う課題

- 平成22年時点で全国の65歳以上の高齢者の認知症有病者数は約439万人、MCI(認知機能が正常でもなく認知症でもない中間の状態の人)の有病者は380万人と推定されています
- 平成25年には、高齢者世帯の半数を、
高齢者の一人暮らし・高齢者のみの世帯が占め、
中でも高齢者の一人暮らしの世帯の増加が見込まれます

2

自立支援機器利活用事例

- 平成22年3月から現在まで、国立障害者リハビリテーションセンター研究所(以下国リハと呼ぶ)よりモニターとして提供された自立支援機器のうち、

(A) 服薬支援機器は6名(表1)

- 認知症の進行に伴い機器の利用が困難
- 内服薬が増え機器に入らなくなった
- 事故により死亡

以上3名が利用を中止し、
他3名は継続利用しています



3

自立支援機器利活用事例

表1 服薬支援機器利活用対象者の属性

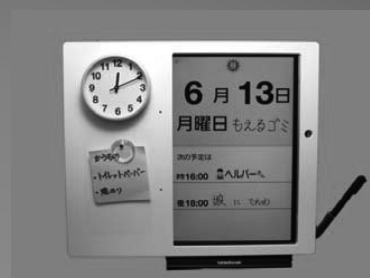
年齢	73歳～81歳	介護度	
性別		要支援	1人(要支援2)
男性	3人	要介護	4人(要介護1)
女性	3人	未申請	1人
世帯		薬を詰める人	
独居	2人	配偶者	3人
高齢者のみ	4人	配偶者以外の家族	0人
一般世帯	0人	地域包括・訪問看護師	1人
診断名		小規模多機能 薬局	1人 1人
アルツハイマー病	5人	使用前の服薬自立度	
脳血管性認知症	1人	飲み忘れ、飲み過ぎがあり服 薬行動が不安定	6人
混合型	0人	使用前の支援者の負担度	
MCI	0人	とても負担か少し負担	6人
認知障害に関わる診断なし	0人	余り負担なし	0人

4

自立支援機器利活用事例

(B) LED版電子カレンダー(以下LED版と呼ぶ)2名

- タブレットPC版電子カレンダー(以下PC版と呼ぶ)3名(表2)
- 体調不良で入院後、施設に入所
以上1名(LED版利用者)が利用を中止し、
その他4名が継続利用しています。



自立支援機器利活用事例

表2 LED版電子カレンダー利活用対象者と
タブレットPC版電子カレンダー利活用対象者の属性

年齢	73歳～87歳	介護度	
性別		要支援	0人
男性	1人	要介護	2人(要介護1) 2人(要介護2)
女性	4人	未申請	1人
世帯		主介護者	
独居	1人	配偶者	3人
高齢者のみ	3人	配偶者以外の同居家族	1人
一般世帯	1人	地域包括・ケアマネ	1人
診断名			
アルツハイマー病	5人		
脳血管性認知症	0人		
混合型	0人		
MCI	0人		
認知障害に関わる診断なし	0人		

6

服薬支援機器について

- 今回使用した服薬支援機器はスウェーデン製のアラーム付き薬入れでした(図1)
- この機器はあらかじめ設定しておいた服薬時間がくると、薬が納められたケースが自動的に回転し、1回分の薬だけを取り出せるようになっています
- 同時にアラームが鳴り、蓋の赤いランプが点滅して、対象者に服薬を促します
- アラームは薬を取り出す際のひっくり返す動作により止まります
- アラームの持続時間は5分から60分の間で選択が可能です
- 服薬時間は1日に飲む回数を複数回の設定が可能で、ケースには28回分の薬を1度にセットしておくことができます
(1日4回なら1週間分、1日1回なら約1か月分)

7

(A) 服薬支援機器を利活用した事例

81歳・女性：家業のお菓子屋を義父と商っていました
疾患：平成20年アルツハイマー型認知症と診断
内服薬：レミニール8mg（朝）・レミニール4mg（夕）
薬の飲みすぎで体調を壊し、服薬中止
介護度：要介護1（平成25年10月）、サービス利用なし
生活状況：戸建に夫と2人暮らし



関わりの経過：

平成25年8月 娘が服薬カレンダーに薬をセットしておくが、薬の飲み忘れや飲み過ぎで体調を壊し服薬を中止した。友人との約束を忘れ趣味の会にも参加できないことが多くなり、気持ちの落ち込みが心配との相談が娘よりありました

8

服薬支援機器の導入前

- 娘が服薬カレンダーに薬をセットしていましたが、飲み忘れや薬を飲まないで認知症が進んでしまうとの不安が大きく飲み過ぎてしまい、体調不良をおこして服薬を中止していました
- カレンダーにメモする等工夫していましたが、友人との約束を忘れたことをきっかけに自信を失い、趣味の会への参加回数が減っていました
- 忘れる事への不安が大きく「辛い、悔しい」と涙ながらに話し、うつ傾向がありました
- 掃除や食事の支度等家事に時間がかかるが、「家の事は自分で何とかやっている」と話していました
- 買いすぎ買い忘れがあるので、買い物は夫が担当していました

9

服薬支援機器の導入まで

- 夫婦共に新しい道具は使えないと了解が得られませんでした
- 服薬支援機器を持って同行受診し、主治医より「便利な機械だから使ってみましょう」と勧められました
- 自宅で機器に薬をセットし、ベルが鳴ったらひっくり返して飲む動作を、4回練習しました
- 服薬時間のセットは、対象者と夫に相談して決めました
- 食卓テーブルの上に機器を置きました
- 機器の蓋に、主治医の名前と『ピピと鳴ったらひっくり返して薬を飲みましょう』と書きました

10

服薬支援機器の導入後

- 服薬支援機器使用期間：H25年10月11日～現在
服薬コンプライアンスが継続できています
- 「物忘れが進まないように自分でちゃんと飲めている」
「機械が勝手に教えてくれるから安心」「これは優れもの」
本人からプラスの言葉がきかれました
- 物忘れが辛い・悔しいとの訴えが減り、家族から表情が明るくなったと感想が聞かれました
- 近隣の薬局に処方箋と服薬支援機器を持って行き、薬のセットと服薬管理を開始しました

11

服薬支援機器の受け入れ支援

- 機器の利用に対象者は「元気だから薬はいらない」「薬は飲んでいる」「面倒くさい」「新しい機械は使えない」と全員に拒否がありました
- 「薬がきちんと飲んでいないので心配」と相談があったのは主治医や家族からでした
- 認知症の人の多くは、服薬の必要性の理解が乏しく、自分は飲んでいると思い込んだり、自分がきちんと飲んでいないと思われたくない等、心理的な抵抗感が強く、利用開始には主治医や家族等周囲からの支援が必要でした

12

機器を継続して利活用するために

- 薬を取り出す行為は、さりげなくアラームを鳴らし、対象者が気付くのを待ち機器をひっくり返して飲む動作を3～5回練習しました
- 独居で服薬の定着が難しい場合は、アラームを設定した時間に訪問し、アラームが鳴ったら飲む行為の促しと服薬管理を、利用開始初期1～2週間に集中的に支援しました
- 「アラームがうるさい」と言い、布団の下に機器を隠す行為のあった対象者も主治医や支援者の「飲んでよかったですね」「自分で飲んですごいですね」との繰り返しの声掛けで、「アラームが鳴った時に聞こえないと困る」と話、対象者がいつもいる所に支援機器を置く行為(機器を受け入れる)が見られました
- 「元気だから薬はいらない」「飲んでいるから機器はいらない」「面倒くさい」と話す対象者の心理的抵抗感や負担感を軽減し、機器にセットした薬を安定的に継続して服薬するためには、個々の対象者に合わせていく支援や環境整備が重要です

13

服薬支援機器の効果

- 物忘れによる飲み忘れと、飲んだことを忘れるための飲み過ぎを防ぐことで、服薬コンプライアンスが維持されました
- 対象者にとって
「勝手に教えてくれるから忘れないで助かる」
「飲み過ぎないで体調不良にならないから安心」とプラスの感想が聞かれました
アラームの促しは、自分できちんと飲めているという『自己効力感』や『自信』を高めたと考えます。
- 家族にとって
「毎日薬を飲むように言わなく気が楽になった」
「飲むまでイライラ待たなくて楽になった」
「介護者も忘れるので安心」と、
服薬に関する負担感が軽減しました

14

服薬支援機器の課題

- 対象者からは、
「アラームが鳴っても、すぐ薬だと気付かなかった」と、
アラームと薬の関係をすぐに理解する事が難しかったことが窺えました
- 介護者からは、
「食事中にアラームが鳴り、薬を出して後で飲もうとして忘れた」
「外出の時に利用できない」
「薬が増えて入りきらなくなった」
「薬の時間ですよと音声で教えてくれると認知症の本人に分かりやすい」
以上の意見がありました

15

(B) LED版電子カレンダーを利活用した事例

79歳・女性：若い頃は紳士服の仕立をしていました

疾患：アルツハイマー型認知症・うつ病（意見書に記載）

内服：アリセプト5mg・ベンザリン5mg・テトラミド10mg
リーゼ5mg

介護度：要介護2、週2回デイサービス利用

生活状況：アパート1階に一人暮らし、ADLは自立
買い物・食事は自分で行っていました

関わりの経過：

あんしんすこやかセンターに、頻繁にデイサービスの通所日
や送迎時間を確認に来ていました



16

LED版電子カレンダーの導入前

- デイサービスの車が迎えが行くと、昨日だと思ったと言い、忘れていました
- 「朝起きると毎日、今日はデイサービスに行く日だと思う」と言い、デイサービス通所以外の日にも外で待っていました
- デイサービスの送迎時間よりだいぶ前から家の前で待っており、「〇時に迎えが来ますよ」と伝えても、車が来るまで落ち着かない様子でした
- 「デイサービスの料金を払っていないと言われた」「デイサービスを辞めさせられる」等、週に2~4回、日に2~3回あんしんすこやかセンターに、デイサービスの不安を訴えに来ていました

17

LED版電子カレンダー導入まで

- 「見やすい時計を使ってみましょう」と説明し、機器の受け入れは良好でした
- 目立ちやすいテレビの上に置きました
- ディサービスの通所曜日や送迎時間をメモに書き、機器の近くに貼りました

18

LED版電子カレンダー導入後

- LED版使用期間：H22年3月～9月（体調不良で入院後施設に入所）
- 不安の訴えは徐々に少なくなり、1ヶ月後には以下の状態になりました
- ディサービスの日に早くから家の前で待つことなく、通所ができるようになりました
- 曜日やディサービス送迎時間の確認や不安の訴えであんしんすこやかセンターに来ることが徐々に減り、安定して通所ができるようになりました
- 月2回位「一人で何もすることがない」「頭がもやもやする」等の訴えで来所した場合には、ゆっくり話を聴いた後、タオルを渡し雑巾を縫ってくださいとお願いしました（裁縫が得意）

19

LED版・PC版電子カレンダーの受け入れ支援

- LED版は日付・曜日・時間がシンプルで分かりやすく小型で、受け入れに抵抗がありませんでした
- PC版は、予定情報の設定は国リハの職員がおこない、パソコンの得意な家族は、家族が設定しました
- 「自分は認知症ではない」と強い拒否のある対象者の場合、孫も一緒に家族皆の予定を入れるカレンダーのモニターとして、利用を開始しました
- 対象者が見やすいように、以前から対象者が利用している馴染のコーナーに置きました。

20

LED版・PC版電子カレンダーの効果

対象者にとって

- ディサービスの通所や趣味の会へ安定的に参加ができるようになっただけでなく、頻回の訴えや落ち着かない行動が減少しました
- PC版では、家族の予定が分かるので、安心して留守番ができました

介護者にとって

- 今でも予定や日付を家族に聞きにきますが、「カレンダーを見てね」と流せるので負担が軽減しました
- 忘れてしまい「そんなこと聞いていない」と言われた時に、PC版電子カレンダーを一緒に見ながら確認ができるので、何度も説明したり、お互いイライラすることが少なくなりました

21

LED版・PC版電子カレンダーの課題

- PC版の場合、高齢者では新しい予定や予定の変更を設定することが困難です。必要時に適切な設定や支援が必要です
- 機械の調子が悪く日付や時間の不具合があっても、対象者は気が付かない可能性が高いです。定期的な機器のチェックや支援が必要です

22

『できる力を』支えるために

初期の認知症の人は、本人自身が忘れてしまうことに不安を感じており、友人との約束を忘れる等、もの忘れによる失敗経験を重ねることで、自信を失い閉じこもりがちになり、楽しみだった友人との交流も少なくなり、活動性の低下に伴い生活状況や健康状態またうつ状態の悪化を招く可能性があります

本人の不安や不安定の状態は、『できる力』を発揮できずに心身の低下や介護への依存状態に陥り、自立した自分らしい生活の継続が早期に困難になっているケースが高率に存在しており、認知症のできるだけ早期段階からの支援機器の利活用・支援をスタートさせる必要があります¹⁾

23

今後に向けて

- 必要な人にそのニーズにあった自立支援機器に関する情報が届きやすい環境
- 機器を安全にかつ有効に利用するために、専門家が係わる仕組み作り
- 本人・家族・および多職種の関係者が連携し、認知症の人の『できる力』を最大限生かした支援を可能にするため、利活用について学ぶ機会の提供

24

資料提供者：国立障害リハビリテーションセンター研究所

引用文献・参考文献

1)

厚生労働科学研究費補助金 認知症対策総合研究事業
支援機器を用いた認知症者の自立支援手法の開発
研究代表者 井上剛伸

25

現場からの報告

公益財団法人積善会 曾我病院
作業療法士&バリテーションワーカー
佐藤 良枝

作業療法士って？

認知症のある方の
できること・難しいことを把握し
困りごとを減らせるように
工夫します。

水分を飲みたがらない Aさん

前はあんな
好きだった

水分は
飲まなきゃ



どうしたら飲んでくれるのかな

実は ...

飲みたくても飲めない



コップは見える
コップは持てる
コップを傾け・首をそらし・身体をそらすことを
ちょうど良い具合に連動させることが難しい

例えば ...

大切: 水分を飲む

方法は自由

コップ → ストローで飲む



つまり ...

コップ — Aさん

マッチングの問題

ストロー — Aさん

たとえば ...



今日は何曜日
だったっけ？

困ったなあ。。。

あっ月曜日か

情報元:カシオ

写真出典:国立障害者リハビリテーションセンター研究所
認知症のある人の生活支援機器データベース

たとえば ...



曜日日付型時計
の理解がある

時計の置き場所
を覚えている

できること

情報元:カシオ

写真出典:国立障害者リハビリテーションセンター研究所
認知症のある人の生活支援機器データベース

たとえば ...

今日は何曜日
だったっけ？

ねえ。
今日は何曜日？

時計どこだっけ？



情報元:カシオ

写真出典:国立障害者リハビリテーションセンター研究所
認知症のある人の生活支援機器データベース

たとえば ...

「テレビの上よ」
「ああわかった！」



曜日付型時計
の理解がある

時計の置き場所
を忘れてしまう

できることをサポート

テレビという手がかりを使う

情報元:カシオ

写真出典:国立障害者リハビリテーションセンター研究所
認知症のある人の生活支援機器データベース

機器の活用でできることが増える

マッチング

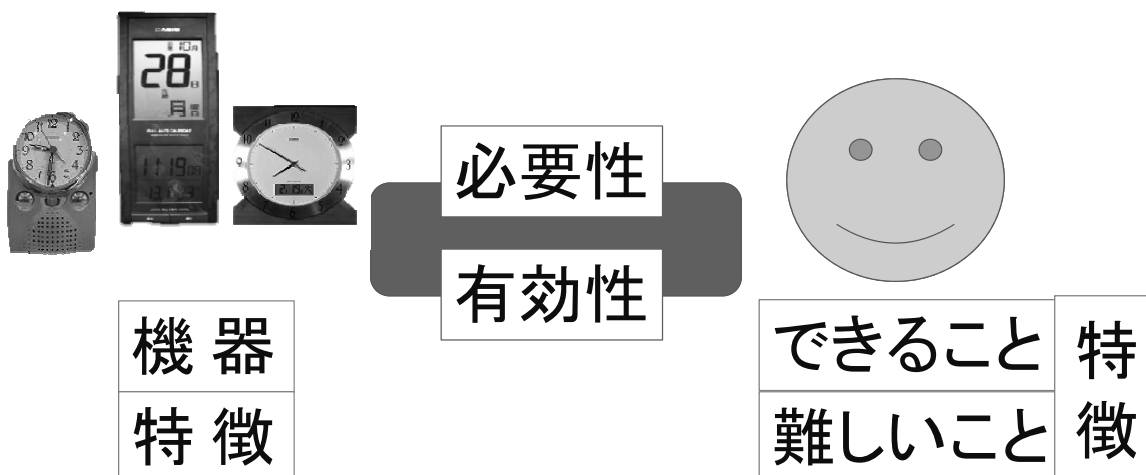
サポート



情報元:カシオ

写真出典:国立障害者リハビリテーションセンター研究所
認知症のある人の生活支援機器データベース

機器の活用のために



情報元:リズム時計工業株式会社・カシオ

写真出典:国立障害者リハビリテーションセンター研究所
認知症のある人の生活支援機器データベース

誰でも望めば住み慣れた自宅で 暮らし続けられるために

井 益雄

い内科クリニック 院長

認知症の方はおひとりおひとりが様々な問題をかかえておられます。そしてひとたびストレスが加わるとパニックを起こしやすく、症状が悪化したり介護に対する抵抗がみられたりします。しかし、上手く対応してやれば落ち着いた精神状態が保てご本人および周囲の人との平穏な関係を築けます。本日は、アルツハイマー病を発症された独居のお年寄りがなんとか住み慣れたご自宅で暮らし続けられている事例を紹介させていただき、それが可能になった要因をお伝え致します。さらには介護者が居なくとも在宅生活が可能な仕組みを長野県上田市の自治会住民とめざしている活動をご紹介します。

シンポジウム「認知症の方の暮らしに役立つ福祉機器、日用品などを普及するために」

介護が必要な方、認知症の方を介護されている ご家族を対象としたアンケート調査結果

2014年3月2日



目次

1. 調査概要	2
2. 回答者、要介護の方・認知症の方の概要	3
3. 生活の質を向上させるための機器や商品の認知度	4
4. 機器や商品の認知経路、購入のきっかけ	6
5. 利用したことがない人の利用意向	8
6. グッズや日用品を手作りした経験	9
7. 要介護・認知症の家族を支援するにあたり困っていること	10
8. 困っていることを解決するためにあったらよいと思う商品やサービス	13
9. 家族を支援・介護するにあたり相談した先	15
10. 相談・情報入手・購入したい先	16
11. まとめ	19

1. 調査概要

■ 紙面調査の概要

- 調査対象：
家族に要介護者がいる方、過去に家族に要介護者がいた方。
- 配布数：200件
- 回収数：175件 回収率：87.5%
- 調査実施方法：
直接配布、直接回収（一部、郵送回収）。配布・回収はNPO法人杉並介護者応援団に依頼。団体による会合の出席者等に配布。
- 調査実施期間：
平成25年12月16日～平成26年1月29日

■ Web調査の概要

- 調査対象：
インターネット調査会社（マクロミル）の登録モニターより、家族に認知症の方がいる人をスクリーニングし、二次調査対象に。軽度の認知症のいる方を優先し、男女および、「20歳以上55歳未満」「55歳以上」の別に約50人ずつを割り付け。
- 回収件数：212件
- 調査実施期間：
平成25年12月18日～平成25年12月20日

2. 回答者、要介護の方・認知症の方の概要

■ 回答者の概要

- 年齢 紙面：65歳以上が約半数
Web：50歳代が約4割
- 性別 紙面：女性が約7割
Web：男女約半数ずつ
- 続柄 紙面：娘が約3割
Web：息子が4割弱
- 同居の状況（紙面調査）
同居・非同居が同割合
- 主たる介護者である人の割合
紙面：約6割
Web：4割強

■ 要介護の方・認知症の方の概要

- 年齢
紙面：90歳以上が約4割
Web：75～84歳が約4割
- 性別 紙面・Webとも女性が7割弱
- 同居している人
紙面：配偶者が約25%、娘が約2割
Web：配偶者、息子がそれぞれ4割強
- 要介護度 紙面：要介護4・5が約3割
Web：要介護1・2が約4割
- 認知症の状況
紙面：「介護が必要である(だった)」が36%
Web：「誰かが注意していれば自立した生活ができる」が4割強

3. 生活の質を向上させるための機器や商品の認知度①

- 6つの機器や商品について、利用や認知の状況をうかがいました。
認知度はどの程度でしょうか？

① 服薬を支援するための商品



紙面：13.1%
Web：22.2%

(情報元：Pivo Tell)

② 曜日や時間を把握しやすいよう配慮した時計



紙面：23.4%
Web：21.7%

(情報元：カシオ)

③ 操作しやすい電話



紙面：10.2%
Web：21.3%

(情報元：株式会社ルピナス)

④ 操作しやすいテレビリモコン



紙面：24.0%
Web：26.4%

(情報元：朝日電気株式会社)

・%は、「利用している、
利用したことがある」
「知っているが、利用
したことは無い」を合
わせた割合。
・アンケートでは、2~4
点の写真を提示。

写真出典：国立障害者リハビリテーションセンター研究所 認知症のある人の生活支援機器データベース

Mitsubishi UFJ Research and Consulting

4

3. 生活の質を向上させるための機器や商品の認知度②

⑤ 止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓



紙面：20.0%
Web：14.1%

(情報元：The Alzheimer's Store)

⑥ 自動消火機能や音声アラーム等が ついたガスコンロ



紙面：43.4%
Web：25.4%

(情報元：リンナイ)

⑦ 探し物発見器、置き忘れ防止アラーム



紙面：15.4%
Web：19.3%

(情報元：イマオコーポレーション)

⑧ コミュニケーションのできる人形



紙面：64.0%
Web：40.1%

(情報元：タカラトミー)

写真出典：国立障害者リハビリテーションセンター研究所 認知症のある人の生活支援機器データベース

Mitsubishi UFJ Research and Consulting

5

4. 機器や商品を購入したきっかけ①

①服薬を支援するための商品

- ・朝昼晩の薬の種類が異なり、祖母が管理できない。
- ・同居していない家族にも理解しやすいため。
- ・服薬を忘れてしまうことが多かったので薬局で購入した。
- ・飲み間違いがあったので。
- ・ほとんど飲み忘れるため。

②曜日や時間を把握しやすいよう配慮した時計

- ・広告を見て実家の母にプレゼント。
- ・表示の大きいものを探して家電量販店で購入。
- ・日付と曜日、時間が分かる時計を探し購入した。
- ・曜日、時間の認識が悪くなってきたため、表示の大きなデジタル型をテレビの前の一番目につく場所に置いた。
- ・日付と時間を何回も聞いてくるから。

③操作しやすい電話

- ・指が不自由だから。
- ・たまたま電話機が古かったので、なるべく簡単にボタンの大きい商品にした。
- ・電話機が故障して家電店で購入しに行き、店頭でPVを見て。

④操作しやすいテレビリモコン

- ・祖母の認知症が初期の頃、リモコンの使用方法がわからない時があり、分かりやすいものを購入。
- ・不意にCSボタン等を押してしまうと元に戻せなくなるので、安価で簡単なリモコンを購入。
- ・既存のリモコンではボタンが小さく機能が多すぎ、誤動作が頻繁にあったため。

4. 機器や商品を購入したきっかけ②

⑤止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓

- ・浴室のみ対応。家を建て直した時に湯量・温度調整付きのものを設置
- ・お風呂を取り換えるときに、工務店の方から教えていただき大変便利に使っている。
- ・介護サービス事業者の推薦。
- ・家を建てる時に紹介され、健常者、子供に便利と選択した。それが有効だったことは偶然。

⑥自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロ

- ・自分が買い替える時にガス会社の展示で知った。親が買い換える時にも勧めた。
- ・鍋を焦がすので危険と思っていたところ、器具の取り換え時期にガス会社が教えてくれた。
- ・ガスの扱いに不安を感じたので家電量販店で購入し取り換えた。
- ・火の消し忘れが頻繁にあるので購入。

⑦探し物発見器、置き忘れ防止アラーム

- ・紛失する物が出てこないことがあるので。
- ・部屋の電灯のリモコンや家のかぎを無くすことが多くなり、インターネットで探して購入した。
- ・物忘れがひどくなり、デイサービスに持っていくバッグの置き場所が分からなくなって迎えが来た時に大騒動だったので。ただ使ってはくれなかった。

⑧コミュニケーションのできる人形

- ・子ども達で母に誕生日プレゼントとして。
- ・友人に勧められて母のボケ防止のため購入。
- ・義母が少しでも寂しがらないようにと購入。
- ・普通のぬいぐるみをいつも肌身離さず可愛がる姿を見ていて、玩具店で見かけた学習効果のある喋るぬいぐるみをプレゼントした。毎日いろいろ話しかけており、癒し効果やぼけの進行防止に期待している。

5. 利用したことがない人の利用意向

①服薬を支援するための商品

紙面：42.1% Web：35.6%

⑤止め忘れ・やけど防止機能のついた水栓

紙面：60.5% Web：38.1%

②曜日や時間を把握しやすいよう配慮した時計

紙面：49.7% Web：38.9%

⑥自動消火機能や音声アラーム等がついたガスコンロ

紙面：64.1% Web：32.8%

③操作しやすい電話

紙面：46.1% Web：27.5%

⑦探し物発見器、置き忘れ防止アラーム

紙面：55.1% Web：41.2%

④操作しやすいテレビリモコン

紙面：45.3% Web：29.5%

⑧コミュニケーションのできる人形

紙面：36.4% Web：27.3%

%は、「ぜひ利用したい」「金額によっては利用したい」を合わせた割合

6. グッズや日用品を手作りした経験

- 自身や仲間などで、工夫してグッズや日用品等を手作りした経験のある人は2割程度。具体的に、どのような工夫をされているのでしょうか・・・

①薬関係

- ・毎食前・後、起床後、寝る前等に服用する薬を個別整理できるように工夫した薬袋。
- ・薬と薬の空き袋を分けた時、数が合っていることを確認するための小箱を用意した。
- ・薬の服用結果を記録するチェックリスト。
- ・薬を小分けできるような袋を作って、朝昼晩、いつ飲めばいいかわかるようにした。日付もわかるように。

②スケジュール表、カレンダー、時計

- ・食卓から見えるところにボードを掲示し、一週分の予定を書く。「今日」と書いた丸いマグネットを家族が毎日ずらして、本人は見るだけで今日がいつか分かるようにしている。
- ・「きょうはデイサービスです」「きょうはデイサービス休みです」と書いたものを部屋に掛けておくもの。

③リモコン

- ・リモコン等の操作盤で、必要最低限のボタン以外は隠す型紙。
- ・不必要なボタンに触れないように目隠しテープを貼る。必要なボタンに赤のシールを貼る。

④センサー、ブザー、カメラ等

- ・廊下の電気で、人を感じてセンサーでつくようにする。夜トイレへ行く時等便利。
- ・Web対応監視カメラ、人感センサー、週間タイマー。
- ・ベッドから下りたことが判るように、ベッド下のマット。マットとマットの間にドッキリで使う（ブーブー鳴る）おもちゃを入れた。
- ・置き忘れ防止アラームを玄関先と玄関のドアに取り付け、夜間ドアが開いたらアラームで起きることができるようにした。

7. 要介護・認知症の家族を支援するにあたり困っていること①

①物忘れ

- ・ 忘れたことを忘れてるので、言われるとすごい剣幕で怒る。
- ・ こちらが言ったことを聞いていないということが多いため、簡単に録音して記録できるスケジュール表で、自分で確認できるとよい。
- ・ 物を整理した場所がわからない。また、物を片付けたことすら忘れてる。
- ・ 家の鍵をどこかへ落としてきたことがあり、なるべく家を留守にはできなくなった。
- ・ 大事な書類をなくさないか心配。

②話を聞かない、頑固、攻撃的

- ・ 危険なことを注意しても聞かない（熱中症の危険性があっても窓を開けている。危険物を生ごみの中に入れようとする）。
- ・ 間違って理解している事柄について、周りのアドバイスを受け付けない。
- ・ 注意と文句の区別ができず、被害妄想的になる。

③同じことを何度も言う・聞く

- ・ 同じことを何度も聞くので困る。
- ・ 同じことを2～3分後に聞いてくる。
- ・ とにかくしつこくてうるさくて何にでも口を挟んでくる。それを忘れて何度も繰り返す。

④コミュニケーションができない

- ・ 全く普通の会話ができない。本人の考えや考えを確認することが大変というか、いつも不安を感じる。
- ・ 「わかった」と言いつつ、理解していないことが多い。

⑤妄想

- ・ 妄想気味で、外部に固執した考えを吹聴する。
- ・ 物とられ妄想がひどく、怒り狂って攻撃される。
- ・ うそか本当か判断できないことを言う。

7. 要介護・認知症の家族を支援するにあたり困っていること②

⑥昼夜逆転

- ・ 昼夜逆転しているので、常に様子を見に行っている。
- ・ 昼間居眠りをして、夜は2～4時間程度寝たら早々に起きてうろろしている。

⑦食事関係

- ・ 食事をしたことを覚えていない。
- ・ 食べ過ぎる。
- ・ 誤飲が心配。

⑧排泄関係

- ・ トイレを失敗した際、汚れたまま隠そうとする。
- ・ 本人は何でもできると思っているので、排便の処理など手遅れ状態で発見し、掃除が大変。トイレの汚れや洗濯機の汚れなど。

⑨服薬関係

- ・ 食事の時間が不規則で、食後の薬・食間の薬の面倒をみるために、時間を合わせるが大変。
- ・ 仕事などで留守にした際、薬の二重飲みがあった。

⑩徘徊、道に迷う

- ・ 家から出ようとするので鍵を2重3重につけたところ、椅子を持ってきて上がり、鍵をはずそうとした。
- ・ 夜間の徘徊に気付けない。

⑪電話や訪問者への対応

- ・ 一人で留守番ができない。
- ・ 電話の伝言や宅配便などの対応ができない。

7. 要介護・認知症の家族を支援するにあたり困っていること③

⑫金銭管理

- ・記憶力が衰えているので、不要なものを注文したりする。
- ・生活費を計画的に使えない。電気料金未払いでストップされた。
- ・金銭感覚がはっきりせず、何にお金を使ったか判断できない。

⑬うつ、不安、さみしがる

- ・皆の気持ちを察してか、早く死にたいと言うことが増えた。
- ・生きる気力が無いらしい。生きがいが無いらしい。あっても忘れるがゆえに後ろ向き。
- ・夜ひとりでいられない。

8. 困っていることを解決するためにあったらよいと思う商品やサービス①

①センサー、ブザー等

- ・目を離すと出ていくので、ドアをあけようとするメッセージが流れる装置。例えば、「お母さん、もう少し家にいてね」など。
- ・スマートフォンや携帯電話から家の状況を確認でき、異常があったら緊急通報できるシステム。
- ・用事があるときに音声でお知らせしてくれるようなもの。
- ・耳が聞こえにくい人のために、光でわかる機器。
- ・遠隔操作で家の状況が確認でき、なおかつ会話ができる機器。

②徘徊への対応

- ・腕時計型の徘徊探知装置。男性は時計や名刺にこだわりがあるので、身に付けて出かけるのでは。
- ・認知症の探知センサーに個人情報が入っていると、保護した際に身元がすぐに確認できる。

③服薬を支援する機器

- ・一週間分の錠剤、顆粒剤をセットし、バンドで止めることができるもの。落下した際、バラバラにならないように。
- ・時々飲み忘れるので、「アラーム薬入れ」があれば便利。安価であれば購入するかも。

④入浴を支援する機器

- ・入浴中の見守りシステム（声かけをすれば何とか入浴する人に対して）。

⑤物忘れへの支援

- ・置き忘れ探索器のようなもの。
- ・自分の行動を記録しておいて自分で確認できるようなもの。
- ・一日前の行動を自動再生する機器。
- ・書きやすいメモ帳や伝言板。
- ・簡単にメモを取ったり、書いたりできる商品。

8. 困っていることを解決するためにあったらよいと思う商品やサービス②

⑥話し相手

- ・話し相手になってくれるサービス。
- ・話し相手のできるロボット。

⑦本人が楽しむことのできるもの

- ・デイサービスのない日は暇でしょうがない様子。認知症向けの家庭用ゲーム等、やる気になるものがあるとよい。
- ・何でもよいので継続できる趣味が持てるようになってほしい。それをサポートしてくれるようなものがあるとよい。
- ・喪失感を和らげるためのサービス。

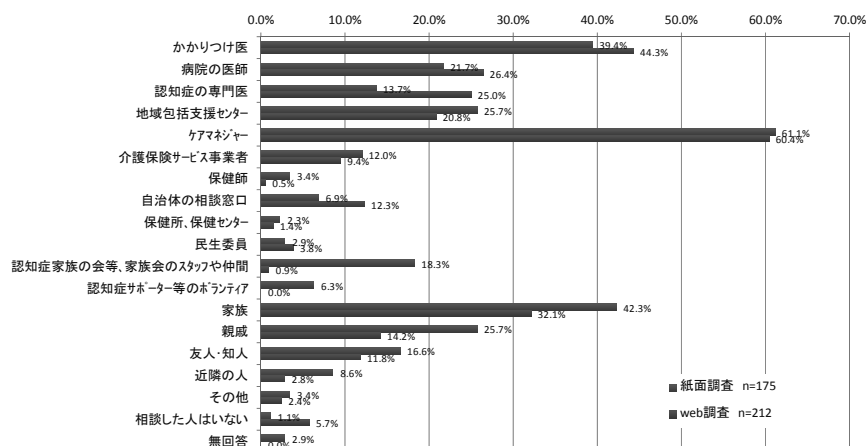
⑧相談窓口、情報提供

- ・困ったことをすぐ連絡できる相談電話。
- ・定期的に届けてもらえる介護に関する情報誌。
- ・24時間相談電話。

9. 家族を支援・介護するにあたり相談した先

- 手助けや介護が必要な家族、同居している認知症の家族を支援・介護するにあたり相談した人を見ると、「ケアマネジャー」の割合が最も高く、次いで、「家族」「かかりつけ医」の割合が高くなっている。

図表 手助けや介護が必要な家族を支援・介護するにあたり相談した人(紙面調査Q8)／同居している認知症の家族を支援・介護するにあたり相談した人(Web調査Q7)複数回答



10. 相談・情報入手・購入したい先①

- 手助けや介護が必要な家族、同居している認知症の家族が家で暮らしていく上で困っていることを解決するために役立つ商品、サービスについて、どこで相談・情報入手・購入できたらよいか、自由に記入してもらった結果をみると、「ケアマネジャー」が最も多くあげられていた。

①ケアマネジャー

- ・ケアマネジャーとは月に1回会うため、ケアマネジャーからの情報は大変助かる。
- ・一番身近で接する機会の多いケアマネジャーや事業所が情報を伝えてくれると有難い。
- ・ケアマネジャーより一歩先を見て情報提供してほしかった。
- ・ケアマネジャーに相談して、インターネットで購入できたらよいと思う。
- ・ケアマネジャーが豊富な商品情報を持っていると助かる。
- ・なかなか出かけることもできないので、ケアマネジャーが詳しく説明してくれるのが一番だと思う。

②地域包括支援センター

- ・地域包括支援センター、ケアマネジャーが相談にのり、購入は商品にあった量販店より。
- ・地域包括支援センターで相談できると、気軽に行けるし、こちらの事情も分かっており、最初から説明しなくてもよいので助かる。

③自治体

- ・ケアマネジャー等に相談しないので、区役所などに気軽に相談できたり、見本を置いてお試しができると、簡単に行けるので助かる。
- ・区役所、出張所、郵便局等にあれば、手軽に行けるし、連れていける。
- ・役所でもっと親身に相談できるとよい。

10. 相談・情報入手・購入したい先②

④病院、診療所

- ・病院で実際に触ったり購入できたら便利だと思う。
- ・いきなり介護となると本人が身構えてしまうので、かかりつけの病院で気軽に話ができれば。

⑤薬局、ドラッグストア

- ・近所のドラッグストアの医薬品レジで、情報提供や購入ができれば便利だと思う。

⑥介護サービス事業所、介護施設

- ・本人が通っているデイサービスで良いと思われるものを紹介していただけたら、あちこち探し回らなくてもよいと思う。
- ・ケアワーカーや介護施設などがお勧めするものだったら質を信用できる。
- ・デイサービスを利用しているので、そこで試に使えるとよいと思う。

⑦スーパー、コンビニ、百貨店、家電店

- ・身近なスーパーやデパートで手に取って見られて購入できたら。
- ・スーパー等で展示されていて自由に触ることができるとよい。デモンストレーションを見られたら、なおよい。
- ・スーパーやデパートの介護用品売り場。
- ・家電量販店で気軽に買いたい。
- ・家電量販店で実際に試せるコーナー。

⑧インターネット

- ・インターネットで、分かりやすく、すぐに購入できるサイトを作ってほしい。
- ・インターネットの口コミサイト。
- ・インターネットの相談コーナー。自治体は顔見知りが多く相談しにくい。

⑨テレビ、ラジオ、新聞、雑誌

- ・介護保険を使っていないときは、テレビや新聞で情報を知りたい。

10. 相談・情報入手・購入したい先③

⑩介護者団体、口コミ

- ・介護者の会などで、使って良かったなどの口コミが大切だと思う。
- ・口コミが一番良い。

⑪自宅で確認したい

- ・介護している家族は遠出ができなかったり、時間が取れないことが多いので、身近で相談できたり、自宅で現物が見られる機会があってもよいのではと思う。
- ・郵送してもらえるとありがたい。
- ・家に来てもらえるとよい。

11. まとめ

◆生活の質を向上させるための機器や商品を必要な方へ届けるために

●各機器や商品の認知度は2割程度 → 利用したことがない方の利用意向は4～5割程度
※機器や商品を必要とする方が知る機会を増やす必要性

●相談先の希望は、ケアマネジャーが多い。その他に、地域包括支援センター、自治体の相談窓口、病院・診療所、介護サービス事業所など。
購入先の希望は、スーパー、コンビニ、薬局、百貨店、家電量販店など、身近な場所。インターネットも。

※専門職等に相談しながら、身近なところで購入できる仕組みの必要性

●様々な課題を抱えながらの生活を送る中、グッズや日用品を手づくりする人も2割程度。
※生活の質を向上させるための更なる機器や商品の開発・普及の必要性



アイスブレークの的に読んでもらえるかしら

- 1・2頁のスライドは建物案内図です。ご覧の通り廊下が長く、ご利用者や来訪者の皆様からは移動が大変の声があります。だけど、この長い廊下を移動して得られる効果に気づいたのです。
どんな効果？そう、長い廊下を克服したら～老化防止～なんちゃってです。
- 職員が忙しく、立ち止まってお話しや相談のお相手が出来ないことがしばしばです。そこで私たちは、じっと耳を傾けてくださるお地藏様を祀りました。そして相談を聴いてくださるお地藏さんには自然と名前がつけられました。何て名前なの？ 決まっていますよ、～地藏相談員～なんちゃってです。
- お年寄りには信仰心が強いのでしょうか。
「貴方はキリスト様を信じますか？」「イエス」とも答える私たちですが、事業所には神棚があり、神社のような名前と呼ばれ慕われています。
「貴方は誰あ～れ？」と訊かれたら「わしゃ、ろうじんじゃあ～」と答えているようで、～朗神社～と慕われております。
- なんちゃって事業所からやってまいりました、栗林と申します。
本日はよろしく願いいたします。秋田美人、小町生誕地、湯沢市小野からです。当地の小町伝説は深草少将の百夜通いの悲恋後、生涯独身を通し92歳で没。ですから思います。美人薄命は嘘かな。
だって当地で語り継ぐ小町に私たちが関わる秋田美人さんは皆さんが長寿、会場の皆様も「私は美人だから短命」など思い込みや気兼ねすることなく、長生きしてください。だけどできるなら、健康寿命でいきたいものですが。

スライドと前置き

- 自事業所紹介
(経営主体の法人については書ききれませんし、事業所の説明は長くなるのでお話ししませんのでご安心を)
- 自らが勝手に振り返る介護観の変化や地域移行などについて、細かい字でだらだらと書き込んでいます。
(やはりお話しは、慎みますのでホッとしてください。)
- サテライト特養とそこに併設する小規模多機能型居宅介護事業所、また相談機能である在宅介護支援センターについては、くどい、こだわりを入れています。
- あっ、それと特養や小規模は今や医療依存度＋認知症の方々であり、人生を完成されて逝く方々へのターミナルケアの関わりが多いこと、ご承知ください。
- 法人理念“響存”を最初の頁に掲げましたが、互いの心に響き届くような、双方向の関係づくり、共感獲得にあります。
- 快互朗人とは互いを快く思う朗らかな人間関係を目指します。

先ず所属の（福）雄勝福祉会の平成園紹介を

- ・特別養護老人ホーム(60人) 自称元祖既存改修型ユニット風的なケア
 - ・ショートステイ事業(15人)
 - ・デイサービス事業(毎日、7～9時間、25人)
 - ・雄勝在宅介護支援センター
 - ・居宅介護支援事業所
 - ・ホームヘルプ事業
 - ・訪問入浴事業
 - ・毎日3食配食サービス
 - ・(ときどき)会食サービス(500円/日)
 - ・福祉有償運送(通院中心だけど)
 - ・(地区へ)出前デイサービス(木/毎週)
 - ・介護予防事業(運動、口腔、栄養など)
 - ・健康サポート教室(水/毎週)
 - ・喫茶「ふれ愛」(知的障がい児・者とその家族の会「ひまわり会」運営)
 - ・76.3MHzヘルツFMラジオゆうとぴあ「ほのぼの横町物語」(火/毎週)
 - ・認知症劇団公演と認知症サポーター養成
 - ・思いやりメッセージフェスティバル(毎年500前後の作品が)
 - ・高齢者相互援助ホーム(冬期間限定の共同生活、夏山冬里支援)福寿荘
 - ・小規模多機能型居宅介護事業 桜おかだ(25人)とぬくもりの里たてやま(20人)
 - ・平成園サテライト型特養(10人×2ユニット) ぬくもりの里たてやま
- ※ 法人内には就労や生活支援の障がい者サービスメニューが多いです。
(そもそも法人の始まりは障がい者事業から)

介護観の変化、地域と今後の施設

特養中心の入所サービス職員(の関心)は、外(地域)よりも中(施設内)向きであった。

↓
その施設は生活の単位を考えるとなく、量と言う集団を相手に一生懸命。
自分の動作である身体介護に終始し、住宅(環境)やご利用者の満足度、個別性を考えなかった。

↓
ユニットケアが誕生し施設を変えたかな。個別ケア、相手との関係性には効果的。安心の居心地を。
生活者としての住環境とその暮らしの単位。家庭に近づける、地域に近づく。
コミュニティという関係性を、社会性を持つ。(ベッドから部屋、部屋から地域)

↓
入口はユニット、出口は地域。地域住民として当たり前生きる。
家族はそこまで望まない場面へ直面。自分ならば違うのに、矛盾が。誰の人生を生きるのか。

↓
一方で、施設の中にあるもの(機能)が、何故地域に無い? の疑問。

↓
課題が見え、試みと言う実践、解決のための実践。
(デイやショートなどの)在宅サービスは特養併設と言う飾りか、アクセサリか。

↓
逆デイ、サテライトデイ、宅老所、365日24時間体制ヘルパー、毎日三食配食サービスに外出支援、
小規模多機能による(365日24時間)包括支援など。地域に施設機能を持たせる。

↓
待機者には施設増のパターンリズムか。本当の課題は地域での安心した住みやすい生活を考える。

↓
地域から離れる(離す)ことが目標ではなく、地域で暮らす、普通のことを支援が出来たら。
見えてきた本音(ニーズ)に合った施設の変化を期待され。従事者が変わり、家族、周辺、住民も。

↓
身体介護中心から広く日常生活支援である社会参加を目指し、地域の福祉土壌を作っていきたい。
ご利用者・環境、人と環境への接点への働きかけ。施設中心から地域・在宅での暮らし支援へ。
生活場面を伝え、医療が後方支援してくれたら、暮らせそう。在宅の幅拡大こそ地域包括ケアでは。

地域と事業所の関係から

- 在宅(老人)介護支援センターの業務と地域
 - ・ 厳しい時代背景や制度的位置づけの話ではなく、相談援助業務機関の矜持。そこでは、家族や事業所、地域と向き合い課題解決に向け取り組み続けている。また、介護用品の展示や使用などの助言も重要な業務。また、ニーズ把握から行動・事業計画へ声を出す前傾姿勢の機関。介護者交流に介護教室、広報活動等、地域福祉土壌づくりに努める。
 - 地域生活の継続支援を心し、介護機器、用具、制度等の普及に向け活動している機関が中学校区には今もあるはず。
地域包括支援センターに移行したところ、ランチになったところ、自主事業で取り組んでいるところと、形を変えながら継承発展してきたのだが。
- 小規模多機能やサテライトの存在と地域
 - ・ 自治会誘致で地域が名付け親の事業所活動には環境・防災訓練等には地域が参加。また、スポーツ大会や夏祭りなどでは、地域と共に企画し町内の一員として諸行事に参加。それらを通じ介護の姿は目に入る。
 - ・ 人権は護るもの、プライバシーは守るもの、だが住民として生き続け、その存在は社会と関われば見えて当然。介護が見えれば地域は介護に理解。
- 在介支Cも地域密着型も、見える活動を

結びに

- ○○支援センターの活動は自立した地域生活や健康増進に向け機器、用具、制度等の普及に努めるチーム活動(社会福祉士、ケアマネ、看護師等)
- 小規模等の地域密着型はノーマライゼーションの具現化であり安心の暮らし。活動の見える化
- 認知症施策推進5カ年計画(オレンジプラン)に倣い住み慣れた地域での生活の支援者を増やそうとおれん家プラン(おれんちぷらん)を作成 …劇公演、ラジオ劇、漫画広報、サポーター養成活動と小冊子の地域頒布を。
- 社福法人、介護事業所、専門職としての土壌づくりへ
- 見て、聞いて、学ぶから、そろそろ参加の気持ちへ
- 情けは人のためならず的に互助からやがて互酬社会



「高齢者の記憶と認知機能低下に対する 生活支援ロボットシステムの開発」 プロジェクトご紹介

2014年3月2日

NEC

大中 慎一

「高齢者の記憶と認知機能低下に対する 生活支援ロボットシステムの開発」プロジェクト概要

JST(科学技術振興機構)からの委託研究

●戦略的イノベーション創出事業(S-イノベ)

- ・研究開発テーマ「高齢社会を豊かにする科学・技術・システムの創成」
- ・プログラムオフィサー： 東京大学 名誉教授 伊福部先生

H23/1～H25/3
ステージⅠ：要求機能

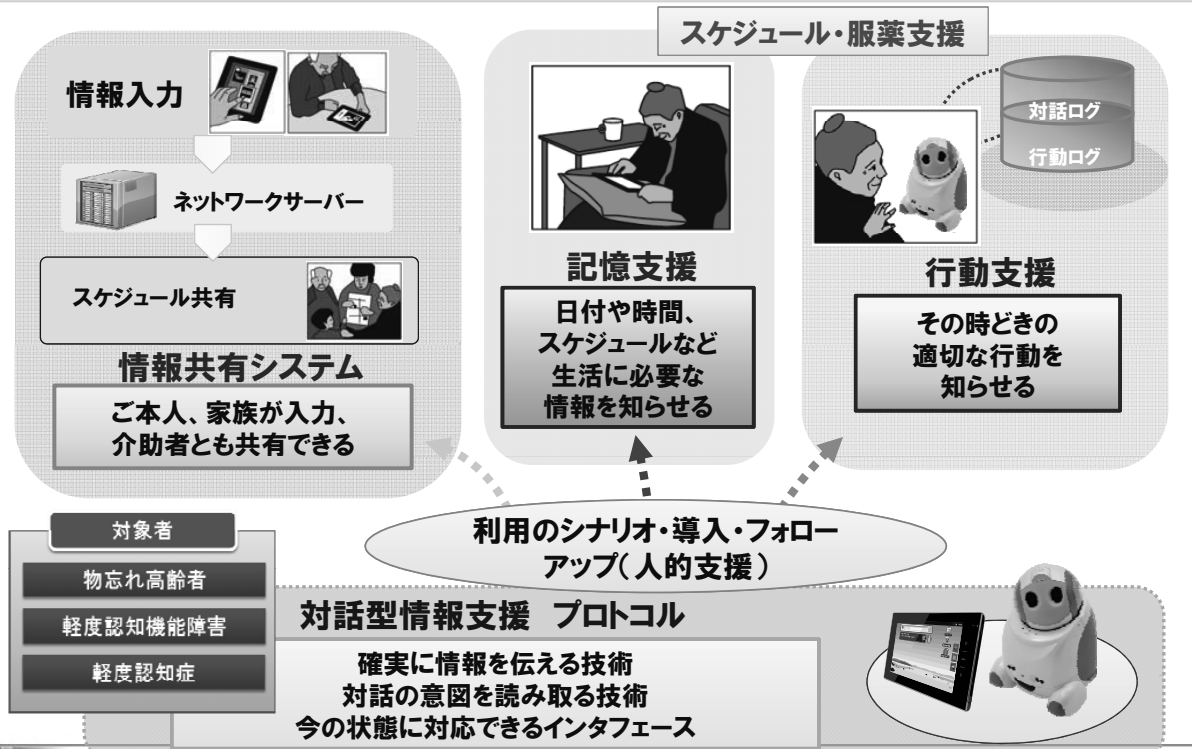
H25/4～H29/3
ステージⅡ：開発

H29/4～H32/3
ステージⅢ：社会実験

●研究プロジェクトチーム

- | | |
|------------------------|----------------|
| ・国立障害者リハビリテーションセンター研究所 | 井上、間宮、西浦、小林 |
| ・株式会社生活科学運営 | 大澤、渡部、清水、原田、中村 |
| ・東京大学 | 鎌田、二瓶 |
| ・産業技術総合研究所 | 児島、佐土原、熊田、永井 |
| ・フランスベッド株式会社 | 濱田、山内 |
| ・NEC | 大中、藤田 |

抽出された要求機能



平成 25 年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

認知症高齢者等の利用に資するグッズ、日用品等に
関する調査研究事業

報 告 書

平成 26 (2014) 年 3 月

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

〒105-8501 東京都港区虎ノ門 5-11-2

電話 : 03-6733-1021